



折滝鶴治郎師

折滝鶴子姉

波々死ね

信何

〜

お

語

へガル
丁毒四

目次

こころざしかたきもの……………	1
懼るをたゞ信ぜよ……………	4
心を熱くして主につかえ……………	7
神の言は潔し神は彼を頼む者の盾なり……………	10
凡ての事は汝らの益なり……………	13
聴くこと如何にと心せよ……………	16
我らこの宝を土の器に有てり……………	18
汝ら主イエスを主として彼に在りて歩め……………	20
神にきたる者は神のいまづ事を信ず……………	22
エホバよ汝は我らの神にましますせり……………	25
信仰によりて義とせられ神に対して平和をえたり……………	27
わが生くるはキリストのため死ぬるも又益なり……………	29
凡ての事主を悦ばせんがために……………	31
我らは神の中に生き動きたる在るなり……………	33

エホバに感謝せよ……………	35
御言を行ふ者……………	38
くめどもつきない聖言の味……………	40
神には能わざることなし……………	43
わが心はエホバによりて喜び汝の救によりて楽しむ……………	45
兄弟よ汝ら喜べ全くなれ……………	47
一九六五年の標語……………	49
わが愛におれ……………	51
活ける神につかふる生涯……………	53
動かない信仰生涯の土台……………	55
十字架の外に誇る所あらざれ……………	57
神の奥義なるキリスト……………	59
アブラハムの信仰……………	61
言は即ち神なり……………	63

一九六四・八・一六―一九六七・四・二三

(大森公園教会週報より)

大いなる救
 多くの実を結ぶ枝
 女子よ坐して待て
 神これと偕に在したればなり
 信仰の祈
 信仰による義
 我弱き時に強ければなり
 神の言
 従ふ者に賜ふ聖靈
 キリスト・イエスに在りて神の子たり
 肉の思ひは死なり
 内住のキリスト
 イエスを仰ぎ見るべし
 凡ての事主を喜ばせんため
 固く心を定めて
 我が知られたる如く全く知るべし
 むさぼりは偶像崇拜なり
 おそれおののきて己が救を全うせよ

65
67
70
72
74
76
78
81
83
85
87
90
92
94
97
99
102
104

神の大庭に住ぶ者
 永遠の生命に至る糧のために働け
 心のきよき者
 我は羊の門なり
 汝の口を広くあけよ
 言は即ち神なり
 汝の作為をエホバに委ねよ
 主を愛するとは
 天開けて神の栄光を見る
 イエス自ら近づき共に往きたまふ
 上にあるものを求めよ
 実を結ぶ生涯
 我はたゞ神を呼ばん
 御霊は我らの弱きを助け
 汝らの召されたことと選ばれたることを堅ふせよ
 神と偕なる生涯について
 我々と共にある者は彼らと共に居る者よりも多し
 なやみの日にわれを呼べ我なんじを援けん

106
109
112
114
117
119
121
123
125
127
130
132
134
136
139
141
144
147

神もし我らの味方ならば誰か我らに敵せんや…………… 149
 エホバを頼みエホバをそのたのみとする人は福なり…………… 151
 心をたしかにしつゝしみて祈せよ…………… 153
 エホバを待ち望め、雄々しかれ、汝の心を堅うせよ…………… 156
 必ずやエホバをまちのぞめ……………
 凡のこらしめ喜ばしからずや…………… 158
 感謝して汝らの求めを神に告げよ…………… 160
 汝らの神を見よ…………… 162
 一九四一年標語…………… 165
 汝ら恵により信仰によりて救われたり…………… 167
 救いは御座に坐したもう我らの神と小羊とにこそあれ…………… 169
 主の手かれらと共にあり…………… 171
 心の腰に帯し…………… 173
 汝らのうち苦しむ者あるかその人祈りせよ…………… 175
 オ一に凡ての人のために祈れ…………… 177
 信仰を養とせられたり…………… 179
 我と共に苦難を忍べ…………… 182
 キリスト・イエスにありて敬けんをもて…………… 184
 一生を過さんとする者は迫害をうくべし……………
 活すものは霊なり…………… 186

見ゆるところによらず信仰によりてあゆめばなり…………… 188
 わがなすことを汝いま知らず後之を知るべし…………… 190
 イエスの言い給いしことを信じてかへりたり…………… 193
 イエス・キリストの血…………… 195
 われらはみな証人なり…………… 197
 福音とはイエス・キリストなり…………… 199
 アブラハムのうけたる祝福……………
 イエス・キリストによりて異邦人におよぶ…………… 201
 敬虔のために自分を鍛練しなさい…………… 204
 永遠の生命…………… 206
 死に至るまで忠実なれ…………… 209
 勇敢でありなさい…………… 211
 祈りに専念した…………… 213
 聖霊は凡ての事を教え主の聖言を思いおこさしむ…………… 216
 祈りに励みなさい…………… 218
 キリストの平和をして汝らの心をつかさどらしめよ…………… 220
 イエスは主なり…………… 222
 神の奥義なるキリスト…………… 224
 純粹な信仰…………… 226

終りまで前と同じはげみをあらわせ……………229

大自然にあらわれた神の栄光……………231

キリストのための苦難……………233

聖言をきいて悟る……………235

永遠の生命に至る糧のために働きなさい……………237

私共の聖書……………240

聖書の朗読……………242

熱心に祈りをなせり……………245

召しについて考えてごらんなさい……………247

悲しみの人にしてなやみを知れり……………250

神を畏れなさい……………252

求めなさいそうすれば喜びがみちます……………255

突如襲つて来る試練……………257

我が道を行く……………258

大いなる報をうる信仰を投げすてるな……………260

心を失うなかれ……………262

思い出しなさい救われた時を……………265

切に神を知ること求めむべし……………267

感謝のそなえものをさし上げよ……………270

主の言は必ず実現する……………272

アベルの供物……………274

信仰はきくことから始まる……………276

一九六七年標語……………278

偉大な大祭司があるということ……………281

私はいつも自分の前に主を見た……………283

聖靈は凡ての真理をさとらせる……………285

目を上げて高きを見よ……………287

わたしたちは見えるものによらないで……………289

信仰によつて歩いているのである……………289

たよりにならない富に望みをおかないように……………291

与えられた賜物……………293

なんじの荷をエホバにゆだねよ……………295

恵の福音の証……………297

試練を経たる隅の首石……………299

神の言に導かれた信仰の人……………301

折滝鶴治郎師の御昇天に憶う……………303

主イエスは我牧者……………305

その日ユダの国にてこの歌をうたわん

我らに堅固なる邑あり神救をもてその垣そのかこいとなし給ふべし、汝ら門を開きて忠信を守る正しき国民を入れよ、汝はやすきにやすきをもて志(こゝろざし)かたき者を守り給ふ彼は汝に依頼めばなり、汝らとことわにエホバに依頼め主エホバは永遠の岩なり(イザヤ二十六の一―四)

私共の生涯の指針は聖書の聖言であります。

神はやすきにやすきをもて志堅き者を守り給ふと言われておるのであります。聖書の中に神の大能の御手を働かしし者は何時でも、**確信の人(志堅き者)**でありました。信仰の父アブラハムは約し給える事を必ず成し給ふと確信していたのであります。

私共がたまたま或る特別な事情にぶつつかつた時すぐ神を見上げる事が出来たら幸いなのであります。そうすれば悪しき音信によつて動かされず状態に目をつけず大いなる報をうくべき信仰をなけすてないならば神はやすきにやすきをもて志かたき者を守り給ふのであります。彼等汝に依頼めばなりとあります。

神の御意(こゝろ)をなさんために汝らの中に働き汝をして志を立て業を行わしめ給えばなり(ピリピ二の十三)私も青年時代に志を立て郷里を出て大いなるアンビシヤスをもて東京に出ているの心の遍歴を経て遂に神に出会いました。而してこのイエス・キリストの父なる神に一切をすて、従い今日に到つたのであります。

人間の幸、不幸は決して物質の有無によつて定まるのではないのであります。その人が神を識り神を崇めておるか否かによつて決定するのであります。(ルカ十二の十五)

イエスを信じて罪が赦されるとされることにより上より聖霊が注がれ私共は始めて生涯をコントロールされて楽しい人生を送ることが出来るのであります。

心を熱くして主仕え、望みて喜び、患難に耐えて行くことが出来るのは上より聖霊が注がれて出来ることであり

ます。

ベートーベンの音楽に自然によつてあらわれる神の栄光といふのがありますが、私共基督者を通して神の栄光をあらわすことが出来るのは志かたくしてたゞ主に従つておる者によるのであります。多くの人を導くのもせうした人達であります。

我々の人生は結局金銭の有無ではなく又事情境遇でもなく志かたく主に従ふ者に勝利は与えられて了うのであります。

主に従ふでもなく不従順でもないといふラオデキヤの様な状態でくすぶつておる人々は深く教えられて悔い改めねばならないのであります。

空しく過してしないで一刻も早く主に従つたら教会に出席したらとつくづく思つて祈つておるのであります。(マタイ二十の六)

信仰から落ちて言いわけばかり言つておる人々の毎日の生活のみじめさ！その盛りの時だにも空しからざるなしてあります。

我らも先にはキリストなくイスラエルの民衆に遠く約束に属するもろもろの契約に与りなく世にありて希望なく神なき者なりき、されどさきに遠かりし汝ら今キリスト・イエスに在りてキリストの血に由りて近づく事を得たり(弗

二の十一―十三)

神の望みをおく者とされた事は大いなる恵と憐みによるのであります。それですから信仰ぬきにしたら駄目になることを忘れてはならないのであります。

常盤にエホバに依頼めエホバは永遠の岩なり自己の朽ちる様を能力に頼らずこの神に先をかたくして生涯依頼んですくれて美しい生涯を全うしたいものであります。

報 告

おねがいしておりました椅子と座ぶとんが出来ました。応分の御献金をお願いいたします。

消 息

実に毎日やける様を暑さです。雨もなく待望の台風も雨をもつてこないで過ぎてしまいました。皆様如何お過しですか、御健康を毎日御祈り申し上げております。

私の為にも御祈り有難う御座いました。

御祈りに支えられて元気で御用をいたしております。モー一日モー一日とあつさと戦いつゝ毎日を過しております。克熱祈禱をしてお互にあつさに勝ちましょう。

かく語り給ふほどに会堂司の家より人きたりて言ふ「なんちの娘は早や死にたり師を煩わすな」イエス之を聞きて会堂司に答え給ふ「懼るなたゞ信ぜよ、さらば娘は救われん」イエス家に到りてペテロ、ヨハネ、ヤコブ及び子の父母の他にとも入ることを許し給わす（ルカ八の四十九〜五十一）

この世に生身をもつて生存しておりますと色々な懼れが私共につきまとうのであります。毎日の音信をきゝわくるのみにてふるいおのゝくのであります。誠に人間は弱い者であります。

その様を私共に主はおそるゝな只信ぜよと希望と見ゆる時に御声をかけ給ふのであります。

無神経で感情的におそれを感じない様を人間でなく、デリケートな感受性をもちながら主の御声に従つて此地上にて懼れに勝つてゆく生涯を全うしたいものであります。

聖書の中には懼るなといふ聖言が度々記されております。

マリヤ上懼るな汝は神の聖前に恵を得たり（ルカ一の三十）

おそるな視よこの民一般に及ぶべき大いなる歓喜の音信を我汝らに告ぐ（ルカ二の十）

なんぢら懼るな我なんぢらが十字架につけられしイエスを尋るを知る（マタイ二十八の五）

懼るな往きて我が兄弟達にガリラヤにゆき彼処にて我に見るべきことを知らせよ（マタイ二十八の十）

敵におそれない事は勝利の秘訣であります。（ピリピ一の二十八）

主が我はそれなりと言われた時敵がおそれしりぞいたのであります。

私共基督者が地上の生涯にて他の人と異つてゐる事は何者にも何事にも恐れなといふ生き方であります。

然し私共も肉をもつてこの世に多くの人々と同じように生きておるのであります。色々な形でさまざまの問題が生じて私共の心をおそれしめるのであります。然し私共は主の聖言に従つておそれず只信じて従ふてゆくのであります。イザヤは語つております。「何故懼にもあらぬものゝために金を出し飽く事を得ざるものゝために勞するやわれに

き、従え（イザヤ五十五の二）と—主に従わないならば働けど働けど我がくらし楽ならずと果のない生涯の為に走り廻らねばならないのであります。

更にイザヤは「我にき、従えさらば汝ら善物を食ふを得脂をもて靈魂を楽しみますを得ん」（イザヤ五十五の二）とすゝめております。

たゞ主に來り信ずるだけでこの驚くべき安息に入れられるのであります。

主が既に偉大なる贖といふ代価を払つて十字架の上に死んで下さつたからであります。

神から罪が赦されないので神と私共との間にへだてのある生涯が如何にみじめな苦しいものであるかを私共は知つておるのであります。其処から救い出された大いなる御恵に対して馴れてしまつて感激を失つておるのであります。

私は四十年前にこの大いなる救にあづかつて如何に喜んだ事でありました。一切をすて御従ひしたのであります。以来この主に従つて信仰の生涯を今日迄つゞけて來ることが出来ましたのは誠に感謝に堪えないのであります。

書物をつくれば果しなし多く学べば身体つかる事の全体帰するところを知れ神を畏れその誠命を守れ之は凡ての人の本分なり（伝十二の十）

この世に在つてさまざまな試練の中を通過するのであります。が結局私共が神に歸し神にき、従ふための事情境遇であつたのであります。だからおそるゝな唯信ぜよ、でつきますのであります。

我ら心を強くして斯く言わん主我が助主なり我おそれ人我に何をかなさん（ヘブル十三の六）

たとい我死の蔭の谷を歩むとも禍をおそれ汝我とともに在せばなり汝の笞汝の杖我を慰む（詩二十三の四）
神共に在せば禍を蒙じて幸となしその困難を我が慰めと仕え給ふのであります。

凡てのものが不安定であるこの世の中に、ありまして我が言はずぎゆく事なしとの聖言に立つておそれない毎日を送りたいのであります。

報 告

今月は婦人会はお休みにいたします。
座ぶとん椅子スリッパ献金御協力有難う御座います。
ついでにお願いいたします。

消 息

随分毎日あつう御座います。
御祈りに支えられ戦つております。
どうぞこのあつさにまけない様に祈りつゝ戦いましょう。
ついでに御加藤御願いたします。

心を熱くして主につかえ

一九六四年八月三十日

勤めて怠らず、心を熱くし、主につかへ、望みて喜び、患難にたへ、祈を恒にし、聖徒の乏しきを賑し、旅人を慰るに待せ。汝らを責むる者を祝し、これを祝して祖ふな。喜ぶ者と共によろこび、泣く者と共になげ。相互に心を同じうし、高ぶりたる思をなさず、反つて卑きに附け。なんぢら己を聴しと為な。悪をもて悪に報はず、凡ての人のまへに善からんことをはかり、汝らの為し得るかぎり力めて凡ての人と相和げ。(ロマ十二の十一―十八)

心を熱くして主につかえるといふことは所謂熱心に教会に出席するとか熱心に事業に活動するとかと外側の熱心を指してあるではありません。丁度ストープが燃えて湯を沸かす様に中なる力によりて押し出され行く事であります。この状態は信仰の進んだ深められた人の状態であります。ロマ書十二の一の如く献げきつた人の出来る事でありま

す。

このロマ書十二章一節のされば兄弟よは十一章をうけておるのであります。私共があわれまれる為にイスマエルを不順中におき給ふたのであります。．．．あゝ神の智慧と智識の富は深いかな！その審判は測り難くその途は尋ね難し(ロマ十一の三十三)この様な不思議な御摂理にて私共は救われたのであります。

されば兄弟よ己が身を神の悦び給ふ潔き活ける供物として献げよ(ロマ十二の一)と仰せられるのであります。私共何か素質があつて選ばれたのではない。憐憫によつてこの職を受けられた(コリント后四の一)神の平安の中に入れられ人生行路に行き詰つた時にも祈ることに由つて道の開かれる者とされたのだから己をささげよと言われておるのであります。之が本当の礼拝だと教えられておるのであります。

深められた己をも全く献げ切つたところに聖靈が注がれるのであります。心を熱くして主につかえ(聖言につかえ)のもそのためであります。さまざまな障害をもはねのけて聖言に従ふ事が出来るのであります。

神を愛する者すなわち御旨によりて召されたる者のためには凡ての事相働きて益となるを我らは知る(ロマ八の二

全く献げて神を愛する者の為には何者も障害とならない祈つて祈つて聖言に従つてゆくとき荒野に道をもうけ砂漠に川が流れるのであります。途中色々過程はありますがけれども神はどの様にしてでも道を開いて下さるのであります。おつくりがらないで光が示されたら直に従つて祈つてゆくことであります。心を熱くして主に従つてゆく事が肝要であります。

望みて喜び、患難にたえ（ロマ十二の十二）

人生には患難が多いのであります。然し聖言に従つてゆく時その聖言によつて一つ一つを征服してゆく事が出来るのであります。カナの王の近臣の如く百卒長の如く単純な聖言に従ふ信仰によつて勝利の秘訣を学ぶ事が出来るのであります。

少年ダビデの如く我は汝がいどむところのエホバの名をもつてゆかん―内なる聖言によつてつきぬけてゆく事が大切であります。自分の考えや他人の経験をしりぞけてたゞひたすら聖言に従つてゆく事が大切であります。

人もし我につかえんとせば我に従え、わが居るところに我に事ふる者も居るべし、人もし我に事ふることをせばわが父之を賞びたまわん（ヨハネ二の二十六）

祈つて祈つて聖言に従つておれば遂に人生の難関をつきぬけることが出来るのであります。ナタナエルがイチヂクの樹の下に祈つていたのであります。

天開けて人の子の上に神の使達ののほりくたりするを見ん。（ヨハネ一の五）

心に確信が出来る迄聖言が確信となる迄人を離れて深い祈り自身を渡してゆきますならば天が開けて神の御声をきく事が出来るのであります。その喜びは他では味ふことの出来ない喜びであります。

かくれたところの祈りがありますなら必ず支えられます。祈りを恒にしておるならば内に火が断えず燃えているのであります。

切角祈つて従ふなら心を熱くして従いたいものです。思い切つて人生の最後のコースまで―従いたいものであります。

す。

消 息

随分あつさがつゞきます。これでもかこれでもかと言われる様に、然し主は助けて下さいます。弱い者を支えて下さいます。毎早朝皆様のために禱告いたしております。

モー一息と頑張りますからつゞいて御祈り下さい。

皆様も頑張つて下さい。

神の言は潔し神は彼を頼む者の盾なり

一九〇四年九月六日

神の言は潔(いさぎよ)し、神は彼を頼む者の盾なり。汝その言に加ふる勿れ、恐らくは彼汝を責め、又汝を偽る者となし給わん(箴言三十の五)

エホバの言は潔(きよ)き言なり、地にまふけたる炉にてねり七次潔めたる白銀の如し。(詩十二の六)
神の聖言は真実であります。

私共基督者はこの聖言の真実なることを生涯をもつて証したいのであります。

神は真実をもつてその聖言に依頼む者の盾となり給ふのであります。

エホバかく言ひ給ふ視えわれシオンに一つの石をすえてその基となせり、これは試みを經たる石畳き隅石、かたぐすえたる石なり、これに依頼む者はあわつる事なし。(イザヤ二十八の十六)

私共この世の中に居て何が一番安全だと言いうるでしようか？真に安全なる処のない事を痛感する現在であります。思いがけない禍の私共に突然来る時私共の計画は残ることなくこわされてしまふのであります。かゝる時に私共に残る者は何でありますでしょうか？たゞ聖言のみであります。天地は失せん然れど我が言は失せる事なしですから――
聖言は依頼む者の盾であります。

エホバ言ひ給わくこの黙示をかき記して之を板の上に明白にえりつけ走り乍らも之を讀むべからしめよ！この黙示はなぞ定りたる時を待ちて終りを急ぐなり偽りならずもしおそくあらば待つべし必ず臨むべしとこおりはせじ(ハバクク二の二・三)

終戦後私は耐えきれない様な試験に会つた時この聖言によつて祈つて祈つて俟望んで来ました。偽りならず遅くあらば待つべし必ず臨むべし、この聖言に由て祈りつゞけてきました。遂に神は答へ給ふたのであります。

此の処で私共が学びたい事は聖言が真実であるといふことであります。

或る人々は解つたら信ずるといふます。然し人間の智識だけでは永久に解ることはないでしよう！或人は感情や智

識ではわからないけれども聖言の真実を信じますといふます。信すれば解るのであります。

偽りの多いこの世にあつて神の聖言のみは偽りない深い真理であります。この聖言に依頼む者の盾となり給ふのであります。

どうか心を動かさないでおそくあらば待つべし必ず臨むべしとの聖言を信じてゆきたいものであります。

私共の側に暗きの權威をもつサタンがつきまといつて聖言の真実を信じさせまいとして働いておるのであります。

然しこのサタンを打ち砕くのは信仰の盾であります。この盾をもてこととくの火矢を消すことを得んとあります。

(エペソ六の十六)

ルーテルはローマ法王との論戦の時神もし我らの味方ならば誰が我らに敵せんや(ロマ八の三十一)の聖言に依頼して勇敢にたゞかゝい勝利をして宗教改革を實行したとの事であります。

さまざまな試練の時聖言を与えられて戦ふ事を学ばねばなりません。

かくて我が神は己の為に随いキリスト・イエスによりて汝らの凡ての窮乏を栄光のうちに補い給はん(ピリピガの

十九)

万軍のエホバのたまう是は権勢によらず能力によらず我が鎧によるなり、ゼルバベルの前にあたる大山よ汝は何物ぞ平地とならん(ゼカリヤ四の六・七)

敵に驚かさぬは私共には勝利のしるしであります。(ピリピ一の二十八)

エリヤの如き信仰が欲しいものであります。彼は薄の水迄すいからし火を降らし給ふ神を信じて祈つたのであります。かく不信仰なイスラエルの民にエホバは神なりエホバは神なりと叫ばしめたのであります。

世に勝つ勝利は我らの信仰であります。(ヨハネオ一書五の四)

たゞ聖言のみを賜えさらば我が僕いん(マタイ八の八)と願つた百卒長の信仰に倣いたいものであります。

聖言が与えられたならその聖言の如く必ずなるのでありますから。我がさかつきはあふるゝなりといふ生涯を送りたいものです。

報 告

九月六日(才一日曜)礼拝后青年会があります。多数御出席下さい。
旅行の土産話も伺いたいと思つております。

消 息

待望の雨が遂にきました。日本中少しは被害もありましたが感謝でした。
涼しくなりました。私も熱い中も守られつゝがなく御用をいたしております。また、八月二十一日には岡山の原田
兄弟が久しぶりに御訪ね下さり嬉しう御座いました。同兄弟の上に主が豊かに報ひ給様に祈ります。
涼しくなりましたお互いにはげみましよう。

凡ての事は汝らの益なり

一九六四年九月二三日

凡ての事は汝らの益なり。これ多くの人に よりて御恵の増し加はり、感謝いや増りて神の栄光のあらわれんためなり。この故に我らは落胆せず、我らが外なる人はやぶるれども、内なる人は日々に新なり。(コリント后四の十五・十六)

私共は日常何の問題のない事が幸であると考え易いのでありますが聖書の教える処はちがうのであります。

切角与えられた人生に何事もない平凡な生涯でなく色々な事があり、その問題を通じて一人関係或は病氣その他の色々之苦しきを通して感謝いやまさり神の栄光のあらわれんためなりと教えておるのであります。その事共を通して感謝することが出来るのであります。

我ら患難をうくるも汝らの慰めと救のため(コリント后一の六)とあります如くパウロはコリントの信者に書き送つておるのであります。

庄せらるゝ事甚しく力耐え難くして生くる望みをも失い心のうちに死を期するに至れり、これ己をたのますして死人を甦らせ給ふ神をたのまんためなり(コリント后一の八)

たゞに迫害だけでなく今多くの人々はさまざまの問題のために苦しんでおります。然し私共基督者は其の時が神の能力を体験する時であります。己をたのますして死にし者を活し給ふ神をたのましむる時であります。

イエスは愛する故に三日おかれて行つたとヨハネ十一章に記されております何故でしょうか？

死にし者を活す神を体験させたいためであります。

死と甦りの体験が基督者の信仰の基礎であります。

もしイエスを死人の中より甦えらせし者の霊汝らの中に宿り給わばキリスト・イエスを死人の中より甦らせ給ひし者は汝らの中に宿り給ふ御霊によりて汝らの死ぬべき身体を活すべし。(ロマ八の十一)

此の聖霊が凡ての時私共と共に居て凡ての事に於て助け給ふのであります。この故に凡ての事が相働きて益となる

のであります。

負けて勝つ損して得をする田T Oの逆真理が私共基督者の特質であります。

二羽の雀は一銭に売つても天の父の許しなくしては一羽も地に落ちないのであります。

私共はさまざまな試練を通して初めて本當に神の恵を悟ることが出来るのであります。

病気になるつて見て健康の有難さがわかるのであります。戦争中お米がなくて白米を銀メシと言つて珍重したのであります。食慾がないと食慾のある事が真に感謝出来るのであります。何事もなく常に豊かであれば感謝する生涯を送る事が出来ず不平不満の毎日となつてしまふのであります。その生涯を地獄といひます。

この故に我らは気おちせず我らの外なる人は破るゝとも内なる人は日々新なり（コリント后四の十六）

私は或時期は苦難にしんにりをかけた椽の中を通過した時もあります。然しとても不可能の椽に思われた中もしばらくの軽き苦しきは重き永遠の栄光にあづからして下さつたのであります。

神を愛する者御旨によつて召された者のためには凡ての事相働きて益となるを我らは知れり（ロマ八の二十八）

常に私共が主イエスを牧者としてよき羊の如くその聖言にきゝ従いますならば我之しき事あらじ（詩二十三の二）と申し上げる事が出来るのであります。

見ゆる処のものはしばらくであります。しばらくあらわれて直にきゆる露の様なものであります。然し基督者である私共のかえり見る処は永遠にかわる事なき聖言であります。

天地は失せん然れど我言は失せじであります。

事憎とか境遇とか人間の感情とか愛憎とかは変転極りないものであります。然し私共基督者はそうした事情の中にあつてつぶやくことなく感謝してゐる事の出来まふのは凡ての事を益にかえて下さる御聖靈がともに給ふからであります。さまざまな困難の中に在るときその時こそ神の栄光のあらわるゝ時であることをさとらしめられて神を崇めたいものであります。

神を俟望む者は新しき力を得ん走れどもつかれず歩めどもうまさるべし。

報 告

九月十三日(才二日)礼拝后壮年会があります。

壮年の方御出席下さい。お交りいたしたり御相談いたしたいと願つておりますから。

九月十八日午後一時三十分より当教会にて定例婦人会がありますから多数御集り下さい。

九州修養会についても御相談したいと思つておりますから。

消 息

御祈り有難う御座います。熱い夏も御祈りに支えられました今日迄ねつく事もなく過して参りました。血圧が下りませんからつゞいて御祈り下さい。御願いいたします。

聴くこと如何にと心せよ

一九六四年九月二十日

誰も灯をともし器にておおい、またはねだいの下におく者なし、入る来る者のその光を見んために之を灯台の上におくなり。それかくれたるものあらわれぬはなく、秘めたるもの知られぬはなく、明らかにならぬはなし。されば汝ら聴くこと如何にと心せよ、誰にても有てる人は、なほ与えられ、有たぬ人は、その有てりと思ふ物をも取るべし。(ルカ八の十六―十八)

主イエスは種播きの譬を語り給ふてきく耳ある者はきくべしと申されておられます。又二十一節には答えて言ひ給ふ、わが母わが兄弟は神の言をきくかつ行ふ之らの者なりと申されました。

私共はモー一度生涯を反省してこのきく事如何にと心せよきく耳ある者はきくべしとの主イエスの聖言を深く味い如何に今日迄実を結びしかを考えて見たいものであります。

私も大病以来充分説教が出来なくなりました。然しそり多く雄弁に語る必要はないとの頃思ふのであります。

あの百卒長は唯一言を出し給はゞ我僕はいえん(ルカ七の七元訳)と申し上げました。私共の生涯には色々の問題が次から次と起つてきます。たゞ一言の聖言を与えられ祈つて戦つてゆかねばならないのであります。

勞する農夫先づ実の分配を受くべきなり(テモテ后二の六)カレブは年老いてなお我に山を与えよと祈りました。問題が次々ある事がまたたゝかいかがある事が私共をはげまして生活させて下さるのであります。

毎日の戦いに於て唯聖言のみが望であります。与えられ聖言に依頼んでのみ戦いに勝つ事が出来るのであります。我らは望によつて救われたり眼に見ゆる望は望にあらず人その見るところを如何で望まんや我らもし其の見ぬところを望まば忍耐をもて之を待たん(ロマ八の二十四・二十五)

聖言は眞実であります。度々申し上げておりますようにその約し給えることは必ず成るのであります。(ルカ一の四十五)

聖言はからし種の如きものであるとも言われております。それはいと小さいものであります。然しその中に生命が

あつてそれを土の中にまくと根を出し芽を出し葉を出し花を咲かせ遂に多くの実を結ぶのであります。

然し種まきの時の如く道の傍や石の上や茨の中に落ちました種は実を結ぶ事は出来ないものであります。良き地とはよく耕された畑であります。その畑にまいた種は六十倍岡倍の実を結ぶことが出来たのであります。

大きく耳ある者はきくべしとの主の意味深い聖言を悟らせていたゞきたいものであります。

貧乏とか一病氣とか富を得たとか健康を得たとかの茨にふさがれないで唯聖言によつて生くる者正しき良き心にて之を守り忍耐をもつて実を結ぶ者を主は喜び給ふのであります。

私共を主の聖前に立つに相応しきものとなさんためにさまざまを訓練の中を通過させられますが常に聖言を正しく良き心にて守りて忍びて待つ間に実を結ぶに至るのであります。私共は只管なる祈りが必要なものであります。祈つて神と対座している間にかすが取り除かれ純粋となるのであります。遂に私共の心の中にキリストの形がきさまれるのであります。

この為に主は我らのために生命を捨て給ふたのであります。

私共を全く潔めてくださるためにカルバリーに流された血の流れは今もたえないのであります。

報 告

十月十三日より十七日迄当教会にて九州修養会があります。御栄光を拝せられます様に御祈り下さい。又御出席下さる。

消 息

漸く涼しくなりました。私も保たれて相変らず御用いたしております。高血圧です。つゞいて御祈り下さい。

我らこの宝を土の器に有てりこれ優れて大なる能力の我らより出でずして神より出づることのあらわれんためなり、われら四方より患難を受くれども窮せず為ん方つくれども希望を失わず責めらるれどもすてられず倒さるれども亡びず常にイエスの死を我らの身に負ふこれイエスの生命の我らの身にあらわれんためなり（哥后四の七―十）

ペンテコステ以前の主の弟子たちは常におそれの中におりました。然しペンテコステ以後驚くべき聖靈の注ぎを受けて上よりの能力に充たされ生涯おそれなや主を証して過したのであります。

私共基督者の生涯に於てもこの上よりの能力にみだされなくては四方より患難をうくれ共窮せず為ん方つくれども望を失わずという様な長い年月勝利の生涯を送ることは出来ないであります。

使徒パウロもダマスコの途上にて復活の主に出会い上よりの能力を与えられ目よりウロコの如きものが落ち大工の子ナザレのイエスとしか見えなかつた主を神の子主イエスと信じて証しすることが出来る様になつたのであります。

かくてパウロはコリント后十一章の様な困難のコリントに恐るべき迫害の中を恐れずに伝道したのであります。このパウロの患難に比ぶれば私共の苦難はまだまだ軽い苦しみののであります。

私もこの奸悪な世に聖書一巻で聖言だけで今日迄さまざまな困難の中をつきぬけてきました。之に我らあらず我ととも在る神の恩恵なり、

汝ら先づ神の国と其の義とを求めよ然ば之等のものは皆汝らに加えられるべし（マタイ六の三十三）この聖書に信じて従つて生活します時その聖言の如くなるのであります。

聖書の聖言は人間的に合理的に考えないでそのまゝ信じて従つてゆきますならば私共人智ではかることの出来ない様を祝福を受けるのであります。

イエス・キリストは昨日も今日も永遠までも変り給ふことなし（ヘブル十三の八）

昔はそつてあつたが今の時代は異なるのだと語る人がありますが今の時代も聖書は変りないのであります。主はニコ

デモに人若し新たに生れずば神の国を見る事能わず（ヨハネ三の三元訳）と言われました。神によつて生れかわり神の生命が私共の中にありますならば確に四方より患難を受くれ共窮せず為ん方つきても希望を失わないのであります。人間の方法亦たまは時神の能力のあらわれる時であります。

庄せらるゝ事甚しく力耐え難くして生くる望を失ひ心の中に死を期するに至れり之已を頼まずして死人を甦らせ給ふ神を頼まんためなり、（コリント后一の八、九）とパウロにも申しました。かくて神は斯る死より救い給えり、また救い給わんと信じました。

私共が空しくなつて主のみを俟望みます時主は必ず応え給ふのであります。

私共は日常思ふ様に左らない問題の中で悩むのであります。然し罪と愆が私共の中から除かれるなら問題は解決するのであります。主は私共の罪と愆とを十字架に釘つけ給ふたのでありますから。

常にイエスの死を身は負ふこれイエスの生命のわれらの身にあらわれん為なり（コリント后四の十）もはや我生けるにあらずキリスト我が中にありて生けるなり（加二の二十一）

私共は管（くだ）の様なものであります。中は空であります。既に死んだ者であります。生きておるのはキリストであります。ですから凡ては主の栄光のあらわれるための生涯であることと確に知るべきであります。

基督者とはかゝる者であります。世の人と違ふのであります。

ダイオナイトは平穩無事の時は銀ダシ油の如きやわらかきものです。然し一度圧力が加えられると大爆発するのであります。

聖霊をうけた人とはその様な人です。

四方より患難をうくれども窮せずせん方つくれども望を失わないのであります。

消息 残暑も漸く終り秋らしい涼しさがまいりました。之から良い季節です。祈禱に聖書に励みましよう。私も大分元気が出ました。但し高血圧です。つづいて御祈り下さい。

汝ら主イエスを主として彼に在りて歩め

一九六四年十月四日

汝らキリスト・イエスを主として受けたるにより、其の如く彼に在りて歩め、また彼に根ざしてその上に建てられ、かつ教えられし如く信仰を堅くし溢るゝばかり感謝せよ。(コロサイ二の六―七)

河辺先生の寢室に笹尾先生に書いてもらった額がかゝつておるといふことであります。それに動機は愛か怨かと言ふ事葉がかゝつておるとの事を伺いました。私共の信仰に入つた動機は何か？毎日は何んでおるのは動機は愛であるか怨かうであるかといふ事を考えることが大切であります。

私も四十一年前に信仰に由つて救われました。志を立てて郷関を出で勉強していたのでしたが学んでゐる事柄が豆からである様に感じて放蕩息子¹の如くみたされぬ心をもつてゐるとき関東大震災に会いました。その時不思議な撰理によつて落合に導かれ柘植先生の特別集會が開かれるといふのでつれづれなるまゝに導かれてルカ三三章の三本の十字架の御話にて主はわれらのためは生命を捨て給えり之によりて愛といけことを知りたり我らもまた兄弟のために生命を捨てべきなり(ヨハネ三の十六)との聖言にて献身したのであります。此処にのみ本当の意味の飽くことのできる生涯のあることをさとしめられましたのであります。

この時から私は主イエスを私の主となし救主といはしたのであります(使二の三十六)ハレルヤ・コーラスにあります。主イエス・キリストを私共の心の中に主として御迎え申し上げます時私共の衷なる人が満ち足りるのであります。

この主イエスの聖言に絶対服従してゆく時水をくみし僕は知れり(ヨハネ二の九)の如く主の御愛主の御能力を知ることが出来るのであります。

本當の基督者はキリストの僕であります、奴隷でありますから一切絶対服従しなければならぬのであります。主の言に従つた僕のみが水を濁さず葡萄酒に化え給ふた主の能力をさるとることが出来たのであります。

然し多くの自称基督者と稱する人々が口だけで主よ主よといふ心の中に主を主としておらないのであります。

ユダヤ人は神の選民であります。神に祝福さるべき国民であります。然るにイエスを主として救主として受け入れることを拒んでおるために二千年の間流浪の民として迷ふておるのであります。

多くの教会に集る人々が主イエスを主としてその聖言に従わなうために敬虔の形はあるけれども敬虔を実行することが出来ないであります。

主イエスを主として受け入れることが出来ないために汝ら互に相愛せよ(ヨハネ十三の三十四、三十五)との聖言を実行することの出来ないであります。その結果戦争のためにしのぎを削つておるのであります。其処に人間のみじめさがあるのであります。この事を悟つて主を愛して私は信仰に入りました。然し私共人間は余程折つて常に聖書を読んで励んでおらないと馴れてしまふのであります。

汝らこれを目に見て云わんエホバはイスラエルの地に大なりと子は父を敬い僕はその主を敬ふこといづくにあるや我もし主たらば我をおそることいづくにあるや(マラキ一の五、六)と主に言われておるのであります。

又七節以下にきづものをさへげて全きものをさへげない主の悦び給う様にさへげない主を主としておらない人々に對して警告しておるのであります。

私共基督者は主の死と甦の証しの生涯でなくてはならないのであります。

主を主として崇めない故に現在は奇蹟が行われないのであります。

私共の信仰は神学から出発したのではないのでありまして聖靈により聖書信仰から出発しておるのであります。

私共が真実に主の聖言に従つて祈つてゆく時主の聖言が行われるものであります。一人一人が主の僕らしく生涯を送り主の悦び給ふ靈肉のさへげものをさへげて真の礼拝の生涯を送りたいものであります。(ロマ十二の一、二)

報 告

十月四日(第一日)礼拝后青年会があります。若い方々沢山御出席下さい。

十月十三日夜七時より十月十八日午後七時迄九州修養会が当教会にあります。どうぞ多数御出席下さい。

先週東京の藤村師、飯田の木村師が御見舞下さいました。最近朝は血圧が二百十に上がり、昼頃百六十になります。何卒御祈り下さい。

信仰で毎日祈つて立つております。

神にきたる者は神のいまづ事を信ず

一九六四年十月二日

それ信仰は望むところを確信し見ぬ物を真実とするものなり、古えの人は之に由りて証せられたり、信仰によりて我らはもろもろの世界の神の言にて造られ見ゆる物のあらわるゝ物より成らざる事を悟る……信仰なくしては神に喜ばるゝこと能わずそわ神に来る者は神の在(いま)すことと神の己を求むる者に報い給ふことを必ず信ずべければなり(ヘブル十一の一―三、六)

教会に集ふ人々はよく信じますと祈つております。然し驚くべきことには多くの信者が神の臨在を借していないのであります。何故私共は榮えないのであるうか？と考えた事があるでしょうか？私は終戦後に自分の状態は祈りの欠亡からであると教えられました。

悪しき者の謀略にあゆまず、つみ人の途に立たず、嘲る者の座にすわらぬ人はさいわいなり、かゝる人はエホバの法を喜びて日も夜もこれを思ふ。

かゝる人は水流(ながれ)のほちりに植えし樹の期に至りて実を結び葉もまたしほまざる如くそのなす処皆さかえ

ん(詩一の二三)

或人はよく祈ります。然し、其処に神の臨在して在し給ふことを信じないのであります。

私共が話してある時、或は食事をして居る時その中にかくれて黙してきいて居給ふ御方のある事を信じておりませんでしょうか？

眞の基督者とは口や言でいゝあらわすことの出来ない神の臨在の中に深い交りの生涯を送つておるのであります。

アフリカ伝道隊のフレンド先生の聖会の時詩一の一のアン・ゴッドリーといふ事を話されました。信者となつてアン・ゴッドリーとは考えられない事でありませぬ。然しこうした信者が多いのではないでしようか？

われ神の熱心をもて汝らを潔き処女として一人の夫なるキリストに献げんとて之に許嫁(いいなづけ)したればなり、されど我が恐るゝは蛇の悪功によりてエバの惑わされし如く汝らの心害われてキリストに対する真心と貞操とを失わん事なり(コリント後十一の一―三)とパウロはかき送つております。

私共はキリスト・イエスに対して生涯貞操でありたいものです。

安息日を潔くするといふ事に於てもキリストに貞潔であるために守りたいものです。

私共は毎日祈つた上にもなお祈つて神の細き聖言の声に(詩百三の二十)きゝ従わねばならないのであります。

祈つて応えられる迄待望むといふ事が如何にむづかしい事であるかを毎日臨在を信じて歩む時教えられるのであります。

人生には得意なことばかりはありません。失意の時試練の時汝の気をくちかば汝の力は弱してあります。

かゝる時神を深く識り信じている人と浅く識りて信じますと口先で称えている人との相異があらわれるのであります。

私共基督者は神なき者とは歩まないものであります。かゝる人と共に色々の事を考えないのであります。

我は甦りなり生命なり我を信する者は死ぬるとも生きん(ヨハネ十一の二十五)

この御方が働き給ふならば事情境遇も体質も全く新しくなし給ふ事が出来るのであります。

私共のかえりみる処は見ゆる処にあらずこの驚くべき御方でありませぬ。(コリント后四の十八)私共基督者は活け

るキリストに立ち帰りさえすれば問題は解決なのであります。

主エホバはわが生命の力なり（詩二十七の一）この御方に依頼んで行くなら力より力に進むことが出来るのであります。鯉でも滝を昇ります。小さい雀も大空を飛び廻ります。

私も、臨在を信じて祈つてゆきますならば勝ち得て余りある生涯を送り栄光をあらわすことが出来るのであります。

報 告

十月十一日礼拝后壮年会があります。修養会の相談をしたいと思つておりますから多数御出席下さい。

十月十三日午後七時より十六日夜迄一日四回の九州修養会があります。多数御出席下さい。

消 息

教及下川洋太兄が重態です。御全快を御祈り下さい。

私事この頃、朝血圧が二百二十位です。

格別修養会がありますので御祈り下さい。

エホバよ汝は我らの神にましまして

一九六四年十月一日

時にアサその神エホバにむかいて言ふエホバよ力ある者を助くるも力なきものを助くるも汝に於ては異なることなし、我らの神エホバよ助けたまえ我らは汝に依頼み汝の名によりて往きてこの群衆に敵るエホバよ汝は我らの神にましまして人をして汝に勝たせ給ふなかれ（歴代下十四の十一）

これはアサ王の祈りであります。神に依頼んでいたアサ王の治世の十年間は平穩でありました。「それはその神エホバの目に善しと視正義と視たまふ事を行つたからであります」（歴代下十四の二）

私共基督者も毎日神の上しと見給ふ処をなし神を喜ばせまつる生涯を送つておりますならばそれが祝福される生涯の根底となるのであります。

私共も長い人生にあつて思いがけない試験に会ふのであります。その試験を神の栄光のあらわれる場となしそれを通して神の証をなす事の為に終始するならば幸せであります。

神より外に何物にも依頼んでいなかを試みられるのであります。アサ王は我らは汝に依頼み汝の名によりて往きてこの群衆に敵る！我らを助け給えと祈つたのであります。

我に就る者は我必ず之をすてず（ヨハネ六の三十七）主に依頼む者を決してすてたまわないのであります。アサ王は此の事を信じておりましたので他の物を凡てすてたのであります。（歴代下十四の三・五）

我もし死ぬべくば死ぬべし（エステル）我もし子と別るべくば別るべし（創世記）と思ひ切つて神に一切を委ねきつて御従いしてゆく時飢えることも乏しくなる事もなく神は豊にやしない給ふのであります。

わが今日汝に命ずるところのもろもろの誠命を汝らつゝしんで行ふべし、然せば汝ら生くる事を得かつふえましエホバの汝の先祖達に誓いたまいし地に入りてこれを産業となすことを得ん、汝記念すべし汝の神エホバこの四十年の間汝をして荒野の道に歩ましめたまえり是汝を苦しめて汝をこゝろみ汝の心の如何なるか汝がその誠命を守るや否やを知らんためなりき（申八の一・二）

神様がわざわざ四十年間荒野にさ迷わしめ給ふたのはそうした中であつて神の誠命に歩むや否やを試るためでありました！私共も長い試練のつゞく時神の御愛を疑わないで！この時神の御試練であると悟つていよいよ深く神の聖言にお従ひしてゆきたいものであります。

人はボイのみにて生くる者にあらず神の口より出づる言によつて生くる事を知らしめんためにわざわざ荒野に導き給ふたのであります。この四十年間の荒野の生活にあつてその依服は古びて朽ちずその足は挫れなかつたのであります。神はかゝる事をなし得たまふお方であります。

私共もいろいろの中を通らせられますけれども食ふ食物に欠くることなく何にも乏しきことなき生涯に（申八の七〜九）入れてい給ふ事をさとのであります。

アサ王は神の目によしとみ給ふ生涯を送つた故に十年の間安息を賜ふたのであります。

然し平穩無事を時に敵が攻めてきたのであります。アサ王は常に主に従つておりました故にいざといふ時に信仰の祈りが出来たのであります。

エホバよ力ある者を助くるも力なき者を助くるも汝に於ては異なることなしと！

頭では理解出来ても真実の信仰の祈りは出来ないものです。全能者であると理解しつゝも実際には恐れと不信仰におち入るのであります。

エホバよ汝は我らの神にましませり人をして汝に勝たせ給ふ勿れとアサ王の如く信仰の祈りをもつて神に肉迫していける様に常にそなえられておりたいものです。

報 告

今月の婦人会は修養会がありましたので一週間延ばして十月二十三日（才四金）にいたします。

消 息

下川洋太兄は十月九日午後十一時四十五分に昇天されました。御祈り有難う御座いました。御祈り有難う御座います。血圧は高いですが元気で御奉仕しておりますから御安心下さい。

信仰によりて義とせられ神に対して平和をえたり

一九六四年十月二五日

斯く我ら信仰によりて義とせられたれば我この主イエス・キリストにより神に対して平和を得たり、また彼により信仰によりて今立つところの恩恵に入る事を得神の栄光を望みて喜ぶなり、然のみならず患難をも喜ぶそは患難は忍耐を生じ忍耐は練達を生じ練達は希望を生ずと知ればなり、希望は恥を来らせず我らに賜いたる聖霊によりて神の愛我らの心に注げばなり。(ロマ書五の一―五)

私は一九一三年に信州の竜田にてルカ伝二十三章の三本の十字架の御話をきいて救われました。

汝ら我を仰ぎ望め然ば救われん(イザヤ四十五の二十二) 仰ぎ望むといふ信仰が私共の信仰であります。四十年余の生涯をこの信仰で伝道して参りました。或時は外部上りのはげしい迫害に会い或は教会内部のゴタゴタまた私生涯の逆境とたゞかいの連続といふ険な中にて自分の状態を見て不勝利になり相な時もありましたが、その都度御聖霊にたすけられて何時も主を仰ぎ望んで今日迄勝利の毎日を送ることが出来たのであります。

信仰には動作がともなわねばならぬのであります。聖言を歩むといふ事が私共の生涯には大切なことであります。己のさとりによらないで聖言に従つて歩むといふ事はむづかしい事でありませぬ。

ペテロが四十年來の生れつきの足なえを立たして奇蹟をあらわしました時多くの人々はペテロに目をつけたのであります。ペテロはそれに答えて言いました。何ぞこの事をあやしむか？何ぞ我らが己の能力と敬虔によつてこの事をなしし如く我らを見つむるか(徒三の十二)と申しております。形の上の熱心とか敬虔の態度とか権威とかが奇蹟を行ふ原動力の様に考え易いのであります。

然しペテロは此処で大説教をいたしたのであります。「……生命の君を殺したれど神は之を死人の中より甦らせ給えり我らはその証人なり斯くてその聖名を信するによりてその聖名は汝らの見るところ識るところの此の人を甦くしたり、イエスによる信仰は汝らももとの前にて斯かる全癒を得させたり(徒三の十五・十六)と語つております。

此処で特に教えられたいことは信仰であります。

また信する汝らに対して行い給ふ神の能力の極めて大なることを知らしめ給わんことを汝らの信するは神の大なる能の感動によるなり。(エペソ一の十九元訳)

生活問題にしても聖言を信じられない処に困難があるのであります。

現今は政治がととのつてゐるから！世界の二大國が手をつないでおるから！財産があるから！健康があるから！と安心出来ないであります。いよいよ信仰だけであります。

純粹に信仰に立つ事は誠にむづかしいのであります。処がこの必要なだけは与えなさるといふ信仰に立つ迄にはさまざまの中を通らされて訓練されねばならないのであります。

聖言をよく理解していてもそれは信仰ではありません。いざといふ時には役に立たないのであります。日常聖言を与えられてそれに従い信仰を養つておきたいものであります。

現在必要なのは世界の信者の教ではありません。純粹な信仰をもつている者があるかであります。

私共は元來異教の中に生れて育つた者でありますから斯る者が信仰によつて養とせられ如何なる時にも常に平安が与えられておるといふ事は感謝にたえないのであります。

報 告

九州修養会も御祈りにより一切が祝されて終ることが出来ました。有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。

消 息

下川兄の急逝九州修養会などにて血圧が二百六十位に上がりましたが、だんだん落付いてきました。つゞいてお祈り下さる。

わが生くるはキリストのため死ぬるも又益なり

一九六四年十一月一日

これは我が何事をも耽ちずして今も常の如くいささかも臆することなく生くるにも死ぬるにも我が身によりてキリストの崇められ給わんことを切に願ひ又望むところに適えるなり、我にとりて生くるはキリストなり死ぬるもまたわが益なり(ピリピ一の二十・二十一)

私共は何のために生きているのか唯毎日年々代々同じ事をくりかえして生きているのは空しい事ではないかと考え苦しんだものであります。そうした中でさまざまな魂の遍歴を経て後にキリストに出会い万事解決を得て新しいキリストに従ふ人生を出発したのであります。

我らは望によりて救れたり(ロマ八の二五)

人間は何等かの望みによつて生かされておるのであります。私共は初めは世界は我が教区なりと大望を抱いて出発したのであります。時を経るに従つて中々その大望が全うされそうもないようにみえて失望し易いものであります。然し人間は失望したら死ぬほかないのであります。我ら見ぬところを望まば忍耐をもて之を待つべしとの聖言を信じてこの租国を神の国となすまでは望をもつて忍耐をもつて祈つてゆかねばならないと決心したのであります。

パウロは生くるにも死ぬるにもこの身によつてキリストの崇められる様にと願つておりました。神は耐え忍ぶこと能わぬ試練には会わせないと約束なさいましたからこの崇むべき神を崇めてどんな中をも支望しないで最後まで祈つてゆきたいのであります。

多くの人が己が願いをきゝいれられますと喜ぶのであります。が少しきかれないとわが訴えは王の前を過ぎ去れり。とつぶやきやすいのであります。我が為さんとする事は汝いまは知らず後之を知るべし(ヨハネ十三の七)と王は教えられております。

病氣から病氣を通して生活苦なら生活苦を通して神が崇められる様にと祈ることあります。

我はエホバにして汝をいやす神なり(出廿五の廿廿六) 誠に危険千万の世の中でありますから私共は日常祈つて守

つていたゞかねばならないのであります。倒れても起きても私共の全生涯を通して神が崇められる様にと祈つて生活しなければなりません。

ダニエル書を読みますとヘブルの三百年及びダニエルはさまざまなかから異教の人々に神を讃めさせておるのであります。

彼らはたとえ然らざるもといふ信仰でありました。信仰的に或は極端な道を歩むかも知れませんが。然しこの世的にはたとえ損をしても神に従ふといふ決心をしてゆきます時神は決して損をさせ給わないのであります。ヘブルの三百年の如く異教徒をして主イエスを崇めしめる様な生涯を送りたいものであります。

私共の生くる目的はキリストの爲であります。

その手段として各々色々な立場におかれて働いておりますが其処でキリストが崇められる様に生きる之がクリスチャンであります。

どうか私共は如何なる処にあつても何をしていてもわが生けるはキリストの爲我が身に上つてキリストの崇められる事を願ふて生活したいものであります。徹頭徹尾そうした精神で生きておりますなら死ぬるもまた我が益となるのであります。

私共がたとえ小さい賤しい存在でありましても真にわが生けるはキリストのためといふ生涯を送りますならば丁度路傍にある野の花の如くキリストのよき香りを放つことが出来るのであります。

生くるにも死ぬるにもキリストの崇められん事を願つて生涯を全うする事は実に幸なことであります。

報 告

十一月一日(才一日) 礼拝后青年会があります。若い方々御残り下さい。

十一月二日(才一月) 午前十時より当教会にて教団の地区牧師会があります。御祈り下さい。

消 息

また心臓を悪くしました。久保山先生の御厄介になつていきます。「わが力は弱き時に強ければなり」とがんばります。

この故に我ら汝らの事をきゝし日より汝らのために絶えず祈りかつ求むるは汝ら靈のもろもろの智恵と悟りとをもて神の聖旨を具に知り凡てのこと王を悦ばせんがためその御意に従いて歩み凡ての善き業によりて果を結びいよいよ神を知り又神の栄光の勢威に従いて賜ふもろもろの力によりて強くなり凡ての事喜びて忍びかつ耐え而して我らを光にある詞業に与るに足る者とし給ひし父に感謝せんことなり（コロサイ一の九―十二）

パウロはコロサイ教会の一人一人のために更に栄光のあらわれんことを祈り求めていたのであります。恵まれて栄を拝する処に悪魔は非常に働きますのでサタンにふるわれない様に又靈的のめぐみをさとり御意に適ふて歩みよき果実を結ぶ様にと祈つておるのであります。神が病氣をいやして下さる事に就ても決して之は異端ではなく神の御意にかなり事であると拓植先生は教えて下さいました。

愛する者よ、我汝らが靈魂の栄ゆる如く汝凡ての事に栄え且つ健かならん事を祈る（ヨハネオ三書二）病氣を通して神様は私共に色々の事を教えて下さるのであります。が其の中に長いことおる事は神様の御旨ではなく一日も早くいやされんことを祈らなければならぬのであります。

我らが神に向つて確信する事は之なり即ち御意にかなふことを求めば必ずきゝ給ふ斯く求むるところ必ずきゝ給ふと知れば求めし願いを得たることをも知るなり（ヨハネ一書五の十四―十五）神は真実な御方であります。御意に適ふことを求めますならば必ずきゝ給ふのであります。

私共人間は変り易い者であります。始めの信仰を終り迄全ふする事はむずかしいのであります。

どうか御聖靈にみたされて祈り深く毎日聖靈にみたされて祈り深く毎日聖旨に適ふ生涯を送つてサタンにふるわれない者となりたいものであります。

ヤイロの娘の死について主は死にたるに非ずいねたるなりと仰せられております。或註解書を通して活ける信仰を失いかけた事があります。終りの日に甦るといふ信仰でなく今主は活かし給ふといふ信仰が大切です。

都合よく合理的に解釈してゆく処に問題があります。

汝が真理を保つこと即ち真理に循いて歩むことを証したれば我甚だ喜べり(ヨハネ才三書三)

思いきつて忠実に主の御誠に従つておられる兄弟姉妹を見ますときまことに喜ばしいことであります。

彼の誠に循い歩むは愛なり汝らが初めよりききし如く愛に歩むは即ち誠命なり(ヨハネ才二書六)

凡ての事王を悦ばせん為にその御意に従つて歩み凡てのよき業によつて果を結びいよいよ神を知り……(コロサ
イ一の十・十一)

毎日の生涯の中にあつて御一人一人が祈り深く御意に適つて歩んでおりますならばいよいよ神を深く知ることが出来るのであります。

神の御意を知りませんならば凡ての事に喜びて忍びかつ耐える事は出来ないのであります。辛ふじて耐え忍ぶのではなく喜んで耐え忍んで行く事の出来るのは聖靈にみたされて聖言に従ふ以外にないのであります。

今日世界の情勢を見る時又私共の周囲をながめます時「エホバの栄光あらわれ人みな之をみんな」といふ様な信仰を奪われてしまふのであります。

よほど祈つて聖靈にみたされ内なる人が強くなつていないととても耐え忍んで得る迄待つことはむづかしいのであります。

祈り出したら成る迄祈りぬきたいものであります。主に依頼んで。

報 告

十一月八日(才二日)礼拝後壮年会があります。多数御出席下さい。そしてしばらく御交りの時を持ちたいと思ひます。

消 息

心臓の発作も余り悪くならないでくいとめることが出来ました。御祈り有難う御座います。血圧は高いのですが聖言に立つて戦つておりますからついでに御祈り下さる。

我らは神の中に生き動きまた在るなり

一九六四年一月一日

世界とその中のあらゆる物とを造り給ひし神は天地の主になしませば手にて造られる宮に住み給わず自ら凡ての人に生命と息と万の物とを与え給えば物に乏しき所あるが如く人の手にて事ふることを要し給わず、一人よりして諸種の国人を造りいだし之を地の全面に住ましめ時期の限りと住居の界とを定め給えり、これ人をして神を尋ねしめ或は探りて見出す事あらしめん為なり、然ど神は我らおのおのを離れ給ふこと遠からず我らは神の中に生き動きまた在るなり（便十七の二十四―二十八）

ヨブは神が如何に偉大であるかをヨブ記に語っております。（ヨブ九の六―一二）
如何に科学が進歩いたしましてもこの聖言をくつがえすことは出来ないであります。

パウロはこの使徒行伝十七章に於てアテネの人々に向つて「汝らが知らずして拜む所のものを汝らに示さん」といつてこの創造主なる偉大な神を教えておるのであります。

然ればイスラエルの全家は然と知るべきなり汝らが十字架に釘づけしこのイエスを神は立てて主となし、キリストとなし給えり（徒二の三六）新約の時代に神はこの難り給ひしイエスを主となしキリストとなし給ふたのであります。私共はこの現世に於てまことに安定しない毎日の生活を送つておるのであります。その原因は何でありますか？このイエスを主となしキリストとしない処に凡ての点に於て安定がないのであります。イエスを私共の生涯の主としキリストといたしますなら常に力ある生涯を送ることが出来るのであります。

基みを破れたらんには義しき者なをなさんや（詩十一の三）土台が確立していない時私共の生涯は不安定なのであります。

柘植先生の生涯の三大メッセージの二つに今日我は主なり我行わば誰か止ることを得んや（イザヤ四十三の十三）といふ聖言を私共の生活に確と刻んでおりたいのであります。

私共お互の地上の生涯は多種多様の中にあります。何とかして溺れない様にと何かにすがりつきたいともがいてや

る様に見えるのであります。然しこうした状態の渦中に在つてしみじみと主より学ぶことが出来るといふことは何と
幸なことでありましょう。どん底に落ちたら其処で主が如何にして救いなさるかと思はれ味わされますと苦勞は希
望に変わるであります。ヨナは「そのなりゆきを見ん」といつて神を俟望みました。私共もあせらぬのでその中で主
の御旨を深く教えられざる者となりたゆむものであります。

唯肝要なことは如何でも如何なる中に在ても主イエスを主とし崇め奉ることとであります。

私共は常に見ゆる処によつて苦しみ思い悩むことは無益なのであります。

私共が安全であると思ひます時俄然震い給ふことがあるのであります。レブラだとか癌といふ様な診断をうけると
真暗に人生がなつてしまふのでありますから。

然し主は声なき声をもつて常に私共を助け励まし力つけて下さり困難の中に在つても勝たしめて下さるのでありま
す。

汝面をおおい給えば彼らはあわてふためき汝ら彼らの息をとり給えば死にて塵に帰る汝靈を出し給えば百物皆造ら
る汝地のおもてを新にし給ふ(詩百四の二九―三〇)

主イエス・キリスト以外に万物を新しくすることは出来ないであります。

神はその手をもて空をはかり海の水をはかり給ふとイザヤ書に記されています。

神のゆるしならば一羽の雀も地に落ちないのであります。

私共はこの世の状態によつて圧倒され易いのであります。常々聖言によつて動かされない者は世に圧倒されないで
過すことが出来るのであります。

我らは神の中へ生き動きました。在るなりとの信仰をもつて生きておきたいものであります。

報 告

謝恩金の袋がきました。どうぞ隠退した老先生方のため御献金下さい。

十一月二十日(才三金)午後一時半より定例婦人会がありますから多数御出席下さい。

消 息

私は相変らずの毎日です。

つゞいて御祈り下さい。精密検査を藤田先生にしていたどきました処心臓も腎臓も少し悪いとの事です。寒さに向いますので要心しながら御用をいたしております。

エホバに感謝せよ

一九六四年一月二日

エホバに感謝せよエホバは恵深くましましてその憐憫かぎりなし

エホバは敵の手より彼らを贖いもろもの地より東西南北より取り集め給えり(詩一〇七の一―二)

私共は感謝するといふと物質面の感謝のみに傾き易いのであります。病気がいやされたとか事業が祝されたとか

T C

この詩人は丑の深き慈しみは対して感謝しておるのであります。

憐れなるべき価値のない者が選ばれたといふえらびの御愛に対し感謝しておるのであります。

王は我らのために生命を捨て給えり之に由りて愛といふことを知りたり我らもまた友のために生命をすつべし(約
卷二の一六)

神を愛する者聖旨によりて召されたる者には凡ての事相働きて益となるを我らは知る(ロマ八の二八)

最悪の事が私共の生涯の中に起りましてもその事が神に近付く道となりますならばその事が私共の生涯の最善であります。

鶴見の国鉄の二重衝突事故がありました。その時娘さんを亡くした聖書協会の方の証しを伺いましたが、その出来事により家族の未信者の人々が次から次と教会に近づく様になつたと感謝しておられました。

主を信じ主に愛せられている私共は何時何事がありましたもその事を通して主の最善を信じて崇める事が出来るならば勝利なのであります。

我にとりて生くるはキリストのため又死ぬるも我益なり(ピリピ一の二一―元訳)

主が私共を生命をかけて愛していて下さるといふ事は永久に断えないのであります。(ロマ八の三五―三九)

或時には神の御栄にはならないのではないかと思ふ様な試練の中を通されることもあります。

然とエホバ上汝は我らの父なり我はつちくれにして汝はすえつくりなり(イザヤ六四の八)

どんな時にもこの御愛の父がともに居り給ふのでありますからおそれることはないのであります。愛なる神はすべての事をよきになし給ふのであります。

されば凡て之等の事の中にあつても我らを愛し給ふ者により勝ち得て余りあり(ロマ八の三七)

この御愛の神が私共の永遠の味方ならば誰か我らに敵せんや(ロマ八の三一)

どうかさまざまな試練の中にあつて兄弟姉妹方上どうぞこの深い神の御愛を信じて主の聖旨をさとりたいものであります。

モーセはエジプトにあつてバロの前にさまざまな奇蹟を行いました。それはエジプトの人々に神の神たる事を知らしむるばかりでなくイスラエルにも悟らせるためでありました。

イスラエルの民は不信仰の故に荒野を四十年間さまざまい歩き遂に約束の地カナンに入ることが出来なかつたのであります。

神は私共に一ツも無駄なことはなさらないのであります。

さまざまの中を通過させ給ふのも結局は益を得しめてその深きにあつからせんがためであります。(ヘブル一〇の

一〇)

どうか此の処を深くさとらされて感謝いたしたいものであります。

主に感謝せよ主は恵深くその憐憫かぎりなし

主の救贖をかうぶる者はみな然いふべきなり

主は敵の手より彼らを贖いもろもろの地より東西南北より取り集めたまえり（詩一〇七の一・二）

何等の巧なくして唯信仰によつて救われた私共であります。限りなき御愛の中に抱かれて毎日を通しております者感謝の祭物をさへげて喜び歌いてその事蹟をいゝあらわし神に栄光を帰したいものであります。

報 告

十一月二十二日（日）は感謝祭であります。

隠退した老先生方のために謝恩献金をお願い致します。

消 息

内田喜代姉十五日の礼拝を最後に東京に移つてゆかれました。皆さんによろしくとの事でありました。

私は相変らずです。寒さに向いますので心臓の方を要心する様に注意されております。

何卒つゞいて御祈り下さい。

御言を行ふ者

一九六四年一月二九日

汝ら我を主と主よと呼びてわが言ふことを行わぬか凡そ我に來り我が言を聞きて行り者は如何なる人に似たるかを示さん即ち家を建つるに地を深く掘り岩の上に基を据えたる人の如し洪水出でて流れその家をつけども動かすこと能わずこれ固く建てられたる故なり然ど聞きて行わぬ者は基なくして家を土の上に建てたる人の如し流れその家るつければ直ちに崩れてその破れ甚し(ルカ六の四五―四九)

私共信者がイエスを主としキリストとして信賴しておりますならばその御言に御従いする筈であります。

主イエスはなんぢ心をつくし精神をつくし力をつくし思いをつくして主たる汝の神を愛すべしまた己の如く汝の隣を愛すべし(ルカ一〇の二七)

然し多く信者は愛は求めておりますけれども主の御誠を愛することをしないのであります。何かが足りなくて出来ないのでなくしてその心がないから出来ないのであります。

何としてでも神に従いたい聖日を守りたい隣人のためになりたいといふ心がありますならば主はなきところに上らず有るところをもつてせよと言われるのであります。主はそのよき志を祝してたすけて下さるのであります。

人は外の形を見まして判断いたします。然し神様は心を見給ふのであります。

二人のものうすひきおらん一人はとられ一人は残されるなりと聖書に記してありますが、それは外からの形ではなく内なる愛とか真実が問題となるのであります。

敬虔の形ではなく敬虔の実行を主は求め給ふのであります。

主は私共をよく知つておられます。(詩百三の一四) 出来ない様な事をせよとは命じない方なのであります。私共は出来なければ出来ないでよい只真実でありたいものであります。

ヤコブは聞くのみにて己を欺く者とならず行ふ者となれと警戒を与えております。内容の深い意味はわからないで聖書を毎日読むことをつとめたいものであります。せうした毎日を送つておりますならば御聖靈によつて時に応じ

てさとらせて下さるのであります。

エホバに願わくば我が終りと我が日の数のいくばくになるとを知らしめ給え我が無常を知らしめたまえ

視よ汝わがすべての日を一掌にすぎさらしめ給ふ、わが生命聖前にては無きことならず実にすべての人はその盛りの時だに空らしからざるはなし

人の世にある影にことならず、その思いなやむことは空しからざるなし、その積み落ふるものは誰が手におさまるを知らず

主よわれ今何をか俟たん、わが望は汝にあり (詩三九の四―七)

神を崇めて神の誠を守つて生きる生涯だけが私共にとつて誠に貴い寶である生涯であります。

モーセは罪のはかない楽しみをうけんよりはむしろ神の民とともに苦しまんことをよしとしキリストによるそしりはエジプトの宝に優るゝ大いなる富と思えり (ヘブル一の二五―二六)

如何にソロモンの如き榮華にみちた楽しく思われる生活でありましても罪が取除かれて主に従つておる生涯の楽しさには比べることは出来ないであります。

私共は暫くさまざま苦難の中を通過させられますけれ共私共を楽しめんとして凡てのものを豊かに賜ふ神に依頼みその苦難の中をつきぬけた喜びは大きいのであります。

勞したる農夫のみ果を獲ることを忘れないで不純な土を畑り純金である聖言の上に土台をおいて毎日不動な生活をつけたいものであります。思いもよらぬ出来事とか病氣とかに襲われます。

洪水の中に在つても岩なるキリストに依頼んで不可能がないのでありますから勝利の生涯をつけたいものであります。

報 告

本年も感謝祭も終り十一ヶ月間聖日を守らしていたゞけて感謝いたします。

さまざまのために御協力有難う御座いました。

消 息

私も大病いたしましたから二ヶ年守つていただきました。今年も十一ヶ月間礼拝と祈禱会の御用をつとめることが出来ました。御祈り有難う御座いました。

ついでに主に依頼んで御用をいたします。

御祈り下さる。

くめどもつきない聖言の味

一九六四年二月六日

萬の物の終り近づけり、然ば心を慥にし慎しみて祈りせよ、何事よりも互に熱く相愛せよ、愛は多くの罪を掩えばなり（ペテロ前四の七〜八）

愛する者よ汝らを試みんとて来たれる火の如き試練を異なる事として怪しまず反つてキリストの苦難に与れば与る程喜べ汝ら彼の栄光の現れん時にも喜び樂しまんためなり（ペテロ前四の十二・十三）

山に登つた事のない人とは山の話は出来ないと言いますが、苦勞した事のない人には人の事を思いやる事が出来ないであります。苦しんだ事のない人は人に同情する代りにその人をさばいてしまふのであります。

主はあらゆる点に於て私共の模範となられました。主は萬民の救いのために靈肉に於て苦難をうけ給ふたのであります。うくる風の苦しみによつて従順を學ばれたのであります。遂に救いを全うされて神の右に座し仲保者として私共のために常に生きてとりなし給ふのであります。

私共救をうけた基督者はどんな場合にも仲保者（とりなすもの）とならねばならないのであります。

イザヤはウシヤ王が死にました時神のおごそかを臨在に接し禍なるかを我亡びなんと叫びました。王が禍のもとだとばかり考え叫んでおりましたが禍なのは私であると示されて泣き叫んだのであります。この時イザヤは火のパンテスマを受けたのであります。(イザヤ六の一―三)

神が私共にさまたせの中を通し喚しなさいますのも私共をして悔改めに導くためであります。

自らが塵の様な者である事を忘れ少し位学問したとか財産が出来たとか立派な家に住んでいるとかにて目をくらまされ神の座にすわり人々をさばき易いのであります。

こうした己を高くしている状態から深め様として色々の中を通らしめあいつが悪い之が悪いとつぶやき易い心を深めて悪いのは私であると教えて下さるのであります。

神の仁慈汝を悔改めに導くを知らずしてその仁慈と忍耐と寛容との豊かなるを睡んずるか汝頭固と悔改めぬ心によりて己の為に神の怒を積みてその正しき審判の現るゝ怒の日に及ぶなり(ロマ二の四―五)

汝らの衷にキリストの形成るまでは我ふたたび産みの苦しみをなす(ガラテヤ四の一九)
パウロのうちに住み給ふ御聖霊は憂いて居たのであります。

私共は苦難や逆境に会ふ時早く其処からぬけ出す事のみ考えてしみじみと主の聖旨をさとりました自らの状態を見極めることをしないのであります。どうか自ら制する事をなして祈りたいものであります。

信仰の導師また之を全うするお方である主はねんごろに真実に求むる者を取扱い給ふのであります。
愛する者よ汝らを試みんとて来れる火の如き試練を異なる事として怪しまず反つてキリストの苦難に与れば与る程喜べ喜べなんちら彼の栄光のあらわれんときにも喜び樂しまんためなり(ペテロ前五の二二・二三)

人生には様々の形で悩みはつきません。やれやれと安心して腰をおろす時は恐らくこないでしよう。この故に心を熱くして自ら制しつゝ祈り深い毎日を送らなければならぬのであります。

信仰生涯が長くなると信仰が深く篤くなると苦惱がなくなるといふのはありません。

然し我らのこの苦難に勝つ秘訣は我らの信なりにて之等に勝ち得て余りある生涯を送ることが出来るのであります。

何事よりも先づ熱く相愛せよ―愛は多くの罪を掩えはなり
汲めどもくめどもつきせぬ泉の如きこの聖言を深くあちわいよくかみしめて主に従いたいものであります。

報 告

神学校献金謝恩献金御協力有難う御座います。

当教会は十二月二十日(日夜七時より)クリスマス祝賀会をいたします。

クリスマス献金をもお願いいたします。

消 息

柴田しが姉が四日市に移られます。

御祈り有難う御座います。私の血圧も少し下り百九十から二百位で落付いております。

身体の具合も大変いい状態です。

全快までついでに御祈り下さる。

イエス彼に目をとめ愛しみて云い給ふなんぢなお一ツを欠く往きて汝の有てる物をことごとくうりて貧しき者に施せ然ば財宝を天に得ん且つきたりて我に従え、この言によりて彼は愛を催し悲しみつゝ去りぬ大いなる資産を有てるが故なり、イエス見回して弟子達にいい給ふ富める者の神の国に入るは如何に難いかな、弟子達この聖言に驚くイエスマた答えて言い給ふ子たちよ神の国に入るは如何に難いかな富める者の神の国に入るよりはらくだの針の穴を通るかた反つて易し弟子達いたく驚き互に言ふさらば誰か救わるゝ事を得んイエス彼らに目を注めていい給ふ人には能わねど神には然らず夫れ神は凡ての事をなし得るなり(マルコ一〇の二一―二七)

科学が極度に発達した現今月の世界にまで到達せんとしております。医学に於てもガンも近く征服出来るだろうといふ昨今誰でもかゝり易い風邪が原因がわからないといふことであります。いと小さい出来事が解決出来ないで苦勞してゐる人々の多い昨日今日であります。

伝道の書には空の空なる哉と記されております。

健康がピチピチしている若者さまざま欲望に充ちている人々には救いの必要などといふことは考えないかもれません。

成功なる生涯を送るために勉強する事も必要です。さまざまな事業もこの世には必要でありましょう。然しソロモンは伝道の書で教えております。事の全体帰する所を知れ神を畏れその誠を守れ之は凡ての人の本分なり(伝二二の二一)

何々とかといふ交換条件ではなくて之凡ての人の本分なりといふのであります。

私共信者が聖日礼拝を守るのも本分であります。仲々この本分を守ることが出来ないものであります。

富める青年は主イエスの処に永遠の生命を求めてきました感心な青年であります。然し主の仰せ給ふ御言に単純に従ふことが出来なかつたのであります。彼は聖言をきいて甚だ悲しんで去つて行つたのであります。

主は財利のむしの神の国に入るは如何に難いかなとなげかれたのであります。

これをきいた人々はさらば誰が救われる、事が出来るのですかとたづねました。

私共が何とかしてこの福を救に人々を救わうと出てゆきますが余りにも物然的でとても不可能の様に思われてしま
うのであります。

然し主イエスは人にはなし得ぬところは神はなしうる所なりと仰せ給ふのであります。

ペテロは福音のためにとらわれ牢獄につなげられました。明朝は首をきられるといふ前の晩教会は之がためにひたす
ら祈つたのであります。ペテロは神は其処から救い出されたのであります。(使二の一一一)

汝の貨財と汝のすべての産物の初生をもてエホバをあがめよさらば汝の倉庫はみちて余り汝のさかぶねは新しき酒
にて溢れん(箴三の九・一〇)

こうしたことも肉の元氣や決心ではむつかしいことでありますけれども聖靈に導かれて御従ひいたしますなら靈肉
祝福されて一生を送ることが出来るのであります。

小教であつても形式的でなく御聖靈に導かれて聖言に従つて行く毎日を積み上げてゆくと遂には明星の様に輝く者
となるのであります。

人のなし得ぬ処は神のなしうる処なりといふ信仰をもつて祈つてゆくと驚く事が起るのであります。

神の国のため或いは家妻兄弟或は子をすつる者は誰にても今の時に数倍を受け又後の世にては永遠の生命を受けぬ
はなし(ルカ一八の二九)

喜んで主に従ふ者に主は数百倍にして報い給ふのであります。

モーセはしばらくエジプトの樂しみをうけるよりむしろ神の民と苦しむことをよしと一切をすて、神に従つたの
でありました。神は彼を用いて驚くべきわざをなしイスラエルをエジプトより救い出したのであります。

消 息

柴田シカ姉十二月一日出発され皆様によく申されました。私も大体落付いております。つゞいて御祈り下さる。

わが心はエホバによりて喜び汝の救によりて樂しむ 一九六四年二月二〇日

わが心はエホバによりて喜びわが角はエホバによりて高しわが口はわが敵の上にはりひらく是は汝の救によりて樂しむ故なりエホバの如き聖き者は非ずそわ汝の外に有るものなければなり又我らの神の如き響はあることなし(サムエル前二の一・二)

わが心主を崇め我が靈は救主なる神を喜び奉るその婢女をも願み給えはなり視よ今より後方世の人我を幸福とせん全能者我に大なる事をなし給えはなり、その名は聖なりその憐憫は代々に畏み恐るゝ者に臨むなり(ルカ一の四六—五〇)

このハンナとマリヤの讃歌は二人共心より主を崇めその救主なる神を喜び奉ることに於て共通しておるのであります。

私は今から四十年前に私の中にある悩みは原因は何であるかと考えた事があります。それは私共の中にある罪であるといふことがわかりました。其処で主イエスを信じて救われたのであります。

私の生涯はその時から内外共に一新いたしましたのであります。救主の巧により嬉しき身となりぬ、なやみ多き世もさながら天国の如きこゝちしてと歌つて信州から東京へ帰つてきたのであります。

その後一年間位活水学院に入學修養して伝道戦線の才一線に出たのであります。或時は渡村といふ処で毎夕集会の度毎に迫害にありました。然しその時も救われた時の喜びは消えませんでした。

今日も毎日さまざまな問題にあつて悩まされておるのであります。王に祈ります時解決出来ないことはないのです。が只私共の側にその信仰がないとなかなか解決されないものであります。

汝が我に望みて求むるところは皆我汝のために之をなすべし(サムエル一九の三八)

私はこの約束の聖言をにぎりしめて終戦後のさまざま困難の中を祈りつゝ戦つて助けられました。視よ我ら称えられて神の子たることを得之父の我らに賜ふ如何ばかりの愛ぞ(ヨハネ一の一)

さまざまな苦難の中から助けられた事は喜びではありませんが罪人が神の子とせられたこの喜びには何物にもかえがたいものがあります。

太陽を照らし雨を降らし春夏秋冬を与え空の鳥を養い育て給ふた神が私の父なる神であると信じられた時飛びあがつて喜んだものであります。この信仰を与えられて以来聖書一卷を信頼して四十年間夫の父はわが牧者なりわがさかづきは溢るゝなりと養い給ふたのであります。

ハンナはエホバの如き聖者はあらずとさげびました。マリヤはその名は聖なりと歌いました。

聖といふ事はまじりけのない純粋を意味します。エホバ仰せ給えば成るといふ意味です。

私共が何も出来ないのは神が無力だからではないのであります。無から有を造る方、有りて有る方、全能者を信ずる信仰が私共にないからであります。

ハンナも弱い婦人でありました。マリヤは婢しい処女でありました。神はこの二人に大いなる信仰を与え給ふたのであります。

神は我が譬わが要塞であるとたゞえております。

私共人間はまことに弱い者であります。山田先生（婦人伝道者）は信仰の良い方でありました。然し病気が重くなり肉体が衰え意識もぼんやりしてきた時自分の意志や力で天国に入る事がむづかしく感じられました。その時に柘植先生は祈つて導かれわがたましいを汝の手にあづくと祈りなさいといつて祈つてやり山田先生は安息に入りましたといふことあります。

私共もこの弱きを思いやる主に一切を委ねます時安らかに天国に移していただくことが出来るのであります。

報 告

十二月二十日午後七時より当教会のクリスマス祝会があります。多数御出席下さい。
クリスマス献金も御願いたします。

兄弟よ汝ら喜べ全くなれ

一九六四年二月二七日

終に云わん兄弟よ汝ら喜べ全くなれ慰安を受けよ心を一ツにせよ、睦み親しめ然ば平和の神汝らと偕に在さん

(コリント後一三の一・一二)

私共の一生涯の間全くなつたといふことはなかなか来ないだろうと思います。

ジョン・ウエズレーは終りの一週間前に神我と偕にいます之最もよき事なりとの言をのこされたといふことであります。之が全くなる生涯の秘訣であると思ひます。

私共は肉体的に生きている間もさまざまな食物をとらねば生きることが出来ません。その様に神と偕なる生活のためにも靈の糧をとらねばならないのであります。それは必ずしもキリスト教的書物を読む事ではありません。

それは何処迄も我は生命のパンなりと言われる聖書を讀まねばならないのであります。それは朝毎に夕毎にはげんで拝読しなければなりません。

汝ら喜べ、全くなれ慰安を受けよ！私共の本当の慰安は聖書であります。

物質によつて乏しきを助ける慰めさまざまな体験によつて同じ事情に居る人に同情して慰めるなくさめなどさまざまあります。然し本当の慰めは聖言を与える以外にはないのであります。

人を励ますといふことも自分の経験や考へては事情や時や処が違いますので真の励ましにはならないのであります。自分が慰められ励まされた聖言を伝える時本当の神よりの慰めや励ましを与えることが出来るのであります。

汝ら我に学びしところ受けしところ聞きし処見しところみな行え、然ば平和の神汝らと偕に在らん(ピリピ四の九) 聖書は聞くだけでは駄目でありませす。信じて実行する時にその効果があらわれるのであります。

汝ら常に主に在て喜べ(ピリピ四の四) 神の臨在の中にあつて私共は始めて常に喜ぶことが出来るのであります。家庭にありましてまたさまざまな職場にあつて何をしていても常に喜んでニコニコしてつぶやかかないでゐるのが主の栄をあらわすことが出来るのであります。

私共の身边には毎日さまざまなことがあります。然し主はその中で潔めてくださるのであります。而してマリヤの如く室中によい香りを放つことが出来るのであります。

愛は寛容にして慈悲あり(コリント前二三の四)この様な愛の器となしていただくためには私共はいろいろの中を通され鍛えられ練られて愛の人となされるのであります。

聖書は註解書によつて内容を理解している覚えてはただの役にもたゝないのであります。精精人をさばく位が関の山です。パリサイ人や学者の如くに！

今の時代に聖書の聖言に従つて実行してゆく人が起らなければならないのであります。

事毎に祈れとの聖言でも実行しなければその聖言は効をあらわさないのであります。どうぞ毎日ことごとくに祈つて聖言の偉力を体験して下さい。

今日語つた事の最も大切な事は私共が常に神の臨在の中に居ることでありまして。而して祈り深い生涯を送ることでもあります。

たえず祈つて御言を歩んでゆきますならば神が私共の心の中よりつぶやきを取り除き常に愛と平和の神の永遠の神が偕なり給ふて凡てを最善になして下さると仰せられるのであります。

人生には神われと偕に在すといふ生涯之以上の幸福を生かす方はないのであります。その生涯には風吹かず波立たずいと静かなり。

報 告

一月一日午前十時三十分新年礼拝が当教会であります。一年の計は元旦にあり多数御出席下さる。

一月三日(才一日)一九六五年の才一回の礼拝です。青年会は休みます。

一月六日(水)本年才一祈禱会です。御出席下さる。

神を信ぜよ (マルコ一〇の二二)

汝ら信仰に居るや否や自ら試みよ (コリント后一三の五)

深き良心をもて信仰の奥義を保つものたるべし (テモテ前三の九)

汝らの神を見よ

汝ら萎えたる手を強くし弱りたる膝を健かにせよ心騒がしき者にむかいて云え汝ら雄々しから懼るるなかれ汝らの神を見よ刑罰來り神の報來らん神來りて汝らを救い給ふべし、その時盲目の目は開け聾者の耳はあくことを得べし、その時跛者は隙の如くとび走り啞者の舌は歌りたわん、そわ荒野に水湧き出で砂漠に川流るべければなり

(イザヤ三五の三―六)

汝ら心を騒がすな神を信じ又我を信ぜよ (ヨハネ一四の一)

私共が神を見上げないで自分の周囲の事情境遇に目をとめてゐる時とても信仰がもてないで駄目を様に思われ易いのであります。そのイストラエルに汝らおそるるなかれ汝らの神を見よとすゝめてゐるのであります。

イザヤ四十章を読みます時地の極の創造者にして擔み給ふことなく又疲れ給ふ事なくそのさとき事はかりがたき御方が賜を御手にたすさえて待ち給ふ処を見せられるのであります。汝ら目をあげて高きを見よ誰か之等のものを創造せしかを思えこの神を信仰をもつて見上げます時私共の周囲の事情境遇は問題でなくなつてしまふのであります。汝らたゞキリストの福音に相応しく日を過せ然らば我が往きて汝らを見るも離れて汝らの事をきくも汝らが靈を一ツにして堅く立ち心を一ツにして福音の信仰のために共にたゞかい凡ての事に於て逆ふ者に驚かされぬを知ることを得ん、その驚かされぬは彼らには亡びのしるし汝らには救のしるしにて此は神より出づるなり、(ピリピ一の二七・

二八)

私共の福しいばかりなれば聖言であります。思い切つて聖書の聖言に従つて行きます時凡ての点に祝福されないとはいないのであります。

それで私共は事情境遇によつて騒がされないで見ゆる処の状態によつて驚かされないで神を見上げて信じてゆかねばならぬのであります。

心安がれおぞるなかがれ我なり(マタイ一四の二六) 私共の心が福音に相應しくなつておらないとこのあらしの海の中で主イエスさまが變化の如く見ゆるのであります。而して心騒ぎおそれるのであります。

つねに福音に相應しく生活してあります方と如何なる時にも堅く信仰に立つて恐れない一寸した出来事には驚かない生活が出来るのであります。

私共は外側から基督者らしく見ゆる生活は出来ず。然し内側本福音は神感しく生活することはむづかしいのであります。

汝らの神いい給わく慰めよ汝らわが民を慰めよ懇にエルサレムに語り之に呼ばわり告げよ、その服役の期既に終りその咎既に赦されたりそのもろもろの罪によりてエホバの手より受けしところは倍したり(イザヤ四十の一・二)

神様が一切の贖を成就して下さつたのですから私共は何事も憶する事なく恐るることなくこの主に依頼んで一切を委ねて喜びと平安の中に生活出来るのであります。

この新しい年も思い切つてこの神を信じて従つてゆきたいものであります。

報 告

一月三日(才一日) 礼拝后青年会です。

わが愛におれ

一九六五年一月一〇日

凡て我愛する者は我これをこらすこの故に励みて悔改めよ、視よ我戸の外に立ちてたゞく人もしわが声をきゝて戸を開かば我その中に入りて彼と偕に食し彼もまた我と偕に食せん、勝ちをうる者には我と共に我が位に墮することをゆるさん（ヨハネ黙示録三の一九―二二）

食事を一語にして交るといふことはまことに楽しいものであります。基督者である私共も神と偕に食して交るといふ事が出来るなら最高の恩恵に入れられているといふことが出来るのであります。

我戸の外に立ちてたゞく神様は私共にさまざまな不如意の中を通して心をたゞいておられるのであります。之はまことに神の深い御愛の御意であります。

凡て愛する者は我これを戒め之を懲すこの故になんち励みて悔改められよ（黙三の一九）

神は愛する故に私共をしばしば苦難の中に追い込み給ふといふのであります。この処が神の愛の奥義であります。この故に私共はこのこらしめの時にこれをさけないで何故と反省し悔改め損ねないのであります。この苦難の中にて何を教えんとしてい給ふかを教えられたいものであります。主が心の戸をたゞき給ふときは悪うございましてとダビデの如く謙つて従ふ時凡てを益にかえて下さるのであります。

パウロはローマに護送中船中の苦難の時我に語り給ひし如く必ずなるべしと我神を信ずと申しております。

私共も苦難の時主の聖言の声をハッキリききたいものであります。その聖言の如くきき従ふならパウロの如く悪しき状態によつて心恐れず不信をもつて神を愛ふことなく信仰を堅くして神を崇め神は約束し給ふ処を必ず成し給ふと確信して勝利を得るのであります。

神は如何なる時代にても私共を愛し給ふてその約束を成就し給ふのであります。

私共はこの神の愛に根ざして信仰より信仰に進まねばならないのであります。

然ど我なんちに責むべき処ありなんちは初めの愛を離れたり然れば何処よりおちしかを思い悔改めて初めの行為を

なせ (黙一の四・五)

初めの愛とは救われて罪が赦され感謝感激にみちた時の事ではないのです。感謝感激がうすれてきたといふことでもありません。私共の救われたのは神の御愛によつてでありまして何がなしたからではないのであります。

十字架の御愛によるのであります。(加三の一・二)

……世の削の前より我らをキリストの中に運び御意のままにイエス・キリストに由りて愛をもて己が子となさんことを定め給えり (エペソ一の四・五)

ホセア書には我らの故に……愛の故に運び出され救われたのであると記されております。

この事を忘れてはならないのであります。愛によつて救われたのであります。どうかこのことを心に深く刻まれ自ら守り神の愛の中に居り永遠の生命を得るまで我らの主イエスの憐憫を待て(ユダ二一)と仰せられるのであります。愛なる神は私共のうける火の如き試みの中にも御愛の声をかけて下さるのであります。其処でその御声に従つて苦難に勝つ事が出来るのであります。

報 告

一月十日(才二日)新年の壮年会があります。是非御協力下さい。お交りの時としたいです。

一月十五日(才三金)午後一時半より新年の婦人会の例会があります。多数御出席下さい。

もし山羊および牝牛の血、牝牛の灰などをかけられし者にそゞぎて其肉体を潔むることを得ば、まして永遠の御霊によりきずなくして己を神にささげたまひしキリストの血は我らの良心を死にたる行為より潔めて活ける神に事えしめざらんや（ヘブル九の一三・一四）

また大いなる声の御座より出づるをきけり曰く、視上神の幕屋人と偕に在り、神人と偕に住み、人神の民となり、神人と偕に在りして彼らの目の涙をことごとく拭い給わん（黙二の一三・一四）

いと聖き神が汚れた罪人と偕に住み給ふといふことはあり得べからざる事であります。一人人間の最善といふことは如何なることでありましょう。

聖パウロはわが願は世を去りてキリストと偕に居る事なり之はるかに勝るなり（ピリピ一の二三）と云つております。またわがキリスト・イエスを識ることの優れたるために凡てのものを損せしかど之を塵芥の如く思ふ（ピリピ三の八）と申しております。

此の世の人の目に見ゆる最善と神により真実の最善とは大きな相違があるのであります。

イザヤは人は皆草なりその栄は凡て野の花の如し草は枯れ花はしほむされど我らの神は永遠にたゞん（イザヤ四〇）と申しております。

然し世の多くの人々はこの野の花の如き幸福を嘗び直ちに枯れて萎れた草の如きものを慕ふのであります。其処にまことの幸がある如くにだまされてまどわされ易いのであります。

私共はそうした物を求めていた中から愛なる神は救い出し給ふて永遠の生命を与えんために潔きにあづからしめ給はば私共をさまざまに試練の中を通して導き給ふたのであります。

かくして私共をインマヌエル（神我と偕に在す）といふ生涯にまで導きたまふたのであります。

永遠の靈に上りきづなくして己を神にささげ給ひしキリストの血は我らの良心を死にたる行為より潔めて活ける神

につかえしめざらんやと仰せられ私共の努力によるのでなく十字架の血は私共をかかるといふ恵にまで入れ給ふのであります。

人若し我につかえんせば我に従ふべし我に従ふ者は我が居る処におらん我父は之を貴ぶべし(ヨハネ二の二六) 神と偕なるといふ生涯は私共クリスチャンに与えられた驚くべき恩寵であります。最高の特権でもあります。

主イエスに従ふとは聖書の聖言に従ふことであります。聖言は必ず成就するとの確信をもつことの出来るのは幸である。天使はマリヤに告げました。(ルカ一の四五)

その約し給える事を必ず成し得給ふと確信せり(ロマ四の二一)

信仰の人であるアブラハムも妻ハガルの人間の常識的なものともらしい言に動かされ非常に苦しい経験を経たのであります。

此処で私共が警戒しなければならぬことは常に潔められて聖霊にみたまされ神にのみ望をおく状態でなければならぬのであります。私共はともすれば自分に苦痛のない都合の良い人間の声にきき従い易いのであります。

思い切つて聖言にのみ聞き従つてゆく者でありたいものであります。

汝ら雄々しかれおそるるなかれ汝らの神を見上り刑罰来り神の報きたらん神来りて汝らを救い給ふべし

(イザヤ三五の四)

私共の罪の一切の贖は主イエスによつて完ふされておるのであります。而してその主イエス今も神の右にあつて私共のためにとりなしをなして給ふのであります。どうぞこの主イエスを見上げてはばかりせずして神に近付きたいものであります。

イザヤ書四十章に記されている神を私共の神で在し給ふ事を一ツ一ツ確信するまで祈りつゝ聖言をあらわい恵にみち給ふ神の聖言をさとりその聖言が私の魂の中に確信となるまでねり食んで祈つてゆきたいと思ひます。

消 息

岡崎幸雄兄が高松に転勤されました。皆様によるしく

辨正吉兄が九電古賀変電所長に栄転され当教会に九年ぶりに帰られました。

少し寒くなつてきました。皆様如何お過してでしょうか。私も御祈りに支えられつゞいて御用をいたしております。元旦から毎日来客ですが保たれております。今年も良い一年であります様に御祈りいたします。

動かない信仰生涯の土台

一九六五年一月二四日

もろもろの心労を神に委ねし神汝らのために嘯ばかりたまえはなり、つゝしみて目をさましおれ汝らの仇なる悪魔ほゆる獅子の如くへめぐりてのむべきものをたづぬ汝ら信仰を堅くして彼をふせげ汝らは世にある兄弟達の同じ苦難にあふを知らばなり、もろもろの恩恵の神すなわち永遠の栄光をうけしめんとてキリストによりて汝らを召し給える神は汝らがしばらく苦難を受くる後汝らを全ふし堅ふして強くしてその基を定め給わん願くは権力世限りなくあらんことを アーメン (ペテロ前五の七―一一)

私共基督者は信仰に徹すると如何なる事情境遇の中になつても不動の生涯を送るものとするのであります。

この様を不動な者とみなさんため神は私共をさまざま苦難の中を通過させられその中で鍛え練られて純粹なるものとされ永遠にまで導かれるのであります。

私共はやりきれない様な苦難を酒でまぎらわしたりごまかしたりする者ではなく堂々とその苦難と戦つて祈つて勝利する者であります。主イエスも汝ら世に在りてはなやみをうけん然ど怒るるなかれ我すでに世に勝てりと教えられて励ましておられるのであります。

然しみなぎりあふるる様ななやみに次から次と寝られます時心を失い金さえあれば権力や地位があればとパウロが糞土の如きものとしたものを宝として頼としようとするのであります。

然し一番貴い善い事は神に信頼する（マルコー一の二三）ことであります。

どうか人の声によらず見ゆる処の状態に動かされないうで聖靈によつて与えられた聖言の声にきゝ従つて信仰に由つてエリシヤの如く知れり汝ら黙すべしと御言に堅く立つて進んでゆきたいものであります。

私は信仰に入つた時神を畏れその誠を守れ之は凡ての人の本分なりといふことを教えられその様な生涯を送りたいと祈り求めてまいりました。

エホバよ汝は我をさぐり我を知り給えり汝はわがすわるをも立つをも知り又遠くより我がおもいをわきまえ給ふ汝はわが臥すをもさぐりいだしわがもろもろの途をことごとく知り給えりそわわが舌に一言ありとも視よ汝ことごとく知りたまふ（詩二三九の一―四）

私を最もよく知り給ふお方が常に借におつて一番よい時に一番よい事をして下さるといふことをさとらしていたゞけたら幸であります。かかる信仰の土台の上に立つた生涯であつてこそ始めて私共の毎日が動かされないものとなるのであります。

決して教会生活信仰生活はアクセサリーの如きものではなく、なくてはならないものであります。

なくてはならぬものは多からずいや只一ツなりと主は仰せられました。マリヤはそのよきかたをえらんだと主は仰せられたのであります。

主と結びついての毎日の生活が私共毎日勝利の生活をする秘訣なのであります。

主の聖言に従つておる生涯は私共の四囲の環境に支配せられずその環境をもかえてゆく事が出来るのであります。然し悪魔はさまざま方法をもつて私共を恐れさせ様と計画いたします。信仰を堅くして之をふせげと老聖徒ペテロは教えております。パウロは信仰の盾をもて悪しき者の火矢を消すことを得んとも教えております。

苦境にある時我が身一ツの秋でないことを教えられたのであります。何処も同じ秋の夕暮です。

汝らがしばらく苦しみをうくる後汝らを全うし堅うし強くしてその基を定め給わん（ペテロ前五の一〇）
よくよくこの聖言をもちわい苦難の中で気をくちかないで忍耐をもつて主のなさる時を待ちたいものであります。

消 息

御祈りいたゞきました私も主の御守りの中に元気で礼拝と祈禱会の御用をつゞけております。

有難う御座います。血圧も大分落付いてまいりました。つゞいて御加禱下さい。御手紙いたゞいて御返事をと考へつゝ今日迄失礼しました。何卒主に在つて御赦し下さい。

皆様のお祝福を御祈り申し上げます。

十字架の外に誇る所あらざれ

一九六五年一月三一日

我には我らの主イエス・キリストの十字架の外に誇る所あらざれ之によりて世は我に対して十字架につけられたりわが世に対するも然り、それ割礼をうくるもうけぬも共に教ふるにたらず唯貴きは新に造らるゝことなり

（ガラテヤ六の一四・一五）

此世の多くの人々は余り人生にて重要でない事柄を非常に大切に取扱つておる様に見えるのであります。そして大切にしなければならぬ事には無感心である人が多いのであります。聖パウロの書翰はこの事を強く主張しておるのであります。

人間の外側の事或は住居とか衣食とかの美しさは人間の幸福を失ふてしまふことが多いのであります。

一体私共はいざといふ時には何によつて救われるのでありましようか？聖書は汝らは恩恵により信仰によりて救われたり是已によるにあらず神の賜物なり行為によるにあらずこれ誇る者なからんためなり（エペソ二の八・九）と教

えられております。

罪の汚れをきよむるはイエス・キリストの血汐の外なしと靈感賦にあります。

十字架の救には罪も汚れも吸いからす力があるのであります。

ガラテヤの信者は始めの間はこの単純な信仰によつて喜んでいたのであります。恵に感じて主イエスに従つていたのであります。其処にユダヤ教の律法の教師が入りこんできてまどわされたのであります。其処でパウロはこの人々に伝えたのであります。

キリストは我らの為に呪わるゝ者となりて律法の呪より我らを贖い出し給へり録して木に懸けらるゝ者は凡て呪わるべしと云えはなり（ガラテヤ三の一三）

私共はイエス・キリストの十字架の贖によつて選出された特選の民であります。難行苦行したり修養鍛練などして選出された人々とは異ふのであります。（ペテロ前の一八・一九）

然し現代はこうしたキリストの十字架と復活だけに信頼して生活してゆく純粹な信仰の人が少ないのであります。然しこうした物質主義を時代にも我に就る者は我之をすてずと仰せられる真実なる主に依頼んでいつて恥かしめられないのであります。

私共の地上の生涯を五・六年送つてみますといろいろな浮沈のあることを経験するのであります。そうした中に永遠に変わらざる聖言にのみお従ひ出来る様にされたことはまことに幸なことであります。感謝しなければなりません。

この十字架と復活の主からはなれない様に祈り深く毎日を通したいものであります。
之によりて世は我に對して十字架に釘づけられたり我が世に對するも然り（ガラテヤ六の一四）

事情境遇と私との間に、子供と私との間に、問題と私との間に如時この十字架をおかなければ私共の信仰はくずれ易いのであります。

十字架を通して神にむかい、世に向ふ人と人との間にも十字架を通して向いますなら問題は起らないのであります。どうぞこの奥義を確かに悟つて毎日を喜びの中に過したいものであります。

我なんちら及びラオデキヤの人人その他すべて我が肉体の顔を見ぬ人のために如何に苦心するかを汝らの知らんことを欲す、斯く苦心するは彼らが心慰められ愛をもつて相列り全きさとのすべての富を得て神の奥義なるキリストを識らんためなり、キリストには智慧と知識との凡ての宝かくれあり（コロサイ二の一―三）

使徒パウロはコロサイ教会の人々のために何とかしてこの神の奥義なるキリストを知らせんために苦心し力をつくして勞したのであります。

ヨハネ福音書の元訳の一章一節には道は即ち神なりと記してあります。私共はこの聖書に上らなければこの奥義なる神を知ることとは出来ないであります。神学的に研究してもその奥義なるキリストを悟ることは出来ません。

経済学によつても経済の問題は解決しない様に医学を学んでも病氣の問題は解決しないのであります。私共の周囲に起るさまざまの問題その最後にくる死の問題の解決は活けるキリストによるより外に解決は出来ないであります。世界平和に就ても平和ならしむる活けるキリストによる以外に解決の道はないのであります。

私共は毎日この奥義なるキリストを識らんため聖書を学び祈り励んでおるのであります。

ルカ福音書十章の終りにマリヤは主の足下に坐して主イエスの御言にきこいつていたのであります。之は唯一のものにて彼より奪ふべからざるものなりと仰せられました。

キリストには智慧と知識との宝かくれありとありませぬ如く之は研究しても修養しても得られるものではないのであります。

汝らさきには諸般の咎と肉の刺札なきときによりて死にたる者なりしが神は汝らを彼と共に生かし我ら凡ての咎を赦しかつ我らを買ひむる規の証書すなわち我らにさからふ証書を塗り消し之を中間より取り去りて十字架に釘づけ政治と權威とはきて之を公然に示し十字架によりて凱旋したまえり（コロサイ二の十三―十五）

私共の為に罪なき神の子が人となり十字架の死をもつて贖を成就し給ふのであります。

私はこの聖言を受入れた瞬間に全くかえられたのであります。汝は今日我と共にパラダイスにあるべし
讀むべき哉我らの王イエス・キリストの父なる神彼はキリストに由り霊のよろもろの祝福をもて天の処にて我らを
祝し御前にて深く瑕なからしめんために世の削の前より我らをキリストの中に選び御意のまゝにイエス・キリストに
よりて愛をもて己が子となさんことを定め給えり(エペソ一の三―五)

すべてのめぐみは神の中にがくれであります。既に備えられているのであります。そして私共はキリストに由りて
それを最も良い時にうけるのであります。御聖靈によらなければこのことを悟ることが出来ないのであります。

私共は信仰の進むに従つてキリストといふレンズを通してだんだんとその事を知ることが出来るのであります。

私共は此世に在つて主を深く知つて主を崇める生涯を送る以外に足る事を知る事は出来ないのであります。
汝らキリストを主として受けたるによりその如く彼に在りて歩め(コロサイ二の六)

私共は主を主として崇めて従つておるでしうか。或人はこれだけ主に従つておるのに何故こうした事があるだろ
うかとつぶやき疑問を起す人があるかも知れません。

然し神は崇むべき御方であります故に崇めねばならないのだと信じ凡ての問題の上に神は愛なりと書いてある事を
認め祈つてゆかねばならないのであります。

神は打つた手でつゞみつかきさいた手でよくいやし給ふ御方であります。

報 告

二月七日(日) 礼拝後青年会があります。 多数御出席下さい

消 息

古木兄が東京本店教育課長となつて栄転されました。

今年の冬はあたたかい日がつゞき心臓の悪い私には大変幸いでした。おかげさまでわりに元氣にて御用をいたしてお
ります。

御祈り有難う御座います。

是等の事の後エホバの言異象の中にアブラハムに臨みて曰くアブラハムよおそるなかれ我は汝の盾なり汝のたまものは甚だ大いなるべし、アブラハムいけるは主エホバよ何を我に与えんとし給ふや我は子なくしており此のダマスコのエリエゼル我が家の相続人なりアブラハム又いけるは視よ汝子を我にたまわず我が家の子わが嗣子とならんとすとエホバの言彼に望みていわく此者は汝の嗣子となるべからず汝の身より出づる者汝の世嗣となるべしと斯くてエホバ彼を外にたずさえ出してい給いけるは天を望みて星を教えらるるを見よと、又彼に言い給いけるは汝の子孫是の如くなるべしとアブラハム、エホバを信ずエホバ之を彼の義としたまえり(創一五の一―六)

科学の発達は甚だしい進歩をとげ現今は人工衛星が飛ぶ様になりました。こうした文明の時代に古い聖書を信ずる信仰なんてまことに愚かな様に考えられるのであります。然し今より何千年前のアブラハムの時代も同じ様に考えられていたのであります。アブラハムには自分の状態や周囲の有様を見てとても神様の御言を信ずる事が出来なかつたのであります。其処で神様はアブラハムを外に連れ出し空の星を仰せられたのであります。

私共は神様を己にさもにたものと思ひ易いのであります。(詩五〇の二一)成し能わざることなき神の能力を信ずる事が中々出来ないのであります。

私共は表面の事しか考えることが出来ないであります。

アブラハムも財産はあつたが世嗣がないといふことでコンプレックスを感じ望を失つていたのであります。

自分の状態や妻サラの状態ばかり見ていて神を見上げる事が出来ませんでした。その時神様は汝の身より出づる者汝の世嗣とならんと御声をかけられたのであります。アブラハムも初めは信仰がもてなかつたのであります。

然しさまざま教えられて遂に全面的に聖言を受入れるに至つたのであります。アブラハム、エホバを信ずエホバを彼を義となし給えり

主エホバよ我如何にして之を保つことを知るべしや(創一五の八)此処がアブラハムの恵まれていた処であります。

信仰に入つて最初にこれではなくてはならないと福音に感激して出発する人は多いのでありますが、この信仰を終り迄全うする人々が誠に岡の上のさおの如く少いのであります。

長い人生にはさまざまな試練に会い障害が出てきます。又その上に悪魔の働きがありまして何どかして信仰を中止させ様と働きます。私共はこの信仰を最後までもちつゞけるためにどうすればよいのでしようか。

商店でも始めて売出す時景品をつけて売ります。すると客は景品につられて買います。

信仰にも景品の方が主になつて了つて終り迄全うする人が多いのであります。

せん方つくれ共望を失わず苦難をつきぬけてゆく力を与え給ふ神を求めぬよりも景品の方を求め易いのであります。私共も信仰に入つたら何も彼も一度に解決してしまふかというところではありません。最暗黒な試練の中でとても望をもてない時御聖霊は機にあり聖言を与えてその中を通過させて下さるのであります。(創一五の九―一二)

イエスはラザロの墓の前で石を除けよと言われました。私共も毎日聖霊の能力によつて不信仰の石を除けて信仰の善戦をたゝかわねばなりません。

ローマは一日にして成らず家族を導くためにも祖国を神の国となすためにも世界を主イエスによる平和になすためにも私共は聖言を聖霊に充たされて祈りつゞけ働きつゞけねばならないのであります。

アブラハムも創世記十七章に於て聖霊にみたまされアブラハムとなりその約束が成就されたのであります。信仰が実態となるまで聖霊にみたまされ生命がけて走りつゞけたいものであります。

報 告

二月十四日(才二日) 礼拝后壮年会があります。幸なる交りの時を持ちたいものです。

二月十九日(才三金) 午後一時三〇分より定例婦人会があります。多数御出席下さい。

消 息

二月になつてから冬の寒さになりました。皆様お変わりありませんか。私も寒いので要心しながら御用をいたしております。血圧も百九十位です。つゞいて御祈り下さい。

太初に言あり、言は神と偕に在り言は神なりき、この言は始めに神と偕にあり萬の物は之によりて成りたりたるものに一ツとして之によらでなりたるはなし、之に生命ありこの生命は人の光なりき(ヨハネ一の二一―四)

バプテスマのヨハネは我は荒野に呼ばわる人の声だと(ヨハネ一の二三)申しました声は消えてなくなつてしまふものであります。然し言は後迄残るものなのであります。主は天地は失せん然れど我言は永遠に失せることなしとも教えられておられます。

新旧約聖書の中には三萬三千もの約束の言が記されておるといふことであります。

私共基督者が生れかわるといふことは人間の修養とか鍛練とかではなくして御聖霊によつて私共の靈の中に聖言を受入れることによつて起る現象であります。

汝らは朽ちる種によらでくちくる事なき種即ち神の活ける限りなく保つ言によりて新に生れたればなり(ペテロ前一の二三)とあります如くであります。

私共の身体が毎日時時刻刻新陳代謝をする様に毎日祈つて聖書を読んでおりますと内なる人は旧きは去りて日日新しくなるのであります。

汝らが先祖より伝わりたる虚しき行状より贖われしは銀や金の如き朽つる物に上るにあらずきづなく汚点なき小羊の如き貴きキリストの血に由ることを知ればなり(ペテロ前一の二八―一九)

主はニコデモにもし新に生れれば神の国を見ること能わずと言われました。私共も聖言を受入れて生れかわりを体験いたしませんならば此の世の迷信など打破することは出来ないであります。

活かずものは靈なり肉は益する所なしわが汝らに語りし言は靈なり生命なり(ヨハネ六の六四)

使徒ペテロは生れつきの足なえの人に向つてナザレのイエス・キリストの名に由て命す立ちて歩めと足なえを立たしめたのであります。この乞食は足がなえていたから乞食をしていたのであります。足が立つ事が出来たら乞食をし

ている必要はなくなつたのであります。

私共人間にとつていろいろなものがあるがたしかに必要であります。然し凡ての力の根源なるキリストを得ることが最も肝要なのであります。

金銀は我になした、我に有るものを与ふナザレのイエス・キリストの名に由て命す立ちて歩めといわれました。其の時あしなえは立ちました。物が有るとか無いとかは余り問題でありません。私共がキリストの聖言に由て新しく生がされているか、いかにかが問題でありませぬ。

この聖言に生命は人の光なり(ヨハネ一の四)

私共が真実にこの聖言を受け入れるかどうかという処に問題があります。

生命のある種子を土に播く時その生命は土に根を出します。而して芽を出し葉を出し伸びてゆくのであります。石の間に落ちた種でさえ生命がきればその堅い石を刺つて成長するのであります。

私共の靈魂の中にこの福音の言が植え付けられておりますなら雨や風や太陽にさらされる度毎に輝いてゆくのであります。

然し現今の人々は眞の光なる主の聖言を受入れない故に人々は如何迄も暗黒の中にさ迷ふて苦しんでおるのであります。

主の聖言に従ふことを才一にしない故に多くの人々は乞食の様な生涯を送つておるのであります。

私共基督者はよくこの事を悟つて思い切つて神才一にして従つて豊かな毎日を送りたいのであります。

(ヨハネ一の九・一一〇)

私は聖靈に由て聖言の光に照らされ思い切つて一切を捨てて従いました。その時から私の生涯は一変したのであります。

我らは皆その元ち満ちたる中より恩恵に恩恵を加えらる (ヨハネ一の二六)

主は我らのために生命をすて給ふたのであります。之によつて本当に愛といふことを悟りました。この事を信じて

受け入れて驚くべき幸な生涯に入れられましたこの福音を身をもつて証しするため私共は立てられているのであります。

苦しみを喜びにかえて下さる十字架忍べないと思ふ時にも忍びを与えて下さる主の御言事毎に働いて益となして下さる主の靈―斯くの如き幸に入れて下さる主に感謝してつかえたいものであります。

消 息

格別なあたたかさにて心臓の悪い私は幸しております。昨今は血圧も少しづつさがつており割に元気で毎日祈つて御用をいたしております。春ももうすぐと期待しており受験生の方々のためにも御祈りいたしております。

御病人の方々のためにも御全快を祈っております。

大いなる救

一九六五年二月二八日

この故に我らきゝしところをいよいよあつくつしむべし恐らくは流れ過ぐることにあらんもし御使によりて語り給いし言すら堅くせられて咎と不従順とみな正しき報をうけたらんには我ら斯くの如き大いなる救を等閑にしていかでのがることを得んこの救は初め主によりて語りたまひしものにして聞きし者ども之を我らに堅ふし神また微と不思議とさまざまな能力ある業と御旨のまゝに分ち与ふる聖靈とをもて証を加えたまえり（ヘブル二の一―四）

聖徒ペテロはキリスト教の信仰を置き信仰を受けたる者と言つております。使徒パウロはキリスト教の救を大いなる救と言ふております。

キリスト教は社会事業ではないのであります。

キリストの十字架による徹底的な救であります。

柘植先生は人生四大問題の解決といふ題で日本中を晩年伝道しておられたのであります。生活の問題も罪の問題も、病氣の問題も最後にくる死の問題もキリストの救によらねば全き解決をうる事は出来ないものであります。

私共は財が出来たら事情境遇が変わつたらと見ゆる処の状態をかえることに心を砕くのであります。然し信仰はその反対です。信じて神の栄を見るのであります。信じて祈るとき私共の前の山は移つてゆくのであります。

アブラハムの如くに神の約束の聖言を信じその聖言が成就するまで祈つてゆく時大いなる救にあづかることが出来るのであります。

信仰は神の賜物であります。(エペソ二の八)

私は四十年前に主の十字架の奥義をはつきりとさとられ信じてこの全き救に入れられたのであります。以来たゞこの信仰一条にて靈書一卷を信頼し今日迄多くの苦難の中を通過さしていたゞき満ちたれる毎日を送つております。

汝らさきには咎と罪とによりて死にたる者にしてこの世の習慣に従い空下の権をとるつかさずなわち不従順の子らの中に今なお働く靈のつかさに従いて歩めり我らもみなさきには彼らの中におり肉の慾に従い日を送り肉と心の慾するまゝをなし他の者の如く生れながら怒の子なりきされど神はあわれみに富み給ふが故に我らを愛する大いなる愛をもて咎によりて死にたる我らをすらキリスト・イエスによりてキリストと共に活し(汝らの救われしは恩恵によれり)共に甦らせ共に天の処に坐せしめ給えり(エペソ二の一―六)

私共の救われるのは神の恩恵によるのでありまして人間の努力や修養や鍛練によつてではないのであります。この独子まで賜ふ程の神の大いなる愛によつてであります。

私共クリスチャンはこの恩恵により信仰によつて新に生れかわつた者であります。それで始めて自己中心でなく神中心神才一の生涯を送ることが出来るのであります。

大いなる救を信ずるといふことによりてこのすばらしい毎日時時刻刻の生涯を送れるといふことを此の世に証するため生かされておるのであります。

此処で大切な事はこの大いなる救によつて生れかわらない旧き人の上にキリスト教的教育をしても駄目であるとい

ふことであります。

救われて生れかわらないならば神才一の生涯は送れないのであります。

この大いなる救によつて生れかわり神才一の生涯を送っている人々の霊肉に祝福されている証をまく事は本当に幸であります。

人は表面を見ますが神は内面を見給ふのであります。

生れ乍らの人間は何処迄も自己中心で何処迄も肉であります。かかる苦難の中にある人間はこの大いなる救によつて瞬間に救い出して下さることが出来るのであります。この神の賜物を等閑にしないで聖言に従い祈り励みたいものであります。

多くの実を結ぶ枝

一九六五年三月七日

我はブドウの樹汝らは枝なり、人もし我に居り我また彼に居らば多くの実を結ぶべし汝ら我を離るれば何事をもなし能わず人もし我に居らずば枝の如く外すてられ枯る人人之を集め火に投入れて焼くなり汝らもし我に居り我言汝らに居らば何にても望に従いて求めよ然は成らん、汝ら多くの実を結ばばわが父は栄光を受け給ふべし而して汝らわが弟子とならん (ヨハネ一五の五〜八)

ぶどうの木は実を結ぶ以外に役に立たないのであります。実を結ぶためには枝が幹につらなり神を待望むより他に道はないのであります。

彼らは皆汝を待望む汝よき時に食物を之に与え給ふ (詩一〇四の二七) 神が実を結ばしめ給ふ迄待望むことが大切であります。たゞ人間は罪を犯した結果神を俟望むことが出来なくなつてしまつたのであります。創造者の能力を知

る事も塵の如き自分をも知る事が出来なくなつてしまつたのであります。人間に何が最善であるかもわからなくなつてしまつたのであります。私共は救われ聖靈にみたまされてから始めて神は私に最善をなし給ふたと悟る事が出来たのであります。私共は年月をかけて聖書の聖言に由つて養われなければならぬのであります。

申命記に人はパンのみにて生くるに非ずとありますと私共はパンを軽蔑して片よつた考えをもつものであります。然し実際人間はパンだけでは生きられないのであります。こうした事にも御聖靈は私共をねんごろに導き調節して下さるのであります。

果樹にしても肥料や水が足らなかつたり太陽が照らなかつたら落ちてしまふのであります。

私共の靈魂も聖靈によつて与えられる聖言によつて養われておらないと果を結ぶ事が出来ないのであります。悔改めに相応した果、福音の果、聖靈の結ぶ果等等……

ベタニヤのマリヤは主のひざ下に一心に聖言にきき入つておりましたからその聖言によつて養われました故に働高き混りなきナルドの香油を主に注ぐ事が出来たのであります。(ヨハネ一二の三)

ルカ福音書にてはマリヤはよき方を選びたりと喜び給ふたのであります。

絶えず聖言に養われ聖靈を注がれ俟望む生涯が多くの実を結ぶ秘訣であります。この事を私共はよくよく悟らねばならないのであります。

私共は自分の力で実を結ぶ事は出来ないのであります。常に主に戻り聖言によつて養われていなくては耐え忍ぶ事も俟望む事も出来ないのであります。

水道の水も貯水池がなければ必要に応じて充分使ふ事が出来ないのであります。

私共は各自異つた事情境遇にあります。常に主の聖言に養われておりますならば時に応じて適當の果を結ぶことが出来るのであります。

最近、ケセラ・セラといふ言葉が流行しました。それはなる程にしかならないといふ言葉です。

信仰をぬきにしてはこの言葉には藥學的根拠がないのであります。私共基督者にはその根拠は主イエス・キリストの

十字架と復活であります。どうか常に聖言に養われて聖書の言を信する事の早きかしい人となりたいものです。

(ルカ二四の二五)

私共の中なる人が強く健かに養われておりますならば四方より患難を受くれ共弱せず為ん方つくれども望みを失はず(哥后四の八)常に試験に勝つてゆく事が出来るのであります。サタンの働く此の世にあつてさえ勝ち得て余りある生涯を送る事が出来るのです。サタンの働きのない天国の栄や如何ならんおして知るべしであります。

報 告

三月七日(才一日)礼拝后青年会があります。多数御出席下さる。

消 息

二月の終りに一寸冷えました。また油断はなりません。要心して御用をいたしております。

皆様如何お過ですか。毎日御祈りしております。つゞいて御祈り下さる。

女子よ坐して待て

一九六五年三月一四日

女子よ坐して待ち事の如何になりゆくかを見よ彼人今日その罪をなし終えずば安んぜざるべければなり。

(ルツ記三の一八)

ルツ記をよく読んでみますと解ります如くボアズは後にあらわれる主イエスの型として記されておるのであります。ボアズはルツに対してされば女子よおそるる勿れ汝のいふところは皆われ汝のためになすべしそはわが町の人皆なんちの賢き女なるを知ればなり(ルツ記三の一)と言つております。此処で賢き女とは理智的な人といふ意味ではありません。聖書に愚なる人は心の中に神なしと云えりとの反対の事を言つておるのであります。大体ルツは異教徒の娘でありましたが姑に従つてベレヘムに帰つてきた信仰の女でありました。

あがなわれてといふ事は買ひ取られて主イエスのものとせられたといふ事でありました。

おそるるなかれ我汝を贖えり我汝の名を呼べり汝はわが有なり (イザヤ四三の一)

私共主の血によつてあがなわれて基督者は主の有であります。主こそわが救主わがたすけ主であります。ルツは此の如き信仰を抱いていた女子でありました故に生れ故郷を離れて姑に従つてユダの地に帰つていつたのであります。

誠に汝らに告ぐ我が為福音のために或は家或は兄弟或は姉妹或は父或は母或は田畑をすつる者は誰にても今、今の時に百倍を受けぬ者はなし又後の世にては永遠の生命をうけぬはなし (マルコ一〇の二九・三〇)

真実に主の聖言に従ふ者を主は恥しめ給わないのであります。

ルツはボアズよりの約束を得て帰りました。その時にもボアズはルツを空中では帰さなかつたのであります。

(ルツ三の一六・一七)

私共の主はボアズに更にまさつた御方であります。姑ナオミはルツの言をきき「女子よ坐して待ち事の如何になりゆくかを見よと申しております。これこそ信仰のすゝめであります。

信仰者には約束の言を信じて待つ事が大切なのであります。

汝ら立ち歸りて静かにせば救を得おだやかにして依頼まば力を得べし (イザヤ三〇の一五)
然し聖言に従つて待望むといふことはむづかしいのであります。

その残るものはわずかに山の嶺にある杆の如く岡の上にある旗の如くならん (イザヤ三〇の一七) 本當に待望む者は少いのであります。

たと主の聖言にだけきゝ従ふといふ事だけが思い煩いや心配苦勞に勝つ秘訣であります。

汝らは求める事を知らずと教えられましたが私共も方向違いのことを求めてきたものであります。が只今は純金の様な聖言を宝の椽に慕い求める者とされたのであります。

この黙示(約束の言)はなお定まれる時をまちて終りを急ぐなり偽りならず若しおそくあらば待つべしとどこありはせじ……。聴し者はその信仰によりて生くべし(ハバクク二の三・四)

私共は永遠にかわりない聖言を信じて疑わず握つてゆくなら必ずその如くなるのであります。

報 告

三月一四日礼拝后壮年会があります。御都合してお残り下さい。

三月一九日(才三金)午後一時半より婦人会があります。多数御出席下さい。

神これと偕に在したればなり

一九六五年三月二日

これは神が聖靈と能力とを注ぎ給いしナザレのイエスの事にして彼はあまねくめぐりて善事を行い凡て悪魔に制せられる者を医せり、神これと偕に在したればなり（使徒行伝一〇の三八）

主イエスが奇蹟を行い大いなる神の栄光をあらわされた事は福音書に記されている処であります。ペテロは聖靈を受けてから後之は神が主イエスと偕におられたから出来た事であるとさとらせられて語つたのであります。

私共は往往にしてまちがひ易いのは或偉い人人は特別な人だから出来るのだと思ひ易いのであります。然し主イエスさまはヨハネ伝にて誠にまことに汝らに告ぐ我を信する者は我がなす業をなさんかつ之より大いなる業をなすべし（ヨハネ一四の一二）と教えられております。

主はあまねくめぐりて善事を行い給ふたとありますが、それは多分人人に神に近づきまつる事はよきことなり（詩七三の二八）と教えておられた事であらうと思ひます。

私共凡人は金があつてしたい事をして肥え太つておればそれが幸福だと思ひます。詩篇七三の記者もその様でありました。然し神に近づいて靈の眼が開かれ我おろかにして悟りなし聖前にありてはけものに等しかりきと祈つております。その詩の最後に神に近づきまつるは我によき事なりと教えられたのであります。

私共も神に近づき聖靈に由つて恵まれた生涯を送らないなら深く静まる時空の空の空なる哉と叫ばざるを得ない様になるのであります。神ぬきにした者の生涯は如何に盛の様でありまして又幸福の様でありまして瞬間に破れたる哉（詩七三の一九）と叫ぶ様になるのであります。ヒットラーの如く

神我と偕に在すといふ毎日の生涯がさまざまな患難に勝つ原動力であります。この事をよく御聖靈によつて悟らされて日主と歩みたいものであります。

たとい我死のかけの谷を歩むとも禍害をおそれ汝我と偕に在せばなり（詩二三の四）とダビデ王はうたいました。主と偕なる生活をしておりますと死のかけの谷の様な処を通らされても禍害をおそれないのであります。

創世記のヤコブの子ヨセフは兄弟達にねたまれてエジプトに売られていきました。然し神は彼と偕に在して凡ての患難より救い出しエジプトの王パロの前に寵愛を得させ又智慧を与え給いたればパロ之を立ててエジプトと己が全家との宰となせり（使七の九・十）と記されております。

私共はドンクリの背くらべの様なものであります。各人それ程差のあるものではありません。

然しそうした者が一度神と偕に歩む生涯を送ります時ヨセフの如く驚くべき神の栄光を拝する事が出来るのであります。

五つのパンと二つの魚は小児の一日分の食糧でしたが主イエスに祝していたゞく時五千人を飽かしめて余りあるのであります。

人間の社会には争いがたえないのであります。然し主イエスが臨み給う時水を一瞬にして濃きぶどう酒に化え給ふた力が地上の争をやめしめるのであります。それは人間的な技巧ではなく神の業があらわれるのであります。

私共は如時も神我と偕に在すといふ信仰に立つて我は我に能力を与うるキリストに由つて凡ての事をなしうるなりとの確信をもつて困難の中にも雄雄しく戦つてゆきたいものであります。

神我と偕に在す之最もよき事なりとはウエスレーの遺言の言との事です。

消 息

柴田姉、内田姉、岡崎兄より御便りいただきました。皆様によろしく。

私も大分よくなり毎日祈つております。

血圧が百八十位になりました。全快迄御祈り下さい。お願いいたします。

汝らのうち苦しむ者あるか、その人祈りせよ喜ぶ者あるかその人讚美せよ汝らの中病める者あるかその人救いの長老たちを招け彼らは主の名によつてその人に油をぬりて祈るべしさらば信仰より出づる祈りは病める者を救はん主彼を起し給はんもし罪を犯ししことあらばゆるされんこの故に互に罪をいいあらわしかつ医されんために相互に祈れ正しき人の祈りは働きて大いなる力ありエリヤは我らと同じ情をもてる人なるに雨降らざることを切に祈りければ三年六ヶ月の間雨降らざりきかくて両び祈りたれば天雨をふらし地その果を生ぜり (ヤコブ五の一三―一八)

信仰より出づる祈りは大いなる能力があるものであります。マタイ福音書九の二三では生れつきの目しいに我この事をなし得ると信ずるか彼らに主上然りと答えました処立ちどころに目しいの目があいたとあります。

しかし私共は中々その様な信仰をもつことがむづかしいのであります。汝何か為し得ば我らを憐みて助け給えといふ様な祈りしか出来ないものであります。(マルコ福音書九の二三) 主はこの質問に対して為し得ばといふか信ずる者には凡ての事なし得らるるなり(哥九の二三)と答えられたのであります。その子の父直ちにさけびていふ我信ず信仰なき我を助け給え(哥九の二四)

私共の中には真の信仰はないのであります。

有る様に思つておりましたのもいざといふ時には頭の理解だけであつたのがわかるのであります。

口では無から有を造る神不義なる者を義とする神死人を甦らす神を称える事は出来ませんがその信仰を實踐する事はむづかしいのであります。信仰の父アブラハムも創世記十六章に於てサライの言に動かされて失敗してインマエルを生ましてしまつたのであります。

創世記十七章にて始めて全面的に神を全能者として承認することが出来たのであります。

聖靈をうけて信仰にみたされた人は聖書の言をそのまま受入れることが出来る様になるのであります。よく自分の経験或は夢などを都合の良い御言に結びつける人がありますがそれは間違つておるのであります。

古い予言者はエホバかくいふといいました。

現今では聖書にはかく記されていると答えられて主イエスさまも荒野にてサタンの誘惑に勝ちました。私共が聖言に従ふ時その聖言が私共の中に働いて御業は成就されるのであります。純粋な信仰は聖言の上に立つ信仰であります。過去の経緯や旧き自己の上に立つものではありません。

十字架の血によつて新生した者が主の膝下にて聖言によつて養われてゆきます時マリヤの如くまじりなき備高き油を主の御足に注ぐことが出来香油のかおり室にみちたり(ヨハネ二の三)の様な生涯を送ることが出来るのであります。

モーセ、サムエル、エリヤの三人の予言者は旧約時代には最大なる人でありました。然しこの最大なるエリヤも私共と同じ情をもてる人にて特別な人ではなかつたのであります。たゞ偉かつたのは常に神が偕にいましたまふたからであります。私共も神と偕に歩みその求めを切にいたしますならば何事でも出来ないことはないとの御約束を与えられておるのであります。

御聖霊によつてこの事を深く悟り事情境遇にあきらめをつけないで祈つてゆくことです。

エリヤもイスラエルの国民の状態を見て心を痛め雨降らざる事を切に祈りければ三年六ヶ月地に雨降らざりしとあります。力ある祈りとは切に祈ることです。世界の情勢を考へても私共はリバイバルを切に祈り求めなければなりません。気をおとさずに祈りましょう。

報 告

藤掛邦夫兄に教区総会議員になつていたゞくことに定めました。御了承下さい。

四月一日(木)家庭集会が平中姉宅にて御座います。御出席下さい。

消 息

御祈り有難う御座います。寒い中にも暖かい氣候に恵まれ心暖の悪い私も今日迄守られました。感謝致します。毎日皆様の為にも御祈り致しております。愈々よい季節となりませう。一層励みたいと思ひます。続いて御祈り下さい。

人の義とせらるるは律法の行為に由らず唯キリスト・イエスを信する信仰によるを知りてキリスト・イエスを信じたり、これ律法の行為によらずキリストを信する信仰に由りて義とせられんためなり律法の行為によりては義とせられんためなり律法の行為によりては義とせらるる者一人だになし（ガラテヤ二の一六）

凡ての人罪を犯したれば神の栄光を受くるに足らず巧なくして神の恩恵によりキリスト・イエスにある贖罪によりて義とせらるるなり（ロマ三の二三・二四）

人間は物体が上から下に落ちる様に周囲の事情境遇に支配されてどうしても神を見上げる事が出来ないものであります。聖書の御言に従えば萬事解決なのでありますのにその時来りてなるべき御約束を信する事が出来ないで人間は苦しんでおるのであります。狂ふた時計はいくら時間を正確にあわせても時間がたつとまた狂つてしまふのであります。それは心ぼろが狂ふておるからであります。人間もアダム、エバの末にて罪の中に生れて罪の子であります故に願ふ処の善を行ふ事が出来ないであります。

目標がないなら私共は真直ぐに歩く事は出来ないものであります。上を向いて歩くといふことがなかなか出来なくてともすれば下を向いてしまふのであります。それは私共の中に罪があるからであります。（ロマ七の二〇）

然るにかかる者が神の恩恵によりキリスト・イエスにある贖罪に由つてのみ義とせらるるのであります。（ロマ三の二四）この奥義を悟る者がまことに少いのであります。私共が何かする事によつて義とせらえる様に考え易いのであります。或人人は信者より未信者の方がより人格が出来ているといひます。然しその動機は愛か慾かとさぐられまうとき神の前に向といひひらくことが出来ましよう。

私共は自分が罪人であることをさとり、始めてキリスト・イエスの贖罪によつて義とせられたのであります。その行為は幼稚なものでありまして神を信頼して十字架の御愛に依りたのんで行く信仰の人が義とせられるのであります。

私共が今こうして世の人人と共に生活出来るのも当然の様に思ひ易いのでありますが、これは主の御犠牲の故であることを思ふて感謝しなくてはならないのであります。

神から子よ心安かれ汝の罪ゆるされたり（マタイ九の二）と宣告されて罪赦され四十年間主と偕にたゞ一条に生活してきたといふことが私の人生にとつてどんなにすばらしい事であつたかを思ふて感謝するのであります。

健康になつて神を離れるなら一生病気で神と偕なる生活がいい。苦じみが除かれて神と離れる結果となるならば苦しみの中に在つて常に神と偕に歩む生活がはるかに幸福であると四十年間の伝道生活の中では味わせられます。

どうか私共は何時も神の恵に馴れないでたえず感謝しておりたいものであります。

美しい百合の花も根をきられてしまうとやがて枯れて香りを失ふてしまふのであります。

キリストをぬきにした唯美しい行為は外から見れば美しくても根なき故に枯れて香りを考ふてしまふのであります。

信仰によれる義といふことはわかつておる様でありますが中中わかりにくいのであります。

現代の教会の間違つておる処はこうした点にあります。

どうか主客転倒しないでどうでもよい問題を問題にしないで問題にしなくてはならない信仰の問題を先づ考えたいものであります。

外側の美しさに感激しないで最も主要の事である贖の愛を信する事が先決であることをさとりたいものであります。このキリストの贖罪愛の信仰に居るか否かが生きておるか死んでおるかと同じ位に大切であります。

私共は弱いかも知れない愚かであるかもしれない、然しこの贖罪愛の信仰にしっかりと依りすがつてゆく者を主は聖霊の力によつて支え導きこの世の暗きとの戦いに勝たしめ給ふのであります。

汝ら我を仰ぎ望め然ば救われん（イザヤ四五の二）この信仰によつてはばからずして至聖処に入る生活が出来るのであります。

世界中がくすぶつてゐる様を昨今私共ははつきりとこの信仰に立つて動かされない者でありたいと祈るのであります。

す。

報 告

四月四日(才一日) 礼拝後当教会で青年会をいたします。多数御出席下さい。

消 息

私も御祈りに支えられて六十五才の誕生日も迎える事が出来まして感謝いたします。毎日主の聖言に依頼んで御用を
してきました。別になりたい自覚症状もなく要心しながら祈りつゝ御用をいたしております。
陽春四月とともに少しづつ元氣を出してと思っております。御祝福を御祈りいたしております。

我弱き時に強ければなり

一九六五年四月一日

わが恩恵汝に足れりわが能力は弱きうちに全ふせらるればなり、然ればキリストの能力の我をおおわんためにむしろ大いに喜びてわが微弱を誇らん、この故に我はキリストのために微弱、恥辱、なやみ、迫害苦難にあふことを喜ぶ
そ我よわき時に強ければなり (哥后一二の九・一〇)

「弱し時に強し」之がキリストの教えるパラドックスであります。

聖パウロはその受けた時の黙示の鴻大なるに より高ぶることのなからんために肉体に一つの刺が与えられたと(哥
后一二の七)に記しております。之が為に三度迄之を去らしめ給はんことを主に求めました。その時与えられた主の
聖言はわが恩恵汝に足れり我が能力は弱きうちに全ふせらるればなりでありました。

私共は毎日自己の力ではなくわがために十字架に流し給ふた宝血の能力により甦りの主に依頼んで勝ち得て余りあ

る生涯を送ることが出来るのであります。

然し私共は此事を忘れ易いのであります。すぐ恩恵に馴れ易いのであります。私共の一番幸福な事は何時も恩恵に感じて感謝の中に居ることであります。こうした状態に居るために如時も弱くなくてはならないでしようか否—私共聖靈にみたまされて恩恵に馴れない忘れない生涯を送ることが大切なのであります。

我らは神に由て生き動きまた在るなり(徒一七の二八元訳)この信仰が徹底しておりますならば何事にも動かされないで何時も恩恵の中に居ることが出来るのであります。

誰でもお互に様様な苦難の多い人生を通過させられてきました。私は今過ぎし日をふりかえつて見てしみじみ今かくの如くなるを得しは神の恩によりてなりとさけばざるを得ないのであります。

生れながらの怒りの子でありました。かかる御恩恵にはかかわりなき者でありましたにもかかわらず御選びにあづかつたのであります。

四〇年余の長い人生をかかると恩恵の中においていたといふことは何と感謝でありましょう。

どうか恵を忘れて当然の事の様に思い自らを誇る者とならない様に注意しております。

私も人生の只中でこれさえなければと思ふ様な苦しみに度度あいました。然しその問題の中で主の聖旨を深くさとることが出来ました。

或時は主の恵を忘れないために私共の周囲にスツキリしない問題も残されておるのであります。然しそうした問題を通して只管主に依頼む者となされるのであります。

パウロは然ればキリストの能力の我をおおわんためにむしろ大いに喜びて我が微弱を誇らん。私共が誇るなら声を大きくして主を誇るのであります。

こうした人生に信仰に生きる奥義の味は思ふ様にならない処にありますともいえます。

この故に我はキリストの為によわざ、はずかしめ、かんなん、はくがい、くなんに会ふことを喜ぶそわ我よわき時に強ければなり。

今は主のレントであります。神の御独子が十字架にかかり罪の贖を成就して下さつたことを記念する時であります。かくして植付けられた神の生命が根をはり芽を出し花を咲かしめ果を結ぶ迄祈りつゞけねばなりません。

我を憐み給えと云う祈りはきかれるのであります。こうした祈りによつてヘレンケラーには二〇世紀の奇蹟が行われしました。

私共もこのレントの週間を祈り深く主の中に過したいものであります。如時もういよいよ心をもつて聖言に従つてゆきたいものであります。

報 告

四月十一日(日) 礼拝后壮年会をいたします。

四月十六日(才三金) 午后一時半より婦人会があります。多数御出席下さい。

消 息

佐伯寿ちゃん重態ですから御祈り下さい。

なかなか御便りが書けませんので御便りがわりに週報を御送りいたします。

聖言が何といつても私共の力ですから聖言を味つて下さい。

私も状態に目をつけたら安心して御用も出来ませんが聖言に信頼して御用をつゞけております。

何卒つゞいて御祈り下さい。

花盛りの良い季節となります。 精精神の栄光を讃め称えたいと思ひます。

われ神より汝らのために与えられたる職に従いて教会の役者となれり、これ神の言すなわち歴代歴代かくれて今聖徒にあらわれたる奥義を宣伝えんとてなり、神は聖徒をして異邦人の中なるこの奥義の栄光の富の如何計りなるかを知らしめんと欲し給えり此の奥義は汝らの中に在すキリストにして栄光の望なり、我らは此のキリストを伝え、智慧をつくして凡ての人を訓戒し凡ての人を教ふこれ凡ての人をしてキリストに在り全くなりて神の前に立つことを得しめんためなりわれ之がために我が衷に能をもて働き給ふもの活動にしたがい、力をつくして勞するなり

(コロサイの二五―二九)

ヨハネ福音書一章を読みますと言は神なりと才一節に記されております。之に生命ありこの生命は人の光なりき光は暗きに照り而して暗黒は之をさとらざりきとあります。この聖言を信じない処に現世の悩みがあるのであります。

更に幸福なるかな神の言をききて之を守る人(ルカ一の一八)とも主は教えられております。私共基督者はこの聖言に由て新に生れかわつたものであります。(ペテロ前一の二三)

汝らが先祖達より伝わりたる虚しき行状より贖われしは銀や金の如き朽つる物に由るに非ずきづなき汚点なき小羊の如きキリストの費き血に由ることを知ればなり(ペテロ前一の一八)

私共が生れかわるとか迷信偶像信仰から離れるとかいふ事は修養や鍛練で出来るものではありません。費きキリストの流し給ふた宝血によると聖書は教えておるのであります。

それも人のまねしてしようとしたり自己の力で修養で達しようとするのではむづかしいのであります。如何に難行苦行しても炭は炭でありまして中迄黒いのであります。

かくの如き私共を雪よりも白くなしたまふのは十字架の贖の血による以外にないのであります。私共が心からこの十字架を信する時御聖靈は私共の中に新しいわざをなし給ふのであります。

聖言は活ける生命の種であります。限りなく保つ生命の光であります。言は即ち神であります。

パウロはこの奥義は汝らの中に居るキリストにして栄光の望なりと申しております。

汝らもし我に居りわが言汝らに居らば何にても望に従いて求めよ然らば成らん(ヨハネ一五の七)と主は教えられました。

私共がこの聖言を真実に受入れて従ふならば驚くべきことが起るのであります。

我らは此のキリスト(聖言)を伝え智慧をつくして凡ての人を訓戒し凡ての人をしてキリストに在り全くなりて神の前に立つことを得しめんためなりとパウロはさげんでおるのであります。

私共は野のオリーブから切られてキリストなるみ樹につながれた者であります。元樹より液汁を受けてなくては生きる事が出来ないであります。

どうか此の聖言の奥義を御聖靈によつてさとらしていただき主の善き実を結ばせるために或時には枝をせんていされ試験の時には潔きにあづからせんために試み給ふとさとりいよいよ深く主の聖言に依頼んでゆきたいものであります。

私共がキリストに在て多くの実を結ぶためにわが内に能力をもて働き給ふもの活動にしたがい力をつくして労したるものであります。

報 告

四月十八日礼拝はイースター礼拝です。

消 息

佐伯寿ちやんが重体です。お祈り下さい。

津留崎喜代老師が入院加療中です。御全快御祈り下さい。

ペテロ及び他の使徒たち答えていふ人に従わんよりは神に従ふべきなり、我らの先祖の神はイエスを起し給ひしに汝らは之を木にかけて殺したり神は彼を君とし救主として己が右にあげ悔改めと罪の赦しとをイスラエルに与えしめ給ふ彼らはこの事の証人なり神のおのれに従ふ者に賜ふ聖靈もまた然り (徒五の二九―三二)

神様は私共が犠祭とか犠牲とかをささげる事を求め給わないのであります。たと御従ひする事を求めてい給ふのであります。

愛するといふことは慈善をすることではないのであります。現代の教会は救霊といふことをさしておいて慈善事業を行ふ事が盛んになりました。それは教会が聖靈の能力を失つてゐるからであります。

ヨハネ福音書二一章に汝は我に従えと主はペテロに申されました。信仰は一对一であります。この人如何にではなく汝は我に従えと主は仰せ給ふのであります。

この活ける水の源の主から離れ(エレミヤ二の一三)た教会が儀式化され組織化されてきたところにその進むべき方向を誤つてしまつたのであります。

汝らの神エホバにつかえよ然ばエホバ汝らのパンと水を祝し汝らの中より病を除き給わん汝らの中には流産する者なく妊まざるものなかるべし我汝の日の教をみたさん (出二三の二五・二六)

電気器具にスイッチを入れて電流が流れておりますなら色々の役にたちます様に私共の中に神の聖靈が流れておりますならば乏しいことも病にも勝つことが出来るのであります。

私の青年時代に精神的王者となるなら物質的には乞食とならねばならないといふ書物を読んで苦しんだ事がありました。如何してそれをコントロールすることが出来ないかと思つてその後主イエスを信じて神に従ふ生涯を送る様になりましたら其の所を調節して幸福に靈肉共に過す事が出来る道のあることを悟りました。

人もし我に事えんとせば我に従えわが居る処に事ふる者もまた居るべし (ヨハネ二二の二六)

主につかふる者とは主に従ふ者であります。

私共の小さい智恵では神のなし給ふ事ははかり知ることが出来ません。芸術的な作品でも本當の良いものは時間が経たないとその眞の価値がわからぬといふことであります。

私共の人生にも様々な思いがけない山や浪が襲い来るものであります。その山と浪に浮沈するものは主と偕に在るとはいえませんが。

人若し我を愛せば我が言を守らん我が父は之を愛し且つわれらその許に來りて住処を偕にせん(ヨハネ一四の二四) 主イエスの十字架の贖を信じて罪が赦され主の聖言に従つておる者には恐れはないのであります。

現代は最も恐れが多い時代であります。然し主の聖言には昔も今も變りはないのであります。(ヘブル一三の八) 全き愛は恐れをのぞく恐れには苦しみあればなり(ヨハネ壹五の一八)

恐れるを唯信ぜよと主は仰せ給ふのであります。その主の聖言に従ふ時この恐れ多い世の中に在て平安の中に過すことが出来るのであります。

もろもろの心労を神に委ねよ神汝のために嘔り給えばなり(ペテロ前五の七)と仰せられます。

私共に前にもあるもろもろの大山を動かすのは勢力によらず能力によらず我が懺によるなり、(ゼカリヤ四の六)と語られております。

御聖靈は私共の後にてこの道を往くべしと細い御声にて語つて下さるのであります。その聖言の声をきく訓練が私共に必要なのであります。その聖言の聲に従ふ時聖靈は証して下さるのであります。

報 告

イースターもすみ、良い季節となりました。各集會に勵んで御出席下さい。

日曜日 午前九時 教会学校

午前十時 礼 拝

水曜日 午後七時半 祈禱會

青年会 才一日 禮拝後

壮年会 才二日 禮拝後

婦人会 才三金曜日午後一時半

消 息

あたたかい春となりました。教会の庭も花が咲き始めました。

私事も御祈りに支えられて割合に元気で毎日過しております。心臓が悪いので集会も少いですが、一度も欠席せず御用をいたしております。何卒御安心下さい。

血圧は上が百九十位で下が九十位で別に変つた事ありません。つゞいて御祈り下さい。

重病の方々のためにつゞいて御祈り下さい。

キリスト・イエスに在りて神の子たり 一九六五年五月二日

汝らは信仰によりキリスト・イエスに在りてみな神の子たり凡そバプテスマによりてキリストにあいし汝らはキリストを着たるなり、今はユダヤ人もギリシヤ人もなく奴隷も自王もなく男も女もなし汝らは皆キリスト・イエスに在りて一体なり汝らもしキリストのものならばアブラハムの末にして約束に従える世嗣なるなり

(ガラテヤ書三の二六―二九)

私共はキリスト・イエスの十字架の贖に由て神の子とせられたのであります。この故に再びおそれをいだく事のないうアバ父と呼ぶ子たる靈を受けたのであります。主は在世中常に天の父の聖意に従つて父と偕に在し給いました。

その如く主の御言に従つて生涯主と偕に歩んで信仰生活を全ふしたいものであります。

度々晤り合ひのであります。私共人生の幸とか不幸とか成功とか不成功とかは何によつて定められるのでありましようか？又人生の勝利者とは誰でありましようか？聖書にはその答がはつきり記されておるのであります。

凡そ神より生るる者は世に勝つ世に勝つ勝利は我らの信仰なり、世に勝つ者は誰ぞ？イエスを神の子と信する者にあらずや（ヨハネの五の四・五）

イエスを神の子と信する事の出来る者が世の勝利者となり幸福なる人生を全ふする事が出来ると言われるのであります。

然し肉につける私共は持物が多ければ幸な生涯を送ることが出来る、財産があれば好きな事が出来るから人生の勝利者となるのだと考え易いのであります。

然るに聖書には人の生命は（幸福）所有の豊かなるによらぬなりと（ルカ二の一五）記されておるのであります。また富める者に向つて愚かなる者よ今宵汝の靈魂とらるべし然らば汝の備えたる物は誰が物となるべきぞ（ルカ二の二〇）とたづねられておるのであります。己の為に財を貯え神に対して富まぬ者は斯くの如しとさとされ神に就いて富む者こそ最も幸福なる者であると主は仰せられたのであります。

旧約時代は神の律法を手に記し之を守ることにとめましました。然るに今の新約の時代にては斯く汝ら神の子たる故に神は御子の盟を我らの心につかわしてアバ父と呼ばしめ給ふ（ガラテヤ四の六）

キリストは私共を律法の下から贖出し御子の盟を我らに賜つてアバ父と呼ばしめ給ふたのであります。之はまことに驚くべき御恵であります。されど之を受けし者即ちその名を信ぜし者には神の子となる權をあたえ給えり（ヨハネ一の一）かかる人は血脈によらず肉の欲によらず人の欲によらずたゞ神より生れしなり（ヨハネ一の一三）

私共が神の子とされたといふことは修養とか鍛練とかによらず大いなる神の恩寵によるのであります。

私共基督者の土台は私共の肉体に絶えず血液が流れている様にイエス・キリストの流し給ひし御血が日々時々刻々流れて活かされておるのであります。それが日々十字架を負ふて従ふ生活であります。

神もし我らの味方ならば誰か我らに敵せんや、己の御子を惜しまずして我ら凡ての爲にわたし給いしものはなごか之にそえて萬物を我らに賜わざらんや（ロマ八の三一・三二）といふ信仰をもつてアブラハムの信仰にならう天の父の約束のみを信じてその聖言に従つて生涯を全ふする者となりたうものであります。如何なる事情境遇にありましても確信をもつてゆくととき聖言はだんだん実体となつてくるのであります。

かかる信仰の状態にある者が眞のクリスチャンであります。

消 息

佐伯寿ちやん四月十五日午後二時半頃大勝利の中に昇天されました。

御祈り有難う御座いました。御両親より皆様によく御伝言があります。

十六日午前十一時に御家庭にて告別式をいたしました。

肉の思いは死なり

一九六五年五月九日

肉に従う者は肉の事を思い、靈に従ふ者は靈の事を思ふ、肉の思いは死なり靈の思いは生命なり平安なり、肉の思いは神にさからう、それは神の律法に従わず、否従ふ事能わず、又肉に居る者は神を喜ばず事能わざるなり、然れど神の靈汝らの中に宿り給わば汝らは肉に居らで靈に居らん、キリストの靈なき者はキリストに属する者にあらず

（ロマ八の五―九）

交通戦争などといわれる昨今私は外に出る時恐れ易いのであります。そのおそれや戦いは私共の中にある肉の欲から来るものであるとヤコブは教えて居るのであります。（ヤコブ四の一）

私共の毎日の喜びとか悲しみとかはよく考えて見ると肉と慾につながつておるのであります。

神は靈なれば拝する者も靈と真とをもて拝すべし(ヨハネ四の二四)と眞の礼拝に就て教えて居られます。ですから私共は肉の事を思ふて礼拝するのではないのであります。この点を深く静まつて御聖靈に由て教えられたいものであります。

聖パウロはピリピの教会の兄弟姉妹に書き送つて言つております。「そわ我しばしば汝らに告げ今また涙を流して告ぐる如くキリストの十字架に敵して歩む者多ければなり、彼らの終りは亡びなり己が腹を神となし己が恥を光榮となし唯地の事のみを思ふ我らの国籍は天にあり (ピリピ三の一八―二〇)

基督者と称し乍ら地の事のみを思い肉の事のみを思ふそれは十字架に敵して歩む者であります。イエスはかかる処から私共を解き放たんとために十字架にかかり贖を成就して甦り給ふたのであります。

まして永遠の御靈によりきつなくして己を神にささげ給ひしキリストの血は我らの良心を死にたる行為より潔めて活ける神に事えしめざらんや(ヘブル九の一四)とあります如く十字架上に流して下さつた主イエスの血は私共の罪をすいからして余りある力があるのであります。どうかこの十字架を仰ぎ望んでその力にあづかりたいものであります。

キリストと共に甦えらせられしならば上にある物を求めよ、汝ら天にある者をおもい地にあるものを思ふな汝らは死にたるものにしてその生命はキリストと共に神の中にかくれあればなり(コロサイ三の一―四)

自己中心の考えは神を喜ばすことは出来ないものであります。然れど神の御靈汝らに宿り給わば、汝ら肉に居らで靈に居らん(ロマ八の九)

思いきつて御言に従ふならば幸であります。神は私共が思ふよりも願ふよりもいたくまされることをなし給ふのであります。

御聖靈にみたされなくて私共は靈的にも肉的にもみたされた生活は出来ないものであります。

御靈に由て生きる時私共は生き活きとした生活が出来るのであります。

もしイエスを死人の中より甦らせ給いし者の御霊汝らの中に宿り給わばキリスト・イエスを死人の中より甦えらせ給いし者は汝らの中に宿り給ふ御霊によつて汝らの死ぬべき身体をも活かし給わん(ロマ八の一)

この真理を御聖霊によつてさとらされて幸いな生涯を送りたいものであります。

報 告

五月九日(才二日) 礼拝后壮年会例会を開きます。

何卒御出席下さる。

消 息

不順な気候ですが皆様如何お過しですか。

私も御祈りに支えられて相変らず御用をいたしておりますから御安心下さい。

御病氣の方々の為に御全快を御祈りしております。

おそくまで寒いので要心して下さい。

父その栄光の富に従いて御霊により力をもて汝らの内なる人を強くし信仰によりてキリストを汝らの心に住まわせ汝らをして愛に根ざし愛を基とし凡て聖徒とともにキリストの愛の広さ長さ高さ深さの如何ばかりなるかを悟りその測り知るべからざる愛を知ることを得しめ凡て神に満てるものを満しめ給わん事を（エペソ三の一六―一九）

眞のクリスチャンとして生涯を送ろうとするならば神の御霊をもつて内を占領されねばならないのであります。この御霊に内が占領されておりますならば如何なる時でも肉とこの世的な怒とを調節してゆくことが出来るのであります。

また肉に居る者は神を喜ばず事能わざるなり然と神の御霊汝らの中に宿り給わば汝らは肉に居らで靈に居らんキリストの御霊なき者はキリストに属する者にあらず（ロマ八の八・九）

わが内なる凡ての者よエホバをほめ奉れと神を崇める事の出来る者は幸であります。

汝の神エホバ汝の中に在す彼は救を施す勇士なり彼汝の為に喜び樂しみ愛の余りに黙し汝のために喜びて呼ばわり給わん（ゼバニヤ三の一七）

私共は異教徒の中に生れて育てられてこの世的な迷信や習慣から中々ぬけ出しきれずキリスト教の信仰に徹底出来ないのであります。

然し血液が私共の体内に循環して生きている様にキリストの御霊が私共の中に在つて断えず生命を注ぎ込まれる時何時のまにかイエスによつて考え行動してこの世に生きることが出来るのであります。

眞の基督者として眞実に人生を歩まんとするならば御霊にみたされる以外に方法はないのであります。他はすべて模倣にすぎないのであります。

私は六十五年の人生を生かされて見て人生とは平坦な道ではなくさまざまな浮沈がある事を体験させられました。御霊にみたされねば勝ちぬくことは出来ないのであります。

樹木が夏さかんに繁るためには冬の間に深く根を張る必要があるのです。その冬が花も咲き果実を結ぶ事が出来る準備の時であります。

私共基督者も聖靈にみたまされて逆境と見える冬の時に祈つて依頼んで信仰を養われなければならないのであります。その不幸の時こそ思う様にならない時こそ神の愛と十字架の能力を体験する時であります。

私共は信仰の試練を通し祈つて其処を通過して信仰が強くなるのであります。

おおよそ神によつて生れる者は世に勝つ、世に勝つ勝利は我らの信仰なり（ヨハネ卅の五の四）

信仰によつて人生の難関を突破してゆくところにこそ人生の深い意義があるのであります。

その中にいますエホバは義しくして不義を行ひ給はず朝な朝な公義をあらわしてかくることなし（ゼバニヤ三の五）どうかこの神を深くさとりさままなことによつて思い煩ふよりもただちに神に近づき密室にて祈つて交わり御旨を教えられる事が幸であります。

神の御霊が私共の中に存り給ふ時私共は肉に居らで靈に居る事が出来るのであります。

信仰によりてキリストを汝らの心に住ませ汝らをして愛に根ざし愛を基としてあります如くにこの内住のキリストの信仰は愛によるものであります。聖靈によつてはかり知るべからざる愛を知り得たいものであります。

たとひ我死の蔭の谷をあゆむとも禍害を恐れじ

なんぢ我と偕に在せばなり汝のしもとなんぢの杖われを慰む（詩二三の四）

内住のキリスト臨在のキリストを体験した人の詩であります。

報 告

五月二十一日（才三金）午後一時三十分定例婦人会があります。多数御出席下さい。

消 息

不順な気候でしたが御病気の皆様お変わりありませんか。毎日御全快を御祈り申上げております。私のために御祈り有難う御座います。おかげさまでこの気候の変動にも無事に保たれて御用をいたしておりますから御安心下さい。

この故に我らはかく多くの証人に雲の如くにかこまれたれば、凡ての重荷とまとえる罪を除け忍耐をもつて我らの前におかれた馳場を走り信仰の導師また之を全うする者なるイエスを仰ぎ見るべし（ヘブル二の一・二）

信仰の導師又之を全ふす者なるイエスは私共の過去、現在、未来に渡る問題の一切の完成者であります。之に私共は何をも加える必要はないのであります。このイエスを仰ぎ見つつ走るのが私共基督者の生涯であります。

このイエスの十字架と復活を仰ぎ望む、見つめる人生が大切であります。然し多くの場合周囲の事情境遇にとらえられてこのイエスを見つめる事が中々出来ないのであります。

私共の心がイエス以外のものに移るとき私共の足下はくづれてしまうのであります。

マタイ福音書の十四章にイエスは夜明の四時頃荒れ狂ふ海の上を歩いて荒浪に悩んでおる弟子達に近付き給ふたのであります。夜明の四時は最暗黒の時であります。私共の人生には幾度かそうした時がありますが、そうした時に主イエスを仰ぎ望み従つてゆく事が出来るなら幸であります。

私共は病氣の時健康でさえあればと思ひます。貧しい時金さえあればこうしたなげきはあるまいものと思ひ易いのであります。然し私共人間の幸福の土台は主を仰ぎ見つめる時であります。

主を見失つていた弟子達は暗黒の夜荒浪を歩いて近付き給ふ主を変化のものならんと恐れただのであります。

私共が一つの事情境遇に頭を突込んでいる時その事以外に何も見えないのであります。私共の目も心も正しく見たり考えたりすることが出来なくなつてしまふのであります。

其処で私共の常日頃の信仰の態度がダビデ王の如く（詩十六の八・九）あるならば如何なる壁にぶつかつても我はエホバの名をもてゆかんと彼らにないものを我はもつておる我らの為に己の生命をすてて愛して下さるお方が常に借に居給ふのであると勇氣百倍するのであります。

この確信があれば恐れに勝つ事が出来るのであります。私共が荒浪に悩んでおる時に主は恐るるなかれ心安かれと

細き御声をかけ給ふのであります。

どうか私共は常に主の御言に直ちに従つて平安の中にありたいものであります。

ペテロは主の御言に従つて波の上を歩みました。然し浪を見てしずみかけました。私共もしばしばそうした経験を経験したのであります。

私共は切角信仰を与えられて人生の再出発をしたものでありますから浪を見て途中でしずむ事のない様に信仰の導師又完成者なる主を見つめて私共の前におかれた馳場を忍耐をもつて走りつゞけたいものであります。

母の手中にあつて安らかに眠つてゐる赤児の如く主に全く信頼してゆきたいものであります。

主イエス・キリスト以外のものを主として崇めてきた所に円満な人生の破壊があります。

私は救われた時この事をさとつて百八十度の転換をして主に従つた者であります。今より我は主なりとの聖言に従つて主はわが凡てとして一切をささげて服従したのであります。四十年の間衣は古びず足ははれざりしと証しする事が出来るのであります。

残る余生を外に眼を移すことなく最後まで何時でも主を主として主を見つめてゆく生涯がくづされない様に而して最も幸な生涯を全ふしたいものと祈る者であります。之が幸福の土台であります。土台がくづれる時家は倒れてしまいます。私共の生涯も主を失ふ時何も彼も失ふてしまふことを忘れない様に祈りたいものであります。

我世にあらん限り恵と憐み我にそいきたらん (詩二三の六)

主と偕な生涯に賜ふ恵は甚大であります。

何時も変らない主を見つめつゝ信仰生涯を送る者の周囲に及ぼす影響も甚大であります。

報 告

毎週木曜日午後一時より榊小屋町平中姉宅にて家庭集會が開かれることになりました。多数御出席下さい。今迄は月に一回でしたが之から毎週あります。

消 息

中々気温があがらないで寒さがつゞきます。

然し庭のバラも大分咲き出してきました。やはり春です。

私も教会関係の御病氣の方々も大分御元氣になられております。

皆様のためにも御祈りいたしております。

何卒はげんで主に御従ひ下さう。

凡ての事主を喜ばせんため

一九六五年五月三〇日

この故に我らこの罪を聞きし日より汝らの為に絶えず祈り且つ求むるは汝ら靈のもろもろの智慧と悟りとをもて神の御意をつぶさに知り凡ての事主を喜ばせんが為にその御意に従いて歩み凡ての善き業によつて果を結び、いよいよ神を知り又神の栄光の勢威に随いて賜ふもろもろの力によりて強くなり凡ての事よろこびて忍び耐え而して我らを光にある聖徒の嗣業に与るに足る者とし給ひし父に感謝せん事なり (コロサイ一の九―一二)

私共基督者の此の地上に生きる目標は凡ての事主を喜ばせんためであります。そのためにもろもろの智慧と悟りとによりて神の聖意を具に知りその御意に従つて歩み果を結び更にいよいよ深く神を知り御聖靈によつて内なる人を強くし凡ての事を喜びて忍び耐え聖徒の嗣業に与るに足る者となる様にとパウロはコロサイ教会の兄弟のために祈つたのであります。

神の御意に従つて歩まんと決心しておる一人一人に対して御聖靈は細き聖言の声をもつてまた光をもつて示し導き

給ふのであります。

踐しき私共がかく聖徒の嗣業に与る者とされる為には此の世に在て多くのさまざまな試練を通されるのであります。私共はそうした苦難の中にあつて初めて神の御愛と御意を深く知ることが出来るのであります。

その苦難を通過する度毎に御聖霊によつて私共の内なる人は強くせられいよいよ患難に耐え神を知り御意に従つて歩む事を学ばせられるのであります。

私共が思ふ様に人生が勵くなら私共は神の救を得る機会など与えられないのであります。

思ふ様にならない試練の苦難の中を通して神を求め心か私共の心の中に起るのであります。そして御聖霊により私共の内なる人が生れかわり強くなり凡ての事喜びて忍び且つ耐え聖徒の嗣業に与るに足る者とされるのであります。

我らはこの事に適ふ者となしその証として御書を給ひし者は神なり (哥后五の五)

聖霊も亦私共の霊の中に証を与えかくの如き者となし給ひし父に感謝する者とされるのであります。

彼は御子なれども受くるところの苦難によりて従順を学び且つ全うされ給ふた (ヘブル五の九) とありますが苦難を通して感謝溢るる生涯に至るとは神の驚くべき智恵であります。

生れ乍らの人間は皆ことごとく自己中心であります。且つ信仰する事にさえ自己中心であります。この事に心をとめて考えなくてはならないのであります。

善を行い善き業に富み惜しみなく施し分け与える事を喜び・・・ (テモテ前六の一八)

この様な心の生活は王によらなければ出来ない事であります。

キリスト教は唯感情的なふんいきではなく又ヒューマニズムでもないのであります。

きびしい義と愛の会う処が十字架の奥義であります。

父は我らを暗黒の權威より救ひ出してその愛しみ給ふ御子の国に移し給えり、我らは御子にありて贖罪即罪の赦しを得るなり (コロサイの一三、一四)

サタンの下敷になつて苦しんでいた者を十字架の血によりて救い出し給ふたのであります。

萬の物は彼によりて造られ天にあるもの見ゆるもの見えぬもの或は位あるいは支配あるいは政治あるいは權威みな彼に由て造られ彼のために造られたればなり彼は萬のものより先にあり萬の物は彼によりて保つことを得るなり

(コロサイ一の二六・一七)

この事は信じられなくとも事実であります。

人々にはさまざまな計画あり然ど主の御旨のみたん。

凡ての人は神に帰るまでは真の平和、真の幸はないのであります。

私共は十字架の血によりて神と和ぐ事が出来ました。此の血は潔くきつなく責むべき処なく御前に立つことを得しむるのであります。

汝らもし信仰に止り之に基きて堅く立ち福音の望より移らずば斯くせらるる事を得べし(コロサイ一の二三)

報 告

五月も終りとなりました。先週報告いたしました様に平中姉宅の木曜会を毎週午後一時よりいたしますから多数御出席皆様の御証しをきかせて下さう。

消 息

金生姉の御妹さん勝利の中に御昇天なさいました。御祈りを感謝いたします。

麻生兄のためにも御祈り有難う御座います。先日同兄より闘病中の御証しを御送りいたゞきました。まだ自覚症状がありませんので全くいやされるまでつゞいて御祈り下さい。

私事も今年五ヶ月間元気で過す事が出来ました。御祈りを有難う御座います。まだ少しつゞけると疲れ易いのですが要心しながら御用をいたしております。

気候不順の折柄皆様も御大切に遠方の皆様のためにも御祈りいたしております。

・・・ナオミまたいいけるは視上汝の兄嫁はその民とその神にかえりゆく汝も兄嫁にしたがいてかえるべしルツいいけるは汝をすて汝をはなれて帰ることをわれにうながすなかれ我は汝のゆく処にゆき汝の宿る処に宿らん汝の民はわが民汝の神はわが神なり汝の死ぬる処にて我は死にて其処に葬らるべし死別にあらずして我なんちと離れなばエホバ我にかくなし又かくなしたまえ彼嫁が固く心をさだめて己と共に来らんとするを見しかば之に物言ふことをやめたり (ルツ記一の一五―一八)

ナオミは夫と共に饑饉の為にベテレヘム、ユダを去つてモアブの地にゆきとどまる (ルツ一の一)とあります。モアブは異邦の地でありましたベテレヘム、ユダを去つてモアブに行つたことは現今の私共の立場でいふなら信仰の墮落であります。

このためにナオミには異邦の地にて次から次と試練に会い苦しんで遂に故国ベテレヘムユダに帰つてゆきましたのであります。この時異邦の嫁ルツは固く心を定めて姑ナオミに従つて共にベテレヘムに帰つたのであります。

私共の信仰の根柢を何においているかが―之は私共の一生に大切な事でありました。

パウロはガラテヤの教会に書き送つて「人の上に非ず人に由るにも非ずイエス・キリスト及び之を死人の中より甦えらせ給いし父なる神によりて使徒となれるパウロ (ガラテヤ一の一)と申しております。又我は人より之を受けず又教えられず唯イエス・キリストの黙示に上れるなり (ガラテヤ一の一)とも記しております。

現代の私共に欠けておる処はこうしたハッキリした証しのないことでありました。

イエス・キリストの啓示によるのでなく誰誰の神学はこうだと人の意見のみを尊重しておるのであります。エホバ此く言ふ確信のない処に真に人間の靈魂の救は行われないのであります。

地球に引力があつて物体がどうせんでも下に落ちる様に人間は何時の間にか神を離れてしまつてどうしても神に従う者となれない動物となつてしまつたのであります。この故に神は人間を造つたことを悔いたとも記されてあります。

創世のノアの時代に悪人を水で亡ぼして御意に適ふ者を残したのでありましたが、又しても罪を犯して駄目になつてしまつたのであります。

この為にイエス・キリストの十字架の贖罪と甦りが必要となつたのであります。之は神が義であり又愛であるしるしてあります。

神は窮りない愛をもつて御聖霊を私共に降して私共を信ぜしめ給ふて仰ぎ見たれば生きたりといふ信仰を与え給ふたのであります。

パウロの全書巻はこの事をハッキリと教えて居るのであります。

御聖霊がパウロに臨んでイエスが神の子、キリストであることを啓示されたのであります。

ダマスコの途上にて甦りの主イエスに出会い、その光に接して目からウロコの如きものがおちたと証しております。ウロコは固くて光をも熱をも通さないのでありますが、このウロコが落ちた時はつきりとイエスが神の子であることとすることが出来たのであります。

ルツは異教徒の婦人でありました。しかし姑ナオミの自分の国に残りなさいといふ三度のすすめの言に従わず固く心を定めて汝の民はわが民汝の神はわが神なりといつて姑ナオミに従つてベテレヘムにいつたのであります。

ナオミは異邦の地にて主人と息子二人を亡くして苦勞しました。ナオミは神様が苦しめ給ふたといつております。然し神はその苦難を通してモウ一度立ち帰らしめ給ふたのであります。

そしてその姑に嫁のルツも従つていつたのであります。

ルツ記を祈つて通読するとわかりますがポアツは主イエスの型であります。

私共は十字架の信仰が徹底しなくては真の平和は私共にこないのであります。

凡てが十字架の上に成就されてるのであります。唯信ずれば救われるのであります。

基督者が十字架の信仰を離れたらまことにみじめであります。

私共もルツの如く十字架を見上げる信仰に固く心を定めて何物にも何事にも動かされない人生を全ふしたいもので

あります。

報 告

六月六日(才一日)礼拝后青年会があります。

青年男女の方々多数御残り下さい。

ペンテコステ礼拝です。伝道献金を御願ひします。

消 息

遠方の方々に御便りが出来ませんのでこの処で近況お知らせいたします。

私事御祈りに支えられて元気で御用をいたしております。血圧は百九十にて相変らずですが御祈り下さい。

皆様のために毎日禱告いたしております。

不順の気候の本年重病の方々御大切に。

我が知られたる如く全く知るべし

一九六五年六月二三日

今我ら鏡をもて見る如く見るところおぼろなり然れどかの時には顔をあわせて相見ん、今わが知るところ全からず然れど彼の時には我の知られたる如く全く知るべし、げに信仰と希望と愛とこの三ツのものは限りなく存らん而してその中最も大いなるは愛なり (コリント一三の二一・二三)

されど彼の時には我が知られたる如く全く知るべし！私共は自分の事を本当に誰かに知ってもらえらると思ひ時をにをするにもはりがあつて嬉しいのであります。

社会に於ても友人との間に於ても家庭に於ても自分を本當に知つてもらうことが出来ない誰にも自分が理解されないといふことはまことに悲しい事でありませぬ。

私共の全智で神を識るといふことは到底出来ない事かも知れません。然し神様は私を頭から足の先まで理解して下さるといふ事を知つた時どんなに嬉しかつた事でありませぬ。

私共にはどの様に知つておられるかをはかることは出来ませぬ。然し聖書には左の如く教えておられます。

詩篇百三十九篇(一一三)に

エホバよ汝は我をさぐり我を知り給えり

汝はわがすわるをも立つをも知りたま速くよりわがおもいをわきまえ給ふ

汝はわが歩むをもわが臥すをも探り出しわがもろもろの途をことごとく知りたまえり

と記されております。之を私共は疑ふことは出来ないのであります。

われ汝を腹につくらざる先に汝を知り汝が胎を出でざる先に汝をきよめ汝を立てて万国の予言者とさせり

(エレミヤ一の五)

人間は人の表面を見ますけれ共神様は私共の中を見給ふのであります。

紫外線とか原子とかは目には見えなないのであります。然しその中に大いなる能力がかくされておるのであります。

神様も私共の肉眼では見ることが出来ませぬ。然しその御方を信する時に偉大な能力を体験する事が出来るのであります。

エホバは我らの造られしさまを知り我らの塵なることを思い給えばなり(詩一〇三の一四)

神様は私共の弱い者であり駄目なものである事をよく知つておられ神と偕なる生活をしなければ生存出来ない事を御存知にて独子迄も賜ふて私共を救い出してインマヌエルの生涯に入れて下さつたのであります。

我は善き牧者にして我がものを知り我がものは我を知り我の父を知るが如し我は羊のために生命をすつ

(ヨハネ一〇の一四・一五)

この羊の様な弱い愚かな者のために生命をすて給ふたイエスのみが私共の完全なる救主であります。この事が解つた時に一切を捨て、従ふことが出来たのであります。

私共の一切は神の前にかくることはないのであります。私共人間同志にてもお互に深き処迄知りあい愛し合ふことが出来るなら幸なのであります。その事を知り主に従いました私の前にはねたみ、あらそいは消えてなくなりました。世界の同胞がそうなつた時に戦はやしめられると思ひます。

神よ汝のもろもろのみおもいは我に負きこと如何ばかりぞやそのみおもいの総計は如何に多きかな

(詩一三九の一七)

神のすべくくりはかぎりなき愛であります。その御愛をもつて愛されているといふことを悟ることが出来る人は真の真仰の人であり幸なる者であります。

かくれたるところに見給ふ神は私共の一番よい時に一番よい方法をもつて祈りに答へ給ふのであります。

今私共の知つてゐる事はおぼろです。然しかの時には我知られたる如く全く主を識ることが出来るのであります。

それは感謝であります。

報 告

六月十三日(才二日) 礼拝後壮年会があります。

色々御交りいたしたいですから多数お残り下さい。

伝道献金お願いいたします。

汝らは死にたる者にしてその生命はキリストとともに神の中にかくれあればなり、我らの生命なるキリストの現れ給ふとき汝らも之とともに栄光の中にあらわれん

されば地にある肢体すなわち淫行、けがれ、情慾、悪慾またむさぼりを殺せむさぼりは偶像崇拜なり、神の怒りはこれらの事によりて不従順の子らに來るなり（コロサイ三の三―六）

私共はキリストの救をうける迄はむさぼりが罪であるといふ事などは考えたことがなかつたのであります。神を信じない事を罪と感ぜない事と同じであります。

キリスト者は己に死んでキリストによりて新しく生かされた者であります。私共は信仰に入つたらこの死と甦りを体験することが大切であります、がなかなかこの事のハッキリしている人が少いのであります。もし私共が死して甦りし者ならば上にある者をおもい地にあるものを思ふなとパウロは教へておるのでありますからその聖言を實行せねばなりません。

ロマ書七章は律法と罪の關係についてくわしく記されておるのであります。

律法によつて罪は知らるとあります。律法にむさぼる勿れと記されていなかつたならむさぼりの罪であるといふ事は知る事が出来なかつたのであります。

モーセの十戒の中の才一に我の外何物をも神とする勿れとあります。その最後にはむさぼるなかれと記されております。即ちむさぼりは偶像崇拜となるのであります。神の最もきらい給ふものであります。

このむさぼりは私共の中に深く広く滲透してあるのであります。又このむさぼりは私共を神から離れさせるものであります。たしかにむさぼりは地に属けるものであります。

つつしみてむさぼりをふせげ人の生命は持物の豊かなるにはよらざるなり（ルカ二の一五）

私共基督者は有る処をもつて足れりとしてむさぼりをふせがねばなりません。たしかにむさぼりのある処には神に

富む事が出来ないからであります。

神に富む人とは信仰に富んだ人であります。信仰に富む人でなければ善き業に富むことは出来ないであります。

彼らは皆汝を待望むなんちよき時に食物を之に与え給ふ (詩一〇四の二七)

信仰がなくては私共は神が与え給ふ時まで待ち望む事は出来ないであります。

アブラハムは信仰の人でありました。彼は神の御命令に従つて待ち望んだ人でありました。

彼は富も齢もみち足つて天に召されたのであります。

彼はむさぼらない人でありました。甥のロトに先によき地を選ばせて自分は残つたやせ地にゆきました。処が神はア

ブラハムを祝し給ふたのであります。

神はモリヤの山で愛する独子イサクをささげました。之はアブラハムには大試練であります。

アブラハムでもダビデ王でも失敗のない人ではなかつたのであります。われの外神なしとの聖言に従つてむさぼりの罪をくいあらためて罪におち入らなかつたのであります。

私共も何も出来なくても真実な人となりたひものであります。

主は我らのために生命をすて給えり之によりて愛といふことを知りたりわれらもまた友のために生命をすつべし

(ヨハネ一三の一六)

日々友のために生命をすてて行く生涯こそ真実な生涯であります。

おそれおののきて己が救を全うせよ

一九六五年六月二七日

されば我が愛する者よ、汝ら常に従いし如く我が居る時のみならずわが居らぬ今もますます従い畏れ戰きて己が救を全うせよ、神は御意をなさん為に汝らの中に働き汝らをして志望を立て業を行はしめ給えばなり汝らつぶやかず疑わずして凡ての事を行え汝ら責むべき所なく素直にして此の曲れる邪悪なる時代にありて神のきづなき子とならんためなり、汝ら生命の言を保ちて世の光の如く此の時代に輝くかくて我が走りしところ空しからずキリストに日に誇ることを得ん（ピリピ二の二一―一六）

親が子等に遺言しておる様にパウロは獄中よりピリピの人々に一生懸命に主の御言に従ふ様にとすすめておるのであります。

私共はともすると他人の事にかんしうし易く自分の真実の姿をあざむき易いのであります。

自ら欺くな神は侮るべきものにあらざ人の播くところはその刈る所とならん、己が肉のために播く者は肉によりて滅亡を刈りとり御霊のために播く者は御霊に由て永遠の生命を刈り取らん（ガラテヤ六の七・八）とあります。

イエスの伝道の始め山上の御説教で汝ら己がために天に財を積み、先づ神の国とその義しきを求めよと教えておられました。弟子達がまた多く群集がそれを入れて御従いするかどうかは彼等の自由意志にまかせましたが各々は自分の信ずる所に従つて報をうけたのであります。

我が何事をも恥ぢずして今も常の如くいささかも憶することなく生くるにも死ぬるにも我が身によりてキリストの崇められ給わんことを切に願ひました望むところに適えるなり（ピリピ二の二〇）

私共は何事をなすにも主の崇められるためになしますなら間違なく祝していただくことが出来るのであります。

富の増し加わる時これに心をかくるなかれ（詩六二の一〇）とありますが私共は愚かな者にて健康や富が増し加つてくると之で大丈夫と思つて之に心をかけやすいのであります。

こうした時こそ弱い自らをあざむかないで神に依頼んで祈つてゆく様に注意しなければならぬのであります。

私共は二人の主にかねつかえる事は出来ません。どちらを主とするかを試みられるのであります。おそれおのいて己が救を全うせよとは神を才一位において生活する生涯をいふのであります。

私共は今健康であります。それが神によつて健康が保たれておるのであります。それですから先づ才一に神を崇めねばならないのであります。

他人を愛するといふ事に於てもあの人気が妬たからと何とかしてあげると云ふのではなく主が御命じ給ふからなのであります。(ヨハネ一 三の二一)

神は御意をなさんために汝の中に働き汝らをして志望をたて業を行えしめ給えばなり。(ピリピ二の二二)

私共は病弱の時健康さえあればと思ふます。また貧弱のどん底にある時生活さえ出来ればと思ふます。

この世的な富とか健康を求めますが私共の心はそれだけでは満足出来ないであります。神をおもう心を与えられた時始めてみち足ることが出来るのであります。

さまざまの中を神は通して私共の意志の中に働き神を畏れてその誠命を守る事を喜びとなさしめ給ふのであります。汝らつぶやかず疑わずして凡ての事を行え

私共は各々事情境遇性格の異つたさまざまの中におかれます。それ共の中でつぶやかず疑わずして凡ての事を行えとは命じ給ふのであります。

時にかなつた光を与えられるとき自分を深く反省してその光に従つてゆきたいものであります。御聖靈は私共一人一人を導いてかくの如きものとなし給ふのであります。

どうか私共の中に働き業を行い給ふお方に従いつぶやかず疑わずだまつて祈りつつ走りぬきたいものであります。私共の走るのには律法的ではないのであります。主を愛して主に導かれて走りつつけてゆくのであります。

報 告

伝道献金をまだしておらない方をお願いいたします。

消 息

毎日不順です。皆様如何御過しですか。おたづねいたします。

何卒氣候に支配されないうで聖言に従つて勝つて下さい。私も御祈りに支えられて元気で御用をいたしておりますから御安心下さい。然し血圧は百九十と九十位です。つゞいて御祈り下さい。

神の大庭に住ぶ者

一九六五年七月四日

なんちに選ばれ汝に近付けられて大庭に住う者はさいわいなり、我らは汝の家、汝の宮の聖き処のめぐみに飽くことを得ん（詩六五の四）

私はエヌ様の救をうけて今日迄四十有余年を神との交りの中に過して殆んど四十年間礼拝を欠く事なく守りつゞける事が出来た事は実に神の恵であります。感謝の外はありません。讚美歌三五五番を心から歌える人は真のクリスチヤンであるとききました。

世の多くの人々は事業に成功したとか子供の出来が良いとか誰一人欠ける者がないとかが幸福であると考えておりますが私共は神に選ばれて神に近づけられてその恩寵の中にある事が一番幸と思ひます。

ダビデ王も此の詩六五篇を通して証してあるのであります。その大庭に住ぶ者は潔き恵にあく事が出来ると歌つておるのであります。

此世的な幸福感の中にはその中で飽くことは出来ないのであります。之でよいといふ時はないのであります。

慾は慾を生み次から次と不満が生じて結局物質的では私共の物心両面を満足させることは出来ないであります。

信仰生活に由て神の恵の中におかれる時初めて如何なる事情境遇にあつても元ち足りる事が出来るのであります。

汝ら我を選ばず我汝らを選べり(ヨハネ一五の一六)とあります如く神様がこの様な賤しい者を選んで大いなる救にあづからせて下さつたのであります。何の功しいものを選んで神以外のものを拝まない、そして何物をも主としない生涯に入れて下さつたのであります。

くしき王の光心のみつと歌つて毎日を過す事の出来るとは何と幸であります。この歌は何事もない平和の時に歌えるといふのでなく苦難の最中であつてわが心いたく憂えて死ぬるばかりなりといふ様な中に在つてもなお春ののどけさは心にみつと歌ふ事が出来るのであります。

我ら忍ぶ者は幸なり汝らヨブの忍びをきけ(ヤコブ五の一)とありますが私は此聖言に由て苦難の中をモ一歩モ一歩と忍んだ事であります。私共には先が見えないから苦しみ思い悩むのであります。

然しヨブを見よと先を見せていたゞいて悉く働きて益となると信じてはげんだのであります。然しこうした時にも何とも言えない奇しき主の光が私共の心の中に与えられ忍び難き事を喜んで忍びサイロビニケの女の如く汝の信仰は大いなり願の如く汝になるべしとの主の御言が与えられるのであります。

私共基督者も世の多くの人と同じさまさまな試練に会います。然し決してうちひしがれてしまふ事なく信仰に由てその中であつて望をもつことが出来るのであります。

我らは彼に在りて彼を信ずる信仰によりおくせず疑わずして神に近づく事をうるなり(エペソ三の一二)

私共が神にお近づきするのはさまざまな状態によるのでなくイエスの血を信じてはばからず近づく事が出来るのであります。

この故に彼は己によつて神に来る者のためにとりなしをなさんとて常に生くれば之を極端な救ふことを得るなり

(ハブル七の二五)

私共には此の如き祭司長が居るのであります。この福音のために私共は選び別られたのであります。

私共も友の弱きを思いやり之を和らげ包みとりなしの御用を負わされておるのであります。

三度迄も主を否み主の聖言より離れて漁りに出かけたベテロの弱きを主は知り給ふて決しておとがめにならなかつたのであります。汝之らのものにまさりて我を愛するかと三度も愛の御言をかけ給ふたのであります。

この様なお方に私共は何時でも如何なる有様の中に在つても其処からはばからずしてお近づきして御恵をいたゞきたいのであります。

報 告

七月四日(才一日) 礼拝後青年会があります。

男女青年の方々多数お残り下さい。

消 息

梅雨やら気候不順やらにて寒い様を日がつゞきました。昨今の天候恢復にて冷害もきりぬけ相で感謝です。

皆様お交りなく御元気ですか。

私事も御祈りに支えられて毎日元気で過しております。御用もつゞけていたしておりますから御安心下さい。またあつくなりますから御大切に。御病気の方々のために御祈りいたしております。

永遠の生命に至る糧のために働け

一九六五年七月二日

イエス答えていい給ふ誠に汝らに告ぐ汝らが我を尋ぬるは徴を見し故ならでパンを食いてあきたる故なり朽つる糧の爲ならで永遠の生命に至る糧のために働け之は人の子の汝らに与えんとするものなり父なる神は印して彼を証したまいたるに由るここに彼らに我ら神の業を行わんには何をなすべきかイエス答えていい給ふ神の業はそのつかわしたまえる者を信する是なり (ヨハネ六の二六―二九)

主が誠に汝らに告ぐと仰せられる時は私共のきまのきまのがしてならない大切な事を語られる時であります。然し頭脳に於て理解出来ても實際にあつてその聖言を悟つて従つて生涯を歩む事は難かしいのであります。

弟子達はイエスが奇蹟を見てイエスの神の子なることをさとつてついてきたのか或いはパンに飽いてついてきたのか問題なのであります。この点が大切なのです。

神は崇むべき御方であるから崇めねばならない何かみたまされたから祝されたから崇めるのではないといふことであります。

こうした点が解つておる様で実際問題としてなかなか徹底しないのであります。いざといふ時は聖言以外のものは私共の助けとならないのであります。火の如き試練の中にあるとき励んで聖言を我がものとしておかねばならないと思ひます。

主は朽ちる糧のためならで永遠の糧のために働けと御命令をさしました。

永遠の生命とは唯一の神に在す汝と汝のつかわし給えるイエス・キリストを識るにあり (ヨハネ一七の三)

今は恵の時今は救の日なり (コリント後六の二) 今という時以外に私共の励む時はないのであります。この事を深く教えられて励みたいものであります。

我ら神の業を行わんために何をなすべきか (ヨハネ六の二八)

神の業はそのつかわし給える者を信する是なり (ヨハネ六の二九)

神昔は予言者により多くに分ち多くの方法をもて先祖達に語り給ひしがこの末の世には御子によりて我らに語り給へり (ヘブル一の二)

現在は聖言を通して語り給ふのであります。聖言が与えられた時たゞちに従える様に常に準備されている者となりたいたいものであります。

我は生命のパンなり我に來る者は飢えず我を信する者はいつまでも渴く事なからん (ヨハネ六の三五)

生命の源である主イエスに従つて居る者は飢える事も渴く事もないのであります。人もし我に事えんとせば我に従え我が居る処に我につかふる者も又居るべし人もし我につかふる事をせば我父之を貴び給わん (ヨハネ二の二六)

私共が神を畏ぶのは当り前でありますが神から私共が貴ばれるといふ事はあり得ないことであります。どうか健康な今一目の見える今一耳のきこえる今一人を助けることの出来る今といふ時に御言に従つて励んでゆきたいものであります。

されば我が兄弟と確くしてうごくことなく常に励みて主の事をつとめよ汝らその勞のむなしからぬを知らばなり (コリント前一六の五八)

神につかえるといふことは聖言につかえる事でありまして。与えられた聖言に従つて戦つてゆく事が大切であります。聖言に力があります。生命があります。人を医す力があるのであります。一言を出し給わば我僕はいえん

御言に従つて体験し御言に由て勝つてゆく生涯を送りたいものであります。

その時に聖言の確かさを知り手でさわり味つて知りしみじみとその深さ長さ広さを体験する事が出来るのであります。

私共は何をしていてもどうした中にあつても主を知る事に心を注ぎたいものであります。

野の百合は如何にして育つかを思え勞せず紡がざるなりされど我汝らに告ぐ榮華を極めたるソロモンだにそのよそおひこの花の一ツにしかざりき今日ありて明日朽に投げ入れられる野の草をも神はかくよそおいたまはまして汝ら

おや、あゝ信仰うすき者よ (マタイ六の二八―三〇)

凡ての事情境遇の上に神は愛なりと記されておる事をおぼえて常に主を見上げて祈りつつ進みたいものであります。

報 告

七月十一日 (才二日) 礼拝後壮年会をいたします。多数御出席下さい。

七月十六日 (才三金) 七月定例婦人会です。多数御出席下さい。

消 息

長い梅雨ですが皆様如何がお過しですか。御伺いいたします。私は御祈りに支えられて元気ですから御安心下さい。

六月下旬一泊二日の旅行をいたしました。

兄弟の御招待によつて実に三年ぶりに九州の横断道路をドライブして楽しい旅行をさせていただきました。

九重高原にてはほととぎすやかつかう、うぐいすなどのすんだ鳴声にたまらなく神を崇めました。

生かされておる幸をしみじみと味わっていたゞきました。然し血圧は中々下がりません。相変らず百九十と下が九十

です。つゞいて御祈り下さい。

神はイスラエルにむかい、心のきよきものにむかいてまことに恵みあり (詩七三の二)

なんぢそのさとしをもて我をみちびき後また我をうけて栄光の中に入れたまわん、汝のほかに我たれをか天にもたんに地には汝の他にわが慕ふ者なし、わが身とわが心は寝るうされど神はわが心の岩わがとこしえのゆづりなり (詩七三の二三―二六)

信仰生活とは私共の外形や状態をいふのではないのでありまして一人一人が神の前にある生活をいふのであります。他人に見せる生活ではないのであります。

然し日常生活に於て私共はあやまり易いのであります。人がどう思ふからとかいふて偽善におちいり易いのであります。それで多くの人々からクリスチャンは偽善者が多いと言われるのであります。

兄弟達よ我らは今に至るまで罪毎に良心に従つてつかえたり (徒二三の二)

神は心の清き者に向いてまことに恵みあり (詩七三の二)

パウロは議會に引き出された時私は良心をもつて神につかえてきたと弁明したのであります。

信仰は何処までも心靈の問題であります。

それ信仰は望んでいる事柄を確信しまだ見えない事実を確認することである(ヘブル一の一〇語)とあります。如く心をもつて信じ認めるのであります。そうすればアブラハムの如く彼自身百才となつて己が死にたる状態でありまたサラの胎が不妊であることを認めながらもなお彼の信仰は弱らなかつた (ロマ四の一九・二〇)

外形だけの信仰生活でありますと見ゆる処の状態でその戦に破れて沈んでしまふのであります。すが潔められた心の持主は聖書の御言をそのまま受入れ信じてなる迄祈つてゆく人であります。

神は心の潔き者にむかいて誠に恵みあり

之が信仰を保つ者の秘訣であります。

人よりに非ず人によらずイエス・キリストによりて子とせられたるパウロと言ふ証しは心のきよめられた者でなくてはいふことが出来ないであります。

詩七三の二—一四迄を読んで見ますときよめられない人の心の状態が記されております。

きよめられておらないと他人の状態がうらやましいのであります。そして遂つぷやいてしまうのであります。

然し詩七三の一七を見ますと我神の聖所にゆきて彼等の結局を見るまでは然りきとあります。そして二五節には汝の外に誰をか天にもたん地には汝の外にわが慕ふものなしと歌つております。

かゝる者の状態が心のきよき者の状態であります。

つとめて凡ての人と和げ自らきよからんことを求めよ、もしきよからずば主を見ることあたわず（ヘブル二二の一四）とあります。

まして永遠の靈によりきよづなくして己を神にささげたまひしキリストの血は我らの良心を死にたる行為よりきよめて活ける神につかえざらしめんや（ヘブル九の一四）

願くは平和の神みづから汝らを全きよくし汝らの靈と心と体とを全く守りて我らの主イエスの来り給ふ時責むべき所なからしめ給わんことを汝らを召し給ふ者は真実なれば之を成し給ふべし（テサロニケ前五の二三・二四）

聖言に従ふ者に賜ふ聖靈は私共をかかる者となしたまふのであります。

私共の側から何かなすのではなく神様がなして下さるのであります。

信仰は外形ではなく私共の内側即ち心の問題であります。

他人に免や角言われ様とも私共の心に聖靈の確信があるといふことが大切であります。

ルーテルは妻や子もとらばとりぬ神の国はなお我にありとうたいました。

心の清き者は幸福なりその人は神を見ることをうければなり（マタイ五の八）

報 告

伝道献金も皆様の御協力により完納することが出来ました。有難う御座いました。

消 息

梅雨もあけて本格的な暑さとなりました。

皆様如何御過しですか。御祈り申上げております。

御祈りに支えられましたして私事もつゞいて健康が保たれて御用をいたしておりますから御安心下さいませ。

我は羊の門なり

一九六五年七月二五日

……誠にまことに汝らに告ぐ我は羊の門なりすべて我よりさきにきたりし者は盗人なり強盗なり羊は之にきかざりき、我は門なり、おゝよそ我によりて入るものは救われ且つ出入をなして草を得べし盗人のきたるは盗み殺し亡ぼさんとするの他なし、わが来るは羊に生命を得しめかつ豊かならしめんためなり (ヨハネ一〇の七―一〇)

我はよき牧者にし我がものを知りわがものは我を知る父の我を知り我の父を知るが如し我は羊のために生命を捨つ。

(ヨハネ一〇の一四・一五)

私共信者と主イエスとの関係は牧者と羊との関係の様であります。

羊はまことに弱い迷い易いものであります。牧者を離れては生きてゆく事の出来ない愚かな者なのであります。私共も主を離れては生ける事の出来ない殊に幸いなる生涯を送ることは出来ない者であります。

人生の幸福な生涯を送るといふ事は事情境遇の良いといふことだけでは出来ないものであります。

私共を造り導き守り給ふ神と一ツになる事以外に真に幸福になることは出来ないものであります。

罪を犯した人間はモー一度罪が赦されねば幸になる事は出来ないであります。

キリストの十字架の贖はそのためであります。

我は羊の門なりと仰せられる主イエスによる以外に神に近付くことは出来ないであります。

私共は人間としてさまざまなユートピヤを考ふる事は出来ません。然しこの主の十字架を信じて罪に死んで神に生きる迄はその理想は実現する事は出来ないであります。

主イエス・キリストの十字架の贖以外に私共の罪を取り除く事は他にないのであります。(徒四の一二)
他人をあざむく事はたやすい事でありませぬ。然し神と自分をあざむく事は出来ないであります。

神様の前に裸になつて交る事は主の十字架を信する以外に出来ないであります。

我は善き牧者にして我が者を知り我がものは我を知るとあります如く主に知られその御愛の主を知る事が出来るのは幸なことであります。

主の血に由て潔められ聖靈に満たされた者のみが此の恵にあづかる事が出来るのであります。

何という幸な生涯でありませぬ。

主は我らのために生命をすて給えり之によりて愛といふことを知りたり、われらもまた兄弟のために生命をすつべし (ヨハネ一 二三の五)

この事も主の御たすけにやらねば出来ないことであります。

人もし我を愛せばわが言を守らんわが父之を愛し且つ我らその許にきたりて住家を共にせん (ヨハネ一四の二三)
主を愛しその誠を守る者と三一の神が偕に在し給ふといふことであります。

こうした生涯にありますなら我ら四方よりなやみを受くれ共窮せずせん方つくれ共望みを失わずして進んでゆく事が出来るのであります。

聖靈なる神は特に聖言の声をきかして試験の中に私共の信仰を助け給ふのであります。

座子愛子さんは健康の時よりも病床の長い間に神の栄光をあらわしたといふことであります。

神を愛する者すなわち御旨によりて召されたる者のためには凡ての事あい働きて益となるを我らは知れり

(ロマ八の二八)

聖靈なる神は私共のことごとくを知り給ふのであります。

汝我によび求めよ然ば与えられん (エレミヤ三三の三)

どうか不借仰の石を取り除いてかゝる主を信頼して祈つてゆきたいものであります。

消 息

愈々梅雨もあけて本格的な夏型となりまして毎日熱いことで御座います。

皆様如何お過しですか。御祈り申上げております。

私事も暑さもさわりなく元気で御奉仕いたして居りますから御安心下さい。

左記の御病人の方々のために御全快をお祈り下さい。

久保山浩秀先生

平岡くまの姉

岡部すみ姉

麻生定雄兄

斎藤姉の御主人

津留崎喜代姉

汝の口を広くあけよ

一九六五年八月一日

我が民よきけ我汝に証せん、イスラエルよ汝が我に従はん事を求む、汝らのうちに他神あるべからず、なんぢら他神を拜むべからず、我はエジプトの国よりなんぢをたづさえてたる汝の神エホバなり、汝の口を広くあけよ我ものをみたしめん、されど我民はわが声にしたがわず、イスラエルは我を好まず、この故に我かれらが心の頑固なるにまかせ彼らがその任意に行くに任せたり我は我が民のわれに従い、イスラエルのわが道に歩まんことを求む

(詩八一の八―一三)

汝の中に他神あるべからず汝他神を拜むべからずとは主の命じ給ふ事であります。私共の生涯の中に主イエス以外に神とし主として崇める者のない様にといましめておられるのであります。

宝のある処にまた汝らの心もあるべし(マタイ六の二二)とあります如く私共主を信する者はこの事に注意する事が必要であります。

私共の生涯で何を才一位にしているかといふ事を何時も反省して主イエスを私共の生涯の才一位におきたいものであります。

而した生涯を送る者に主が如何に近くい給ふかと言ふことは聖書が証明している処であります。

この故に人々よ心安かれ我はその我に語り給いし如く必ず成るべしと神を信ず(徒二七の二五)パウロがけしい暴風の中で救わるべき望のたえはてた時に船中のおちまどろうておる人々にこの様に語つておるのであります。之はパウロが日常心を熱くして主につかえていて与えられた確信なのであります。

私共も毎日主の聖言に従つて祈り深い生涯を送り主とする生活を訓練としておる事が大切なのであります。

人もし我につかえんとせば我に従え、我が居るところに我につかふる者もまた居るべし(ヨハネ二の二二)

パウロは「わが属するところわがつかふる処の神の使わが傍に立ちてパウロよ恐るな、なんぢ必ずカイザルの前に立たん視上神は汝と同船する者ごとく汝に賜えり(使二〇の二三・二四)

救わるべき望のたえはたその時神は常に従つておる者にいと近く在して聖言の声をきかしめ給りて救い出して下さるのであります。

パウロの聖言に従ふ確信が同船の人々を全部おおせ給える如く救われたのであります。私共は或時だけ燃える様に熱心に主に従ふ生涯ではなく、毎日中の歩みはよしおそくとも主の聖言に従ふ生涯が大切であります。

日常茶飯事にも主の聖言を体験したいものであります。そうした毎日を送つておりますなら突然な事故にも我心おそれずと余裕しやくしやくと事件を解決してゆく事が出来るのであります。

しかし毎日を主の前に過すといふことは余程聖靈にみたされて祈つておらないと出来ないであります。父上我にきき給いしを謝す常にきき給ふを知る(ヨハネ一の一の四一)と主イエスは祈つておられます。

之は主の御日常が父に如何に祈つておられたかを証しされておられたかを知ることが出来るのであります。

私共永い人生には幾度か誰でも大いなる危機に臨むことがあります。こうした時に常日頃主に従つておらないとまにあわないのであります。

常にきき給ふを謝すと主は感謝されました。

主は常に主の御声に従いました。その御生涯が福音書に記されておる様を驚くべき事をなされたのであります。

私共はエジプトの財宝や知識で私共をみたすことは出来ません。それは丁度放蕩息子に与えられた豆がらの様なものです。

信仰の口を広くあけて聖言を入れていただき、わがさかずきはあふるるなりといふ様な祝福された生涯を送りたいものであります。

報 告

八月一日(才一日) 礼拝後青年会があります。多数御残り下さい。

消 息

私も御祈りに支えられて元気で過しております。御病氣の方々や御遠方の方々の為に御祈りさせて頂いております。

われいま汝らのために受くる苦難を喜び又キリストの体なる教会のためにわが身をもてキリストの患難の欠けたるを補ふ、われ神より与えられたる職に従いて教会の役者となれり、これ神の言すなわち歴世歴世かくれて今聖徒にあらわれたる奥義を宣伝えんとてなり、神は聖徒をして異邦人の中なるこの奥義の榮光の富如何ばかりなるかを知らしめんと欲し給えり、此の奥義は汝らのうちにいますキリストにして榮光の望みなり我らはこのキリストを伝え智慧をつくして凡ての人を訓戒し凡ての人を教ふこれ凡ての人をしてキリストに在りて全くなりて神の前に立つことを得しめんためなりわれ之がためにわがうちに能力をもて働きたまふものの活動にしたがい、力をつくして勞するなり

(コロサイ一の二四―終)

私共のキリスト者の信仰は勿論結果としては色々な御恵にあづかる事が出来るのでありますが本来私共がキリストと偕に死にキリストと共によみがえらされた者でありますから残る生涯を己に代りて死に給いし者のために生きるための信仰生活なのであります。

私らも前にはとがと罪とによりて死にたる者にしてこの世の習慣に従い空中の権をとる者即ち不従順の子らのうちに今もなお働く靈のつかさにしたがいて歩めりわれらもみの前にはその中におり肉と心の怒するまゝをなし他の者の如く生れながらにして怒りの子なりき (エペソ二の一―三)

かかる中に居りました者を主は選び出して主の聖言の中に生きる者とされたのであります。

そしてこの歴代歴代かくされたこの奥義を宣べ伝える為に立てられた者であります。

この聖言に従つてゆく時如何なる事情にありましても動かされないうで我心定まれりと神を崇めて従ふ事が出来るのであります。

私共が聖言にきき従えない時に心におそれを生ずるのでありおそれには苦しみあればなり (ヨハネ一四の一八)との如く不動の生活を全うする事が出来ないであります。

私共が不信仰になればさまざまの音信をきゝわけらただけでもふるいおののく様な地上なのであります。

愛といふは我ら神を愛せしにあらず神われらを愛しその子をつかわして我らの罪のなだめの供物となし給ひし之なり (ヨハネ一四の一〇)

このはかり知る事の出来ない神の御愛神の奥義をさとらしめられ、かつては此の世の事自分の事しか考ふる事の出来なかつた者が全く造りかえられて神の聖言を心に宿し友のために生命をすてゝ生きる者となし給ふたのであります。一人の魂は全世界よりも貴しとの聖言を信じて大事業をなすのではなくいと小さき隣人のために此の貴い救いを宣伝えることは何と貴いことでありましょう。

どうかもと聖言の深さをさとり神の愛のどれだけ高いものであるかをさとつて患難の多い人生に勝ち得て余りある生涯を送りたいのであります。

神を愛する者すなわち御旨によつて召されたる者のためには凡ての事相働きて益となるを我らは知る

(ロマ八の二八)

神様は機に会い助けとなる聖言を与えて私共を平安に導き給ふのであります。

この故に人々よ心安かれ我はその語り給ひし如く心ずなるべしと神を信ず (徒二七の二五)

聖言は必ず成就するのであります。(ルカ一の四五)

パウロはこのわがうちに能力をもつて働き給ふものの活動に従ひ力をつくして勞するなりと証しておるのであります。

聖言が私共の中に徹底する時周囲の事情境遇は問題でないのであります。

信じてゆく時信ずる如くなるのであります。人間の智慧や方法をつくすのではなく信仰により聖言に従つてゆく時に大勝利をうる事が出来るのであります。

私共のバックボーンは聖言であります。本常に聖言はかくされた奥義であります。

報告 八月八日(才二日)壮年会の御文りをいたしたいと思います。

汝の作為(わざ)をエホバに委ねよ然ば汝の謀るところ必ずなるべし (箴言一六の三)

この聖言は神の御命令であります。神にお任せするといふ事が私共が神から御恵をうける秘訣であります。

然し一切を神に委ねてその御業を俟望むといふ事は御聖靈の御援けなくしては出来ないであります。

私共に信仰と忍耐が与えられなければ出来ないであります。

私共はしばしば私共が何かしなければならぬ様にあせり易いのであります。

事をおこない之をなして遂げるのは神なのであります。(エレミヤ三三の二)

私共は何処迄も被造物でありまして創造主の領分に入つていつてはならないのであります。

汝ら何を食ひ何を飲まんと心を動かすな (ルカ二の二九)

汝ら心を騒がすな神を信じ亦我を信ぜよ (ヨハネ一四の一)

私共は一寸した出来事にも心を動かされ易いのであります。その時にこうした聖言に立つて心を動かさないで聖言を握りしめて主を俟望んでゆきますならばその聖言の如く必ずなるのであります。

然しこゝで教えられたことは神様の側からも私共の心を状態を見て恵を施し給ふ事でもあります。

エホバは俟ちて後恩恵を汝らに施し之によりて上りて後汝らをあわれみたまわん (イザヤ三〇の一八)

然るに神を俟望む者の如何に少いかをなげかれておるのであります。

一人叱咤すれば千人逃げ走り五人叱咤すれば逃げ走りてそのこれる者はわずかに山の嶺にある杆の如く岡の上にある旗の如くならん (イザヤ三の一七)とあります。

終りまで忍ぶ者は救わるべしとあります如く終り迄忍ぶといふことが大切であります。

エホバ上願わくは我が終りと我が日の救のいくばくなるを知らしめたまえ、わが無常を知らしめたまえ視よ汝わがすべての日をつかのまにすぎさらしめ給ふわが生命はみまえにありてはなきにことならず実にすべての人は皆盛時だ

にもむなしからざるなし人の世にあるは影に異らずそのおもいなやむことはむなしからざるはなしその積み蓄ふるも
のは誰が手におさまるを知らず主上誰をかまたんわが望は汝にあり (詩三九の四―七)

ダビデ王は神のみまえて光に照らされ自己の無力であることをさとらされ生涯を神に依頼んで生きたのでありま
す。その結果とし靈にも肉にも祝福された生涯を全うされたのであります。

息の如き人間がよく思い煩つてもその生命を寸陰ものばすことは出来ないのであります。
不義なる者を義とし無から有を造り出し給ふのはイエス・キリストのみであります。

此の神を期待しているものに一番良い時によき者にあかし給ふのであります。

どうか私共は己が作為をやめて神のなしたまふ聖業を待望みたいのであります。

応えられるまで神を待望んでおりますとその間に自らを省み潔められきつなきものとされる時なのであります。

神は凡てのものを各々その用のために造つていたまふのであります。罪でさえもさばきのためと聖書には書いてあ
ります。

病氣も貧乏もさまざまな苦難も必要であります。

彼は御子なれどうけしところの苦難によりて従順を学び且つ全うせられたれば凡て己に順ぶ者の為に永遠の救の原

となりて神よりメルキセデクの位に等しき大祭司と称えられ給えり (ヘブル五の八―一〇)

どうかどんな時にも神に委ねて神の御作為を待望みたいものであります。

つゝしみて御言を行ふ者は益を得べしエホバに依頼む者は福なり (箴言一六の二〇)

報 告

今月は暑いので婦人会はお休みにいたします。

消 息

八月になつてから毎日あついでです。皆様如何お過しですか。私も御祈りに支えられて相変らず御用をいたしてお
りますから御安心下さい。なお残暑きびしい事と思ひます。 御自愛專一に。

主を愛するとは

一九六五年八月二二日

汝らもし我を愛せばわが誠命を守らんわれ父に請わん父は他に助主を与えて永遠に汝らと共に居らしめ給ふべし、これは真理の御霊なり、世は之を受くること能はず之を見ず、また知らぬによる、汝らは之を知る、彼は汝らと偕に居り又汝らの中に居給ふべければなり（ヨハネ一四の一五―一七）

主を愛するといふことは如何なる事であるかといふことをモー一度深く考えて見たいものであります。

彼の誠命に従つて歩むは即ち愛なり汝らが始めよりきゝし如く愛に歩むは即ち誠命なり（ヨハネ才二書の六・七）
聖書は彼の誠命に歩む事が主を愛することであると教えております。

私共が主の誠命に歩もうとするとき助け主即ち聖霊は私共と共に折に会う助けを与えて歩ましめ給うのであります。人生の旅路には色々な問題に当面するものであります。その時々聖言に従つて祈つておる時主は最善な方法をもつて私共を助け導き給うのであります。

思い切つて主の聖言に依頼んでゆきますなら御聖霊は喜んで私共を助けて下さるのであります。

私共はさまざまな苦難の中に在て聖言に従つて祈つてゆきます時主はその困難をつきぬけて勝利を与えて下さるのであります。そうした証をもつて同じ苦しみにある者を励まし慰める事が出来るのであります。

（コリント後一の一三・四・五）

然し御聖霊にみたまされ御誠命を守つておらないと神と偕なる生涯を失い過去を思い出しては悔やみ現在に悩み未来について思い患つてしまふのであります。之が肉に傾ける信者の人生であります。

主を愛して主の誠命を守つておる者には過去は過去、足らなかつた事は悔い改め赦され未来は未知なのでありますから一切を主に委ねて祈つてゆく事が出来るのであります。この様にして一切を主に任せきつて聖言に従つて歩んでゆきますならば確に助主なる御聖霊は此の道をゆくべしと細き聖言の声をきかして私共を正しき道に導き給うのであります。

この故に明日のことを思い煩ふな明日は明日みづから思い煩わん一日の苦勞は一日にて足れり(マタイ六の三四)
この聖言が私共に徹底しておるならば眞の基督者であるということが出来ると思ひます。イスラエルの民はエジプトから救い出されましてから不信仰の故に四十年の間荒野にさ迷いました。此処でマナを降らしたり水を出したりして不思議な方法をもつて彼等を導き給うたのであります。これは彼らが主に従うや否やを試み給ふたのであります。私共は何時如何なる事情におかれましても信仰に従順でありたいものであります。従う処に賜ふ聖靈もまた証ししたまうのであります。

主の靈が我に在す(イザヤ六一の一)という確信をもつ事の出来る人は幸いであります。

御聖靈は世の終りまで私共と偕に在すのであります。これは眞理の靈であります。世は之をうくること能わず見る事能わずとあります。然し主の誠命を守る者に之を注ぎ偕に居り給ふと仰せ給ふのであります。

私は苦難のどん底にあつた時その壁をどうしてつきぬけ様かと途方にくれました。その時これは權勢によらず能力によらず我が靈によるなり(ゼカリヤ四の六)との聖言を与えて御聖靈の御働きを期待したのであります。

主はその困難の壁を破つて光を与えて下さつたのであります。

ゼルバベルの前にあたる大山上汝は何者ぞ平地となれ(ゼカリヤ四の七)この聖言によりて困難や何物ぞ平地となれとの活ける信仰と望を与えられて遂に勝ちぬいたのであります。こうした過去の一ツ一ツの現実な証が私の生涯を貫いておるのであります。

消 息

毎日あついで日がつゞきます。

皆様お変わりありませんか。お伺いいたします。

私も御祈りに支えられて相変らず元気で毎日を過しておりますから御安心下さい。

残存をおきびしい事と存じますが御自愛專一に私も一日も早く元の様な健康になりたいと祈つております。

天開けて神の栄光を見る

一九六五年八月二十九日

人々これらの言を聞いて心、怒にみちはがみしつゝステパノに向ふ、ステパノは聖靈に満ち天に目を注ぎ神の栄光およびイエスの神の右に立ち給ふを見て言ふ、視よわれ天開けて人の子の神の子の右に立ち給ふを見る

(徒七の五四―五六)

ステパノはあの大迫害の中にあつて聖靈にみたされ天に目を注ぎ神の栄光及びイエスの神の右に立ち給ふのを見たのであります。

私共基督者も何時もこのステパノの如く神の栄光を見つめておきたいものであります。

この地上の生涯は喜ばしいことばかりではありません。好事魔多しとかいひまして如何なる事情の中におかれましても一歩一歩しみじみと主の御足跡に従つて歩み生涯を全うしたいとこの頃切に祈らせられるのであります。

祈つても祈つてもその答が中々与えられない様に思ふ時もあります。然し汝我に呼び求めよ我汝に応えん(エレミヤ三三の三)との聖言にまちがいはないと心に確信して祈つて答えられた過去の経験を思い出す時力づけられて祈りつゞけてゆく事が出来るのであります。

ステパノは迫害の最中に天に目を注ぐことが出来ました。すると天が開けて人の子が神の右に立ち給ふたのが見えただのであります。之は大いなる聖靈経験であります。

たえず聖靈にみたされておる時私共は事情境遇をこえて天に目を注ぐことが出来るのであります。その時かくされ天天国の奥義をさとることが出来るのであります。

わが目は常にエホバに向ふエホバはわが足を網よりとりいだしたまふべければなり(詩二五の一五)何時も聖言を心にとめて見つめておられますならばあらゆる困難の中から救い出されるのであります。

主イエスを信ぜよ、然らば汝も汝の家族も救はれん (徒一五の三一)

時に就ては何時といふ約束は記されておりません。またあゝしたらこうしたらではなく人間の経験や智慧によるの

ではなく主イエスを信頼せよと言はれるのであります。

マタイ一四の二三―三二を見ますとペテロは主イエスより目を離して浪を見ました時にしづみかゝりました。私共も聖言より目を離すとサタンはさまざまな方法をもつて私共をおそれさせるのであります。

私共の戦いは血肉との戦いではなくこのサタンとのたたかいなのであります。

水でもたえず流れておりませんと腐つてしまいます様に私共も主に連り祈り深くしておりませんとこのサタンにやられてしまふのであります。

私共の生涯にこうした事がなければと思ふことが度々あります。然しそうした事がある事によつてたえず主を求めることが出来るのであります。而して聖言に依頼んで戦い勝利を与えられるのであります。

現在の問題が解決しないで未来を望むことは出来ません。現在の悩み多い世もキリストの救いをうけてさながら天国の如き生涯を送る事が出来ずならばサタンのおらない聖徒達の居られる天国は如何ならんと想像することが出来るのであります。

其処で私共はたえず天開けて神の栄光を見る様を生涯に常にありたいものであります。

イエスは神の子、キリストであるということに聖書は証しております。この事を信じないために多くの人々は亡びつゝあるのであります。

戦争が終らないのも経済的不安定も病気のいやしもイエスを神の子と信ずる以外に解決の道はないのであります。最後に亡ぼさるゝ死の問題もイエスを神の子として信じた時解決するのであります。

ステパノは何時も聖霊と信仰にみたまされておりましたから彼の前に天が開かれておつたのであります。

私共も天が開かれて神の右に人の子のいます事を見て人生百般の出来事に常に勝利の生涯を送りたいものであります。

消 息

暑い八月も愈々終りとなりました。皆様如何お過ごしでしょうか。

私も御祈りに支えられて今日迄元気で御用をいたして参りました。

少々夏ですから胃腸を悪くしたりいたしましたがおそれかたしてかたしていたゞいております。

御病気の皆様一日も早く御全快を日夜お祈りいたしております。

高田コマ老婦が返子にて御悪い様です。御全快を御祈り下さい。

残暑きびしき折柄御自愛專一に。

イエス自ら近づき共に往きたまふ

一九六五年九月五日

視上、この日二人の弟子、エルサレムより三里ばかりへだたりたるエマオといふ村にゆきつゝ凡て有りし事どもを互に語りあふ、語りかつ論じあふほどに、イエス自ら近付きて共にゆきたまふ、されど彼らの目さえぎられてイエスたるを認むること能はず(ルカ二四の一三―一六)

我々の人生の途上にて我らと偕に歩み給ふ主を仰ぎ見る事が出来る人はまことに幸福であります。

神我と共にいます之最もよき事なりとは八十八年の生涯を終らんとする一週間前にのこしたジョン・ウエスレーの言だといふことであります。使徒パウロも

我にとりて生くるはキリストなり死ぬるもまた我が益なりされど若し肉体にて生くることわがはたらきの果となるならばいづれを選ぶべきか我これを知らず我はこの二ツの間にはさまれたりわが願いは世を去りてキリストと偕に居らんことなりこれるかに勝るなり(ピリピ一の二一―二三)と申しております。

毎日の新聞紙上にて交通戦争の音信その他さまざまな出来事のニュースを見たりきいたりするだけにてもふいおのく様なこの世であります。我々人間は何に由て本当の安息を得ることが出来るのでありましょうか。

凡て勞する者重荷を負う者我に來れわれ汝らを息ません（マタイ一一の二八）と御招きに應ずる以外に安息に入ることとは出来ないであります。

或時多くの群衆が主イエスの話をきいて夕方になつてしまひました。弟子達は主に願つて此処は淋しき処にて時はおそし群衆を去られしめて各自に食物を買わせて下さいとお願ひいたしました。すると主はかれら往くに及ばず汝ら之に食物を与えよと命ぜられました。弟子達は主に申し上げました。唯五ツのパンと二ツの魚のみですと。主はそれを我にもちきたれと言われたのであります。

弟子達は主の御言に従つて奇蹟を体験いたしました。処が私共は科学が進んだとかさまざまな理由をあげてすなおに主にお従いすることが出来ないであります。

エマオの途上にて論じつゝあつた弟子達に主は自ら近づき共に歩みつゝ彼等の語り会ふことに耳を傾け給ふたのであります。その時の弟子達の目と耳はさえぎられてイエスを認むる事が出来なかつたのであります。

今日も主は私共に近づき語りかけんとしていたまふのであります。どうか目が開けてこの主を見たまつることが出来ませう様に聖言の奥義をさとる事が出来る様に祈りたいものであります。

私共の罪が赦され潔められてこの御顔を拝し主の聖言の声をきくために主は十字架の贖罪を成就なし給ふのであります。

この十字架を信ずる信仰が与えられたといふことは私共基督者の權くべき大いなる御恩寵であります。天地の主なる父よ、われ感謝すこれらのことを智き者さとき者にかくしておさなき者にあらわしたまえり

（マタイ一一の二五）

私共はおさを兒の如く單純にすなおに聖言に従つて歩みたいものであります。

汝ら再びおそれをいだくために僕たる靈をうけしに非ず子たる者の靈をうけたり之によりてアバ父と呼ぶなり（口

マハの二)

汝はみどり児ちのみ児の口により力の基をおきて敵にそなえたまえり(詩八の二)

私共従ふ者と借に在したまふ主がすべてこの事をことごとく益にかえ給ふ御方なのであります。

信じて毎日勝利の中に過したるものであります。

我自ら汝と借にゆくべしとの聖言を信じてモーセはイスラエルをエジプトから救い出す大事業を全うしたのであります。

神信に在すことを信じて進みたいものであります。

報 告

九月五日(才一日) 礼拝後青年会があります。

多数御出席下さる。

消 息

残暑が中々きびしう御座います。皆様御元気の事と存じます。

私も御祈りに支えられて今年も八ヶ月御用をさせていたどきました。

御病気の皆様遠方の皆様のためにも祈らしていただいております。早く御立ち上り下さい。

尚残暑きびしき折御自愛專一に。

汝らもしキリストと共によみがえらせられしならば上にあるものを求めよ、キリスト彼処にありて神の右に座したまふなり、汝ら上にあるものをおもい地にあるものをおもうな、汝らは死にたるものにして其の生命はキリストとともに神の中にかくれあればなり、我らの生命なるキリストの現れ給ふ時汝ら之とともに栄光のうちに現れん

(コロサイ三の一―四)

信する者に対して行い給ふ神の能力の如何に偉大なるものであるかを知らたいものであります。

讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神その大いなるあわれみに従いイエス・キリストの死人の中より甦り給えることによりて我らを新に生れしめて生ける望をいだかせ我らのために天に蓄えある朽ちず汚れずしぼまざる嗣業を継がしめ給えり (ペテロ前一の三―四)とあります如く私共基督者は甦りの主によつて新に生れかわり活ける望みを与えられ毎日希望に輝いた生涯を送るものであります。

かつては私は自分自身に失望しその上に周囲の様々な社会の矛盾を感じて苦しんでいた者であります。

然しキリストを信じて我キリストと共に十字架につけられたり最早我生けるにあらずキリスト我中に在りて生けるなり(加二の二〇)といふ全く異つた世界に生きるものとされたのであります。

貧乏も病氣もその他の諸問題もこの信仰があれば解決しないものはないのであります。

こうした生涯を送るものは上にあるものを求めよパウロはコロサイの信者に書き送つておるのであります。

聖書は神様からの私共神の子供に送られた手紙であります。

この聖書の聖言を求めこの聖言に従つて生きる者が神の子の生涯であります。

汝らは死にたるものにてその生命はキリストと共に神の中にかくれあるなり然れば地にある肢体則ち淫行、汚れ、情慾、悪慾またむさぼりを殺せ、むさぼりは偶像崇拜なり (コロサイ三の五)

私共のうちには最後まできよめられないうで残つてゐるものにむさぼりがあります。むさぼりは偶像崇拜であるとホ

一口は教えております。

このむさぼりを殺せとあります。むさぼりを殺して主を待ち望みたいものであります。

さとき事はかり難き神に一切を委ねて生活しますとき聖言に従つて歩む生涯こそ本當の安息の生涯であります。

神は人間に自由意志を与え給ふたのであります。神の子には能力を与えてよき業を行わしめ給ふのであります。信じて従ふ時主は驚くべき生涯を送らしめ給ふのであります。

シユヱイツアーはそうした聖徒でありました。

どんな時にも上を見上げて聖言の聲に従つて歩むことを学びたいものであります。

我常にエホバを我前におけりエホバ我右にいませば我動かさることなかるべし(詩一六の八)

常に喜び絶えず祈り凡ての事感謝せよ(テサロニケ前五の一六―一八)の聖言に従つて生涯を過しておりますならば如何なる時にもまた出来事にも動かさるる事はなく神の安息の中に生涯を送ることが出来るのであります。

報 告

九月十二日礼拝後壮年会があります。

九月十七日午後一時より市内飯倉の平岡姉宅にて婦人会例会をいたします。

西新より飯倉行きバスにて飯倉バス停近くです。多数御出席下さい。

消 息

大分涼しくなりました。御祈り有難う御座います。おかげ様にて暑い夏も無事に過すことが出来ました。久保山先生も入院をさいました。大分御元気の御様子です。御全快を御祈り下さい。

実を結ぶ生涯

一九六五年九月一九日

汝ら我を選びしにあらざ、我汝を選べり而して汝らの往きて果を結び且その果の残らんために、又おほよそ我名によつて父に求むるものを父の賜わんために汝らを立てたり（ヨハネ一五の一六）

私共が此世に生れ出づる時かくかくあらんといふ様を計画を立て、生れ出でた人は一人もありません。然し神は私共が生れ出づる前より御前にきつなきものとなさんとて御選びの中にあつたのであります。

（エペソ一の四・五）

汝ら我を離るれば何事をもなし能わず（ヨハネ一五の五）とあります如く主を離れては何事も出来ないことを御覧になつて特別に選んで下さつたのであります。もしこの主イエスに救われておりませんならば外にすてられ枯れてしまふより外に生きるすべのない弱い者であります。

人の世にあるは影にことならず、その思い悩むことはむなしからざるなし（詩三九の六）と記されております如く人間ははかないものなのであります。その盛りの時だにも空しからざるなし（詩三九の五）最も得意の時でも空しからざるなしとダビデは証しておるのであります。真に自己のはかなきを知りますならば有りて有りといふと仰せられる主に依頼んで生かされねばならないことをさとり信仰生涯を全ふする事が出来るのであります。

聖パウロは我は無なりキリストは我が全部なりと悟りました。この故に信仰生活に徹底した生涯を送ることが出来たのであります。

ダビデ王は少年時代から多感な詩人でありました。牧羊者の貧しい生活を通して小さい時から神に依頼んで生活したのであります。彼は戦争の時ソロ王の前に出て神に依頼んでゆけば戦に勝つことが出来ると申し出で大敵ゴリアテを倒してイスラエルの危機を救つたのであります。

そうした生涯が彼を信仰に導いた土台をつくつたのであります。

私共が信仰に励むことが出来なかつたり信仰生活に徹底することが出来ないのは何か自分の能力で出来る様に思う

からであります。

ヨセフは奴隷にうられてしまふ様を弱い者でありました。彼はエジプトに在て神に依頼み神は彼と偕に在して凡ての患難より之を救い出し（徒七の九・一〇）遂にはエジプトの宰相となり家族を饑きんより求め出したのであります。ダビデは事毎に祈りの生涯を全うしたのであります。主を離れても何か出来る様に思ふ時失敗してしまふのであります。

汝ら明日のことを知らず汝らの生命は何ぞ暫く現れて遂に消ゆる霧なり（ヤコブ四の一四）

私共は一寸先も知ることが出来ないであります。主はことごとく知り給ふのであります。主はみきであります。私共はその枝であります。枝はみきを離れては実を結ぶことは出来ないであります。

私共は何処から見ても無智、無力なものであります。それを知つて祈つて主に依頼んでゆけば多くの実を結ぶことが出来るのであります。

エリヤはバアルの予言者と争いました。火をもつて応える神を神とすべしとエリヤはアブラハムの神イサクの神ヤコブの神と祈りました時神は天から火をもつてこたえたまふたのであります。

私共が神に依頼んで多くの実を結ぶなら神は高らかに崇められるのであります。（ヨハネ一五の八）

報 告

十月五日夜より十月八日夜迄市内今泉町ナザレン教会にて九州修養会があります。

講師は沢村五郎先生です。御栄光のあらわれる様に御祈り下さい。

消 息

急に涼しくなりました。私も御祈りに支えられまして元気で御用をいたしておりますから御安心下さい。

御病人の方々のために御祈りいたしております。御大切に

我はたゞ神を呼ばん

一九六五年九月二六日

されど我はたゞ神を呼ばん、エホバ我を救い給ふべし、夕に朝に昼に我をげき且つかなしみうめかん、エホバわが声をきゝたまふべし（詩五五の一六、一七）

我はたゞ神を呼ばん、エホバ我を救い給ふべしといふ聖言を觀念の上だけで思うことは出来ませんがさまざまな出来事にぶつかつてこの聖言を真実に信じて委ねることは中々むづかしいのであります。

私共は限世にあつてしばしば堪え難い様を苦難の中を通らせられるのであります、その中で信仰をもつて真実に神に叫び求めるとき神のたすけを経験するのであります。

この詩篇を学びますときダビデ王も非常な戦の中にあつた事を知ることが出来るのであります。

その苦難の中から神上願わくば耳をわが祈りに傾けたまえ（詩五五の一）と懇求してゐるのであります。

私共の心の中で届いて下さるのは主イエス以外にはおられないのであります。然るに私共は主の聖言如何と悟ることが出来ないで祈りをやめて罪を犯してしまふのであります。

真理の御靈の来らん時すべてのまことをことごとくをさとらしていただくことが出来るのであります。

主のもとに集つた弟子達は何を望んでいたのでありましょう。イスラエルの恢復したまふときはこの時なるかと此世的な質問をしていたのであります。三年間も主の下にあつて主の聖言の真意をさとることが出来なかつたのであります。現在も各自が自己の事肉の事のみを考えて主の聖言をさとることが出来ないのであります。

心の苦しみ他人あづからずで私共の心の奥迄とゞいて下さる御方は主イエス以外にありません。

私共は人にてはなかつたに神に呼び求むるのであります。

周囲の状態を見ますときとても望みをもつことが出来ない様な時もあるあります。御聖靈はかゝる時にも事の真相をさとらしめ神の聖言が何であるかをさとらしめ神に依頼ましめ祈り求めて信仰によつてその苦難の中を通過させ勝ち得て余りある生涯を送らしめて下さるのであります。

私共は聖靈のバプテスマを受けなくては信仰をもつて上を仰ぐことが出来ないであります。

どうしなくても物体が下に落ちる様に下向きになり易いのであります。

弟子達も主の御昇天後聖靈をうくるまで主を待ち望んで祈つていたのであります。

ペンテコステの霊をうけし後弟子達は真に主を知り主に従ふことが出来たのであります。自己中心から神中心の生活に生くるものとせられたのであります。

主は私共の必要をことごとく知つておられるのであります。(マタイ六の三二)

一羽の雀は一銭にて売ることが出来ます。然し主のゆるしなくば一羽も地に落ちないとあります。この事が聖靈によつて私共の中に徹底しておりますならば如何なる出来事にも動かされなくて信仰生涯を全うすることが出来るのであります。

汝の荷をエホバに委ねよさらば汝をさゝえたまわん(詩五五の二二)

主イエスは私共が一切を信じて委ねまつる事をそして聖言に従つて歩むことを待つていたまふのであります。

どうか主の限りなき御愛と力とをさとり、ヘンリー・ホアイトの如く確と信仰に立つて苦難とたゞかいたいものであります。

エリヤはわがつかふるエホバは活くといふ信仰でたゞかいました。私共もそうした信仰が与えられたいものであります。

山は問題ではない神を信ずる信仰が一切なのであります。

エホバ我を救いたまふべしエホバ我声をきゝ給ふべしこれがダビデの信仰であります。

報 告

十月五日夜より八日夜迄九州修養会がナザレン教会であります。

多数御出席下さい。

消 息

気持ちのいい秋となりました。御祈りに支えられました私も元気で多忙な御用に追われております。

津留崎喜世老師が九月十五日午前三時に昇天され二十日に当教会で御葬式をいたしました。

平安な中に昇天されました。御祈り有難う御座います。

ついでに御祈り下さる。

御霊は我らの弱きを助く

一九六五年一〇月三日

我らは望によりて救われたり、眼に見ゆる望は望にあらず、人その見るところをいかでなお望まんや、我らもし其の見ぬところを望まば忍耐をもて之を待たん。

斯くの如く御霊も我らの弱きを助け給ふ我ら如何に祈るべきかを知らざれども御霊みづからいゝ難き歎きをもて執成し給ふ（ロマ八の二四―二六）

一九三三年に救をうけて四〇有余年の生涯をかえり見ます時如何に弱い者であつたかを思ふのであります。私が弱き者であると思ふよりも私の弱さを知つてたすけて下さつた主のお恵を深く思うのであります。

かゝる者を今日までねんごろに導き扶け給ふた御霊を心より崇め感謝するの外はないのであります。

誰かよく思い煩いて身の丈け一寸も延べえんや（マタイ六の二六）死ぬるも生くるにも自らの能力にては何も出来ない者であります。弱い者であり神を離れては枯れ草の様な！浮き草の様な自分である事を思い、事毎に祈つて主に

依頼み折にあふ助けを与えていたゞき今日まで生かしていたゞいたのであります。

まことに人間は考えざる輩と申した人がありますが少しよくなれば神を離れ少し試練が長いとへコタレてしまふ様なものであります。

私共もかゝる者でありました。弱きを思いやる御霊はいゝ難きなげきをもつて私共を日々導き給ふのであります。火の如き試練の中にも機に会う聖言を思い起さしめ力づけ助け耐えきれない様な試練の中を堪える事を得しめ今日に至らしめ給ふのであります。

御聖霊は今の時代に如何なる方法をもつて助け給ふのでありましよう。それは聖霊によつて聖言を与え罪につき義につき審きにつきてさとらしめて下さるのであります。(ヨハネ一六の八―一三)

罪についてと言えるは信ぜざるによりてなりとあります。十字架の贖によつて私共の不信の罪が取り除かれますと、き一切は解決するのであります。

神の己を愛する者のために備え給いしことは眼いまだ見ず、耳いまだ思はざることなりとあるが如し然れど我らには神これを御霊によりてあらわし給えり御霊はすべての事を究め神の深き所まで究むればなり。

(コリント前二の九・十)

一九二三年に御霊は私のうちに主の十字架の奥義をさとらしめ新生を与え我キリストと偕に十字架に釘づけられたり最早我生けるにあらずキリスト我中にありて生くるなり(ガラテヤ二の二〇)とハッキリ取り引きして主に御従いして以来私の人生は一変したのであります。

罪が赦され潔められた生涯は如何なる境遇におかれましても感謝することが出来るのであります。逆境の中にあつてもその中で主の深い御愛をさとることが出来るなら最も幸福な毎日を過すことが出来るのであります。

思ふ様にならぬ人生にあつて信仰と忍耐をもつて神を待望むことは御霊のたすけによらなければ出来ない事であり、ます。

視よ、我ら忍ぶ者は福なりと思ふなり汝らヨブの忍耐を聞けり主の彼になしたまいし果を見たり即ち主は慈悲深く

且つ憐憫あるものなり (ヤコブ五の一一)

たえきれない様を試練の時御聖靈はわれらの弱きをたすけて耐えさせて下さるのであります。

聖靈の御扶けといふと何か大きな能力をうけて使徒達の様な大説教をした使徒達を想像するのでありますが、それは反対に弱い私共が行き詰つた時慰め励まし助けて支えて下さるのが御靈の働きなのであります。

ゼルバベルの前にあられる大山よ汝は何者ぞ平地とならん彼に恩恵あれ之に恩恵あれと呼ばはる声を立てて頭石をひき出さん (ゼカリヤ四の七)

之は権勢によらず能力によらず我靈によるなり (ゼカリヤ四の六)

この御靈を仰いでわびしい人生を力強く勝つてゆきたいものであります。

報 告

十月三日 (才一日) 礼拝后青年会があります。青年男女の方多数御出席下さい。

十月五日〜八日迄九州修養会がナザレン教会であります。多数御出席下さい。

十月六日午後二時より花田実兄の結婚式があります。多数御出席して祝福して下さい。

消 息

本格的な秋となりました。皆様御元気の事と存じます。御祈りしていただいております私事も御祈りに支えられ最近多忙を御用をいたしております。灯火親しむべき時各集會に御励み下さい。

汝らの召されたことと選ばれたることを堅ふせよ

一九六五年一〇月一〇日

この故に兄弟よますます励みて汝らの召されたる事と選ばれたる事とを堅ふせよ若し之等の事を行わばつまづく事なからん、かくて汝らは我らの主なる救主イエス・キリストの永遠の國に入る恩恵を豊かに与えられん。

(マテロ后一の一〇・一一)

私共基督者の信仰生涯には召されたる事と選ばれたる事をはつきりしておく事が最も必要な事であります。召されたる事と選ばれたる事とは私共の信仰の土台となるのであります。

基みを破れたらんには義者何をなさんや (詩一一の三)

この世の建造物でも基礎工事が大切であります。東京丸の内の或ビルディングが震災の時少し沈下したとの事です。それは基礎工事がしつかりしていなかつたからとの事です。私共のクリスチャン生涯でも土台がシツカリしておらないと少々の悩みでは堪える事が出来ましてもみなぎりあふるる様な試験には踏み倒されてしまいやすいのであります。

北風よ起れ、南風よ来れ、わが園を吹きてその香気を揚げよ。(雅歌四の一六)

長い人生には快晴の時ばかりはありません。或時には嵐の時もあります。常に喜べ、絶えず祈れ、凡ての事感謝せよ(テサロニケ前五の一六―一八)との御書の教えも或時には喜ぶことも感謝する事も出来ない様な中を通される事もあります。そうした中を聖言に従つて通過させていたゞくためには私共の信仰の土台が確立されておらずには暗礁に乗り上げて信仰の破給をしてしまふのであります。

汝ら我を選びしにあらず我なんちらを選び而して汝らの往きて果を結び且つその果の残らんために又おおよそ我名によりて父に求むるものを父の賜わんために汝らを立てたり (ヨハネ一五の一六)

私共がキリスト教が世界的な宗教だから選んだとか、すぐれておるから選んだといふのでなく、神様の方から選んだと仰せられるのであります。それは何のためかと申しますと主の名に由つて父に願ふ処のものを賜わんがために選

んだと仰せられるのであります。

主よ今年もゆるしたまえ我その周囲を掘りて肥料せんその後果を結ばよし、もし結ばずばきり倒したまえ

(ルカ一三の九)

この御話を信州の竜丘できいて救われたのであります。

われらのなほほろびざるはエホバの仁慈によりその憐憫のつきざるによる (エレミヤ哀歌三の二二)

本当に主のいつくしみとあわれみによつて救われたのであります。何か見所があるとかとりえがあるからではありません。此処を本末転倒しないで如何なる時にも依頼んでゆきたいのであります。

汝に選ばれ汝に近づけられて大庭に住む者は幸なり我らは汝の家汝の宮のきよき処のめぐみにあくことをえん

(詩六五の四)

何事にても我名によりて我に願わば我これをなすべし (ヨハネ一四の一四)

私共は主の名を托されたものであります。その聖名を用いる権を与えられておるのであります。祈りによつて私共は如何なる時も不可能を可能としてゆく様な者とされておるのであります。

その聖名を用いるために選ばれたのであります。

兄弟よ召しこむれる汝らを見上肉によれる智き者多からず能力ある者おほからず貴き者多からずされど神は智き者を辱しめんとて世の愚かなる者を選び強き者を辱かしめんとて弱き者を選び有る者を亡ぼさんとて世の卑しきもの輕んぜらるゝ者即ち無きが如きものを選び給えりこれ神の前に人の誇る事なからんためなり

(コリント前一の二六―二九)

この様な御業をなし給ふのは神様であります。

然しサタンは何とかして色々な方法をもつて私共をたかぶらせ様としたり駄目だといつて落胆させ様とはかつております。私共は何処から救い出されたかと深く省み召され選ばれた事を堅ふしたいのであります。

報 告

十月十日（礼拝后）壮年会をいたします。
先週くり延べた青年会もいたします。

消 息

秋らしい気持の良い毎日です。皆様御元気で御過しですか。私事も御祈りに支えられて元気で御用をいたしておりますから御安心下さい。

岡部すみ姉全快退院されました。御祈り有難う御座います。
金王かおる姉が入院なさいました。御全快お祈り下さい。

神と偕なる生涯について

一九六五年一月一七日

我は葡萄の樹なんぢらは枝なり、人若し我に居り我また彼に居らば多くの実を結ぶべし汝ら我を離るれば何事もなし能わず（ヨハネ一五の五）

主イエスの御生涯が私共と異つてすばらしい御生涯であられたのは常に神と偕に在すといふ信仰の故でありました。この神偕にいますといふ生涯は智的には理解し易いのでありますが、そうした生涯を送ることは誠にむづかしいのであります。どうか御聖霊によつて教えられて神と偕なるとは如何なる事であるかをさとらしていただきたいのであります。

その御言を守る者は誠に神の愛その中に全うせらるる之によりて我ら彼に在る事を悟る（ヨハネオ一二の五）
聖言を実行して参りますとき幹から枝に液汁が流れて樹木が成長し花を咲かせ実を実らせませます様に私共は多くの実を結ぶ事が出来るのであります。

B・F・バックストン先生は靈的なすぐれた先生でありました。それは神と偕におられたからであります。

昭和十二年御来朝の折語られたイザヤ六の二の御話をなされたセラピムの四と二の關係をもし信者が実行してゆくなれば何時も神と偕なる能力ある生涯を送る事が出来て主の栄光をあらわす事が出来ると語られるのであります。

どんな良い伝道といふ様な仕事にでも二を越えてはならない毎日の六分の四を静まつて聖書を読み祈つておるならば何時も能力に満たされて居ることが出来ると語られました。

我誠命を保ちて守るものは即ち我を愛する者なり我を愛する者は我父に愛せられん我も之を愛し之に己をあらわすべし（ヨハネ一四の二四）

人もし我を愛せばわが言を守らんわが父これを愛しかつ我らその許にきたりて住処を之と偕にせん

（ヨハネ一四の二三）

聖言を守り行ふ生活それが神を愛する生活であります。三、一の神と偕なる生活であります。

たといこの世的に小さい弱い存在でありましても神偕に在すインマヌエルの生活こそが眞の幸福な生活であります。多くの人々が主に祈つて聖言に信頼することをしないのであります。人間の智慧にさまたげられて、それで多くの実を結ぶことが出来ないのであります。

良き地なるは御言をきく正しく善き心にて之を守り実を結ぶ処の人なり（ルカ八の一五）とあります。聖言が成就するのは一朝夕ではありません。聖言の奥義は余りにも遠大であります。私共は余りにも小さい者であります。

断えず聖言をねり食んで祈つて信仰と忍耐をもつて待ち望んでゆきたいものであります。

然らば汝ら聴くこと如何にと心せよ誰にても有てる人はなとお与えられ有たぬ者はその有てりと思ふ者も取らるべし

（ルカ八の一八）

自分の子供達が主に従つて幸な生涯を送らせるためには母は涙かわくまなくと祈らなければなりません。小さい事も大きい事も今一現在目の前にぶつかつている問題のためにも御言に従つて忍耐をもつて切に祈つてゆかねばなりません。そうしますと主は一番良い時に求めに従つて与えられるのであります。

サイロビニケの女は娘のいやされるために只管祈りました。汝の信仰は大いなるかな願の如く汝になれ娘この時はいたり(マタイ一五の二八)と約束を成就していただいたのであります。

私共は一足とびに山を移す事は出来ないかもしれせん。然し教えられただけ従つてゆきますなら十字架には罪も病もすいからす能力があります。

主は聖言を愛して従つてゆきます者に恩恵をもつて充ち足らして下さるのであります。

報 告

十月二十二日(才四金) 午後一時三十分より当教会に於て婦人会例会があります。多数御出席下さい。

消 息

先週十日には古木兄が横浜より来福され礼拝に出席され壮年会を共にする事が出来て幸いでした。

御祈りいたゞいております麻生兄も御元気で九州修養会に出席されまして感謝でした。

つゞいて御祈り下さい。

私事も御祈りに支えられて元気で御用をいたしております。

我々と共にある者は

彼らと共に居る者よりも多し

一九六五年一月二四日

エリシヤ答えるはおそるゝなかれ我らと共にある者は彼と共にある者よりは多し、エリシヤ祈りて願くばエホバ彼の目を開きて見せ給えといければエホバ若者の目を開きたまえり、彼即ち見るに火の馬と火の車山にみちてエリシヤのまわりにあり (列王下六の一六、一七)

我らの主イエス・キリストの神栄光の父汝らに智慧と黙示との靈を与えて神を知らしめ汝らの心の目を明かにし神の召しにかゝる望と聖徒にある神の嗣業の栄光の富と神の大能の勢威の活動によりて信する我らに対する神の能力の極めて大いなることを知らしめ給わん事を願ふ (エペソの一七―一九)

信仰とは智識的に神を理解しヘッドで考ふる事ではありません。私共に信仰はあると思ふ様でいざといふ時にないものであります。

何か一つの出来事に遭遇する時に如何に信仰が私共の中にないかをためされるのであります。

パウロはエベソの教会に手紙を書いてどうか心の目が開かれてその栄光の富が如何なるかを知らんことをと祈つてゐるのであります。

列王下の方を見ますとエリシヤの弟子がエリシヤの側にある神を見ることが出来なかつたのであります。

その時エリシヤは祈つておそるるなかれ我らと共に居る者は彼らと共にある者よりも多しと自分達を囲んでいた敵をもおそれませんでした。

私共は何時でもこの我らと共にあるものは彼らと共にある者よりも多しとの信仰をもつてたゞかいぬいてゆきたいものであります。

ルーテルも神我らと偕に在さば誰が我らに敵せんや (ロマ八の三一) との確信をもつて遂にローマ法王との戦に勝つて宗教改革を実行したのであります。

マスコミのはげしい今の時代に悪しき音づれによつて動かされない様に足を確かり聖言に踏み立ちてゆらぐことのない生涯を送りたいものであります。我と偕なる者は多しとの信仰がないならば思いがけぬ嵐に倒されてしまうのであります。

信ずる者に対して行い給ふ神の能力の極めて大なることを知らしめ給はんことを祈る（弗一の一〇）とパウロは祈りました。私共も様々な問題に向つて主よ我らの目を開いて神を知らしめ給えと祈りたいものであります。

神は只今の事情の中で何かを教え様としてい給ふ事を知らねばなりません。光を与えられた時直に従ふべきであります。

人もし我につかえんとせば我に従ふべし我に従ふ者は我が居る処におらん我が父は之を貴ぶべし

(ヨハネ二の二六)

神より貴ばれるといふことは有り得ないことであります。然し従ふ者はその様な生涯に入る事が出来るといふのであります。

かゝる座あくたの如きものを上げて王候貴人の座に住ましめ給ふ！かくして今ある事を思ふ時に神の能力の極めて大なることを感ずるのであります。

この信仰をもつて従いますなら走れどもつかれず歩めども倦まない力に充たされて忍耐してゆきますならどんな問題も遂に解決するのであります。

この大なる報いをうくべき信仰を投げすてて世と妥協し金儲けに専念する時我々は能力を失つてしまふのであります。

然し私共が純粹な信仰を守つて主に従つてゆきますなら豊かに神様が養つて下さるのであります。

どうか心の目が開かれて神が如何に大なることをなし給ふかを知つて前進したいものであります。

目を開き給ふのは御聖靈の働きであります。どうか励んで目の開かれんことを求めてゆきたいものであります。

報 告

十月十四日午後二時牧師夫人鶴子姉急逝され、十七日午後三時盛大な葬儀がありました。

消 息

私が木曜会に行つてまもなく家内が心臓が悪くなつたから帰つてくる様に使にきた子供と急いでかえりましたがその時はすでにおそく天に召されてしまいました。何の苦痛もなく短時間に昇天いたしました。

神の聖旨が何処にあるかわかりません。只聖名を崇めております。病身の私の良き半身が取り去られてしまいました。杖をとられた様な状態です。

何卒御祈り下さいませ。生前色々とお世話になりました。厚く御礼申し上げます。私のためにもつゞいて御祈り下さいませ。

また御葬式に多数御出席下さり有難う御座いました。厚く御礼申し上げます。

この週報のノートは家内の地上の最後のものです。

なやみの日にわれを呼べ

我なんじを援けん

一九六五年一〇月三一日

なやみの日にわれを呼べ我なんじを援けん而してなんじ我をあがむべし (詩五十の十五)

この故に我らは斯く多くの証人に雲のごと囲まれたれば、凡ての重荷とまとえる罪とを除け、忍耐をもて我らの前に置かれたる馳場をはしり信仰の導きてまた之を全うする者なるイエスを仰ぎ見るべし。彼はその前に置かれたる歓喜のために、恥をも厭わずして十字架をしのび、遂に神の御座の右に坐し給えり、

なんじら倦み疲れて心を喪うことなからんために罪人らの斯く己に逆いしことを忍び給える者をおもえ。

(ヘブル十二の一―三)

そは肉体の父は暫くの間その心のままに懲しむることを為しが、靈魂の父は我らを益するため、そのきよきにあらずからせんとて懲めたまえばなり。凡てのこらしめ、今は喜ばしと見え、反つて悲しと見ゆ、されどこれによりて練習する者に、義の平安なる果を結ばしむ。されば衰えたる手、弱りたる膝を強くし、足なえたる者のあゆみ外すことなく、反つていやされんために汝らの足に直なる途を備えよ。(ヘブル十二の十一―十三)

我らの大祭司は我らの弱きを思い遣ること能わぬ者にあらず、罪を外にして凡ての事われらと等しく試みられ給えり。この故に我らは憐憫を受けん為また折に合ひ助けとなる恵を得んがために、憚らずして恵の御座に來るべし。

(ヘブル四の十五―十六)

家内が突然亡くなりまして半身を失つたような気がいたします。

本当によく行き届いた家内で信仰的にも、よく私を理解し、家事に、教会の掃除に一切に週報の整理にと全く自分を亡くして働いてくれました。ことに私が病に倒れてからは、どこへ行くにも私に付き添つて細かく心使いをしておりましたので、今は何だか家内を失つたことが不幸のすべてであるかのような感じさえ致しますこの私の弱い心を思ひやつてくださるのはイエス様だけだと思います。イエス様は罪をおかす以外は、貧乏も病氣も人間のすべての苦し

みを経験して下さつたのです。栢植先生も胃癌になつて本当に苦しい状態のときに届いて下さつたのはイエス様だけだと云つておられます。

主は自ら試みられて苦しみ給いたれば、試みらるる者を助け得るなり。(ヘブル二の十八)

私を助ける方により頼んで此度も祈つていきたいと思ひます。

祈りさえすれば必ずこの困難も乗り越えられると思ひますので、ここを通過する為に、心を失わないで祈らせて下さいとイエス様にお願ひしております。

なんじら心を騒がすな、神を信じ、また我を信ぜよ。(ヨハネ十四の二)

今度の九州修養会で沢村先生の説教の中に、「私が六十年の信仰で体験したことで、ことごとく益で無いものは無かつた」と云つておられます。

なんじら心を騒がすな、神を信じまた我を信ぜよ 神様は必ず最善をしてくださると信じております。

その為にもどんなことでもお願ひしてお祈りしていかねばならないと思つております。

私の為にイエス様が十字架にかかり、よみにまで下つてくださつたのです。

純粹な信仰の為に、私はこれからも生きて行かねばならないと思ひます。

消 息

去る二十四日午後二時、家内の納骨を無事終りました。皆様のお祈りを感謝いたしております。

引き続き、久保山兄の為に、麻生兄、瀬尾兄、金生姉の為に祈りください。

又私の伝道の為、新しい力に満されますように祈りをお願いします。

神もし我らの味方ならば

誰か我らに敵せんや

一九六五年二月七日

神を愛する者、すなわち御旨によりて召されたる者の為には、凡てのこと相働きて益となるを我らは知る。

神は予じめ知りたまう者を御子の像に象らせんと予じめ定め給えり。これ多くの兄弟のうち、御子を嫡子たらせんが為なり。又その予じめ定めたる者を召し、召したる者を義とし、義としたる者には光栄を得させ給う。然れば此等の事につきて何おか云わん、神もし我らの味方ならば誰か我らに敵せんや。己の御子を惜まずして我ら衆のためにおたし給ひし者は、などか之にそえて萬物を我らに賜わざらんや。誰か神の選び給える者を訴えん。神は之を義とし給う。誰か之を罪に定めん、死にて甦えり給ひしキリスト・イエスは神の右に在して、我らの為に執成し給うなり。

我らをキリストの愛より離れしむる者は誰ぞ、患難か、苦難か、迫害か、飢か、裸か、危険か、剣か、録して

「汝のために我らは、終日殺されて屠らるべき羊の如き者と為られたり」とあるが如し、然れど凡て御使いも、権威ある者も、今ある者も後あらん者も、力ある者も、高きも深きも、此の他の造られたるものも、我らの主キリスト・イエスにある神の愛より、我らを離れしむるを得ざることを。(ロマ八の二八―三九)

神さまは私の味方です。神さまはどこまでも私のことを思いやつてくださいます。

私は今の苦しみのために、神様を私の側から離したくはありません。私は、私だけの苦しさとか悲しさを、自分の側からだけ考えてはいけなと思います。

家内にはもう神様がついていてくださるのです。家内の事は神さまにまかせて、私は此の度の試験を通して、より大きな神の栄光を受けるために、神に従ひ私の馳せばを走ります。

讀むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、その大いなる憐憫に従ひ、イエス・キリストの死人の中よ

り甦えり給えることにより、我らを新たに生れしめて生ける望みを懐かせ、汝らの為に天に蓄えある朽ちず、汚れず、萎まざる嗣業を継がしめ給えり。汝らは終りのときに現われんとて備わりたる救いを得んために、信仰によりて神の力に覆らるるなり。この故に汝ら今暫しの程さまさまの試練によりて甦えざるを得ずとも、なお大いに喜べり。汝らの信仰の驗しは壞つる金の火にためさるるよりも貴くして、イエス・キリストの現われ給うとき、誉れと、光榮と、尊貴とを得べきなり。

この故に、なんじら心に帯し、慎みてイエス・キリストの現れ給うときに与えられんとする恩恵を棄わずして望め。
(マテローの三〇七、十三)

今度こそ昔の信仰に帰つて祈つて行かねばならないのです。
事情や境遇、感情を越えて、太陽のように変らず毎日お祈りを続けて行きたいと思ひます。

前の家内が死んだとき、思うよりいたく勝つた家内を新らしく与えて下さつた神さまが、これからも思うに勝つたことをしてくださると思ひます。

信仰を持つてこれからの生涯をやりぬいていきたいと思ひます。

視よ今われは心揺められて、エルサレムに行く。彼処にて如何なる事の我に及ぶかを知らず。然れど我が走るべき道程と主イエスより承けしつとめ、すなわち神の恵の福音を証する事とを果さん為には固より生命をも重んぜざるなり。
(使徒行伝二十の二十一―二十四)

報 告

本日礼拝後青年会があります。クリスマス行事についての打ち合わせなどいたしたいと思いますので、多数御参会下さい。来週は壮年会があります。

消 息

久保山兄・瀬尾兄・麻生兄・金生姉の為に続いてお祈り下さい。私の健康の為に、伝道の為にお祈り下さい。

エホバを頼みエホバをその

たのみとする人は福なり。

一九六五年二月一四日

われ朝まだきおきて呼ばわれり、われ御言葉によりて望みをいだけり。夜のときの来らぬに先たち、わが眼はさめて汝のみことばを深く思う。ねがわくはなんじの仁愛に従いてわが声をききたまえ、エホバよなんじの審判にしたがいて我をいかしたまえ。(詩一一九の一四七―一四九)

かつて私が苦しんでいたとき、私はいつも報告して神様により頼んでおりました。

その頃は非常に困難な戦いの毎日でありましたが、祈りによつて神により頼みなんとか切り抜けて参りました。私共が能力ある生活を送ることができないのは神により頼む生活をしていないからであります。己の力や、人間の力に頼んで神を忘れてゐるからであります。

エホバかくいい給う。おおよそ人を頼み肉をその力とし心にエホバを離るる者はのろむべし。彼は荒野にすてられたる者の如くならん。彼はよき事の来るを見ず、荒野の燥きたる処塩あるところ人の住ざる地に居らん。

(エレミヤ十七の五―六)

青年時代私は己が力をより頼み、精神一倒何事か為らざらん、と一大決意で上京し苦学しました。然しその結果は病に倒れ、希望から絶望へ急転直下の悲哀を味わされたのです。

おおよそエホバを頼みエホバを其の頼みとする人は幸いなり。彼は水のひとつりに植えたる木の如くならん。其の根を河にのべ炎熱きたるも恐るるところなし。その葉は背くひでの年にも憂えずして絶えず実や結ぶべし。

(エレミヤ一七の七―八)

フレンド先生は、一アフリカには水の流れていない大きな川があり、その河のほとりに木が生えているが、その木には青い葉が絶えることなく繁つている。どうしてかという、その木の根は、川の地下深く流れている水脈にまで深く地底に分け入っているからです。一 というお話をなさいました。

たとえ表面は枯れたように見えるような川のほとりの木も、実はその底深く流れる水脈に根を張っているから、どんな炎熱にも変わることもない背葉を繁らせることができるのです。

私達が信仰の根を神の水脈に届くように深く張っているならば、どんな困難な境遇が私共をとり巻いても、いつも変わらぬ能力に満たされてそれを乗り越えて行くことができるのです。

エホバに依り頼む者はシオンの山の動かさるること無くして永遠にあるがごとし。エルサレムを山のかこめるが如く、エホバも今よりとこしえにその民をかこみ給わん。(詩一二五の一―二)

神により頼む生活は、シオンの山が永遠に動かされることのないように、どんな場合でも動かされることがなく、私たちをとり囲むようにして庇護して下さると約束しておられます。

約束を信じて祈り続けましょう。

報 告

本日礼拝後壮年会をいたしますのでお残りください。

十九日の金曜日は当教会で婦人会をいたしますので多致御参加下さい。

消 息

麻生兄の御容態が少しよくなつておられる御様子です。どうぞ引続きお祈り下さい。

信仰の祈りは病める者を救わん。主かれを起し給わん。(ヤコブ五の十五)

久保山兄、瀬尾兄、金生姉の爲にも心を注いでお祈り下さい。

私の健康のためにも、伝道のためにも主が働き給うようお祈り下さい。
委しく御一人御一人に御礼やら近況やらお知らせいたしたいのですが、まだ落付けず失礼しております。他の事に目
がつき易いものです。何卒仰ぎ望んで前進出来ませう様に御祈り下さい。

心をたしかにつゝしみて祈りせよ

一九六五年二月二日

萬の物の終り近づけり然は汝ら心をたしかにしつゝしみて祈りせよ、何事よりも先づ互に熱く相愛せよ、愛は多く
の罪をおゝえばなり (ペテロ前四〇七、八)

私は此度突然の妻の死によつて目下の所傷心状態であります。

この前の妻を亡くした時或兄弟より如何に祈るべきかといふ書物をいたゞきその中に祈つた時あなたへの心はたしか
でしたか。その姉妹はたしかでなかつたといつて悔り心をたしかにして祈つた時答えられたといふことが記されて
おりました。御祈りの時私共に大切な事は心がたしかである事でありませう。

汝らの中もし智恵の欠くる者あらばとがむる事なくまた惜しむことなく凡ての人に与ふる神に求むべし然らば与え
られん但し疑ふことなく信仰をもて求むべし疑ふ者は風に動かされてひるがえる海の浪のごときなり斯る人は主より
何物をもりくると思ふな斯かる人は一心にして凡て歩むところの途定りなし (ヤコブ一の五〇八) とあります様に、

御祈りする時には心をたしかにして疑ふことなく祈つてゆかねばなりません。

私も傷心状態で最近中々祈れません。最近敬虔の大いなる奥義を拝読して教えられることは眼がさめてねむれない時は祈つて聖書を拝読出来る様になればと教えられました。

矢張り心の傷がいやされて一日も早く祈つて聖書に親しめる時を祈り求めております。

妻の存在が如何に大きかつたものであつたかを教えられました。

教会の事家庭の事私の病気の事と過労ではなかつたのではないかと後悔いたします。後悔は先に立ちません。これからの生活を何とかして最善にしたいと思つて祈つております。

御牧先生の御生涯も苦難の多い様でした。然し早朝目がさめると聖書にみたまされていたとよましていたどきました。私もねむれぬ夜のために朝早く目さめた時に聖書をよむことゝ祈ることに心を決めまして大分落ついてきました。

世界のクリスチャンが心をたしかにして祈つてゆかねばならない時となつております。ベトナムの戦争を思ふても世界の状況を見ましても萬物の終り近づけりといふ感が深いのであります。

日支事変の時尾崎行雄氏は支那は眼れる竜だといふて居られました。目がさめたら日本は勝つことは出来ないと言ふておりました。何故なら日本が漢字を使つている間は精神的に敗北しておるからと言われました。

私共も心がたしかでなくて如何に熱心であつても犠牲的な生涯を送つても信じて祈る事が出来なくてはその祈りは空をうつつが如きものであります。

私の身辺にはサタンの働きがはげしい様に思います。

何事よりも先づ互に熱く相愛せよ、愛は多くの罪をおくえげばなり（ペテロ前四の八）

傷心の状態の自分の心境周囲先づ互に相愛せよといふ事が大切であります。

敗北后日本中がお互が熱く相愛する事が出来たらどんなに幸いだらうと思ひました。

心をたしかにして父よ彼を赦し給えそのなす事を知らざる故なりと祈られた主の如く私共が毎日を過してゆく事が出来たらと思ひます。

このように心をたしかにして信じて相變して祈つてゆく時見ゆる処は如何であつても問題はありません。汝らも忍べ汝らの心を堅ふせよとの聖言に従つて毎日を淋しい思いで過しております。

ともすれば後をかえり見て心を失いやすい者ですが心を堅くして祈つてゆきたいと思つております。

報 告

十一月二十一日礼拝謝恩デーです。謝恩献金をお願いします。

消 息

大分寒くなりました。御祈り有難う御座います。私も御祈りに支えられて相変らず御用をいたしております。

一ヶ月たちました。少し落付けましたが只今傷心状態といふ処です。言ふことの出来ない淋しい心の状態です。何卒お祈りして下さいませ。

心をたしかにしたいと苦勞しております。二十年前は追われた様な生活でしたから考える暇がない位でしたが今日此頃シミジミと人生の無情を感じます。落付けたらお便りを書きたいと願つておりますが、弱い者のために祈つて励まして下さい。今日の週報は私が書きました。

エホバを待ち望め、雄々しかれ、汝の心を堅うせよ。

必ずやエホバをまちのぞめ。

一九六五年二月二八日

わが声をあげて叫ぶときエホバよ聴き給え。

また隣みてわれに応えたまえ。なんじら我が面をたずね求めよと（斯る聖言のありしとき）わが心なんじにむかいてエホバよ我なんじの御顔をたずねんと云えり。ねがわくは御顔をかくしたまうなかれ。怒りてなんじの僕を遠ざけ給うなかれ。我が父母我をすつるともエホバ我を迎え給わん。エホバよ汝の道をわれに教え、わが仇のゆえに我を平らかなる途にみちびき給え。いつわりの証をなすものあらびを吐くもの我にさからいて起りたり。

願わくは我を仇にわたしてその心のまゝに為さしめ給うなかれ。われもしエホバの恩寵を生ける者のくにて見るのたのしみなからましかばいかぞや。エホバを待ち望め、雄々しかれ、汝の心を堅うせよ。必ずエホバをまち望め。私たちの生涯は楽しいときはかりではありません。云うことのできない患難のときが度々あります。患難の中で真に助けがほしいときこの世の人は助けようとしてくれません。

なやみの日に我をよべ我なんじを援けん。（詩五十の十五）

然し患難のときに私に來いと云つてくれる方があるということはまことに感謝であります。

然し患難があまりにも深いとき、私共は見ゆるところに心を奪われ依り頼む心の弱つていくのをどうすることもできないようなことがあります。然しそういうときこそ祈り勇氣を出して待ち望んで行かねばならないのです。

エリヤはカルメルのいただきに登り、地に伏して其の顔をひさの間に入れいたりしが、其の若者にいいけるは請う上

りて海の方を望めと、彼上り望みて何もなしといければ再び往けといいて遂に七次に及べり。七次に及びて彼はいけるは視上海より人の手のごとくすこしの雲起ると。エリヤいう上りてアハブに雨に阻められざるよう車を備えて下り給えというべしと。にわかには雲と風おこり、空黒くなりて大雨ありき、アハブはエズレルに乗り往けり。

(列王記略上十八の四十二〜四十五)

ユダヤの民が、バアルを離れて神の前に悔い改めたとき、エリヤは神に求めて三年六ヶ月降らなかつた雨を再び降らせて下さいと祈りました。然し神は一度でエリヤの祈りを聞かれたのではないのです。

若者に海の方を望ませることが実に七次に及んだと聖書に書いてあります。

この黙示はなお定まれるときを待ちてその終りを急ぐなり。偽りならず若し遅くあらば待つべし必ず臨むべしとどこおりはせず。(ハバクク二の三)

偽りならず若し遅くあらば待つべし……と繰り返すように云つて下さる神様のことを信じて、私共は祈り続けねばならないと思います。

消 息

久保山兄、瀬尾兄、麻生兄、金生姉の病気の為にお祈り下さい。

私の健康のため、引き続き御用ができますよう、聖霊の御働きをお祈りください。

凡てのこらしめ喜ばしからず

一九六五年二月五日

凡てのこらしめ今は喜ばしと見えす反つて悲しと見ゆされど後これによりて練習する者に義の平安なる果を結びしむ、されば衰えたる手弱りたるひさを強くし足なれたる者のふみはずすことなく反つていやされんために汝らの足に直なる途を備えよ。(ヘブル二二の一一―一三)

私は今家内を亡くしたといふ試練に会いました。之は決して喜ばしいとは思いません。反つて悲しいと思えます。私は傷心状態にてたまらなく淋しい日々がつどきます。或人にきいて見ました。一体どうした状態はどの位つどくものだらうかと。其人は三年位はと答えられました。

私は最も不幸な妻を亡くすといふ様な運命にどうしてなつたのだらうかと或時は神様の聖旨がわからなくなりまして。然し聖書は善にして善を行い給ふと教えております。矢張り最善なのだと祈りつゝ心の悲しみをしづめて居ります。

大病にかゝつた時私は考えました。最も私の困難な時にきてたすけて今日に至らしめた妻のために一日でも余計生きてやらねばならぬと考えて療養につとめました。而して三年間生きながらえることが出来ました。私は何時の間にか天に向つていた生活から地の事を思ふ生活に移つていたのであります。

私は天的な生活、即ち靈的な生活をさせて下さるために突如妻を天に召して下さつたのではないかと考える様になりました。

妻は余人をわすらわさずに召されたいと常に口にしており、祈つてもおりました。それですから一番神様は最善をなして下さつたと考え乍ら私の心は落付きません。聖書の御言の如く悲しと思われてなりません。

されどこれによりて鍛練する者には(元訳)とありますから鍛練されてどうか義の平安の果を結びたいものと祈つております。

二十年前も同じ経験をして聖言に只管たよつて祈つてきりぬけてきたのですから此の度も何としても聖言を与えられて植植先生によつて救われた当時の信仰に立ち帰つて進みたいと願つております。

わが子よ主のこらしめを軽んずるなかれ、主に戒めらるるとき懺むことなかれ（ヘブル二の五）との聖言に従つて今度こそは早く立帰らせていたゞき祈つてゆきたいと思ひます。

信仰の導師また之を全ふする者なるイエスを仰ぎ見るべし彼はその前におかれたる歓喜のために恥をもいとわずして十字架を忍び遂に神の御座の右に座したまはり（ヘブル二の二）

主イエスもその前におかれたる歓喜のために恥をもいとわず十字架を忍んだとあります。

私も妻の平安なる果を結ぶ喜びを前において此の苦難をのりこえてゆきたいものです。

かくてわが靈魂にいわん、靈魂よ多年を過すに足る善き者を貯えられば安んぜよ飲み食いせよ樂しめよ

（ルカ二の一九）

自分が生きてさえおればと自分をあてにしておりました処、妻は俄然召されてしまいました。

妻の亡きあとのみじめさ神に就て富まさる者は此の如きものなりとの聖言の如くです。

天に目をつけて聖言に依頼んで本當の信仰生活をしてゆきたいと願つております。

私は何時のまにか地に目がついてしまひます。

専ら祈ることゝ聖言につかえてゆく生涯を悔改めて始めてゆきたいと祈つております。

報 告

謝恩デ―献金をお願いいたします。

消 息

本年も十一ヶ月も終わりました。御祈りに支えられて私も保たれております。

手紙がなかなか書けないので私の今日此頃の状態を書きました。何卒御祈り下さい。

感謝して汝らの求めを神に告げよ

一九六五年二月二二日

何事をも思い思ふなたゞ事ごとに祈りをなし願をなし感謝して汝らの求を神に告げよ、さらば凡ての人の思いにすぐる神の平安は汝らの心と思とをキリスト・イエスによりて守らん。(ピリピ四の六)

平穩無事な時はとにかく少し試練の中を通される時如何に色々な事に思い思ふ者であるかということはこの頃教えられるのであります。この主の御誠を守る事が出来たら問題はないのであります、それがいざ試練に直面すると実行する事が困難であるといふことをシミジミさとります。

御祈りして答えられるために忘れてはならないことは、今迄受けし恵について感謝することであることを示されました。

二十年前の同じ様を試練の時には戦争中でした。物資は乏しく空襲といふ様な中にその上に子供は小さく独りわびしく痛い心を抱きつゝ迷ふておりました時を考えますと今は平和な物質の豊かな毎日です。家もあります。何一ツ不自由のないのに家内が急死したといふことによつてともすれば思い煩い易い毎日を送つておるのであります。

何事をも思い思ふなたゞことごとく祈りをし、願いをし且つ感謝して己が求めを神に告げよとの聖言を實行してゆきたいと願つております。

過去をふりかえりますとき如何に多くの祈りに答えられしかを思います時それに対して感謝の足りないことを示されるのであります。

夜明の四時頃イエス海の上を歩みて彼らに到り給いしに弟子達其の海の上を歩み給ふを見て心騒ぎ変化の者なりと言ひておそれさけぶ。(マタイ一四の二五、二六)

私共最暗黒の時は何も見えなくなりませす。弟子達も主が変化の如く見えただのであります。

私も最暗黒といふ時で客観的に自分の立場を考える事が出来なくなりました。悲劇の主人公に自分をしてしまひ易

いのであります。

心安かれ我なりおそるな（マタイ一四の二七）と主は仰せられます。

終戦后ダレス國務長官がアメリカからきて単独講話もおそるといふことに勝つことが出来たら大丈夫だと言われました。思い煩いやおそれに勝つことが出来て凡ての事感謝すべしとの聖言に従つて歩むことが出来たら勝利の毎日を送ることが出来るのであります。

それだのに風を見ておそれ沈みかゝります。大試練といふ事に心がとられ目が注がれておそれしつみ易いのであります。

私共はもつと感謝しなければなりません。現在生きておるだけでもそれに一切がそなえられておるのですから恵をかぞえよ一ツづゝ主イエスの恵をかぞえなばおそるゝことなくほめりたわん、とあります如くです。

私もうけしお恵を教えて感謝して強く生きてゆきたいと思つております。

いつの間にか妻を亡くしたといふ一事に心が傾いて主を見上げることが出来なくなつていたのであります。

最近ば身体の調子が一寸悪くても恐れ易いのであります。少し声が出なくなると心臓が悪いのではないかと、その時感謝してことごとく祈つてゆく事が出来れば勝利なのです。

たしかに祈りに力の欠亡する一ツの理由は私共がすでに受けた恵に就いて感謝することを怠るからであります。

祈る時信仰をもてぬ理由も既に受けし恵を回想して神に感謝しないからであります。今日は感謝してという聖言に就て教えられたいと思つて導かれて語りました。

報 告

十二月十二日礼拝后壮年会をいたします。

クリスマス献金お願いいたします。

十二月十七日（才三金）正午七限の末永姉宅にて婦人会クリスマスがであります。多数御出席下さい。

汝らの神を見よ

一九六五年二月二六日

なんじらなえたる手を強くし弱りたる膝をすこやかにせよ、心ざわがしき者に向いていえ、なんじら雄々しかれ、恐るるなかれ、なんじらの神をみよ、刑罰きたり神の報きたらん、神きたりてなんじを救いたまうべし。

(イザヤ三十五の三一―四)

昔はお祈りのとき手をあげて祈っていました。いつでも祈つておれば勝利が与えられました。

最近では自分の健康がすぐれないため下を向いてしまつて、上を見あげない状態になりやすいのです。現在のように健康でないときには仲々元気を出して祈ることが出来ません。

こんなときには健康があるということが何よりも大切なことであるかのように思いやすいのです。

然し私共の生涯で一番幸いな生活は主が共にいますということです。

私共は主と共なる生活のことを忘れ、いろいろこの世のことに幸いがありそうに思いやすいものです。

みんなサタンにだまされているのです。

我々はともすると、この地上のいろいろなことを神様とおきかえて考えています。トローレー先生の本に「あなたは健康や、お金や、いろいろの物を神様と同じ側に立てていませんか」ということが書いてあります。どんなよい物でも神様と同格にしてはいけません。

私達の頼るべきお方は神だけであるのに、すぐ他の物を神と置き換えて、それに望みを置こうとするのです。ここに私達の不幸があるのです。

願わくは、我らの中に働く能力に従いて、我らの凡て求むる所、すべて思う所よりもいたく勝る事をなし得る者に、栄光世々限りなく教会によりて、又キリスト・イエスによりてあらんことをアーメン。(エペソ三の二十・二十一)

私共の思いに勝つて良いことをして下さる方が居られるということが徹底いたしましたと勝利が来ると思っています。私達は神を通して、キリストというレンズを通していろいろなことを見たいのです。現実はこの世の中に生きている以上、心騒ぐことがたくさんあります。然し色眼鏡で見ないで神は愛なり、神は必ずよいことをして下さると信じていかねばなりません。

そのとき目しいの目はひらけ、耳しいの耳はあくことを得べし。(イザヤ三十五の五)

ひたすら神を見上げていつたとき目しいの目が開け、耳しいの耳があいて聞こえるようになったのです。

そのとき足なえは鹿のごとくにとび走り、おおしの舌はうたうたわん。そは荒野に水わきいで砂漠に川流るべければなり。(イザヤ三十五の六)

又足なえの人でも鹿のように走ることができ荒野に水がわき砂漠に川が流れるという不思議なことが起るのです。

かしこに大路あり、そのみちは聖き道ととなえられん、けがれたる者はこれを過ぐることあたわず、たゞ主の民の為に備えらる。これを歩む者はおろかなりとも迷うことなし。(イザヤ三十五の八)

私達は苦しみを通して潔められます。悩みを通して神に求めることを教えられます。困難のとき力を落さず、神の深い心を悟つて、唯一の助け主である神を見上げ続けていきたいと思えます。

報 告

十二月二十六日夜七時よりクリスマス祝賀会。一月二日十時より新年礼拝と才一回礼拝をいたしますから、一日の新年礼拝は連合礼拝に御出席下さい。

一月連合集会

- 一月一日 午後二時 荒戸町福岡バプテスト教会
一月三日 午後二時 初週祈禱会大かん基督教教会 (市内大黒町 千鳥橋下車)
一月四日 午後二時 福岡神の教会 市内弥生町三十一(早良口)

消 息

御祈りに支えられて一年を終ることが出来ました。感謝です。良き新年を迎えられます様祈ります。試練の中におります弱い者のために御祈り下さい。

兄弟も既にとらえたりとは思はず唯この一時をつとむ (ピリピ三の十三)
後のものを忘れ前のものに向いて励み (ピリピ三の十四)
神のキリスト・イエスによりて上に召し給ふ召しにかゝわるほうびを得んと之を追い求む (ピリピ三の十四)

信ぜし者は幸いなり

一九六六年一月二日

信ぜし者は幸いなるかを主の語り給ふことは必ず成就すべければなり (ルカ一の四十五)
四十年間さまざまの中を通つてきました。

信仰はある時期を通り抜けることによつて進められます。今は丁度その時期に当ると思います。
現在のうちに健康が充分でないといつて祈つていて神様のお答えが待ち遠しく感じます。

しかし聖書のおことばは一べんに成就するものではありません。救い主誕生のことも七百年前にイザヤが予言して
りました。七百年間のイスラエルの民は試練の後にイエス様が現われなされたのです。

信ぜし者は幸いなるかを。主の語り給うことは必ず成就すべければなり。 (ルカ一の四十五)
そのときが来れば必ず成就されるのです。 (ルカ一の二十)

このうち我見しに見よもろもの國、疾、民国語の中より誰も数えつくすこと能わぬ大いなる群衆しるきころもを
まといて手にしゆるの葉を持ち御座と小羊との前に立ち、大声に呼びわたりていう、「救いは御座に坐したまう我らの
神と小羊とにこそ在れ」御使いのみを御座および長老たちと四つの活物との周囲に立ちて御座の前に平伏し神を拝して
いう。「アアメン、讚美・栄光・知恵・感謝・尊貴・能力・勢威・世々限りなく我らの神にあれ、アアメン」長老た
ちの一人われに向いていう「この白き衣をきたるは如何なる者にて、いずこより来りしか」我いう「わが主よ、なん

「知れり」かれ云う「かれは大なる患難より出できたり、小羊の血に己が衣を洗いて白くしたる者なり。この故に神の御座の前にありて昼も夜もその聖所にて神につかり。御座に坐し給う者は彼らの上に幕屋を張り給うべし。彼らは重ねて飢えず、重ねて渴かず、日も熱も彼らを侵すことなし。」（黙示録七の九―十六）

これは天国のありさまです。我々は患難に直面しますと、そのことはかりを考え、患難を通して天国に潔め導こうとする神の御心を見失いやすうございますが黙示録のこの章は充分味わつて教えられたいと思います。

イスラエルの国民もずいぶん苦しい中にありました。その中で御言葉を頼みにしておりました東方の博士たちをとを学ばねばいけません。いざというときの助けはほかにありません。

彼は望むべくもあらぬときにお望みて信じたり。これ汝の末は斯くの如くなるべしと云い給ひしに従いて多くの国人の父とならん為なりき。（ロマ四の十八）

我々は絶望のとき、せん方尽きたとき、なお望みを持たねばなりません。

アブラハムは状態を見たときは子供が生れるとは思えませんでした。然しそのとき彼が信じたのは御言葉でした。必ず神様が約束を果してくださいと信仰があつたから信じられないうような状態の中でなお信じていつたのです。

二十年前も非常な苦しみを味わいました。

今度もまたこのような経験をするのは何かイエス様の御心があるのだと思います。

何とか御言葉を信頼し、この中を通り抜けていきたいと思ひます。自分の状態に打勝つて約束を見上げていきたいと思ひます。

消　息

久保山兄、麻生兄、斉藤兄、瀬尾兄、金生姉の病気がいやされますよう引き続きお祈りください。

私の健康の為、よい伝道ができますように、どうぞお祈りをお願いいたします。

今年元気で御奉仕したいと願つております。毎日淋しくしておりますから何卒格別御祈りお願いいたします。

汝ら恵により信仰によりて救われたり

一九六六年一月九日

汝ら前にはとがと罪とによりて死にたる者にして、この世の習慣に従い、空中の権をとるつかさ、すなわち不従順の子らの中に今なお働く輩のつかさにしたがいて歩めり。

我等もみな前には彼らの中におり、肉の欲に従いて日を送り肉と心との欲するままをなし、他の者のごとく生れながら怒りの子なりき。

されど神はあわれみに富み給うが故に我らを愛する大いなる愛をもて、とがにより死にたる我等をすらキリスト・イエスによりてキリストと共に生かし、汝らの救われしは恵によれり。共に甦えらせ、共に天の処に坐せしめ給えり。これキリスト・イエスに由りて我らに施したまうなさけをもて、其の恵の極めて大いなる富を来らんとする後の世々にあらわさんとてなり。汝らは恵により、信仰によりて救われたり、これおのれによるにあらざ神の賜物なり。

行いによるにあらざ、これ誇る者のなからんためなり。我らは神に造られたる者にして、神のあらかじめ備え給ひしよきわざに歩むべく、キリスト・イエスの中に造られたるなり。(エペソ二の一―十)

先日ある教え子が私の家に参りました。

彼女はカトリック系の高校を出て、プロテスタント短大を卒業しましたが、高校時代は犠牲、犠牲でずいぶんしはられ、大学に行つてやつと明るくなりましたと云つていました。私は「凡て勞する者、重荷を負う者われに來れ、われら汝らを休ません。我は柔和にして心ひくければ、我がくびきを負いて我に学べ、さればたましいにやすみを得ん。わがくびきは易く、わが荷は軽ければなり」など二、三の聖言を引照し十字架と福音についてあかしをいたしました。が、何だか驚いたような、不思議なようすでした。不思議な摂理でこの大瀧公園教会に導かれ、スムーズに福音を信ずることができ自分の幸いを思うとともに、恵みによつて救われるという信仰を説く教会の少なさを残念に思いました。(以上津留崎述)

現在の教会の多くは山上の垂訓などを中心に、おきての面を強く説く教会が多いのです。

戒めは人間を功めるためのものでなく、人間を守るためにあるのです。聖言に功められるのでなく、聖言を信じて救われるのです。

私は今深い悩みの中にありますが、エゼキエルのことを思いがんばらねばと思いません。

朝に我人々に語りしが夕にわが妻死ねり明朝におよびて我命ぜられし如くなせり（エゼキエル二四の一八）

エゼキエルも妻を失くしましたが神の御言葉に従つて一生予言し続けました。

ダビデも云うことのできない悩みの中で信仰を守り抜きました。

みよ今我は心からめされてエルサレムに行く。かしこにていかなることの我に及ぶかを知らず。ただ聖霊いづれの町にても我に証してなわめとなやみと我を待てりと告げたまう。

されど我わが走るべき道程と主イエスよりうけしつとめ、すなわち神の恵を証する事とを果さんためにはもとより生命をも重ぜざるなり。（使徒行伝二十の二十二―二十四）

私は神の恵をのべ伝えなければなりません。

祈れば答えられるという信仰を証していきたいと思えます。

この苦難の中に在つて恵の福音を証するということのために余生を過したいと念願しております。然し仲々色々の中ですれば何かしなければという律法的な心におされて福音的に生きるといふ事は如何に困難であるかといふ事を感じ折つてたくかつておるのであります。

報 告

一月九日礼拝後壮年会をいたします。壮年の方はぜひお残りください。

今月は青年会も礼拝後にいたしますから沢山御出席下さい。

消 息

久保山兄、麻生兄、斉藤兄、金生姉が病いとのお戦いを続けておられます。どうぞ神の御手を動かす祈りを切にお願いたします。私の病いの為にもどうぞ続けてお祈りください。

救いは御座に坐したもう我らの神と

小羊とにこそあれ

一九六六年一月一六日

この後われ見しに、視よ、もろもろの國、族民、國語の中より、誰も教えつくすこと能わぬ大なる群衆、しるき衣を纏いて手にしゆるの葉をもち御座と小羊との前に立ち、大声に呼ばはりて云う「救いは御座に坐したもう神と小羊とにこそあれ」

彼らは重ねて飢えず、重ねて渴かず、日も熱も彼らを侵すことなし、御座の前にいます小羊は彼らを牧して生命の水の泉にみちびき、神は彼らの目より凡ての涙を拭い給うべければなり。(黙示録七の九〜十。七の十六〜十七)

伝道を始めましてから四十年絶えずイエス様によつて救われることを語つてまいりましたが、このごろしみじみイエス様にこそ救いがあるということをお教えられます。

私共はともすると心の痛みを人に相談したり、人の経験や方法を聞いてみたいような気がしやすい者でございますが、「救いは御座に坐したまう我らの神と小羊とにこそあれ」ということを忘れてはいけなと思います。

このことは聖書に何回となく約束され、繰り返し証されております。いざというときの救いはやはり神と小羊以外にはないのです。

我らが病める者になしし善き業につき、その如何にして救われしかを今日もしたださるるならば、如ら一同およびイスラエルの民皆知れ、この人の鍵やかになりて汝らの前に立つはナザレのイエス・キリスト、即ち汝らが十字架に釘づけ、神が死人の中より甦えらせ給ひし者の名に頼ることを。このイエスは汝ら家造りに軽しめられし石にして、隅の首石となりたるなり。他の者によりては救いを得ることなし。天の下には我らの頼りて救わるべき他の名を人に賜ひしことなければなり。(使徒行伝四の九〜十四)

ペテロが聖霊を受け神の導きに従つて福音をのべ伝えますとき病める者はいやされ、悩める者は新しい力に満たされ、多くの人が悔い改めてイエスを信じました。事の成り行きを疑えた学者、長老、大祭司らが、どのような力、

どのような名によつてこれらの事が行われたかを問うたとき、ペテロは云いました。

「我らが病める者になしし導き業につき・・・汝らが十字架に釘づけ、神が死人の中より甦えらせ給ひし者の名に頼ることを」

イエスの名によつてペテロは不思議を行い多くの人が救われたのです。

金銭、物、人の力で私たちは救われることはできません。日頃頼りにしている兄弟、夫婦、親子に於いてさえもひとたび利害が相反するといやな争いが起るのです。

いよいよというときに呼び求めるのはイエスの名以外にないのです。

かつて私に助け人がどうしても必要だつたとき、私は聖言を壁にはりつけて祈りました。

彼は望むべくもあらぬときになお望みて信じたり（ロマ四の十八）

見ゆる所ではとても望むべくもない状態でしたが祈りは聞かれよい家内が与えられました。

いろいろな方法手段では役に立たなかつたことも神の名によつて助けられました。

イエス様が隅の首石となつて私共の生涯をささえてくださるのですから、どんな境遇のときにも大いなる信仰を投げ捨ててはいけません。

この黙示はなお定まれる時をまちてその終りを急ぐなり。偽りならず若し遅くあらば待つべし必ず臨むべしとごおりはせじ。（ハバクク二の三）

ただひたすら祈つて約束の成るまで依り頼んで行かねばならないと思います。

報 告

一月二十一日（金）午後一時三十分より定例婦人会が教会であります。多数御出席下さい。

消 息

久保山兄、麻生兄、斉藤兄、金生姉の病いの為にお祈りください。私も格別この頃あなたかなので幸しておりますが然し余りにも深刻な試みなので毎日よりたのんで戦いつゝ過しております。何卒お祈り下さい。

かくてステバノによりて起りし迫害のために散されたる者どもピニケ、クプロ、アンテオケまで到り、ただユダヤにのみ御言を語りたるに、その中にクプロ及びクレネの人、数人ありてアンテオケに来りしとき、ギリシア人にも語りて主イエスの福音をのべ伝う。

主の手かれらと共にありたれば、あまたの人信じて主人婦依せり。このことエルサレムにある教会に聞えられたれば、バルナバをアンテオケに遣わすかれ来りて、神の恩恵を見てよろこび彼等と、みな心を堅くして主におらんことを勧む。彼は聖霊と信仰とにて満ちたる善き人なればなり。ここに多くの人々主に加りたり。かくてバルナバはソウロをたすねんとてタルンに行き、彼に逢いてアンテオケに伴いきたり、二人ともに一年の間しかこの教会に集まりに出て多くの人を教う。

弟子たちのキリストアンととなえらるることはアンテオケより生まれり。(使徒行伝十一の十九―二十六)

使徒たちの働きにより病人がいやされ、多くの人がつきつきに救われ神の栄えが現われると、イエス様を信じない人達のねたみは、激しい迫害となつて使徒達に加えられました。

ステバノの迫害があつて後使徒達は難を逃れてピニケ、クプロ、アンテオケの地方にまで散り、そこで御言を語りました。主の手が彼等と共にありましたので信仰はギリシヤ人にまで広がり、西方への大伝道の基いとなりました。(神様は本当に不思議な機会を促えて、不思議な栄えを現わされます。)

現在私共にはそのような形で迫害はありませんが個人的にはいろいろの形で困難や悩みが起ります。その中にはクリスチャンでさえなければと思うような悩みや苦しみもあります。しかし主の手がいつしよに居るのです。

主の手がのびればひどい苦しみでも助けられていくことができます。

私が鳥取県に伝道して居たころ、私は非常な迫害に会いました。集会の家の戸に石を投げられたり、いろいろいやがらせをされたり、苦しい戦いの毎日でした。しかし主の手が私の上にありますのでそのした中にもどんどん宣教

をし、熱心な信者をつぎつぎに起していくことができました。

かく我ら信仰によりて義とせられたれば、我らの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得たり。また彼により信仰によりて今立つ所の恩恵に入ることを得、神の栄光を望みて喜ぶなり。然のみならず患難をも喜ぶ、それは患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ練達は希望を生ずと知ればなり。(ロマ書五の一―四)

われら四方より患難を受くれども窮せず、せん方つくれども希望を失わず。(コリント後書四の八)
今はまことに苦しい中にもありますがなお希望を持つて祈つてたゞかつて行きます。

事情、境遇がどうであろうと主の手の現われることを信じて希望を持ち続けていきます。

神の手が私といつしよに居れば為す所が皆栄えます。その為には心を強くし勇んでいないといけません。心を堅くしてしないと事情、境遇に負けます。

アンテオケの教会も、そのように心を堅くして主に居ることに努め、パウロとバルナバに導かれまして、遂に最初

にキリストアンと云われるような教会の信者になりました。

私達も励まなければならぬと思います。

消 息

どうか病める兄弟姉妹の為祈りを注いでください。主の手が臨みますようにお祈りください。格別久保山兄のため

に御祈りをお願いいたします。血が足りないので輸血をされております。皆様同兄の為に献血をお願いいたします。

血液銀行にいつも久保山さんにあげたいと申し出て下さいましたら血液型は何型でも同兄に必要な血液型とかがえて下さるそうですから御協力下さい。

私も相変らずたゞかつております。家内を亡して三ヶ月すぎました。格別苦しい淋しい毎日です。どうかたゞかいぬけます様に霊肉のためにお祈り下さい。御願いたします。

心の腰に帯し

一九六六年一月三十日

この故に、なんじら心の腰に帯し、慎みてイエス・キリストの現れ給うときに与えられんとする恩恵を疑わずして望め。従順なる子等の如くして、さきの無知なりし時の欲にならわず、汝らを召し給ひし聖者にならいて自らすべて行状に潔かれ、録して「われ聖なれば、汝らも聖なるべし」とあればなり。またかたよることなく各々の業に従いてさばき給う者を父と呼ばばおそれをもて世にやどるときを過せ。なんじらが先祖たちより伝わりたるむなしき行状よりあがなわれしは、銀や金のごとき朽つる物によるにあらず、きずなくしみなきこ羊の如きキリストの貴き血に由ることを知ればなり。彼は世のはじめのさきよりあらかじめ知られ給ひしが、この末の世に現われ給えり、これは彼を死人の中より甦えらせて之に栄光を与え給ひし神を、彼によりて信する汝らの為なり。この故に汝らの信仰と希望とは神に由れり。なんじら真理に従うによりて魂をきよめ、偽りなく兄弟を愛するに至りたれば、心より熱く相愛せよ。汝らは朽つる種によらで朽つることなき種、すなわち神の活ける限りなく保つ言に由りて新に生れたればなり。「人はみな草のごとく、その光栄はみな草の花の如し、草は枯れ、花は落つ。されど主の御言は永遠に保つなり」汝らに宣伝えたる福音の言は即ちこれなり（ペテロ前一の十三―二五）

三年前に病氣になりその後養生を続けていますが医学にもこれとなるきめてはありません。最近の新聞によりますと、ガンなどの場合でも状態によつて心の動かされない人が手術後五年も十年も生き続けておられるようです。病氣をいやすためには心を動かされないということがたいせつなことです。

ここに書かれてあるように心の腰に帯をしなければいけません。エペソ六章の十四節には「誠を帯として腰に結び」と書いてあります。

神様は真実な方ですからこちらも真実の帯を心の腰にしつかりと結ばなければいけません。今すもうがあつておりますがやはり強い力士は必ず腰がどつしりと落ちてしつかりしております。

私達の信仰においてもそうです。様々な困難問題と斗つて勝ち抜くにはやはり私達の腰がしつかりしていなければ

ならないと思ひます。

しかし四十年間伝道をし、いろいろの体験をしてきて、やはり苦しいときには心が動かされやすくなります。

兄弟よ、主の名によりて語りし予言者たちを苦しみとしのびとの模範とせよ。みよ我らは忍ぶ者を幸いなりと思ふ。なんじらヨブの忍耐を聞けり、主の彼に成し給ひし果てを見たり、すなわち主は慈悲深く、かつあわれみあるものなり。(ヤコブ五の十―十一)

ヨブのようを正しい欠けのない人でも非常な苦しみに会いました。サタンは何とかして信仰を捨てさせようと思ひます。サタンの策に陥らないよう神の愛を信じて忍び抜くことがたいせつです。

主は自ら試みられて苦しみ給いたれば、試みらるる者を助得るなり。(ヘブル二の十八)

イエス様も私たちと同様に人生の苦しみを経験してくださいましたので、私たちが苦しみを思いやつて助けて下さることが出来ます。

どんなことが起つても災いを恐れず信仰を失わないで苦しみを突き抜けていくためにしっかりと心の帯をしめていきたいと思ひます。

汝らのうち苦しむ者あるかその人祈りせよ

一九六六年二月六日

汝らのうち苦しむ者あるか、その人祈りせよ。喜ぶ者あるか其の人讃美せよ。汝等のうち病める者あるかその人教會の長老たちを招け。彼らは主の名によりその人に油をぬりて祈るべし。さらば信仰の祈りは病める者を救わん。もし罪を犯しし事あらばゆるされん。

この故に互いに罪を云い表し、かついやされんために相互に祈れ、正しき人の祈りははたらきて大いなる力あり。エリヤは我らと同じ情をもてる人なるに、雨降らざることを切に祈りしかば、三年六ヶ月の間地に雨降らざりき。かくて再び祈りたれば、天羽を降らし地はその果を生ぜり。わが兄弟よ、汝等のうち真理より迷う者あらんに、誰か之を引き回さば、その人は知れ、罪人をその迷える道より引き回す者は靈魂を死より救い、多くの罪をおおうことを。

(ヤコブ五の十三〜二〇)

さまざまな苦しみの中にあると何かすると苦しみから救い出されはしないかと此の世的な手段を考えようとします。聖書には苦しい者は祈りなさいと書いてあります。手段を考えなさいとは書いてありません。事の全体掃す所は、いかなるときにも神を頼みとし、神を離れ手段を講じないということです。そこにしか真の解決はありません。

ここに十二年このかた血るうを患いて医者のために己が身代をことごとく費したれども、誰にもいやされ得ざりし女あり。イエスの後に来りて御衣の総にさわりたば、血のいずることたちどころに止みたり。・・・イエス云い給う「むすめよ、汝の信仰なんじを救えり、安らかに行け」(ルカ八の四十三、四十四、四十八)

この女の人は十二年の長い病いが身代をことごとく医療のために使いましたがよくありませんでした。しかしイエス様の御衣のはしにでもさわることができれば病いがいやされると信じていましたので、その信仰によつて病いがいやされることができました。

柘植先生の奥様は、お金がなくなりなますと財布を開いて神様に祈つておられました。私の場合もそのようにして、不思議なように神様に助けられて今日まで参りました。

「正しき人の祈りは、はたらきて大いなる力あり」

正しい人というのはイエス様を信ずる事のできる人で信ずる事のできない人には力ある祈りはできません。

「祈りの目的」という本には、仕事がうまくいかないとときにはまづ祈ることが必要だと書いてあります。祈りのできなときにはなおさら祈らねばいけません。そんなときには祈りができるように祈らなければいけません。

信じて祈つていけばどんなにうまくいかないことでも必ず道が開けます。

エリヤは生れつきとくにすぐれたという人ではありませんでした。私共と同じような心持の持ち主だつたと書いてあります。しかしエダヤの民をバアルからエホバに戻すため、せつに祈りましたので三年六ヶ月の間も地上に雨が降らなかつたのです。

信仰を持つてせつに祈るならば誰にでも、このような不思議なことができるのです。

人間的ないろいろなことをせず、神にはできないことはないという考え方で、信仰に關しては非常識と思われるよりな面もあつていいと思います。

神も我らの味方ならば、誰か我らに敵せんや。(ロマ八の三十一)

祈りさえすれば、神様が私たちの味方になつて下さるのですから恐れるものはありません。

どうか祈り続けてください。祈りさえすれば最後には勝利がやつてきます。

報 告

礼拝后青年会がありますので、青年の方はお残りください。

消 息

御病気の兄弟、姉妹のため続けてお祈りください。

氣候が不順ですので私の健康のためにも格別お祈りくださいますようお願いいたします。

才一に凡ての人のために祈れ

一九六六年二月三日

されば、われ第一に勧む、凡ての人のため、王たち及び凡て権をもつもののためにおの願ひ、祈りとりなし、感謝せよ、是我等故けんと謹厳を尽して安らかに静かに一生を過さんためなり、かくするはよきことにして我らの救主なる神の御意に適うことなり。神は凡ての人救われて、真理を悟るに至らんことを欲し給う。それ神は唯一なり、また神と人の間のなかだちも唯一にして、人なるキリスト・イエスはなり。彼は己を与えて凡ての人のあがないとなり給えり、時至りて証せられる。我これがために立てられて宣伝者となり、使徒となり（我は真を云いて虚偽を云わず）また信仰と真とをもて異邦人を教うる教師となれり。この故にわれ望む。男は怒らず、争わず、何れの処にても潔き手をあげて祈らんことを。（テモテ前二の一〜八）

全日空の事故でたくさんの人がなくなりました。ある重役さんは、会議が長びいたので飛行機に遅れそうになりやつとかけつけて間にあつたのに事故にお会いになつてしまいました。

家族の方はいつそ遅れてしまえばよかつたに大変悲しんでおられます。本当に残された方々の今後の不幸を思うとお気の毒でなりません。私も家内を失くして三ヶ月ですが同じような苦しみを経験いたしました。心が痛みます。こういうことのために私共は祈らねばなりません。

私は若い頃書生として、すばらしい大邸宅に置いていただいたことがあります。広い美しい庭があり、茶室、自動車もありました。

女中や書生もたくさんいる、金銭的には何不自由ない大変豊かな家でした。然し外から見ただけは大変よいのですが家の中は大そう冷たく不幸な生活のようでした。

現在は月世界にロケットが軟着陸するような時代です。月世界の写真が次々に送られて世界中は宇宙開発に於ける科学の成果に驚きの目を注いでおります。

一方ではさまざまに病気にかかつてそれをなおすことができずに悩んでいる人が無数にいます。

このようにいろいろな悩みで苦しんでいる人のために祈らなければいけません。

又上に立つ人が宇宙開発の競走はしても、一人一人を幸福にするために何兆円というお金を使おうとはしません。ですから上に立つ人のためにも祈らなければいけません。

祈りの目的という本を読んでもみると、男の人が祈らなければいけないと書いてあります。

男の人は仕事で忙しく祈ることがおろそかになりやすうございます。しかし忙しい程しつかり祈らなければならぬと思います。

私の家に英国製のストーブがありますが、経済的で耐久力があります。何年使つてもちつとも変りません。服地は勿論、電気器具、自動車など英国品は正確で丈夫で世界中に信用があります。それはなぜでしょうか。英国は常に神を中心に置いて国の政治をはじめ、学問や経済が発展して参りました。現在でもオクスフォードや、ケンブリッジ大学では学園の中心に教会があり、学生には厳格に礼拝を守らせます。国民が生活の中心に神を置くことを忘れないように努力して参りました。こういう国は祝されるのです。

汝にえらばれ、汝に近づけられて大庭にすまう者は幸いなり、我等はなんじの家をなんじの宮のきよき処の恵みにあぐことをえん。

汝田みぞを大いにうるおし、畝をたいらにし、むらさめにてこれをやわらかにし、その萌え出するを祝し、また恩恵をもて年のかんむりとなし給えり。汝の途にはあぶらしたたれり。そのしたたりは野の牧場をうるおし小山はみな歡喜にかこまる。牧場はみな羊のむれをき、もろもろの谷はたなつ物におおわれたり。かれらは皆よろこびてよばわりまたりたり。(詩六十五の四、十、十三)

私たちが真に幸いな生活を得るためには、神の大庭に住まうことです。その為聖書を読み、祈り続ける生活に励まなければなりません。

報 告

二月十三日(礼拝后)壮年会があります。多数御出席下さい。

二月十八日(第三金)午後一時半より定例婦人会があります。多数御出席下さい。

消 息

久保山先生のために御祈り下さいまして有難う御座います。少しづつおちつかれております。切に全快をお祈り下さい。金生師も大分よろしい様です。

私事も今年はあたゝかにて毎日元気にすごしております。ついでに御祈り下さい。皆様のために毎日御祈りしております。

信仰を義とせられたり

一九六六年二月二〇日

録してアブラハム神を信じその信仰を義とせられたりとありし如し、されば知れ、信仰による者は、是れアブラハムの子なるを。聖書は神異邦人を信仰によりて義とし給うことを知りて、予め福音をアブラハムにて伝えて云う「なんじによりて、もろもろの国人は祝福せられん」と。この故に信仰による者は信仰ありしアブラハムと共に祝福せられど凡て律法の行為による者はのろいの下にあり。録して「律法の書に記されたる凡ての事を凡て行わぬ者はみな「のろわるべし」とあればなり。律法によりて神の前に義とせらるる事をきは明らかなり「義人は信仰によりて生くべし」とあればなり。律法は信仰によるにあらず、反つて「律法を行う者は之に由りて生くべし」と云えり。キリストは我らの為にのろわるる者となりて律法ののろいより我らをあがない出し給えり。録して「木にかけらるる者は凡て「のろわるべし」と云えばなり。これアブラハムの受けたる祝福のイエス・キリストによりて異邦人におよび、且われ

らが信仰によりて約束の御霊を受けん為なり。(ガラテヤ三の七―十四)

私たちは何か苦しいことに会おうと、何か悪いことをしたのではないかと後を振り返ります。すぐにくつむいて、上を仰ごうとしないのです。信仰というの上を見あげることで、アブラハムの信仰は上を見あげる信仰でした。信仰というのは自分の状態とか、過去とかを考へることではないのです。アブラハムは自分の状態、妻の状態を考へませんでした。

この故に死にたる者のごとき一人より、天の星のごとく、また海辺の数がたき砂の如く、おびただしく生れいでたり。(ヘブル十一の十二)

信仰によりてアブラハムは召されしとき嗣業として受くべき地に出て行けとの命に従い、その行く所を知らずして出で行けり。

神の命を受けたとき、アブラハムは導きに從つて、自分の行きつく先すらも知らず、自分の国を捨て、親族に別れを告げて出発しました。このようにして信仰によつてアブラハムはカナンの地に行き豊かな恩をうけました。

結局人間が一生懸命したといつても限度があります。最近のように新聞の三面をにぎわす大事件がつきつきに起る社会の状態では我々が安全であるという保障はありません。

ですから今のうちに信仰が徹底しなければなりません。私共は昔からの習慣で信仰と道義的な生活を結びつけて考えようとします。信仰は道徳的行いとは別のものです。

信仰とは神の約束を確信し、アブラハムのようにまだ見えないもの、人間の常識で不可能のようなことも、信じて従つていくことであります。そこに私たちの真の幸福があります。真の平安があります。

かくて彼等に云いたもう。「全世界を廻りて、凡ての造られしものに福音を宣伝えよ。信じてバプテスマを受くる者は救わるべし。されど信ぜぬ者は罪に定めらるべし。(マルコ十六の十五―十六)

聖靈、なんぢらの上に臨むとき、汝ら力をうけん、而してエルサレム、ユダヤ全国、サマリヤ、及び地の極までわが証人とならん。(使徒一の四―八)

現在世界中にキリスト教が広がったのも、宣教師や、多くの信者たちの約束を信ずる信仰の結果であります。私たちは人の見た目のよしあしに関らず、信仰で行くことがアブラハムと共に祝されることになるのです。

報 告

新しい年度のために会員名簿をつくりますので皆様の住所・氏名・年令を書いてお出し下さい。
用紙は玄関にあります。

消 息

久保山先生のために御祈り下さい。

今年にあたたかだつたので私も家内がなくなつて健康管理が出来ないのですが、別りに具合がよく毎日を過しております。

つといてお祈り下さい。毎日が淋しい日々です。皆様のためにお祈りいたします。

わが子よ汝キリスト・イエスの恩恵によりて強かれ。且つ多くの証人の前にて我より馳きし所のことを他の者に教へ得る忠実なる人々にゆだねよ。汝キリスト・イエスのよき兵卒として我と共に苦難を忍べ。兵卒を務むる者は生活のためにとわるることなし。これつのである者を喜ばせんとすればなり。技を競う者、もし法に従いて競わずば冠を得ず。勞する農夫まづ実の分配を得べきなり。汝わが云う所を思え、主なんじに凡ての事につきて悟りを賜わん。

わが福音に云えるごとく、ダビデのすえにして死人のうちより甦えり給えるイエス・キリストを憶えよ。我はこの福音のため苦難を受けて悪人のごとくつながるるに至れり、然れど神の言はつながれたるにあらず。この故に我えらばれたる者のために凡ての事を忍ぶ。これ彼等をして永遠の光榮と共にキリスト・イエスによる救いを得しめんととなり。ここに信すべき言あり「我等もし彼と共に死にたる者ならば、彼と共に生くべし。もし耐え忍ばば彼と共に王となるべし、若し彼を否まば、彼も我を否み給わん。我らは真実ならずとも、彼は絶えず真実にましませり。彼は己を否み給うこと能わざればなり。」（テモテ後二の一―十三）

私達はキリストのよき兵卒です。ですからキリストに従つて我と共に苦難を耐え忍んで行けと仰せられるのであります。

ところが信仰の年輪が古くなるにつれて、私達はともすると恵に慣れてしまひやすいためであり、その点は真剣に考えなければならぬことだと思ひます。

かくてエリムを出たちてイスラエルの子孫の会衆そのエジプトの地を出しより二ヶ月目の十五日に皆エリムとシナイの間なるシニの荒野にいたりけるが、その荒野においてイスラエルの全会衆モーセとアロンに向いてつぶやけり。即ちイスラエルの子孫彼等に云ひけるは、我等エジプトの地に於いて肉の鍋の側に坐り飽くまでパンを食ひし時にエホバの手によりて死にたらばよかりしものを、汝等はこの荒野に我等を導き出してこの全会衆を飢に死なしめんとするなり。（出エジプト十六の一―三）

イスラエルの民はエジプトでの長い間の奴隷の苦しみから解放され、神の御手によつて無事エジプトの国から逃れ去りました。

然し何か苦しいことがあると度々示された神の恵みを忘れ、すぐに不平不満をつぶやきます。これは信者の身勝手な姿をそのまま現わしております。信仰が古くなると、ともすると昔の恵みを忘れ、たとえつぶやかないまでも第一にしなければならぬことをおろそかにしやすいものであります。つまりこの世のことに心を奪われ、神との交わりを深める時を捨ててなくなります。

我はぶどうの樹、なんじらは杖なり。人もし我にあり、我また彼にあらば多くの果を結ぶべし。汝ら我を離るれば、何事をも為し能わず。(ヨハネ伝十五の五)

私たちが神という幹を離れて実を結ぶことは不可能です。精神生活は勿論、祝福なしではなりわいの上でもいろいろとうまくいかなくなるものであります。ですからキリストに従つていかねばならないのです。ただひたすらキリストと共に進み、どんな苦しみにも耐え忍んでいかねばいけないのです。もし耐え忍べば王様のようなすばらしい生涯を全うすることができると書いてあります。人は頼りになりませんが、イエス様は真実なお方ですので、約束を信じて、キリストの兵卒として、共に進んで参りたいと思ひます。

消 息

三月一日に久保山先生は手術をなさいます。何卒このために御祈り下さい。而して全くいやされますよう御祈り下さい。

瀨尾氏のために御祈りして下さいまして有難う御座いました。去る土曜日に安らかに昇天されました。三宅姉が皆様によく。

私事もお祈りに支えられて大分元気になり、毎日つづがなく過しております。つゞいて御祈り下さい。

キリスト・イエスにありて敬けんをもて

一生を過さんとする者は迫害をうくべし

一九六六年三月六日

人と義とせらるるは律法の行為によらず、唯キリスト・イエスを信ずる信仰に由るを知りて、キリスト・イエスを信じたり。これ律法の行為に由らず、キリストを信ずる信仰に由りて義とせられん為なり。律法の行為によりては義とせらるる者、一人だになし。(ガラテヤ二の十六―二十一)

私は若い頃一生懸命に文学を志し、思想を学びました。一方金持ちの家に書生していましたため、その方達の生活が物的に豊かな反面精神的には貧しい、冷い家庭の雰囲気の中で苦しんでおられるのを身をもって体験してまいりました。そういう事情の中で人生のさまざまな問題について救いを求め続けていたのです。

しかし私達に真の幸い、真の救ひ、真の救いを与えてくれるものは思想でも、学問でも、勿論物質でもありません。道徳的な行いでも、修業によるものでもないのです。

他の者によりては救いを得ることなし、天の下には我らの頼りて救わるべき他の名を、人に賜いし事をければなり。

(使徒行伝四の十二)

私達の救いはキリスト・イエスを信ずる信仰にあるのです。そのことが全ての問題を解決するたつた一つの道であることを知つたとき、私は思い切つてイエス様に従いました。

そのように喜び勇んでイエス様に従いまして、生涯を通して初めの信仰を持ち続けるといふことは大変困難なことであります。

凡そキリスト・イエスに在りて敬けんをもて一生を過さんと欲する者は迫害をうくべし。

悪しき人と人を欺く者とは、ますます悪に進み、人を惑わし、また人に惑わされん。(テモテ後書二の十二―十三) 信仰を貫いて行くと必ず迫害が起ります。

ときとしては自分のやつてゐることが他人に較べ馬鹿らしく感ずることさえあります。

されど汝は学びて確信したる所に常に居れ。

なんじ誰より之を学びしかを知り、また幼き時より聖なる書を知りし事を知ればなり。

この書はキリスト：イエスを信する信仰によりて救いに至らしむる知恵を汝に与え得るなり。

(テモテ後書三の十四〜十五)

私共が学び、体験した初めの確信を常に覚え苦しい悩みの中から誰が救い出して下さつたかを忘れてはいけません。そのため私共は常に聖書に親しみ、聖書によつて力を得、信仰を常に新しくしていかねばなりません。

(テモテ後書三の十六〜十七)

聖書はみな神の感動によるものにして、教えと戒めと、矯正と義を薰陶するとに益あり。これ神の人の全くなりて諸々の善き業に備えを全うせん為なり。

聖書のことばは、思いつきや、人の考えによつて書かれたものではありません。聖書は聖霊による感動によつて書かれたものであります。

私共が真に正しい、幸いな人生を全うするためには、キリストに従う敬けんなる生涯であることが必要であります。敬けんな生涯を持ち続けるためには常に聖書を読み、聖書に導かれねばならないと思ひます。

報 告

三月六日 礼拝後青年会があります。

御祈りしていただきました、会堂及牧師館のトイレの改修も出来ました。

消 息

久保山先生の手術も三月一日に無事に行われました。一時は出血多量にて危険でしたが、皆様の切なる祈りの賜にて二時間も心臓がとまつたりしていた相ですが御医者さまの努力によつて恢復しました。つゞいて全快をお祈り下さい。私事も此頃大分元気になりましたから御安心下さい。此頃毎日終日おきておりまして、少しづつ身体をならしてあります。

活すものは靈なり

一九六六年三月二三日

活す者は靈なり、肉は益する所なり、わが汝らに語りしことは、靈なり生命なり。(ヨハネ伝六の六三)

皆さんに祈つていただきました久保山先生の手術は、一日午后二時から行われましたが、その日牧師先生の集会があり私も出席して心を合わせて祈つていただきました。出血多量で危険な状態だったので、二時間も心臓が止まるといふ中から奇蹟的に救い出されました。全く皆様のお祈りに支えられたのだと思います。その後の経過も大変よくて、頭もはつきりしておられるそうです。

生命を与えるものは靈であつて人間の力ではないのです。ヨハネ伝六の六三をしみじみと思ひ浮べました。

肉の思ひは死なり、靈の思ひは生命なり、平安なり。肉の思ひは神に逆り、それは神の律法に従わず、否従ふことあたわず。また肉に居る者は神を喜ばすこと能わざるなり。然れど神の御靈なんじらの中に宿り給わば、汝らは肉におらで靈に居らん。キリストの御靈なき者はキリストに属する者にあらず。もしキリスト汝らに在さば体は罪によりて死にたる者なれど靈は義によりて生命に在らん。若しイエスを死人の中より甦えらせ給ひし者の御靈なんじらの中に宿り給わば、キリスト・イエスを死人の中より甦えらせ給ひし者は、汝らの中に宿りたまふ御靈によりて、汝らの死ぬべき体をも活かし給わん。(ロマ書八の六く十一)

肉の思ひは死です。靈の思ひは生命です。

四日にはカナダ、五日には英国の飛行機が落ちました。まことに人生ははかない感じがいたします。神が私の側に立つてくださるといふ信仰に立たなければ耐えられない世の中です。

私共は植植先生の信仰を傾えつけられましたので、その生き方を貫くのは大変困難です。

以前はずい分無理をして集会に出かけたりしました。病気が悪くなつても、殉教すればよいという気持でした。しかし信仰は非常によい状態だったので、病気で寝てしまふといろいろな心配が起つてきます。肉のことを思うと安心がないのです。神のことを考えていく生活は安心です。神にはできないことがないので、

我を強くし給う者によりて、凡ての事をなし得るなり。　（ピリピ書四の十三）

夫婦が互いに助け合ふということは大変素晴らしいことです。しかしお互いを頼りにし合ふことはいけなことです。頼るべき者は神様なのです。

北欧では社会保障が徹底して、生活の不安というものがありません。しかし老人の自殺は世界一多いと言われています。より頼むべき所が違っているのです。社会保障は良いことですがこれを頼りにしては平安な生活はできないのです。

我々は生活が乏しくなると物質的に豊かになることはかり考えやすいのですが、信仰が豊かにならなければ、真に幸いな生活はできないのです。

神の靈は私共に生命を与えてくださいます。

どうか神により頼んで、生命に満ちた一週間を迎えたいと思います。

見ゆるところによらず

信仰によりてあゆめばなり

一九六六年三月二〇日

我らは知る、我らの幕屋なる地上の家、壊るれば、神の賜う建物、すなわち天にある、手にて造らぬ、永遠の家のあることを。われらはその幕屋にありて歎き、天より賜うすみかをこの上にきんことを切に望む。之をきるときには裸にてある事なからん。我等この幕屋にありて重荷を負えるごとくに歎く、之を脱がんとにあらで此の上にかんことを欲すればなり。これ死ぬべき者の生命にのまれん為なり。我らを此の事に適うものとなし、その証として御靈を賜いし者は神なり。この故に我らは常に心強し、かつ身に居るうちは主より離れ居るを知る、見ゆる所におらず、信仰によりて歩めばなり。かく心強し、願うところはむしろ身を離れて主とともに居らんことなり。

(コリント後書五の一―八)

私たちの毎日の歩みは信仰によるものでなければなりません。

私の場合心臓が悪くなつたときも、知らないときは何事もなかつたのですが、御医者さまの云われることをお聞きする中に、恐くなつてしまいました。この世の知恵に従わず、信仰によつて歩めば神様が助けてくださるのです。柘植先生の場合は、信仰をもつて歩めば、たとえ死んでも生きるとの信仰に立ちすぐ祈りが答えられなくても、その後祈りは聞かれるという確信に立つておられました。

私の最近の身体の状態を考えまして、ベテスダの池のことを思いました。

ここに三十八年、病になやむ人ありしが、イエスそのふしおるを見、かつその病の久しきを知り、之に「なんじ癒えんことを願うか」と云い給えば、病める者答う「主よ、水の動くとき、我を池に入るる者なし、我がゆくほどに他の人、さきだち下るなり」イエス云い給う「起きよ、床を取り上げて歩め」この人ただちに癒え床を取りあげて歩めり。(ヨハネ伝 五の五―九)

中尾さんの奥さんが病気になられたとき療の人にすめられて新しい薬を用いました結果副作用が起り、食事が入らなくなつてしまいました。私の心臓の場合にも注射をするのだんだん体がおかしくなり、胸がむかむかして食事の方が進まなくなりしました。血圧も、どんなによい薬をのんでもちつとも二〇〇から下らないのであります。そのため最近までは御用をする以外は寝ておるといふ状態でした。

家内が大変よくしてくれるので、つい家内をあてにし、薬をあてにしていたのです。処が最近祈つて考えなおして、人をあてにせず、信仰をあてにせねばならないと思ひ、ずつと起きていることにいたしました。

数週間前から思ひ切つて一日に一時間ほど草とりをしました。然しあまり疲れませんでした。先日は孫を連れて動物園に行きましたが何ともありませんでした。やつぱり、ベテスタの池のようにこの世をあてにしてはいけないといふことを教えられました。

「起きよ、床を取り上げて歩め」といふ御言葉に従つて少しずつ歩き始めましたが、かえつて身体の調子がよくなくなり疲れません。

やつぱり私共は信仰により、神といつしよに生活していく以外に生きる道はないのであります。

我らのかえりみる所は、見ゆる者にあらで見えぬ者なればなり。見ゆるものはしばらくにして、見えぬ者は永遠に至るなり。(コリント後書四の一八)

見ゆる者に頼んでも、その力はしばらくのことであり、やがて消え去つてしまいます。

世の終りまで神は守つてくださいます。いざというときの一番の助けは神以外にありません。

神はわれらの避け所また力なり。なやめるときはいと近き助けなり (詩四六の一)

報 告

三月中に会員名簿をつくりたくねがつております。まだ記名しておらない方は今日お願いいたします。三月二十七日に信徒総会をいたします。何卒よろしく御協力下さい。

消 息

大分あたたかになりました。皆様如何にお過しですか。私事も御祈りに支えられ信仰が与えられて立ちて歩み大分元氣を取りもどしました。有難う御座いました。

久保山先生も血の出る事も少くなり大分お顔色もよくなられたとの事です。何卒つゞいて全く御元氣になられる様にお祈り下さい。

わがなすことを汝いま知らず

後之を知るべし

一九六六年三月一七日

ほむべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、その大いなる憐憫に従い、イエス・キリストの死人の中より甦えり給えることにより、我らを新に生まれしめて生ける望みをいだかせ、汝らの為に天に替えある朽ちず、汚れず、しほまざる嗣業を継がしめ給えり。汝らは終わりのときにあらんとて、備わりたる救いを得んがために、信仰によりて神の力に護らるるなり。この故に汝ら今しばしの程さまさまの試練によりて甦えざるを得ずとも、なお大いに喜べり。汝らの信仰の験はくつる金の火にためざるより貴くして、イエス・キリストの現れ給うとき、誉れと光榮と尊貴とを得べきなり。 (ペテロ前書一章三〜七)

私共が、苦しみの中に落ちいつているときは、仲々神の御心をさとることができないのであります。

京都の佐伯先生のお親戚の方が長い間不眠症で苦しんでおられました。遂に有馬の修養会にて柘植先生に祈つていたと

いて救われたのであります。医学でどうすることもできなかつた不眠症までもいやされてしまわれました。それから佐伯先生は栢植先生に師事する様になられました。

私も今から四十年前吐血をいたしましたとき、大変なショックを受け、それからというものはいつても死が脳裏から離れず、生きる望みすらも失つていました。不思議なように栢植先生の集会に導かれてイエス様の十字架を知り、全く新しい人生へと生れ変わりました。

キリストの教えに導かれる人は、人生の問題や、自分の問題に悩んだ人です。むしろ神様に選ばれる為に悩みを与えられたのだとも云えます。耐えられない程の悩みや苦しみも、私共が罪と絶縁して生れ変わる為に必要な生みの苦しみだつたのです。

救われた後も、長い間にはいろいろの曲折があり、よい信仰を持ち続けることは大変にむずかしいことです。悩みの中から助け出されたときは、一心に神様をあがめることばかりを考えていますが、しばらくして事情が良くなるとつい人情や、自分の都合にからまれて、神中心の生活を守れなくなりまして。

旧約聖書出エジプト記を見ると、愚かな失敗を繰り返す人間の弱い姿が如実に示されておりまして。人ごとならぬ自分の姿を窺見した気持ちで恥かしく、しみじみ反省させられることが再々です。(以上津留崎記)

ですから私たちは、度々苦難に会い、試練を経て一歩一歩神に近づくよう、イエス様が導いて下さるのです。苦難に直面したときは、とても抜け出せないような気持ちがしやすいものです。サタンはいつも見ゆる所の状態を悪く悪く考えさせようとします。

神様が私達に乗り越すことのできない苦難を与えなさるはずはないのです。神様は苦難を与えなさると同時に、乗り越える力も与えてくださるのです。私達は目前の苦難を決して恐れず、あきらめず見ゆるところに動かされなくて、唯ひたすら神により頼んで行かねばならないと思います。そのことが私達がより深く神の愛を知ることであり、十字架の救いの大いさをより確かに信ずることができる道なのです。

イエス答えて言ひ給ふ「わがなすことを汝いま知らず後に悟るべし」(ヨハネ一三の七)

私共は直面してゐる事情や境遇をすぐに解決したいとあせつてはなりません。神の智と富は深くて急に知ることが出来ないであります。私はイエス様の十字架の救をさとられましたときおどろ上つて喜びました。あの若い時肺を悪くしておらなかつたらこの大いなる救をさとることは出来なかつたらうと思ひます。その後四十年間いろんな中を通されました。その時は喜ばしい事とは思ひませんでした。然しその中を通されて驚くべき靈の恵を豊かに与えられ、まことに幸な日々を送ることが出来ました。だから早急にその問題を解決しようとしなくて後之をさとるべしとの聖言の如く、後に凡てを解決して下さると信じて祈りつゝ待ち望みたいものであります。私もこの頃もう一度信じて汝の足にて立ちて歩めとの信仰に立つて歩み出しました。身体の調子も大変よくなり毎日祈り深い日々を送ることが出来ます。

私共の人生に於て最善は切に神に近い事でありませう。(詩七三の二八)

富める者はおのがひくくせられたるを喜べ、それは草の花の如く過びゆくべければなり、日出で熱き風吹きて草を枯らせば花落ちてそのうるわしき姿ほろぶ、とめる者も斯くの如く、その途のなかばにして己先づ消え失せん

(ヤコブ一の二〇、一一)

消 息

愈々三月も終りとなりました。私も御祈りに支えられて大分元氣になりました。御安心下さい。

久保山先生も大変およろしいとの事です。つゞいて全くいやされます様に御祈り下さい。

私も身体をきたえて皆様を御訪ねたく願つております。二十日の礼拝には四国より岡崎兄が帰られ楽しい久しぶりの交りの時をもちました。

イエスの言い給ひしことを

信じてかへりたり

一九六六年四月三日

イエスまたガリラヤのカナに往き給り、ここは前に水をぶどう酒になし給ひし処なり。時に王の近臣あり、その子カペナウムにて病みいたれば、イエスのユダヤよりガリラヤに來り給えるを聞き、御許に行きて、カペナウムに下りその子をいやし給わんことを請り、子は死ぬばかりなりしなり。ここにイエス言ひ給り「なんじら徴と不思議とを見ずば、信ぜじ」近臣いり「主よ、わが子の死なぬうちに下り給え」イエス言ひ給り「かえれ、汝の子は生くるなり」彼はイエスの言ひ給ひしことを信じて帰りしが、下る途中、僕どもと往き遇いて、その子の生きたることを告ぐ。

その癒えはじめし時を問ひしに「昨日の第七時に熱去れり」といふ。父その時の、イエスが「なんじの子は生くるなり」と言ひ給ひし時と同じきを知り、而しておのれも家の者もみを信じたり。是はイエス、ユダヤよりガリラヤに往きて為し給える第二のしるしなり。（ヨハネ伝四の四十六〜五十四）

私たちは結果を見ないとなかなか信じられぬのです。この近臣の人がイエス様の御言葉を信じて家にもどつたやうに、信じて行えばよい結果が起るのです。

困難に直面しているときは、目の前の壁が大変厚く、高く感じます。又たとえ信仰をもつてこの壁を破ることができると信じていてもその時の来るまでの時間というものは大変に長く、時には耐えられなく感じることすらあります。しかし神様は最善のとき、最善のことをしてくださるのですから信じて待たなければいけません。

終戦直後の食糧難時代、私は七人の子供をかかえて苦勞をいたしました。その頃国民のうち一千万人くらいは餓死するのではないか、などと言われておりました。私はそうなればさし当り自分達が一番ではないかと思つておりましたが、全く不思議な御方に支えられて一人も餓死することなく無事に今日までやつて参りました。

その間、人間の力ではどうすることもできない様な事件や、耐えきれないような苦しみに度々あつて参りましたが、その度ごとに御言葉に立ち、御言葉のみにより頼んで切り抜けて参りました。

私達が問題を完全に解決する方法、それは御言葉を信じ、神を信じて、神をより頼むことです。

もし信じられないときには祈つて信する力を与えられなければいけません。祈れば必ず信じられるようになります。常日頃祈つて信する力を与えられるようになりたいと思います。

この言は真実でありそのまま受入れるに値することばです。私たちはそのために労しまだ苦心しているのです。それはすべての人々、ことに信じる人々の救い主である生ける神に望みをおいているからです。

(テモテ前四の九、十口語改)

世の中のことに全き真実はありません。それを世に求めること、世の中の人に求めること自体、始めから無理なことなのです。然し聖書の御言葉は全く真実です。それは私の生涯に於て体験し、はつきりと証明できるのであります。どうか御言葉を信じて信仰にはげみたいと思います。

報 告

四月十日(日)午前六時半イースター早天礼拝

場 所 大湊公園内 米国領事館向側

説教者 西南大学神学部助教 山 路 基 先生

消 息

久保山先生は輸血が必要なのでO型の方々は是非御協力下さい。

私も気候の変動にもかかわらず御祈りに支えられてつといて御用をいたしております。

何卒御祈り下さる。

されどキリストは来らんとするよき事の大祭司として来り、手にて造らぬ此の世に属せぬ更に大いなる全き幕屋を経て、山羊とこうしとの血をもて只一たび至聖所に入りて、永遠のあがないを終えたまえり。もし山羊および牡牛の灰などをかけられし者にそそぎて其の肉体を潔むることを得ば、「まして永遠の御霊によりきすなくして己を神にささげ給ひしキリストの血は、我らの良心を死にたる行為より深めて活ける神にかえしめざらんや」この故に彼は新しき契約の中保なり。これ初めの契約の下に犯したるとがをあがなうべき死あるによりて、召されたる者に約束の永遠の嗣業を受けせん為なり。それ遺言は必ず遺言者の死を要す。遺言は遺言者死にてのち始めて効あり。遺言者の生くる間は効なきなり。この故に初めの契約も血なくして立てしにあらずモーセ律法に従いて諸般のいましめをすべての民に告げてのち、こうしと山羊との血、また水と緋色の毛とヒソブとをとりて書および凡ての民にそそぎて言う。「これ神の汝らに命じたまう契約の血なり」と。また同じく幕屋と祭のすべての器とに血をそそげり。おおよそ律法によれば、よろずのもの血をもて潔めらる、もし血を流すことなくば、ゆるさることなし。

(ヘブル書九の十一―二十二)

信者にとつて一番たいせつなことは血をあがめることです。自分自身の心の奥を真実を通して見極めようとしたとき、私達の心のみにくさにしみにみ情なくなりませす。それでは私達の努力や修養で本当に心が潔められるのでしょうか。又哲学や思想で救いを受けることができるのでしょうか。

私が若い頃賀川豊彦や倉田百三の本がベストセラーでした。青年たちは争つて読みました。

私も色々と読み、ルツソーなどの哲学に救いを求めたりしました。

ロバート・オーエンはイギリスの社会主義者ですが、社会主義による理想の村を作ろうとして、新天地をアメリカ大陸に求めましたが社会主義の村の建設は失敗いたしました。

武者小路実篤も、宮崎県下に理想主義的な新しい村を作ろうとしましたがやはり失敗しました。

わが子よこれ等より訓誡をうけよ多く誓をつくれればはてしなし、多く学べば体疲る。事の全体の帰する所を聞くべし云わく、神をおそれそのいましめを守れ、これすべての人の本分たり。 (伝道の書十二の十二―十三)

人間の知恵や思想に潔めや救いはありません。結局神に従うほかはありません。そして神に従う道は、イエスの血をあがめるより方法はないのです。

たとえキリスト教での社会事業で、どんなに立派な奉仕をしても、潔めや救いとは無関係です。イエスの血が働かなければ潔めや救いの体験はありません。

ですから私たちは十字架の御血をあがめなければいけません。毎日御血をあがめていきたいと思えます。

キリスト教は天啓の宗教であります。血を崇める宗教であります。異教の如く修養とか鍛練とか親切とか所謂人道主義的なものではありません。始めから終りまでイエス・キリストの血を崇める宗教が真の宗教であります。

そのために主イエスは十字架に釘つけられたもうたのです。この受難週に主の御血の貴さをさとらせていただきたいと思えます。

報 告

四月十日礼拝后壮年会があります。何卒沢山御出席下さい。

四月十五日(第三金)午后一時三十分、四月婦人会の例会があります。御出席下さい。

消 息

御祈りいたしております久保山先生も少しづつ快方に向われております。ついでに御全快を御祈り下さい。

私事も不順な気候にもかゝらず毎日元気であります。三月より木曜会も平中姉宅にて開かれる様になりました。

どうぞ御祈り下さい。教会の桜も一杯さき乱れて少しづつ散っております。何卒皆様も御元気でお過ごし下さい。

御祝福を御祈りいたしております。

われらはみな証人なり

一九六六年四月一七日

イスラエルの人々よ、これらの言を聴け。

ナザレのイエスは、汝らの知ることく、神かれによりて汝らの中に行い給ひし力あるわざと不思議としるしをもて汝らに証しし給える人なり。この人は神の定め給ひし御旨と、預め知り給うところによりてわたされしが、汝ら不法の人の手をもてはりつけにして殺せり。されど神は死の苦しみをときて之を甦らせ給えり。彼は死につながらおるべき者ならざりしなり。ダビデ彼につきて云う「われ常に我が前に主を見たり、我が動かされぬ為に我が右にいませばなり。この故に我が心は樂しみ、我が舌は喜べり、且わが肉体もまた望の中に宿らん。汝わが魂をよみに捨て置かず、汝の聖者の朽ち果つることを許し給わざればなり。汝は生命の道を我に示し給えり、御顔の前にて我に歎息を満し給わん」兄弟たちよ、先祖ダビデにつきて我はばからず汝らに言うを得べし、彼は死にて葬られ、その墓は今日に至るまで我らの中にあり、即ち汝は予言者にして己の身よりいする者をおのれのくらしいに坐せしむることを誓いをもて約し給えるを知り、先見して、キリストの復活につきて語り、そのよみに捨て置かれず、その肉体の朽ち果てぬことを言えるなり。神はこのイエスを甦えらせ給えり、我らは皆その証人なり、イエスは神の右に挙げられ、約束の聖霊を力より受けて汝らの見聞きする此の者を注ぎ給ひしなり。

(使徒行伝二の二十二―三十三)

四十年前私は吉田清太郎先生の導きをうけ、それから点々として柘植先生のところに行きました。その頃柘植先生の集会のピラには「甦りの体験者柘植不知人師」ということが書いてあつたのを思い出します。

私たちの信仰は頭での理解でなく、感情によるものでもなく、主の甦りを御聖霊によつて知るといふことであります。

藤村先生のお子さんがドイツの教会やスイスの教会について書いた記事が活水にのつています。それによると、ドイツでもスイスでもまことに安息日の礼拝者が少いそうです。

ドイツのある宣教師は、ドイツの教会が、ちようと日本の仏教のように力を失くしてしまつてゐるといつておられ

ました。

イエスの甦えりの信仰がなくなつてしまふと教会はその原動力を失つてしまふのであります。

私たちはこの教えが真実であることについて証人とならなければいけないと思ひます。

キリストが生きておられるということが私たちの信仰の土台となるわけでありませう。

イエス様が生きておられるから、どんな苦しいときにも、支えとなつてくださるのであります。

イエス様が甦つて自分のそばに居てくだされば、私たちはいつも満たされ、世の中に捨てられるといふことはないのであります。

一流の大学を出て、一流の会社に入つて栄進しても、本当の幸福とは関係ありません。

史上最大の栄華を極めたと言われるソロモン王も、神を恐れることが一番の幸いだと言つておられます。それ以外のことは空の空なることだと言つています。

自分の望みを何時も神に置くことにならねば、幸いはやつてきません。

イエス様の復活を信じてはじめて、その望みが持たれます。イエス様が甦つて今生きておられることを信じて毎日その証人として送りたいと思ひます。

報 告

四月十八日(月)午後一時半福岡地区婦人連合会が中部教会にて開催されます。多数御出席下さい。

当日四十一年度の会費三百円を御持参下さい。

福岡地区青年修養会が五月二日夕七時より三日午後五時半迄福岡女学院向山寮であります。

会費約五〇〇円、四月二十七日迄西福岡教会へ申し込下さい。

消息 久保山先生の為に御祈り有難う御座います。十三日にまた手術なさいましたが中々出血がとまりません。一日も早く主の御手が加わり全くいやされます様に切に御祈り下さい。

私も昨今は割に元氣にて御奉仕致しております。何分にも毎日たゞかいの中にありますから御加禱お願い致します。

福音とはイエス・キリストなり

一九六六年四月二四日

我はギリシヤ人にも、えびすにも、かしこき者にも、愚かなる者にもおいぬあり。この故に我はロマにある汝らにも福音を宣べ伝えんことをしきりに願うなり。我は福音を恥とせず、この福音はユダヤ人を始めギリシヤ人にも、凡て信する者に救いを得さす神の力たればなり。神の義はその福音のうちにあらわれ、信仰より出でて信仰に進ましむ。録して「義人は信仰によりて生くべし」とあるが如し。

(ロマ書一の十四〜十七)

私は最近ある機会があつて、他の宗教を信する人と色々語り合うことができませんでした。

そして話し合いを通して物の考え方の相違をはつきりと悟りました。わかりきつたことながら、今更のように福音の尊さを確認いたしました。私には他のいかなる信仰の場合も自己中心のものであり、自己を捨てることはできないと思います。それは人間が考えた救いの道であり、神の備えた道ではないからであります。キリストの血のあがないがないからです。

出発点の違いから、その生活の中心は表面はどうであれ、自己中心以外の何物でもありません。キリストの血以外に私達の罪を赦し潔めることはできないからです。

キリスト教信者（教会に來ている人という意味ではありません。）の場合、生活の中心は自己ではありません。生活の中に信仰を置くのでは本物ではないと思います。私共が十字架を見上げ、キリストの約束を信じたとき、生活は信仰中心に変わります。どうかして信仰が全うされるように生活を立てようとしています。生活の中に信仰を置くのではなく、信仰の中に生活を置くのです。悔い改めて、自己の一切の考え方、欲望を捨てさり、キリストの考え方、キリストの御心が私共の中に入つてこそキリスト教信者と言えるのです。そこに今まで全く体験したことのない平安や、喜びが訪れ、救われた者だけが知る新しい力に満ちた生涯が始まるのです。

どんな人でも悔い改めて十字架を見上げて信すれば救われ、キリストが内に入つて下さり、全くその人の考え方、生き方が変わるといふところに、福音の偉大さを感じます。

私の場合教会生活の体験は殆んどありませんでした。聖書は開かれざる書でした。しかし救われたその日から聖書はその日から聖書はその扉を自ら開いてくれたような気がいたします。それまでは全くわからなかつた聖書が、はつきりと理解できるようになりました。少しずつ読んでいくうちに私の信仰体験が聖書の中に具体的に書いてあるのを知り、毎日が驚きと喜びと感激の連続であつたことを思い出します。はつきりと区切りをつけて変つた私自身の体験と事實は他のいかなる思想にも、力にも動かされることはありません。

それ以来もう自分を不幸だと思つたことはありません。どんな悩みの中でも、心の奥に平安と働ひが絶えたことはありません。「我は全ての悩みの中にありて、喜びあふるるなり」といつていますが全くその通りだと思ひます。

私の生涯を通して何もまとまつたことはできなと思います。一人の人間をここまで変えてくたさつたキリストの血については、私の中に起つた事実がはつきり証明することができます。どうかこの救いを生涯を通して証しすることのできる者になりたいと思つております。(以上津留崎記)

キリスト・イエスの僕名されて使徒となり神の福音のために選び別れたるパウロこの福音は神その予言者達により聖書の中に予め御子につきて約し給いしものなり、御子は肉によればダビデの末より生れきよき靈によれば死人の復活により大能をもて神の子と定められ給えり、即ち我らの主イエス・キリストなり (ローマの一―四)

福音とはイエス・キリストであるパウロは教えておられるのであります。イエスは人間の計画や考へで生れ給ふたのではなく既に予言せられていた予言を成就するために生れてこられたのであると教えておるのであります。この福音によつて私共は救われ導かれて毎日満ち足れる生涯を送る事が出来るのであります。

我が生けるはキリストのため(ヘブリイの二十一)とパウロは証しておるのであります。私共も生涯の目的がキリストのために生きるといふ事に定りましたならば感情的には色々の働きはありましてもアブラハムの如く我心定まれりとの心にてその事情や境遇によつて動かされず毎日たしかな心をもつて生きることが出来るのであります。どうかこの福音に徹するために事情境遇を克服して本当の意味に於て神第一の生涯を全うしたいのであります。

消 息

上野兄が帰福され先週の青年会は幸な交りの時をもつ事が出来ました。今年四月になつてかう寒いのですが、御祈りに支えられ毎日つゝがなく過しております。皆様の上に主の御祝福を祈つております。

アブラハムのうけたる祝福

イエス・キリストによりて

異邦人におよぶ

一九六六年五月一日

キリストは我等のためにはのろむる者となりて律法ののろいより我等をあがない出し給えり。しるして「木にかけらるる者はすべてのろむるべし」と云えはなり。これアブラハムの受けたる祝福のイエス・キリストによりて異邦人におよび、且われらが信仰によりて約束の御霊を受けん為なり。

兄弟よ、われ人の事をかりて云わん、人の契約すらすでに定むれば、これを廃し、また加うる者なし。かの約束はアブラハムと其のすえとに与え給いし者なり、多くの者を指すごとく「すえずえに」とは云わず、一人を指すごとく、「なんじのすえに」と云えり、これ即ちキリストなり。へガラテヤ三の十三〜十六

信仰の出で来らぬさきは、われら律法の下に守られて、後にあらわれんとする信仰のときまで閉じこめられたり。かく信仰によりて我らの義とせられん為に、律法はわれらをキリストに導く守役となれり。されど信仰の出来たりし

後は、我等もはや守役の下に居らず、汝らは信仰によりキリスト・イエスに在りて、みな神の子たり。凡そバプテスマによりてキリストに合ひし汝らは、キリストをきたるなり。今はユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自主もなく、男も女もなし、汝らは皆キリスト・イエスに在りて一体なり。汝等もしキリストのものならば、アブラハムの末にして約束に従える世つぎたるなり。

私共に何が一番たいせつかというかと、キリストであります。慈憐でも行いでもありません。キリストを抜きにして、十字架を抜きにしてキリスト教はありません。

昔キリンタンの人は圧迫されまして六部などになつて托鉢したのだそうですが、天理教などもその影響を受けたものです。ですから「ひのきしん」といつて奉仕をたいせつにします。しかしキリストはありません。キリストがないと眞の救いはありません。

私は青年時代教会に度々行つたり、集会に出たり、色々の本を読みました。その中の江原小夜太の書いた「新約」という小説についてある牧師先生に此評をうかがつたことがあります。先生は「あれはユダが非常によく書けていますね」と云われたのを今でも覚えています。人間にはユダは描けても、キリストは描けないのです。長年教会に行つた長老の人でも、キリストの分らない人は沢山います。教会には行きますがキリストを受け入れないのです。そこには罪の解決はないのです。

「死よなんじの勝はいずこにかある。死よ、なんじの刺はいずこにある」死の刺は罪なり、罪の力は律法なり。されど感謝すべきかな、神は我らの主イエス・キリストによりて勝を与え給う。されば我が愛する兄弟よ、確くして動くことなく、常に励みて主のわざを務めよ、汝等その勞の、主にありて空しからぬを知らばなり。

(コリント前書十五の五五―五八)

なぜ人間は死が恐いのか、それは罪があるからです。わずかに血たんが出ただけでも非常に苦しみます。罪が解き放たれれば死の恐れはなくなります。

柘植先生はいつも十字架をあおぎなさい、あおぎなさいと云つておられました。キリストが十字架にかかつてくだ

さつたので私共は十字架を見あげれば罪から解き放たれて救われるのです。

昨年久留米の集会に行き、血圧を計るとやはり高いのです。もし思いわずらうと、とても辯壇に立てなくなつてしまいます。しかし祈つて信仰を与えられて御用を務めることができます。信じて救われると、キリストによつて力を受けることができます。

行いでは救いも力をも受けることができます。キリストを信じさえすれば私共の罪は許され、アブラハムのように大きな祝福を受けることができます。

ですがキリストの十字架を見あげてこの一週間も行きたいと思ひます。

報 告

五月九日 ニーメラ―放師講演懇談会

- 全 午後一時より十日（火）午後一時迄 福岡市千隈西南学院大学神学部山の家
全 午後七時三十分 福岡中部教会（赤坂門電停下車）

消 息

雨の多かつた四月おそくまで寒さがつゞきました。皆様お変わりありませんか。お伺いいたします。祈つていたといっております私事も御守りの中に今日迄つゞがなく御用させていたといっております。血圧は中々さがりませんが信じて立ちて歩んでおります。久保山先生のためにもつゞいて御全快を御祈り下さいます。教会の庭のバラのつぼみも大分大きくなりました。只今はつゞじやカラー、ポピーがさき出してあります。

敬虔のために自分を鍛練しなさい

一九六六年五月八日

俗悪な年寄り女がする様な空想話を避けなさい。むしろ敬虔のために自分を鍛練しなさい。

肉体の鍛練もいくらかは有益ですが今のいのちと未来のいのちが約束されている敬虔はすべてに有益です。

この言は真実であり、そのまま受け入れるに値することばです。

私たちはそのために勞し、また苦心しているのです。それはすべての人々、ことに信じる人々の教主である生ける神に望みをかけているからです。これらのことを命じ教えなさい。(ヘモテ一の四、七、一一)(口語改訳)

敬虔のために自分を鍛練しなさい、という聖言について学びたいと思います。私共は今迄神なく救いなく望みのないものでありまして、神を敬うなどという心の全くないものでありました。そして色々な迷信やさまざまないい伝えに動かされ何か起るとかどころがないために色々なものに迷わされてしまいます。

肉体の鍛練もいくらかは有益ですがとあります如くたしかに朝夕衣服をかえるとき、冷いのを着る事も長い鍛練によると皮膚が丈夫になつて風邪にかかる事が少くなります。又散歩なども身体を健康にするためにたしかに益があります。然し敬虔のために自分を鍛練する事は今日にも未来にも有益だと教えておるのであります。

私は四十数年来日曜日と聖日として神祿を礼拝するためにさうけてまいりました。

汝の貨財を汝のすべての産物の初生をもてエホバを崇めよ。さらば汝の倉庫はみちて余り汝の酒ぶねは新しき酒にてあふれん。(シンゲン三の九、一〇)

元来の私共には聖日などありませんでした。それがイエス様を信するようになってからこの真理がわかり、不思議な能力が与えられて主の聖言に従う事が出来ました。

四十数年間個人としても国としても色々な浮沈がありました。その上にまことに弱い人間として思い煩ひにみつる時も度々ありました。詮方つきる様な時もありました。然しその都度祈りに導かれ聖言を与えられてはその一ツ一ツの困難をのり越えてきました。

たとい死のかげの谷をあゆむとも禍をおそれしなんぢ我と偕に在せばなり、なんぢのしもとなんぢの杖もわれを慰む（詩二三の四）

この試練を通して練られた品性が希望を生み出してこの野蠻国の様な国柄も遂にはキリストを崇める国となること
が出来るのだと御聖霊にはげまされて信仰をつゞける事が出来ました。北歐の国々の如くに我が国も一人一人がキリストを教主と受け入れて敬虔の生涯を送つてゆきますならば遂にはこの国を神の国となす事が出来るのです。

私共は余りにも小さい存在であるかもしれない。此世的には西部戦線異状なしとの小説の如くかえりみられないものであるかもしれない。然しこの小さい群が練られてたゆまずに祈りぬいてまいりますなら、天の父は必ず私共にむくいたまうのであります。

どうか果を結ぶことの出来ない空想話などをさけて必ず報いて下さる聖言を信じて敬虔の生涯を買きたいものであります。たとい途中に浪風がりましたがしても目標を定めてゆるぎなく走りたいたいものであります。

私も青年時代には色んな教の風に動かされました。然し主イエスを信じて救われましたからは如何なる事情境遇にも動揺しないで今日迄導かれてまいりました。

神を畏れてその誠を守つてゆく者の生涯には迷信などはいり込むすきはありません。どうか自分を敬虔な生涯を送るために、自分を鍛練してゆきたいものであります。

私共が敬虔の生涯を送らないで誰が此の国を敬虔に導く事が出来るでしようか？
この事を心に銘じて自分自身の毎日を大切に祈つて主に依頼してゆきたいものです。

皆様のお子様方が教会学校に導かれておるのでとても嬉しい事と思ひます。

報 告

五月八日（第二日） 礼拝後壮年会があります。何卒多数御出席下さい。

全

礼拝後青年会もあります。若い方々は御残り下さい。

五月九日（月）午後七時三十分 ニーメラー牧師講演会 於中部教会

消 息

五月の良い季節となりました。皆様おかわりありませんか。なかなかお便りが出来ませんので失礼いたしております。御祈りしていただきました私事もおかげさまでついでに元気で御用をいたしております。遠方におられる方々にお便り出来ないでこの消息にて一寸お便りいたします。之から元氣になつて少し動きたいと願つております。ついでに御祈り下さる。

永 遠 の 生 命

一九六六年五月十五日

なんじら世をも世にある物をも愛すな。人もし世を愛せば、御父を愛する愛その中になし。おおよそ世にあるもの、即ち肉の欲・眼の欲・もちもの誇などは、御父より出するにあらず、世より出するなり。世と世の欲とは過ぎ往く、されど神の御心を行う者は永遠にとどまるなり。子供よ、今は末の時なり、汝らが非キリスト来らんと聞きしごとく、今や非キリスト多く起れり。これによりて我等その末のときなるを知る。

我らに約し給いし約束はこれなり、即ち永遠の生命なり。汝らを感じず者どもにつきて我これらのことを書き贈る。なんじらのうちには、主より注がれたる油とどまる故に、人の汝らに物を教うる要なし。此の油は汝らに凡ての事を教え、かつまことにしていつわりなし。汝らはその教えしごとく主に居るなり。

されば若子よ、主に居れ。これ主の現れ給うるときに臆することなく、其の米り給うときに恥ずることなからん為なり。なんじら主を正しと知らば、凡て正義をおこなう者の主より生れたることを知らん。

私たちはいろいろのことを知る必要はありません。いざというときに頼りになるのは御言葉だけです。御言葉を信じ従うことが私共の幸いの基なのです。十八節には今は末の時なりと書いてありますが現代もそうだと思います。

戦争が終つて世の中はずいぶんと変り、戦前戦中にくらべるとずいぶんよい時代になりました。生活は便利になり、レジャーも盛んになりちよつと末の世などというには当らないような気がします。しかしよく考えてみますと、今ほど御言葉が必要であるのに、御言葉が省り見られない時代はないと思ひます。

御言葉があめられない生活、それはまことに不安な生活であります。私共の不幸はそこにあるのです。

先日病院に御病人をお訪ねしましたが、しみじみ医学の無力さを感じさせられました。医学をはじめとして、私共は不完全なものに救いを求めようとしているのです。この世の財や、この世の知識に救いを求めようとしているのであります。キリスト以外の物にキリスト（救）があるような考え方が世の中にはびこつております。まさに末の世なのです。

過去キリスト教が墮落して、儀式や形式ばかり尊ばれ、社会事業や慈善事業などが主となり、御言葉が教会から忘れられてきました。そのような信仰のあやまりが間違つた思想や風潮を社会に生み出させました。そこから現代社会の苦悩と不安が生れたのであります。

ですから私たちは早く御言葉に立ち上り、御言葉をあがめ、御言葉に従うようにしなければなりません。

今は終りの時です。この世の欲に溺れることなく、目をさまして祈ることが必要です。

私自身も体の調子があまきよくありませんでした。しかし御言葉により頼み思ひ切つて従つていきたいと思ひ、只管祈つて従つております。

この世の知恵に惑わされず、一生を命がけて進んでいきたいと思ひます。

あなたがたは初めからきいたことを自分たちのうちにとどめなさい。もし初めから聞いたことがとどまつているなら、あなたがたも御子および御父のうちにとどまるのです。それがキリストご自身の私たちにおあたえになつた約束

であつて永遠のいのちです。(ヨハネ1の二の二十四、二十五)

この御約束が永遠の生命であると此処で教えております。たしかにこの御約束を握りしめてその御言葉に従います時不思議に能力があたえられてさまざま事情に打ち勝つて主がなして下さる時まで待ち望むことが出来るのであります。

この黙示は定まりたる時をまちて終りを急ぐなり、おそくあらば待つべし必ずとどこおりはせし(ハバクク二〇)との御約束を信じて待つてゆく事の出来る生涯を送る事が出来るのであります。

永遠の生命という事について常識や此世的な知識でなく御聖霊によつて教えられその生命を与えられて勝ち得て余りある生涯を送りたいものであります。

消 息

メイフラワーといわれる良い季節であります。庭にバラがさき乱れております。私事も御祈りに支えられまして毎日元氣にて次から次と御用をいたしております。

久保山先生は五回目の手術をなさいました。一進一退という御状態の御様子です。何卒俄然主の御手が加えられませう様つゞいて御祈り下さい。何卒皆様の上に主の御祝福を御祈りしております。

「われ汝の行為と勞と忍耐とを知る。また汝が悪しき者を忍び得ざることと、自ら使徒と称えて使徒にあらぬ者どもを試みて、そのいつわりなるを見あらわししことを知る。なんじは忍耐を保ち、我が名のために忍びて捲きざりき。されど我なんじに責むべき所あり、汝はニコライ宗の行いを憎む、我も之を憎むなり。耳ある者は御霊の諸教会に言い給うことを聴くべし、勝ちを得るには、われ神のバラダイスに在る生命の樹の實を食うことを許さん」スミルナに在る教会の使に書きおくれ「最先にして最後なる者、死人となりてまた生きし者、かく言う、われ汝のなやみと貧しきを知る。されど汝は富める者なり。我はまた自らユダヤ人と称えてユダヤ人にあらず、サタンの会につく者より汝がせしりを受くるを知る。なんじ受けんとする苦難を懼るな、視よ悪魔なんじらを試みんとて、汝らの中のある者を獄に入れんとす。汝ら十日のあいだ患難を受けん、なんじ死に至るまで忠実なれ、さらば我なんじに生命のかんむりを与えん。(ヨハネ黙示録二の二―十)

黙示録の一章から三章にかけて、七つの教会に送ることは書いてあります。いろいろの教会の姿が書いてありますが、私共は、イエス様にせめられることのない教会になりたいと思ひます。スミルナの教会はよい教会です。この教会に送つたことばについて教えられたいと思ひます。

二章十節に「なんじ受けんとする苦しみを懼るな、みよ悪魔なんじらを試みんとて、汝らの中の或者を獄に入れんとす。汝ら十日のあいだ患難を受けん、なんじ死に至るまで忠実なれ、さらば我なんじに生命のかんむりを与えん」と書いてあります。たとえ死をかけても神に忠実な者は生命のかんむりを与えられるのです。作日久留米の集会に行つてまいりましたが、やはり血圧が上がります。別に自覚症状はありません。心臟病は、やはり御言葉によらなくては癒されなれと思ひます。なかなかはつきりとは癒されませんので、十節のような信仰を持ち続けて待ち望んで行かねばなりません。

私共のまわりにはさまざまな困難な事情がとり囲んでいます。しかし、事情はたいした問題ではありません。

神を恐れているかどうかが問題です。

徳永先生が女学院におられたころ、戦時中にはひどい弾圧を受けられました。キリスト教教育を守るならば公認の女学校としての資格を剝奪する時まで言われましたが、信仰を守り、御在任中は生涯生徒に日曜日の礼拝を守り抜かれました。

病氣の場合も、イエス様だけでなくてはなおされないという信仰を持たねばならないのです。

我々は科学の力でなければ何でも解決されないかのように思います。現代は科学を迷信しています。

イエス様は死んで生き返りなされたのです。そして現在も、永遠までも生きておいでになります。イエス様は一切の問題をとく鍵を持つておられます。ですから信じさえすれば苦しみの中にいても幸いになります。

スミルナの教会の場合も悩みと貧しさの中にありました。しかし実際は富んでいました。

牧師は多くは富めない生活です。しかし実際には富める者と言えます。又多くの信者を富める者とすることができます。

我々はいろいろな苦しみを恐れてはいけません。必ずそれに勝つ力を与えてくださる方がおられます。御言葉に従うために、死にかつていかねばなりません。忍耐は練られた品性を生み出します。私たちはいつ何があるか分かりません。信仰を持つて祈り深い生活をしていきたいと思えます。

報 告

五月二十九日はベンテコステの記念日です。教団では総員礼拝にて内国伝道献金の日です。何卒黄色い袋に皆様が御献金下さい。

消 息

初夏のようなあつい日です。御病氣の方々のために御祈り有難う御座います。

麻生定男兄のためにも全快を御祈り下さい。久保山先生の為にもついでに御祈り下さい。金生姉のためにも御祈り下さい。私も御祈りに支えられて大分元気になりました。ついでに御加勢下さい。

わたしは父から出て、世にきました。もう一度わたしは世を去つて父のみもとにゆきます。弟子達はいつた、あゝ今あなたにはつきりとお話になつて何一ツたと言話をなさいません。いま私たちはあなたが一切の事を御存じて誰もあなたにお尋ねする必要がないことがわかりました。これであなたが神から来られたことを信じます。イエスは彼らに答えられた、あなた方は今信じているのですか、見なさい、あなたがたが散らされ、それぞれ自分の家にかえり、わたしを独り残す時がきます。いやすでにきています。しかし私は一人ではありません、父が私と一緒におられるからです。私があなた方に話したのは、あなた方が私にあつて平安を保つためです。あなたがたは世にあつては患難があります。然し勇敢でありなさい、わたしはすでに世に勝つたのです。(ヨハネ一六の二八―三三改)

金曜日の朝でした。K先生がまた七回目の手術をなさるので行つて祈つて下さいとの御電話がありましたので、私は仕度をしてお待ちしておりました。その時与えられた聖言があなた方は世にあつては患難があります。しかし勇敢でありなさいという聖言でした。

私は病院にいつて先づこの聖言を御病人に申し上げました。勇氣を出しなさいと申し上げました。またわたしは一人ではありません。父が私とおられるのです。との聖言を語つてこの御言を信じて手術をお受けなさい、決して悲観してはいけなと申し上げました。どんな時でもわれ一人あるにあらざ父われと偕にある事を忘れない様にと申し上げて無事に手術が出来ていやされまます様にと御祈りして、お話しして帰りました。

私自身も半年前に突然家内を亡くして今も悲しみのうちにおります。生きていてくれたらという思いでいつばいです。そうするともう死んでしまつたのだから何としても取りかえしはつかないんだと思うとまことに淋しくなります。そうして祈ると勇氣を出しなさい、父が偕にいますのです、きつと最善に解決して下さいさるといふ信仰が内に起つてきました。今日まで毎日淋しさやわびしさとたゞかつてくるものが出来ました。

私達は四方八方から苦しめられますが窮すことはありません。途方にくれていますが行きつまることはありません。

(コリント第二の四、八、九改)

たしかに祈つて祈つて聖言にたよつてゆきますときは行きつまることはありません。御聖霊は私の心に臨んで下さいまして折に会うたすけを与えて下さいました。

本当に苦難に直面した時は途方にくれてしまいました。祈ることが出来ませんでした。おまけにプラス病弱といふ様な状態でした。夜半には狭心症を起したりしたものですから。然し大いなる報をうくべき信仰を投げすてないで聖言によりすがつて祈つてまいりまじたら私の心の痛みもじよじよに恢復いたしました。ベテスダの池の三十八年の病人の如く他人をたよりにしないで自分の足にて立ちて歩まねばという事に気づきました。殊に最近大病してからは家内は私の杖の様になつていてくれたのでそれがとられた時はショックでした。今にも心臓発作にて死んでしまうのではないかと思ひました。家内任せにしておりました家庭の事、教会の事を整理して何時主に召されても大丈夫の様にと毎日を心がけておりましたら此頃は大分身心共に元氣になりました。

祈ること、聖書を読むことに専心して御用を全うしたいと願つております。(徒六の四)

たしかに主は借に在してたすけて下さいました。此処数年間試練の中もつゞけて礼拝を守る事が出来、聖言を宣べ伝えることが出来たのは大いなる御恵でした。

信ずる者には能わざる事なしとの聖言を成就するために残された生涯をいろいろな問題の中に祈つて解決していただいて活きた証人として勇敢にお従ひしてゆきたいと思ひます。格別重症の方々のために神の栄光のあらわれます様に日夜御祈りいたしております。

報告 五月二十九日(礼拝)ペンテコステ礼拝です。内国伝道献金をお願いいたします。

消息 気候が不順でございます。私事御祈りに支えられてつゞいて御用をいたしております。

久保山先生七回目の手術をなさいました。御重態の様です。なかなか出血がとまりません。どうか主の手が加えられまして俄然たる聖工にあずかる事が出来ます様に格別お祈り下さい。御願ひ致します。麻生兄、金生姉、太田姉、斉藤兄の為に一日も早く癒されませう様御祈り下さい。今年も五ヶ月間守られました。御祈り有難う御座います。

祈りに専念した

一九六六年六月五日

イエスは苦難をうけしものち、多くのたしかなる証をもて、己の生きたることを使徒たちに示し、四十日の間、しばしば彼らに現われて、神の國のことを語り、また彼等と共に集りいて命じたもう「エルサレムを離れずして、我より聞きし父の約束を待て。ヨハネは水にてバプテスマを施ししが、汝らは日ならずして聖靈にてバプテスマを施されん」弟子たち集れるとき聞いて言う「主よ、イスラエルの國を回復し給うは此の時なるか」イエス言い給う「時また期は父おのれの權威のうちに置き給えは、汝らの知るべきにあらず。されど聖靈、なんじらの上に臨むとき、汝ら力をうけん、しかしてエルサレム、ユダヤ全国、サマリア、及び地の極にまで我が証人とならん」此等のことを言い終わりにて、彼らの見るがうちにあげられ給う。雲これを受けて見えざらしめたり。その昇りゆき給うとき、彼ら天に目を注ぎいたりしに、視よ、白き衣をきたる二人の人かたわらに立ちて言う「ガリラヤの人々よ、何ゆえ天を仰ぎて立つか、汝らを離れて天にあげられ給いし此のイエスは、汝らが天に昇りゆくを見たるその如く復きたり給わん」

(使徒行伝一の三十一)

先週の聖日はペンテコステの礼拝でした。ペンテコステというのはお弟子さんたちに聖靈が下つた日です。

私たちは何かしようとする時、信仰より見えることの方が頼りになりそうです。聖靈を受けると心の目が開けて、目に見えないものが見えるようになります。心を動かさず信仰に立つことができます。

戦前日本の勢いが強い頃は戦争に負けるなどは考えられませんでした。ドイツ、イタリアなども大変な勢いでしたが、またたく間にくずれ去りました。目に見えるものは大変堅固そうに見えますが、くずれるときの早さは勢いの良いときには想像も及ばないものです。

一人一人の生活の場合でも、一安心したとたんにくずれ落ちることが多いのです。

私共は四方八方から苦しみを受けますが、途方にくれるということはありません。

それにはやはり聖靈に満たされるといふことが必要です。

弟子たちはイエス様の命令に従つて、エルサレムの二階階敷で心を一つにして祈つていました。

私たちが毎日祈らないでおるといふことは、土台がくずれぬものとす。祈つておれば危い所でも切り抜けていくことができます。

拓植先生の頃は足なえや、手のなえた人がたくさん立ち上がり、まるで使徒行伝の再現のようなことがありました。それは先生が祈りに専念され、聖靈に満されておられたからです。

私共は此の世の知恵や、勢ひにまかせて、自己中心の生活をしがちです。一度に信仰を失うことはありませんでも、少しずつ少しずつ神の恵みになれて、純粹な信仰を忘れていきます。仕事が栄えていきますと、つい忙しさに負けて日曜日もなかなか守れなくなりす。

そんなときでも聖靈に満たされると、立ち直ることができます。ですから祈り深い生活をしなければなりません。

イエスが生きておられることについても、祈りによつて信仰ができます。とても難しいと思うことでも信仰を持つことができます。

いろいろな問題について、家中が心を合わせて祈るとどんなに幸いかわかりません。

弟子たちはエルサレムの二階階敷で、激しい迫害の中を心を合わせて祈りました。

使徒行伝の奇蹟は、心を合せて祈りに専念した結果として起りました。

私共は忙しければ忙しい程信仰にはげみ、祈り深い生活を續けていかねばなりません。

この一週間も、祈つて聖靈に満たされたいと思います。

この人たちは婦人たちやイエスの母マリヤおよびイエスの兄弟達とともに、みな心を合せ祈りに専念していた。

(徒一の一四、口語訳)

ペンテコステの聖靈の降臨はこうした人達の祈りの結果として起つた出来事です。

何を祈りにも祈りに専念したいものであります。其処に勝利があります。また祝福があります。祈りにまさる慰め

はありません。何卒祈りの人となつて下さい。

報 告

六月五日（第一日）礼拝後青年会があります。多数御出席下さい。
内国伝道献金をお願いいたします。

消 息

内田奥様がお訪ね下さいまして嬉しう御座いました。御忙しい中を御立ち寄りいただき幸いでした。皆様よろしく申されました。（五月二十六日）
愈々初夏となりました。御祈り有難う御座います。私事お祈りに支えられて元氣にして御用をいたしております。
久保山先生、麻生兄のために御全快をお祈り下さい。

聖靈は凡ての事を教え

主の聖言を思いおこさしむ

一九六六年六月二日

何事にても我が名によりて我に願わば我これをなすべし。汝等もし我を愛せば、我が誠命を守らん。われ父に請わん、父は他に助け主を与えて、永遠に汝と共に居らしめ給うべし。これは真理の御霊なり、世はこれを受くること能わず、これを見ず、また知らぬによる。なんじらこれを知る。彼は汝らと共に居り、また汝らの中に居給うべければなり。我なんじらを残して孤兒とはせず、汝らに来るなり。

此等のことは我なんじらと共にありて語りしが、助主、即ちわが名によりて父の遣し給う聖靈は、汝らによろずのことを教え、又すべて我が汝らに云いしことを思い出さしむべし。われ平安を汝らに遺す。わが平安を汝らに与う。わが与うるは世の与うるごとくならず、汝ら心を騒すな、また懼るな。(ヨハネ伝一四の一四―一八、二五―二七) 柘植先生がいつも言つておられたことは、「聖靈に満たされなさい」ということでした。

キリスト教信者がいつも満ちた生活を送るためには聖靈に満たされておることが必要です。聖靈に導かれなければお祈りすることも本当はできないのです。

二十六節を口語訳で見ますと、

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によつてつかわされる聖靈は、あなたがたにすべてのことを教え、またわたしが話しておいたことを、ことごとく思い起させるであらう。

とあります。

聖靈は父である神がイエスの名によつて私共につかわされたものであり、私共のわからないこと、私共が苦しんでいるときの解答など、どんなことでも教えてくださいますし、又私共が聖書で学んだこと、教会で導かれたことなどを折にふれて思い起させてくださるのです。ですから私共は聖靈に満たされ神の声をいつでも聞くことができる状態になつていなければいけないと思います。聖靈に満たされておればいつでも祈ることができまますし、祈りに答えられ

ることができません。

何事をも思わすらうな、ただ事ごとく祈りをなし、願いをなし、感謝して汝らの求める神に告げよ。さらば凡人の思いにすぐる神の平安は汝らの心と思いをキリスト・イエスによりて守らん。(ピリピ四の六―七)

私は若い頃鳥取県で伝導していました。よく食料が無くなると日本海に祈りに行きました。帰つてくると誰かが黙つて食事の用意をしてくださつておいたり、またあるときには米が一俵も置いてあつたりしました。そのよう不思議な体験の積み重ねが私の信仰を育ててくれました。

人の手段によつて助けられるといつても人為に頼ろうとします。一度そうなると仲々抜け切れません。ですから、私共は事々に祈りをして生きた神を体験し続けていかねばならないと思います。もし私共が聖霊に満たされた状態ならば、お祈りはいつでもできます。神様は私共のお祈りを聞いて下さいます。

私は、求めの切なるにより、要するだけの物を与えられる、という御言葉に頼つて祈つて参りました(ルカ二の五)し、これからも祈つていきたいと思ひます。

その聖言を握りしめて祈つてたしかに不思議な摂理によつて此の会堂も与えられました。人生百般のために聖言を与えられては祈り答えられては感謝して今日に至りました。どうか御聖霊によつて貴い聖言を思い起させていたゞいてそれにより頼んで勝ち得て余りある生涯を送りたいと思ひます。

報告 六月十二日(日)午後二時より久保山浩秀兄の葬儀を当教会において行ないます。

六月十七日(第三金)午後一時半より定例婦人会があります。

消息 皆様にお祈りをお願いしております久保山先生は六月七日午後七時すぎ安らかに召されました。先生のために皆様からの沢山の献血をいたゞき厚く御礼申し上げます。

私事六日より旅行致しました。幸い天候に恵まれ快適の空の旅が出来ると思ひます。一週間程風邪に襲われましたが、ねつきもせず戦つて追い出しつゝあります。何年振りかの独り旅にて私の健康のテストをして貰う時と思ひます。精々彼の地の兄弟を御訪ねし久しぶりにお話したいと思つております。御祈り下さい

祈りに励みなさい

一九六六年六月十九日

兄弟愛をもつて互に愛しあい、尊敬をもつて互に人を自分よりまさつていると思いなさい。勤勉で怠らず、靈に燃え、主に仕えなさい。望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。(ローマ二の二〇—二二 口改)

絶えず祈りに励みなさいという聖言に就て教えられたいと思います。祈りということは私共基督者生活の土台となる大切な、なさればならない事でありませう。祈つておりますとき御聖靈は親しく私共に臨んで下さいます。或時には露の様になつて余りにもはげしい人生の旅路の中でしおれ易い私共の心を丁度夜露が降りて草木を甦らせて生き生きとさせて下さる様に、私共の心に能力を与えてくれます。

私も試練後五・六ヶ月只管祈りの中に過して参りました処スツカリ生きる望を失つていた心に生きる望みを少しづつ与えられ遂に旅行でもしようという心が起り、祈つてその計画をしておりました。

何時死ぬかわからない様を自分にこうした機会を失つたらまたの機会はないかもわからないと思ひ、思ひ切つて空の旅をいたしました。久々ぶりに高い処から下界を眺めてその小さいのに驚きました。或時は雲の上を飛んでおります。クリスチャンは雲霧の上の生涯とうたいましたが、今更ながら深く教えられました。コセコセした思ひ煩いを主に委ねて全面的にこの大空の御手の中におさめたまふ主に委ね本当にユツタリした生涯を送りたいものと思ひました。それには何よりも祈りに励んで聖靈にみたまされねばならないと思ひます。

元来私は大自然の聖書によつて偉大な神様を学びたいと念願しておりました。少年時代を山の中の大自然の中に育ちまれましたので何としても季節の山川草木に接したい心が一杯です。此の度も軽井沢で日本中の野鳥が集つてさえずつておるといふ山野をたずねて心を洗われたいと願つて出かけました。

K先生の御昇天にて葬式を執り行つたためにいそいで帰りましたので、一番良い季節の野鳥をきくことが出来ませんでした。しかし帰りの飛行機の上から富士山の頂上を下に雲の中から見た時は壮快でした。

やつぱり私共は天的な高い生涯にて地上の生涯は空の空なるかなと伝道の書などを通してたつかんして聖書の道を

歩まねばならないと思いました。

K先生の告別の辞にも伝道書十二章で御話をいたしました。人間の本分は神を畏れその誠命を守れ之は凡ての人の本分なり、でした。

私は四〇年前にこの事を教えられそのために生涯を注ぎました。うべ我よき嗣業をえたるかなと呼ばざるを得ません。

全人類の多くはこの真理をさとれないために神を離れて人智を傾け人類を幸福に導こうとしてあらゆる能力・智力を発揮して二千年間まことに血なまぐさい悲惨な歴史を残してあるのであります。

私はこのために祈りに励まねばなりません。私は祈り祈つて健康テストの予定で旅行しましたが王はたすけて下さいました。

余りにも悩み多い今日にストレス解消のために祈つて旅したりしてリフレッシュしたいと思えます。

祈つておりますと患難にも耐える力が与えられ、そして少しづつ望むべくもあらぬ時望む事が出来る様になります。報告 六月十二日午後二時よりの久保山浩秀兄の葬式も実に盛大に執行されました。会堂は勿論外の庭も出席者でいっぱいでした。御祈りしていただいて無事に終了いたしました。

消息 私事も予定通り旅行致しました。あにく風邪に襲われ終日外出も出来ず皆様に来ていただいて御会いして帰りました。久保山先生の御逝去にて葬式の為に帰りました。然し主は助けて下さつて無事に御用が終了しました。格別久保山先生の御遺族の為に御祈り下さい。私共はもう一度先生が立ち上られる事を期待しておりました。遂にお召されにられました。解剖の結果は何処も悪い処がなく出血の原因がわからなかつたとの事です。麻生兄の為に祈つていたといて有難う御座います。帰つたら御手紙をいたゞいておりました。とても元氣になられた由です。感謝しております。内田吳様、山口吳様、古木様からもよろしく御伝言が御座いました。皆様とも御元氣にてそれぞれの教会にてよき御奉仕をしておられます。金生正雄君も御訪ねする時間がなく電話で兄弟と語りました。元氣でした。気候が不順です。御病氣の方々は御大切に。つゞいて卑しい者のためにも御祈り下さい。

キリストの平和をして

汝らの心をつかさどらしめよ

一九六六年六月二六日

この故に汝らは神の選民にして聖なる者また愛せらるる者なれば、慈悲の心・仁慈・謙遜・柔和・寛容を著よ。また互いに忍びあい、若し人に責むべき事あらば互にゆるせ、主の汝らをゆるし給える如く汝らも然すべし。

凡て此等のものの上に愛を加えよ、愛は徳を全うする帯なり。キリストの平和をして汝らの心をつかさどらしめよ。汝らの召されて一体となりたるは、これが為なり、汝ら感謝の心をいだけ。キリストの言葉をして豊かに汝らのうちに住ましめ、凡ての知恵によりて、詩と讚美と聖の歌とをもて、互いに教え、互いに訓戒し、恩恵に感じて心のうちに神を讚美せよ。また為す所の凡ての事あるいは行いみな主イエスの名によりて為し、彼によりて、父なる神に感謝せよ。(コロサイ書 三の十二―十七)

野球にはアンパイヤ、すもうには行司があるように、我々の人生には神という審判官が居られます。スポーツの場合審判によつてスムーズにゲームが運ばれるように、我々の人生も神という審判官によつてスムーズに運ばれるべきなのです。社会の問題、個人の問題、さまざまな悩みがこの人生には積み重なつてやつてまいります、神を中心立てて考えないことには万全の解決はありません。人間中心、自己中心の考え、神を離れて事を考え、行おうとする處の罪が私共を益々苦しみに追い込んで行きます。私達が神と結ばれているならば、たとえ周囲の事情はどうであろうとも私達には平和があるのです。

わが子よ、これらよりいましめを受けよ、多く書を作ればはてしなし、多く学べば体疲る。事の全体帰する所をきくべし、いわく神を畏れそのいましめを守れ、これすべての人の本分なり。(伝道の書 十二の十二―十三)

ソロモンは知恵も富も力も比べる王のいない程祝福を受けた王でした。この伝道の書はそのソロモンの書ですが、栄華を極めたソロモンの体験の結論は「空」の一言につきまゐります。伝道者言く空の空、空の空なるかな全て空なり (伝道の書 一の二)

事の全体帰する所は神をおそれ神に従う以外に人間の幸いはないと言つております。

いろいろ人為的手段による所のは、はた目には幸いそうに見えますが本人にはちつとも幸いはないのです。私共は神に結びつくことによつてはじめて真の幸いを体験することができるのであります。

我はぶどうの樹、なんじらは杖なり。人もし我にあり、我また彼におらば、多くの果を結ぶべし。汝ら我を離るれば、何事も為し能わず。(ヨハネ伝 十五の五)

私共が神という幹に結びつき、神から聖霊の養分を受けてはじめて多くの実を結ぶことができます。神なくては何事も為し得ないと書いてあります。よそから見た目には立派な実のように見える此の世の幸も、本人にとつて全く空の空なる物であることをソロモンも云つております。

コロサイ書に書かれた言葉は、信者が毎日の生活で実らせる実であり証であります。

神という幹に結ばれてこそ初めて平和があり、ここに書かれているような信者らしい生活ができるのであります。どうか祈つて絶えず神に結びついている毎日でありたいと思ひます。

報 告

内国伝道献金に御協力いたゞきまして有難う御座います。

消 息

私も病後の初めての旅行でしたのですが守られました土曜日夕飛行機でかえりまして日曜日に葬式でしたが支えられましたつゝがなく終りました。

さすがに疲れまして毎日静養いたしております。

金生姉も大分御元気になれました。

あつくになります。御大事になさつて下さい。私のためにも御祈り下さる。

兄弟と靈の賜につきては我なんぢらが知らぬを好まず、なんじら異邦人なりしとき誘はるゝまゝに物言わぬ偶像のもとに導き往かれしは汝らの知るところなり、されど我なんぢらに示さん、神の御靈に感じて語る者は誰もイエスは詛わるべき者なりと言わず、また聖靈に感ぜざれば誰もイエスは主なりと言ひ能はず（コリント前一二の一―三）

私は青年時代に社会学を学んである時貧乏という事に就て考えさせられた事があります。河上博士の貧乏物語を讀んだりして、ドフト・イエフスキーの貧しき人々の群やら慮げられた人々など讀んで苦しんでおりました。そして世界戦争が終り階級闘争が甚しくなり貧富の差がはげしく、こうした事を如何にして解決したらいいのかとさまざま考えたり讀んだりしました。その頃賀川氏の死線を越えてが出たりしてペストセラ―でした。貧民窟に入つたとしても貧乏は中々救われません、などと苦しんでおります中に関東大震災が起り天変地変の恐しさを身をもつて体験いたしました。そうした時に信州竜丘の栢橋先生の聖会に導かれたのでした。其処ではつきり人類の悩みの原因はイエスを主としていない事が原因であると教えられました。御聖靈は私にイエスを主として受け入れる様にせよと参りました。今迄私が主であつたがこれからは主イエスを私の主として生活いたしますと悔い改めて十字架を信じて新しい神を中心とした生活にきりかえさせていたゞきました。その後だんだんさまざまな習慣をはなれて聖言に従う様になりました。

われエホバに言へらく汝はわが主なり汝の外にわが福祉はなしと（詩一六の二）

本来に聖靈に感動しなければ、イエスは主なりという事は出来ません。然しこの事を教えられて聖言に絶対服従して参りました処たしかに聖言の如く私の上に四十年間実証して下さいました。

あまり此世的な立身出世など考えないて主に任せて生活してゆく事が出来るという事はまことに幸な事です。我らは何をたづさえて世に來らず、また何をたづさえて世を去る事能はざればなり（テモテ前六の七）

本當にこの聖言の如くなのです。一切を主に委せて大船に乗つた様な氣持になつて主にもたれかゝつてゆきま

すなら主は我らの思より願うよりもいたくまされることをなして下さるものであります。

イエスを主として聖書の聖言に従つてゆきますなら現今の世界の様な悲惨な生涯にはならないのであります。あの様な恐しい戦争も起らないでしょう。病氣だつて此頃の様にはならなかつたでしょう。この事が私には四十年前に教えられて思い切つて主イエスに従いました。

最近空の旅をして高い処から下界をながめてしみじみ天に座するもの笑いたまわんといふ聖言がわからせていたゞける様に思いました。イエスを主となした事をたしかに知れとペテロは大胆に説教しました。生涯イエスを主として生きてゆかれました。そして今日世界のはてまでイエスの福音が伝えられておるのであります。

長い間異教の中に育つた私共その時代の習慣や何かの中に私共の体臭となつてとれませんでしたが、時をかけた祈つて聖書の聖言に没頭して主と同じ形にまで引き上げていたゞきたいものです。何を考えるにもなすにも主イエスという御方の御旨を伺つてなす様な生涯を送りたいものです。

人生は多端です。なかなか単純にイエスを主として信奉してゆくには困難な事共の多い毎日です。然し祈つて一ツの壁をつき破つて全く主に従いたいものであります。カレブやヨシニアの如くに、それは少数でありましても多くの人々を動かしてゆく事が出来るのであります。

報 告

七月三日(第一日) 礼拝后青年会があります。青年男女の方々御出席下さい。

消 息

ジメジメした梅雨の六月も多端の中を無事すごしてまいりました。これから暑い夏となります。此の季節に身体をきたえてと思います。六月は旅行をしたり御葬式があつたりしてすつかり疲れてしまいました。とにかく主に依頼して毎日を過しております。毎日太陽が出てると余りその有難さを感じませんが、梅雨空にてジメジメしておるとしみじみ太陽の有難さがわかります。一家の主人を失つたり主婦を失つたりするとしみじみとわびしさを感じます。何卒格別御祈り下さいませ。久保山先生の御遺族のために、私も一生懸命がんばつております。

我なんじら及びラオデキヤに居る人々、その他すべてが我が肉体の顔をまだ見ぬ人のためにいかに苦心するかを汝らの知らんことを欲す。

かく苦心するは、彼らが心慰められ、愛をもて相つらなり、全きさとりすべての富を得て、神の奥義なるキリストを知らんためなり。キリストには知恵と知識とのすべての宝かくれあり。我これを云うは、功なることばをもて人の汝らをあざむくことなからん為なり。われ肉体にては汝らと離れ居れど、靈にては汝らとともに居りて喜び、また汝らの秩序あるとキリストに対する信仰の堅きとを見るなり。汝らキリスト・イエスを主として受けたるにより、そのごとく彼によりて歩め。

また彼に根ざして、その上に建てられ、かつ教えられし如く信仰を堅くし、溢るるばかり感謝せよ。なんじら心すべし、恐らくはキリストに従わずして人の言伝えと世の小学とに従い、人を惑わす空しき哲学をもて汝らを奪い去る者あらん。それ神の満ち足れる徳はことごとく形をなしてキリストに宿れり。汝らは彼にありて満ち足れるなり。彼は凡ての政治と權威との首なり。(コロサイ書二の一〇一)

本當の伝道者はどんなに苦斗しているかを知つてもらいたいとパウロは言つています。

終戦後は北海道の見知らぬ人に頼られました、御主人がカラフトから帰つて来られるように毎日祈りました。

勿論御主人もお会いしたことはございません。長い年月がかかりましたが遂には帰つてこられました。このように私共が見ず知らずの人の為にもお祈りし、苦心するのは、その方たちの心が慰められてキリストに近づくことができるためです。

キリストには全ての知恵、宝がかくれていると書いてありますが、私共を力づける知恵、私共の困難な問題解決の力は、すべてキリストがかくし持つておられるのです。ですから私共はいついかなる場合でも、信仰を固くしてさまざまな問題と斗つていかなばなりません。

終りに言わん、汝ら主にありて其の大能の勢威によりて強かれ、悪魔のてだてに立ち得んために、神の武具をもてよろうべし。我らは血肉と戦うにあらず。政治、権威、この世の暗黒をつかさどる者、天の処にある悪の靈と戦うなり。(エペソ六の一〇〜一二)

私たちの戦いの相手は血肉(人間)ではなく、その背後にある悪魔であります。

学生時代経済を勉強しましたが、この社会には、どんなに働いても裕福になることのできない一線があり、それ以下の人は一生涯乏から抜け出すことはできないのだということを教わりました。そのような点で若い人は非常に矛盾を感じ社会主義運動に走つていきました。

しかし社会主義では解決できないと思えます。その背後にある悪魔の働きと戦つて勝たなければ解決しません。悪魔と戦つて勝つてあとには十字架によつて、罪の清算をし、神と結びつく以外にはありません。そうしてコロサイ書に書いてありますように、私たちの土台を深く神の上におろし、信仰を固くして、溢れるような感謝の生活を送らなければならぬと思えます。

どんなに美しい物であつても、私共の心を奪われてはなりません。

ソロモンは人間として、富にも、知恵にも、権威にも、この世の最高の経験をした人と言えましょう。しかしその結果として得たものは、空の空であつたと、伝道の書に書き連らねてあります。

私共は見た目に快さそうなものに心を失うことなく、たゞひたすら信仰を生活の中心としていかなばならないと思えます。

私共が日夜祈つておることは、どうか兄弟姉妹が神の奥義なるキリストを識つて何物にも動かされない生涯を送られることでもあります。ただそのために顔を知らない人々のために祈つて苦闘してあるのであります。

報 告

七月十日(第二日)礼拝後壮年会があります。何卒壮年の方々多数御残り下さい。

七月十五日(第三金)午后一時半より当教会に於て婦人会をいたします。多数御出席下さい。

消息

梅雨もあけて愈々本格的な夏となります。之から暑いことと思えます。何卒この夏に身体をきたえる様に御祈りに励みたいと思えます。

私事も御祈りに支えられて元気です。御病氣の方々にもどうぞこうした気候に支配されない様に祈つてたたくて下さい。

私も毎日淋しさやわびしさと祈つてはたたくかたてあります。精密検査の結果心筋が悪かつたり、たんばくが出たりしておるとの事ですが、食養生に注意して信仰をもつて毎日毎日を過しております。血圧は二百位と九十位です。

然し余り気にしません。何卒御祈り下さい。

純粋な信仰

一九六六年七月十七日

私は夜昼祈りの中であなたのことを絶えず思い起しては先祖以来きよい良心をもつて仕えている神に感謝しています。私はあなたの涙を覚えているのであなたにあつて喜びにみたされたいと願っています。

私はあなたの純粋な信仰を思い起しています。そのような信仰は最初あなたの祖母ロイスとあなたの母ユニケのうちに宿つたものですが、それがあなたのうちに宿つていることを私は確信しています。それですから私はあなたに注意したいのです。私の接手をもつてあなたのうちに与えられた神の賜物を再び燃え立たせて下さい。神が私たちに与えてくださったものはおくびよりの靈ではなく力と愛とつしみの靈です。(テモテ二の一、三、七 口改)

私共の中になかなか純粋な信仰はないものです。柘植先生も晩年胃癌となられて大変肉体がお弱りになられた時、御自分の中にあつたと思つていた信仰は肉の元気であつたり、感情であつたり、さまざまな状態にあつた事を示されて悔い改められました。

イエスがカペナウムにはいられるとひとりの百人隊長がみもとにきて懇願して言つた。主よ、私の僕が中風やみで家にねていてひどく苦しんでおります。イエスは彼に言われた。行つて直してあげましょう。しかし百人隊長は答えて言つた、主よあなたに私の屋根の下まで来ていたゞく資格は私にはありません、たゞおことばをいたゞかせて下さい。そうすると私のしもべはなおりますから、と申しますのは私も權威の下にあるものですが私自身の下にも兵士たちがおりましてその一人に行けと言えはゆきます。別の者に来いといえは来ます、またしもべにこれをせよといえはそのとおりにはいたしません。イエスはこれ聞いて驚かれ、ついてきた人たちにこう言われた、まことにあなたがたに告げます、わたしはイスラエルのうちのだれにもこのような信仰を見ることがありません。あなたがたにいますか、たくさんの人が東から西から来て天の御国でアブラハム、イサク、ヤコブといつしよに食卓につきます。しかし御国の子らは外の暗やみに放り出され、そこで泣いて歯ぎしりするのです。それからイエスは百人隊長に言われた、さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように、すると一度その時しもべはいやされた。

(マタイ八の五―一二 口改)

純粋な信仰とはこの百卒長の様に聖言を何のまぢりけなしに単純に信する信仰の事です。聖書の中に神様から恵をうけた人々はこうした純粋な信仰の人々なのです。私共が人生の途上にさまざまを試験に会いますものこの純粋な信仰に私共を導いて下さる神様の手段です。

わらすべ一本でもあつたらもしヨルダン河でおぼれそうな時にそれにすがつてもという心があつて、たゞ聖言だけでヨルダンを渡ることがなかなか出来ないものであります。

たゞ聖言を与え給えという信仰はすばらしい純粋な信仰なのです。どうかテモテや福音書に記されている人々の如くに単純に聖言だけに依頼んでゆく者となりたいたいものです。サタンは昔と今は異なるのだと言つて私共の単純な信仰を

くつがえそうといたします。祈つて聖靈にみたまされて聖言だけを信頼してこの人生の荒浪を乗り越えて主を御喜ばせたいものであります。

多くの人々がこの純粹な信仰をすてて此の世の空言な理学に動かされて心を失つてしまい、初代教会の時代の様な奇蹟の行われる生活から離れて現今の様な世相に押し流されてしまつておるのです。どうか子々孫々までもテモテの如き純粹な信仰の足跡を残してゆきたいものであります。

このためには私共は朝夕祈りの中に苦闘してサタンに勝利を得ておらねばならないのであります。祈り深くして聖書に親しむ生活が私共に純粹な信仰を与えられ、そして保つてゆく処の秘訣でもあります。

消 息

岡崎兄が出張のため来福され、寸暇をさいて御訪ね下さいました。短い時間でしたが久しぶりにお交りが出来て幸いです。

七月も始めは梅雨のために涼しくてとても楽でした。然し之からはあつくなることと思ひます。私事も御祈りに支えられて高血圧以外は別に之という症状もなく毎日元氣にて主につかえておりますから御安心下さい。水習なども南部にはありましたが、私共九州北部は守られておりましたから御安心下さい。向暮の折柄御自愛專一に先は右まで。

それ地しばしば其の上に降る雨を吸入れて耕す者の益となるべき作物を生ぜば、神より祝福を受く。されど茨と薊を生ぜば、すてられ、かつのろいに近く、その果は焚かるるなり。

愛する者よ、われらかくは語れど、汝らには更に善きこと、即ち殺いにかかわる事あるを深く信ず。神は不義に在さねば、汝らの勤勞と、前に聖徒につかえ、今もなお之につかえて御名のためにあらわしたる愛とを忘れ給うことなし。我らは汝らがおのおの終りまで前と同じ励みをあらわして全き望みを保ち、怠ることなく、信仰と忍耐とをもて約束をつぐ人々にならわんことを求む。それ神はアブラハムに約し給うとき、指して誓うべき己より大いなるものなき故に、己を指して誓いて言い給えり。「われ必ず、なんじを思ひ思まん、なんじをふやしふやさん」と、斯くの如く、アブラハムは耐え忍びて約束のものを得たり。(ヘブル書 六の七―十五)

私たちは、若いうちは希望をもつて信仰にはげみますが、大学に入つたり、社会に出て段々社会的地位が向上するにつれて、信仰を続けなくなつてしまいます。初めの熱心を終りまで持ち続けることは大変困難なことです。

柘植先生はよく、「君たちが受験勉強する位の熱心さで聖書を読むなら、五・六年で世界を動かすような信仰を持つことができます」と言つておられました。はじめは誰しもがそのような気持で励みますが、仲々長くは続きません。私が境港に居た頃、背嚢カリエスで苦しんでいた人が信仰によつていやされました。今もその人から手紙が参ります。すが、そのとき以来四〇年間よい信仰を持ち続けて思まれておられます。

ヘブルの三青年は、バビロンのとらわれ人となりましたがその国の神を拝みませんでした。

そのことが時のバビロン王、ネブガデネザルに知れ、取調べを受けたとき、ヘブルの三青年シヤテラク、メシヤク、アベデネゴは——ネブガデネザルよ、この事においては我ら汝に答うるに及ばず。もしよからんには王よ我らのつかうる我らの神我らを救うの力あり。

彼その火の燃ゆる炉の中と汝の手の中より我らを救いください。たといしからざるも王よ知り給え我らは汝の神々

につかえず、また汝の立てたる金像を拜せじ——（ダニエル書 三の十六〜十八）

と答え炉の中に投げこまれましたが、神は三青年の信仰に答えて、そのきものも、焼けず、火の臭いもつかなくたと書いてあります。遂に王をして——かくの如く救を施す神他にあらず——とさけばせ、神をあがめる命令を國中に出させるまでに至りました。初めの信仰を終りまで持ち続ければそのような奇蹟が起ります。

この会堂建設のときも、土地計画にかかつて大変苦労しましたが、たゞひたすら祈り、信仰を持ち続けて戦いました結果、献堂式の午後、前の戦災住宅の土地が売れて一切が解決するといひ、まことに不思議なようなことが起り、神は祈りに答えて下さいました。

何事も祈つて待ち望んでいるときには、大変難しいような気がいたします。然し、忍耐して祈り続けていくうちにパツと解決がきます。そのために、初めの信仰を終りまで持ち続けていくように、祈つていかねばならないと思ひます。

私は多くの兄弟があつた、苦しかつた、乏しかつた時代の事を忘れないで、どんなに祝福されてまいりましても以前の様なはげみと生涯を送つてゆくなら、どんなに神様から用いられることであらうと、脱落してゆく兄弟姉妹の事を思ひとまことに美しい心がいたします。どうかよく聖書を学んで集りをやむる或人にならわらないで終りまで励みたいものであります。

報 告

八月は諸処に研修会とかさまざまな集会があります。どうぞ女関のポスターなど見て御出かけ下さい。

八月八日から十日迄御殿場のYWCAの東山荘にて伝道会の青年の集りがあります。御栄の表れます様お祈り下さい。

消 息

七月前半は気温が低くて過ごしやすい初夏でしたが、愈々本格的な夏となりました。皆様お変わりありませんか。私事もお慰によつて守られて此頃は至つて元気にて毎日を通しておりますから御安心下さい。

愈々折つてあつたい夏をのり切りたいと願つております。皆様も祈り深く御元氣でお過ごし下さいませ。

大自然にあらわれた神の栄光

一九六六年七月三一日

なんぢら眼をあげて高きを見よ、誰が此等のものを創造せしやを思へ、主は教をしらべ、その万象をひきいだし、おのおの名をよび給ふ主のいきほひ大なり、その力の強きが故に一も欠くることなし、ヤコブよ汝何故にわが途はエホバにかくれたりといふや、イスラエルよ、汝なにゆえにわが訴えはわが神の前をすぎされりと語るや、汝しらざるかきかざるかエホバはとこしえの神地のはての創造者にして倦み給ふことなくまた疲れたまふことなくそのさときことはかりがたし、つかれたるものには力を与え勢力なきものには強きをまし加え給ふ、年わかきものもつかれてうみ、壮なるものも劣るえおとらう、然はあれどエホバを挨拶む者は新なる力をえん、またわしの如くつばさをはりてのぼらん、走れどもつかれず、歩めどもうまざるべし(イザヤ四〇の二六―三一)

私は最近健康も大体決復したので日頃願つております、大自然にあらわれる神の栄光にふれたいと願つておりました。

遂にその願いに答えられて阿蘇山にゆくことが出来ました。家の中に閉ちこもつていて病状の一進一退に喜憂しておつた心を開放されながらかごの鳥が大地にはなれたれ如く大阿蘇の一木一草がなつかしく、またまばゆいばかりにすばらしく、独り心の中に神を崇めつゝ阿蘇ハイ・ラインを利用してこの度ははじめて仙酔峽に降つてきました。

阿蘇火山口も天候が祝され、噴煙も眺められ神様の偉大にふれることが出来ました。三十年ぶりに栃木温泉に一泊豊富な神のお恵の温泉に浴してシミジミ神の御恩寵を崇める外はありませんでした。

柘植先生が御病氣にて碧海に静養されたとき天の父が風呂の加減はどうかと旅から疲れてかえつてきた息子をいたわれる様な細い御声をかけて下さつて感泣したとの御証しを今更の如く思い出し久しぶりに大自然の恵をかみしめました。

汝この世の富める者に命ぜよ高ぶりたる思いをもたず定めなき富をたのまずして唯われらを楽しませんとて万の物を豊に賜ふ神に依頼み……(テモテ前六の一七)

私共は儒教や仏教の永い間の感化にて樂しむという事を罪惡の如く考えてしまひ御馳走にも灰をかけて食し粗衣をまといそれがさながら聖人の如く考えて偽善者に知らないうちになつてしまつたのであります。丁度白くぬりたる墓の如く一皮はげば臭氣ふんぶんたる惡臭を出していたものであります。然し此の驚くべきイエスの福音に接しこの前古未曾有の十字架を信じて神の子とせられ復活し給ふ主の臨在を信じて毎日を樂しくすごさせて下さる神を崇めて過す様になりまして、大自然の美に対しても灰をかける様な事をせずベートペンとともに自然にあらわれる神の榮光を崇める事の出来るといふ事は何と幸なことでしょう。神様は私共を樂しましめんとして四季さまざまな氣候を与え四季とりどりの山川草木鳥獸を与え、またさまざまな果物を与えて私共を樂しませて下さるのであります。私は四〇年前にこの福音を受け入れこの空もこの花もこの果物もこの紅葉も私を樂しましめんと神様が与えて下さつたのだと心より神を讚美することができておどりあがりました。

神の造り給えるものはみなよし感謝して受くる時はすつべきものなし、そは神の言と祈りとによりて潔めらるるなり、(テモテ前四の四、五)

二日目は阿蘇の外輪山の大觀峯から阿蘇の五岳の展望は格別偉大でありました。この偉大な創造者なる神を信ずるといふことがどんなにすばらしいことであるかを思い今更乍らよき嗣業を得たる哉と神を崇めてかえりました。

人間の幸福はこの神を信ずる以外にありません。殊に自分が寝てきたときそれを感じます。

何故に糧にもあらぬ者のために金を出し、飽くことを得ざるものゝために勞するやわれにきゝ従えさらば美物をくらふを得あぶらをもてその靈魂をたのしませることを得ん。(イザヤ五五の二)

一日も早く此の聖言をさとりたいものです。

消 息

矢張り夏です。本格的な暑さになりました。皆様おかわりありませんか。御伺い致します。私事も御祈りに支えられて毎日元気で過しております。格別御病氣の方々の為に御祈りしております。氣を落さないでがんばつて下さい。健康をきたえるのは夏です。いろいろの意味に於てのびのびとしてゆける夏です。つゞいて御祈り下さい。

さて兄弟達私の身に起つた事がかえつて福音の前進させることになつたのを知つてもらいたいと思います。私がキリストのゆえに投獄されているといふことは親衛隊の全員とそのほかの凡ての人にも明かになり、また兄弟達の大多数は私が投獄されたことにより主に在つて確信を与えられ恐れることなくますます大胆に神の言を語るようになりました。(ピリビ一の二二―一四)

私共は純信仰に立つて福音を正しく証してゆく時はさまざまの迫害や困難に遭遇するのであります。もちろん人間ですからそうした苦難に必ずしも耐えられるものではありません。一番あの時死んでいたほうがよかつた様にとたびたび思う事があります。然しそうした時に我が生けるはキリストのため(ピリビ一の二二)という様はハツキリした目標がなかつたら、みなぎりあふるる様な禍にふみ倒されてしまうのであります。

ピリビ人への手紙はパウロの晩年にローマの牢獄にあつてピリビ教会の人々にあてた手紙であるといわれております。パウロは死を前にして(ピリビ二の一七、三の一〇、一一)捕われの身でありながら彼の心は喜びにみだされていたのであります。この小さい書翰の中に十六回も喜ぶといふことが書かれていますのであります。私共はその秘密をこの聖書から学びたいものであります。

パウロが捕われた事によつて彼の伝道活動は終つたのではないかと見られたのであります。神の御わざである福音宣教は人間の予想とさまざまな制約をこえて前進したのであります。前進とは軍隊が進撃をはばむ処の障害物を除くことを意味しております。

パウロの捕われが福音の前進に役立つたという事が三ツの面から考えられるのであります。その第一はパウロが到達しようとして達し得なかつたローマ行きが実現したことであります。(徒一九の二一)第二はローマの軍隊の主腦部の人々に福音を伝えることが出来たことであります。第三はこの事実を知つてピリビの人々に伝道は神のみわざであることが確信出来たのであります。

私共も異つた形でパウロと同じ様な状況に追い込まれることがあります。どうか何時、如何なる時にも我が生けるはキリストのためという目標を生涯動かさないでたくかつてゆきたいものです。

人生には目標が大切です。殊に迫害や苦難の中にあるときその人に真の目標があるかないかは生死にかゝる問題であります。

パウロはローマの牢獄の中に於てまたさまざまな苦難の中にて生きるにも死ぬるにもわたしの身によつてキリストがあがめられることであるという明確な目標があつたのであります。ですからパウロにとつてはそれが自由な境遇であらうと不自由なとらわれの身であらうと問題ではなかつたのであります。

私はどんな境遇にあつても満ち足りることを学びました（ピリピ四の一）からであります。私は私を強くしてくださいる方によつて、どんなことでも出来るのです。（ピリピ四の一三）

人間的に見てパウロは牢獄の中にあつて伝道は出来ないだらうと思つておりました。それがかえつて福音の前進にその事情や境遇が役に立つたのであります。

私共も「我が生きるはキリストのため」という目標をもつてこれからの残された人生を神以外の何物をもおそれず祈つて歩みたいものであります。其処にこそ本当の生きがいがあります。

報 告

八月七日（第一礼拝后）青年会があります。

八日から御殿場にて研修会にゆかれる兄弟の為に祈つて御送りしたいと思います。青年男女の方々多数お残り下さい。

消 息

七月後半よりの暑さは格別です。福岡は三十二度以上が二十何日間もつゞいております。皆様おかわりありませんか。私事御祈りに支えられて毎日元気で祈つております。世の浪はわれを主にたよらしめと歌の如く只管祈つて戦つて毎日を通してあります。もう一ヶ月暑い中をがんばりたいと思います。本年は七月前半雨が多かつたので断水ということもなく感謝してあります。格別暑い昨今御病人の方々御大切に御祈りいたしております。

聖言をきいて悟る

一九六六年八月一四日

その日イエス家を出て海辺に坐し給う。

大いなる群衆もとに集まりたれば、イエスは舟に乗りて坐し給ひ、群衆みな岸に立てり。たとえにてあまたのこ
とを語りて言い給う、「みよ、種まく者まかんとていず。まくときかたわらに落ちし種あり、鳥きたりてついばむ。
土うすき石地に落ちし種あり、土深からぬによりて速かに萌えいでたれど、日の昇りしときやけて根なき故に枯る。
茨の地に落ちし種あり、茨をだちて之をふさぐ。良き地に落ちし種あり、或いは百倍、或いは六十倍、或いは三十倍
の実を結べり。耳ある者は聞くべし……」

誠に汝らに告ぐ、多くの予言者、義人は、

汝らが見る所を見んとせしが見ず、なんじらが聞くところを聞かんとせしが聞かざりしなり、されば汝ら種まくも
ののたとえを聞け。

誰にても天国のことは聞いて悟らぬときは、悪しき者きたりて、其の心にまかれたるものを奪う。路のかたわら
にまかれしとはかかる人なり。石地にまかれしとは、御言を聞きてたゞちに喜び受くれども、己に根なければしはし
耐うるのみにて、御言のために艱難、あるいは迫害に起るときは、直ちにつまづく者なり。茨の中にまかれしとは、
御言を聞いて悟り、実を結びて、或いは百倍、或いは六十倍、或いは三十倍に至る者なり。

(マタイ伝 十三の一―九、十七―二十三)

キリスト教は、人知や理性や知恵では解決できない教えであります。

先日牧師先生方の話し合いの中で出ましたことは、聖書の中で分りにくいことは、インカーネーションだといふこ
とでした。インカーネーションとか復活とか、聖書の中の奥義的な問題は、説明でわからせようとしてわかるもので
はありません。聖霊による悟り以外にはわかるものではないのです。

現代の科学の粋を集めた飛行機も、大事なところは操縦士の六感に頼ります。湯川さんの中間子理論も、研究を重

ねた結果、靈感によつてその理論の基礎を得られたと言われています。科学もつきつめれば人間の六感によるものが多いのです。六感は、私たちが、知恵や、理解を越えた何かによつて悟ることだと思ひます。

若いとき東京にでて苦学をしました。いろいろと悩み求め、結局何もわからず、人生に自信を失くしてしまいました。が、柘植先生の集会に出て、十字架の話聞き、この人生に全く新しい希望を持つようになりました。

またこの世の中で、負けずに生存競争を生き抜いていく道を発見しました。

御言葉を聞いて悟る者とならなければいけません。

教会によつては、信仰がおきて的となりません。キリストの教えはおきてでないことは言うまでもありません。キリストの教えは福音であり、十字架を信じ、神の御言を信する以外にありません。

またある教会では、御言葉を、現代人の頭で理解できるようにと、奇蹟などをわかりやすく説明しようとしています。なんじらまず知れ、聖書の予言は、すべて己がままたくべきものにあらぬを。予言は人の心よりいでしにあらざ、人々聖靈に動かされ、神によりて語れるものなればなり。(ペテロ後書 一の一―二十一)

信仰は行いや、人間的な解釈によつて得られるものではありません。

御言葉を聞き、祈り、従うことによつて、聖霊から悟りを与えられるものであります。

私共も、聞く耳ある者となつて、マタイ伝十三章にありますように、良い地の信仰を持ち、この生涯に、三十倍、六十倍、百倍の実をふやすより、祈つていきたいと思ひます。

報 告

八月十四日(第二日)礼拝后壮年会を少時間もちたいと思ひます。

壮年会とか婦人会とか青年会の時教会のさまざまな事につき御相談したいと思ひますから、なるべく御都合して御出席御協力下さい

八月の婦人会は休会です。

消 息

暑い八月も半になりました。お元気でですか？ 私事も元気で御用をいたしておりますから御安心下さい。格別御病人の方々のために御祈りいたしております。

永遠の生命に至る

糧のために働きなさい

一九六六年八月二日

朽つる糧のためならで永遠の生命に至る糧のために働け、これは人の子の与えんとするものなり、父なる神は印して彼を証したまいしによる、ここに彼ら言ふ、われ神の業を行はんために何をなすべきか、イエス答えて言いたまふ、神の業はそのつかわし給える者を信する是なり、（ヨハネ六の二七―二九）

変動の多い現在の社会に於て動揺しやうい感情の持主として私共はさまざまな出来事に直面してどうしたらよいかとまどうことが再々あるのであります。そうした時に過去の人生経験が何の役にも立たないことを教えられるのであります。

そうした時私共の生活のあり方が何に重点をおいていたかといふ事をためされるのであります。その人の人生観と価値観のいかんによつて決定されるのであります。

其処で主イエスは朽つる糧のために全力をつくして働かないで永遠の糧に至るために働けとおすすりなつておられるのであります。

私は青年時代に確固たる生き方をするためにはどうしたらいいかとあれやこれやと苦しみ考えてみました。

然しなかなかわかりませんでした。

何者にも何事にも動かされないので生きてゆくためにはどうしたらいいか暗中摸索の様に学問に財力に名誉にと終いには芸術にという風にさまざまつてしまっています。

さまざまの中を通してアダム・イヴ以来の罪を犯して遂に人間を喪失してしまつてゐる事を教えられました。その結果として物質が主で人間が従といふ様な物的環境に支配されてその奴隷となり右往左往していることを教えられました。

結局自分自身を調節していくことが出来ない状態になつた事をさとりました。

どんな理想もこの罪の解決なくしては丁度ガラス戸の外に何かを見る様に到達することが出来ない事をさとらせていただきました。

そして遂に主イエスの十字架の救以外にこの罪の解決のない事がハッキリとわかりました。其処で一大決心をしてこの主イエス・キリストを信じて救われたのであります。

なんちらの罪が緋の如くなるも雪の如く白くなり紅の如く赤くとも羊の毛の如くならん。もしなんちらうけがいでば地の美産をくらふことを得べし、もしなんちらこばみそむかばつるぎにのまるべし(イザヤの一八、一九)

それから聖言を学び之を實踐することにつとめて四十数年になります。

たしかに聖言の如き人生を送ることが出来ました。たゞいまは生きてゐるといふことより生かしていただゐるといふ信仰であります。

私共を生かして下さる方を知るといふことは人生の大問題なのだといふことをさとりました。生かして下さる方とは神であります。

わかき人は何によりてかその道をきよめん、聖言に従いてつゝしむのほかぞなき……われ汝にむかいて罪を犯すまじきためになんちの言をわが心の中にたくわえたり (詩一一九の九、十一)
神を知るといふことは聖書を学ぶことによつて出来るのであります。

聖書の中には自然を通して神を知られる様な記事もあります。たとえば「もろもろの天は神の栄光をあらわし大空は御手のわざを示す」(詩一九の一)「神の永遠の力と神性とは天地創造のかた被造物において知られている」(ローマの二〇)しかし、之は衣服を見て本人を予想するよりなものでありまして人格的に私共にかかわつて下さる神さまそのものを知ることゝは体質的に違います。

子を知る者は父の外になく父を知る者は子また子の欲するまゝあらわすところの外になし(マタイ一一の二七)この聖言の意味は人格的に神を知ることが大切だと教えておるのであります。

或人は聖書はその中にキリストが臥したまふ馬槽であると申しましたが聖書は人間の言を用いて書かれています。かりでは馬槽の如くやさしい姿をしております。この馬槽の中にはキリストの宝がかくされております。

いざといふ時には何の役にも立たない朽ちる糧のために多くの時をついやさないでこの主を識るために心をつくしたものであります。キリストを証するものは沢山あります。然し聖書は他の証しに依存しません。それで聖書のもつともよい注解書は聖書自身であるといふことです。而して統一的全体として受け入れることです。或部分だけを大切に於して他の部分を軽んじてはいけません。

消 息

七月十四日以来毎日三十二度以上のあつさです。皆様おかわりありませんか、主のおたすけを御祈りしております。私も御祈りに支えられて割に元気で過しておりますから御安心下さい。

御病人の方はどうぞ大事に、然しこのあつさに支配されないで頑張つて下さい。日夜皆様のためにお祈りしております。

私たちは聖なる山で主イエスとともにいたので天からかかつたこの御声を自分自身できいたのです。また私たちはさらに確かな予言のみ言を持っています。夜明けとなつて明けの明星があなたがたの心の中にのぼるまでは暗いところを照らすともしびとしてそれに目をとめているとよいのです。それには何よりも次のことを知つていなければいけません。すなわち聖書の予言はみな人の私的解釈を施してはならないということです。なぜなら予言は決して人間の意志によつてもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが神からの言を語つたのだからです。

(ペテロ第二の一の一八—二二)

私共が毎日拝読している聖書は旧約聖書と新約聖書の二ツからなつております。この二ツの聖書はその成立過程を異にしていますので、その事について少し教えられたいと思います。

旧約聖書は一人の宗教的天才によつて書かれた書物ではありません。また多くの人々が初めから正典にするために相談しながら書き、編集して出来たものでもありません。千年以上の長い年月にいろいろの場所、さまざまの人々が種々の目的をもつて伝えられ書き記された文書が、さらに後の人々によつて次第にまとめられ、やがて特別な権威をもつものとして認められ、あるいは淘汰されて正典として確定されていつたものであります。したがつて聖書がどのようにして出来たかを知るためには旧約聖書がどのようにに成立した、そして聖書はどのようにして今の様な形に於て正典として確定されたかの二点から考えなければならぬのであります。

旧約聖書はほとんどの宗教がその経典をもつているようにもともユダヤ教の内部で成立したものであります。

古来多くの民族がその固有の文字を口伝えとしてもつておりましたようにイスラエル民族も民間伝承ともいふべきものをもつておりました。それは最初短いものでしたが次第に大きな単位にまとまつていき、やがて文書として書き記されました。したがつてその起源を尋ねれば旧約聖書はイスラエルの歴史と同じほど古いということが出来るでしょう。これらの中には宗教的な歌や物語と共にとも素朴な歌(井戸堀りの歌)(民二二の一七、一八)もあり、旧

約聖書の中に記録されています。

私共がモーセの五書と呼んでいるもの（創世記より申命記まで）はこれらの伝承が結びあわされて編集され多くの筆が加えられつゝ長い年月ののち、ほぼ捕囚後（前五世紀）に現在のような形にされていつたと考えられております。旧約聖書中律法として最も早く權威ある書とみなされた五書がこの様に複雑な成立過程をもつてゐることからも他の部分も多かれ少かれ同じような過程をもつてゐることがわかります。

前予言者（ヨシユア、士師、サムエル上下、列王上下）いうまでもなくいわゆる予言者、イザヤもひとりの予言者によつてかかれ編集されたのではなく、小さな予言断片がのちの人々によつて編集され、名がつけられ、浮動してゐる他の予言断片が附下され、さらに伝記的部分が挿入されながら次第に大きなものにされていつたわけです。そして最後のな編集がなされて四つのほぼ同じ長さの予言書が（イザヤ、エレミヤ、エゼキエル、十二予言者）出来たのは紀元前二世紀少し前頃であつた様です。

詩篇は現在五巻に分けられています。本来独立してゐた数種類の詩集が紀元前二世紀ごろまでに今のような形に編集されたと考えてよいでしょう。この他に詩篇とともに諸書の中に教えられております。

報 告

聖書について教えられ私共も知つてゐても信仰のさまたげにはならないと思ひますから、転載いたして皆様の聖書を読む参考にと考えて、一二回の週報に載せます。どうぞ御判読下さい。

消 息

今年はいつまでも暑い日が続きます。然し今日までもつていたゞきました。

お盆休みにかえつてきた二男と夕方カチカチの庭に水をまいて草取りをしたら少しまゐりかけました。やつぱり長い間静養してゐたので身体が駄目になつてしまいました。然し久しく考えてゐた庭がきれいになり、お墓にも小供遊といつてきました。

格別御病氣の方々のためにお祈りしております。モー一息です。頑張つて下さい。

確かにキリストにあつて敬虔に生きようと願ふ者はみな迫害をうけます。しかし悪人や詐欺師たちはだまされたり、だまされたりしながら、ますます悪に落ちてゆくのです。けれどもあなたは学んで確信した処にどどまつていなさい。あなたは自分がどの人たちからそれを学んだかを知っており、また幼いころから聖書に親しんできたことを知っています。聖書はあなたに智慧を与えてキリスト・イエスに対する信仰による救をうけさせることが出来るのです。聖書はすべての神の靈感によるもので教えと戒めと矯正と義と訓練とのために有益です。それは神の人がすべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。

(テモテ 二の三・一四―一七 口改)

新約聖書の各巻は何時何処でどの様にできてきたかをこゝで詳しく述べることは出来ませんので、ごく簡単にまとめてみてゆきたいと思ひます。その前に忘れてならないことは新約聖書は最初から正典として書かれたものはいつもないということです。むしろイエスを初め初代のキリスト教会は旧約聖書を唯一の正典としてもつていたわけです。

(コリント第一、一五の三―五)

注意深く読めばわかることですが特に共観福音書は同じ様な記事が出てきます。このことからわかりますように、福音書が出来た以前から教会の間にはイエスの言やなされたことが口伝えや短い文書として流布していました。その数はかなりあつたと思われませんが、やがて福音書としてまとめられました。マルコによる福音書はかなり早く六〇年代に書かれたと考えることが出来ます。その後マタイやルカによる福音書(七〇年から九〇年頃迄の間)がさらにヨハネによる福音書(九〇年から一二五年頃迄の間)が書かれました。各々その書かれた場所や対象によつて特徴をもち主張をもつております。厳密にいえば福音書と呼ばれるものはこれらの他にも多く存在しておりますが、この四ツがその内容から正典としての地位を獲得いたしました。

使徒行伝はパウロの随行者ルカの手になる部分をもつていますが、その成立の年代を正確に決定することはむづかしくて七・八十年頃或いは九五―一〇〇年頃であつたと推定されます。

新約聖書は手紙と名づけられるものが二ありますが、その中でもパウロの手紙は書かれた年代からいえば一番古くその事情も最もよくわかっています。手紙といつても極めて個人的なものから回状の様にならぬ広い対象を予想させるものなどいろいろありますが、いずれにせよパウロとあて先の人々とは特別な関係、事情によつて結ばれていて一般的普遍的な教義を述べているといつたものではありません。パウロの差し出した十三の手紙をすべて彼によるものとは考へることは出来ませんが、その大半はパウロの活動の中で書かれたと考へられております。その他の手紙は大體九〇年から一五〇年前後までに教会の内外の諸問題（特に異端の問題）と対決する必要を教会の教育の必要などから書かれ、次第にその内容から教会の間に説まれるに至りました。

ヨハネ黙示録は当時盛んであつた黙示文字の形をとつていますが、他の多くの同類の文書の中から選ばれて後に正典の中に加えられました。

新約聖書は最初の部分は歴史的事物りがおかれております。共観福音書（マタイ、マルコ、ルカによる福音書）とヨハネによる福音書はともにイエス・キリストの物語りで福音の事実として記されています。つゞいて使徒の働き（おもにペテロとパウロ）が述べられております。

この部分について二一の手紙がおかれています。パウロの手紙の中で四大書簡といわれるもの（ローマ、コリント第一・第二、ガラテヤ）次に獄中書簡（エペソ、ピリピ、コロサイ、ピレモン）順序はパウロの手紙の最後）とテサロニケ第一・第二がつゞき、次に牧会書簡（テモテ第一・第二、テトス）がきます。これらはすべてパウロが差し出し人になつています。さらに公同書簡（ヤコブ、ペテロ第一・第二、ヨハネ第一・第二・第三、ユダ）がおかれています。そして最後にヨハネの黙示録がその内容にふさわしく聖書の最後におかれ新約聖書二七巻が終つております。年が若いからといつてだれにも軽くみられないようにしなさい。かえつて、ことばにも態度にも、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範となりなさい。

私がゆくまで聖書の明説と勧めに専念しなさい。長老達による按手をうけたとき予言によつて与えられたあなたのうちにある聖霊の賜物を軽んじてはいけません。これらの務めに心を砕きしつかりやりなさい。そうすればあなたの

進歩はすべての人に明かになるでしょう。

自分自身にも教えることにもよく気をつけなさい。あくまでそれを続けなさい。そうすれば自分自身をもまたあなたの教えを聞く人たちをも救うことになります。(テモテ第一、四の二二―二四)

報 告

九月四日(第一)礼拝後青年会をいたします。御殿場研修会の御証をききたいと思ひます。多数御出席下さい。

消 息

台風があつてから雨も降り涼しくなりました。少しあつさでつかれましたがすぐ恢復して元氣に御用をいたしております。

四方よりなやみをうくれども窮せずという信仰生涯を送る事は中々困難です。破船しそうになります。祈つて折つて辛うじて保たれているという時もあります。何卒格別羸肉弱い者のためにお祈り下さい。

病氣の方々この夏のあつさを如何にたゞかわれましたか。御勝利をお祈りいたしております。

その頃ヘロデ王教会のうちの或人どもを苦しめんとて手を下し剣をもてヨハネの兄弟ヤコブを殺せり、このことユダヤ人の心にかないたるを見てまたペテロをも捕ふ頃は除穢祭の時なりき、すでにとりて獄に入れ過越の後に民の前にひき出さんと心がまえにて四人一組なる四組の兵卒にわたして之を守らせたり、かくてペテロは獄の中に囚われ、教会は熱心に彼のために神に祈りをなせり、

(使徒行伝十二の一―五)

ヘロデ王はヨハネの兄弟ヤコブを殺害し更にペテロをも捕えたのでありました。使徒の最初の殉教者でありましたヤコブの死によつて初代教会は有力な指導者を失ひ、なおその上に大使徒ペテロまで捕えられましたので不安と失望のどん底につき落された思いの人々も多かつた事と思ひます。

教会はその様な国家や王の圧力に対して何もしなかつたのではなくペテロ救出のためにさまざまの計画を立てたと思ひます。しかし今日中共に行なわれておる紅衛兵の様に暴力や国家の権力にて教会の動きに特別な警戒をしていたので、こうした強力な国や王の武力の前にはどうにも手が出なかつたというのが実情であつたと思われます。私共が戦前戦中の国家主義の人々の中におつたときのように、

しかし生きて働き給う神の臨在を信じております教会の人々にとつてはそうした事情にも絶対的な失望はないのであります。詮方つくれども希望を失はず(哥后四の八)いや希望は失えないといつたほうが適切かも知れませぬ。如何なる困難に遭遇いたしましても。

教会は熱心に彼のために神に祈りをなせり(徒十二の五)という生活があるのです。神我と偕に在すという信仰のあるところには神に祈ることが残されておるのであります。

彼等はこうした時ヘロデ王に対抗する様な力も武器もなかつたのであります。

たゞ彼らはペテロのために真実に只管祈ることは出来ました。

祈りをやめて罪を犯すべけんや！祈らないということが基督者には最大の罪であります。

祈るといふことは一見無力にも見えますがその中にこそ神の唯一の力があることをさとることが出来るのであります。しかもそれはもつとも強力な力である事を体験することが出来るのであります。

ペテロが天の使に導かれ獄中より救い出された有様が物語風に書かれております。

ペテロ自身も無事であることに気がつくまではすべてが夢としか考えられない不思議な出来事でありました。使徒行伝の著者はこうした出来事を神の救いと熱心な祈りの力の証として記されたのであります。

私共は主は活きて働きて給うと神の臨在を信じますとき祈りながら、その祈ることに真実で誠実でないことが多いのではないのでしょうか？

義しき者の篤き祈りは力あるものなり（ヤコブ五の十六）私共の祈りは必ずきかれるという確信をもちたいものです。

おごそかなる実在者である神を信する者すなわち神の確かさを知る人々の祈りが神の力を体験するのであります。私共基督者はこの確信に生きたいのであります。

その後ヘロデ王はまもなく愚かな群衆の、あなたは神だというへつらいの叫びに宇頂点になつてゐるとき急死したと記されております。神でないものが神の座にすえられたとき虫にかまれて息がたえてしまいました。

強力に見える国家や権力やまた科学やその他すべてが神の御計画遂行をはばむことが出来ないものであります。いと小さき者の私共の祈りもそれが神のみこころにかなひますときこれより強いものはないのであります。

一見無力に見える毎日の祈りがこの福音を世界のはてはまで進ましめる原動力となることを確信したいものであります。

報 告

九月十一日礼拝後壮年会があります。壮年の方々は御残り下さい。

大瀧公園教会の墓地が平尾の霊園に決まりました。藤掛兄の御勞によつて。ところで無事に納骨堂も移転出来ます

様にお祈りと御協力をお願いいたします。

九月十六日(第三金)午後一時三十分より教会にて定例婦人会があります。御出席下さい。
九月十四日教区壮年修養会があります。詳細は玄関の広告を見て下さい。

消 息

三宅姉が八月末にいよいよ福岡を引き上げ、福山にゆかれました。余り急なので皆様に申上げることが出来ませんでした。よろしくと申されました。回姉のためにお祈り下さい。

日中は残暑が厳しくても朝夕は大分涼しくなりました。私も祈りに支えられてつゞいて元気にしておりますから御安心下さい。御病氣の方々御大切に御全快をお祈りいたしております。

召しについて考えてごらん下さい

一九六六年九月十八日

兄弟たちあなたたがたの召しについて考えてごらん下さい、この世の智者は多くはなく権力者も多くはなく身分の高い者も多くはありません。しかし神は智慧ある者を眺つかしめるためにこの世の愚かな者を選び強い者をはつかしめるためにこの世の弱い者を選ばれたのです。また此世の取るに足らない者や見くだされてゐる者を神は選ばれました。すなわち有るものをないものにするために無にひとしいものを選ばれるのです。これは神のみまえて誰も誇らせないためです。しかしあなたたがたは神によつてキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは私たちにとつて神の智

恵となり、また幾ときよめとあがないとにられました。まさしく誇る者は主にあつてほこれとかかれていますとおりになるためです。(コリント第一の一の二六―三一〇改)

私共は何故にキリストの召しをうけたかをよく考えてごらんなさいと御聖霊は仰せられておられるのであります。まことに矛盾の多い昨今人生の下積みにおける者はともすれば不平不満を天に向つてぶちまけやすいのであります。

一層のこと徹底的に破壊されてしまつたらなどと考えることもあるのです。

若い世代は社会主義的な思想に走り易いのであります。私も青年時代にそうした中に頭をつつこんでそうした闘士となりたい様な時もありました。然し元来が意気地なしで弱虫でモー一つそうした中に突入する元気がありませんでした。そうした中で何とか誰をも苦しめないで破壊しないで人生を幸福にする道はないものかといろんな精神的な話をきいたりしてさ迷つたものでした。

昨今のニュースでは中共に少年少女の紅衛兵というのが出来て今迄の古いものをぶちこわして毛沢東路線に従つて新しい中共を建てるのだといつて諸処に破壊活動が行われておる様であります。多数のインテリ階級や地主階級やそれらした資本家の人々は苦しんでいることだろうと思ひます。

私は今から四十数年前に人間は神の前に罪のある間は決して神の国の来らぬということを教えられました。その罪をとり除く事が出来なければどんなすばらしい教もこの人生に樂園を築くことは出来ないこととさとしていたゞき思ひきつてこの十字架の救にあずかりました。

素朴な青年の心に余りにも腐敗しきつた大人の世界をながめ、またみすばらしい自分の姿を示され、何か偉大なお方に依頼む外にないと心に細い声がひびいて主の十字架を見上げて信じるようになりました。

十字架の言は亡びに至る人々には愚かであつても救いをうける私たちには神の力です。

(コリント第一の一の一八〇改)

たしかにこの聖言の如くであります。私のなやみも不満も不平も吹きとんで教主の巧により嬉しき身となりぬ、なやみ多き世もさながら聖國の心地して、と歌い乍ら信州から帰つてきた時の事を思い出します。

主はわが歌わが喜びたゞ一つの救い、いでや伝えん世にあまねく、とうたの如く生涯をイエスにさへげて従つたものでありました。

事実この世が自分の智慧によつて神を知ることが出来ないのは神の智慧によるのです。

(コリント第一の一の二二口改)

智者学者かくして幼児にあらわし給うを謝すと主は祈られました。余り智慧がありすぎてこの驚くべき福音をうけいれる事が出来ないばかりにしのぎをけずつてたゞかつて苦しんでいる多くの人々がおります。

愚かな弱い私共に此の大きな福音をさとしめ信じさせて下さつたということは何と有難いことでしよう。かくの如くなるを得るは神の恵によりてなりと主に栄光を帰しあげて主を誇つて生涯どんな苦難にも勝ちたいものです。

しかし私たちは私たちを愛して下さつた方によつてこれらすべてのことの中にあつても、圧倒的な勝利者となるのです。(ロマ八の三七口改)

消 息

九月四日の礼拝には古木兄が御出張来福され出席され楽しくお交りの時をもちました。

とても御元氣にて御活躍の御様子です。

平原正与先生も御来福お交りいたしました。

私もあつちの中をつゝがなく毎日元氣で生かしていただいております。最近毎夕八時頃より二時間大隈公園にいつて祈つております。モー一度リヴァイバルを起していただきたいと願ひまして。

祈つていただいております。麻生定男兄が九月十日に平安の中に昇天されたとの御電話がありました。

御祈り有難う御座いました。

悲しみの人にしてなやみを知れり

一九六六年九月二十五日

われらが宜ぶるところを信ぜしものは誰ぞや、エホバの手は誰にあはれしや、かれは主のまへに芽ばえの如くかわきたる土より出づる樹株の如く育ちたり、われらが見るべきうるはしきすがたなく、うつくしきかたはなくわれらがしたふべきみばえなし、かれはあなどられて人にすてられ悲哀の人にしてなやみを知れり、また顔をおほひて避くことをせらるゝ如く侮られたりわれらも彼をとらうとばざりき（イザヤ五三の一―三）

私は二・三日山に静まりにゆきました。初秋の高原は何ともいえずすばらしい風情があります。或晚つれづれなるまゝにテレビを見ておりました。それは都会の孤老といふのでありました。二人の老人の晩年をうつしておりました。一人は定年退職した人、一人の婦人は主人の亡きあと二五年間一生懸命家業に励んで成功した人の記録でした。

私も家内を亡くして本当に孤独を感じておりました、そのテレビを見て考えさせられてしまいました。現在苦勞のあるといふ事、さまざまの問題のあるといふ事が本当に神様のお恵である事をしみじみと教えられました。

あなたがたはキリストのために、キリストを信ずる信仰だけでなく、キリストのために苦しみを賜つたのです。あなたがたは私について見たこと私についていま聞いているのと同じ戦いを経験しているのです。

（ピリピーの一九、三〇、口改）

苦しみが神の賜物であるとパウロは教えておりますが、本当にその事を教えられております。社会保障制度などが徹底して衣食住に不自由のない生活が出来たらと私共は考え易いのでありますが、先進国であつてそうした制度の充実に北欧の国々にて老人の自殺者が多いことはどうした事でしよう。

やつぱり物質問題だけでは人生の百般の問題は解決出来ないであります。

最近では医学の面でも精神医学などが研究される様になつておるのであります。古いことわざだが病氣は、氣をやむといふことは医者では何としても解決出来ないのですと書いた医学雑誌を読んだ事があります。

こうした人類の深刻な悩みにとどいて下さるといふことは主イエスをおいて他におられないのであります。主イエ

スがりまぶねという最下等の出生から大工ヨセフの子として三十有余年の御生涯はどんな処におります私共にもといて下さるお方であることを御経験なさつておられるためであります。

私たちの大祭司は私たちの弱さに同情出来ない方ではありません。罪は犯されませんでした。すべての点で私たちと同じように試にあわれたのです。ですから私たちはあわれみをうけ、また恵をいたゞいて、おりにかなつた助けをうけるために大胆に恵の御座に近づこうではありませんか。(ヘブル四の一五、一六 口改)

儀式的な宗教生活とか智的な聖書研究には私共のこの孤独を追放することは出来ないであります。

私は最近肉体的にも精神的にも強くしていたゞき本當に祈ることが出来る様になりました。折にあふ助けを得んために大胆に祈れとすゝめております。祈つておりますとき御聖霊は静かに臨んで我一人おるにあらず父私とともにいますなり(ヨハネ一六の三二)と細い御声がきこえてまいります。すると能力にみだされてきます。

もう一度余生を世界のリバイバルのために祈りたいという心で一杯です。

主の天よりの召しにあづかるまでこの心を失わない様に祈つております。北歐の老人の人々も結局祈りの欠亡といふ原因ではないかと思われます。或意味に於てさまざまな欠亡の中にあるといふことが私共は人生を深く考えないでその出来事に追われて孤独といふおもいも追放されて毎日を送ることの出来ることも深い神の御恵でありますことを教えられます。

神は愛なりといろいろな事情の上に書いて神を崇めて勝利の毎日を送りたいものです。

報 告

今なお残暑の此頃ですがモ一暖房の事を考えねばならなくなりました。余り手のかゝらない良い暖房設備が出来ますように御祈りと御協力をお願いいたします。

十月四日夜より七日夜迄九州修養会が今泉町のナザレン教会であります。多数御出席下さい。

消 息

すでに御報告いたしました、永らく祈つていたとききました麻生兄が十日平安の裡に昇天なされた由です。御祈り有難う御座いました。

重症になりますと中々信仰をもちつゞける事はむづかしいですねえ。私は此頃高血圧以外は別に自覚症状はありません。然し自重しながら主にお任せして祈つて極力聖言に従つてゆきたいと祈つております。

昨今の福岡は水道が時間給水です。少しも雨が降りません。只主を待望んでおります。

神を畏れなさい

一九六六年十月九日

そこでわたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺してもあととはそれ以上何もできない人間たちを恐れたいけません。恐れなければならぬ方をあなた方に教えてあげましょう。殺したあとでゲヘナに投げ込む權威を持つておられる方を恐れなさい。そうです、あなた方に言います。この方を恐れなさい。

五羽の雀は二アサリオンで売つておられるでしょう。そんな雀の一羽でも神の御前には忘れられてはいけません。それどころかあなた方の頭の毛さえもみな数えられています。恐れることはありません。あなたがたはたくさんの雀よりもすぐれた者です。(ルカ一二の四―七 口改)

此頃サルトル氏という哲学者がフランスより来日されました。そして日比谷公会堂で一般の人々に話された事を新聞に報道しておりました。

その言の一節に

孤独は知識人の運命……しかしこのような状況こそ知識人が自己の仕事をなしとげる最良の条件とサルトル氏は現代の知識人の積極的な役割を強調したといふことであります。

私は最近二回の礼拝に於て孤独といふことについて教えられてまいりました。孤独ということが私共を専ら祈ることと、聖言につかえることに私共を導いて下さるといふ事を経験いたしました。(使六の四)

祈りの生涯に入りますと御聖靈は親しく臨んで下さいますして私の心の中から孤独という淋しい気持を追い出して下さいまして、たとい私の肉体が殺されてもあとは何にも出来ないものを恐れる必要はないといふことを確信させられました、自分が病身だといふことを恐れて消極的な毎日の生活をくりかえして中々立ち上ることが出来ませんでした。此頃格別祈り深い毎日を送っておりますと私が救われ献身した当時に落合の裏山で祈つた事共を思い浮かべ、また山陰の増港時代海に山に祈りに行つて、教会内は勿論その近隣の村々までリヴァイバルが起つた事を思い浮べて非常の神の能力にみだされて毎日生活が出来た様になりました。

サルトル氏の言われた如く此の地上に本当にたよるべきお方が神以外にないといふことをさとらしていたといたとき、その生活は全く孤独であるといふことをさとらしていたとき、それから私の祈りの生活が真剣になつてきました。孤独ということが私を一番最善な生きる道に追いやつて下さつた事を思うのであります。之からは何者にも支配されないで只管神にむかつて祈る生涯にはげみたいと決意する様になりました。

恐れなければならぬ方をあなたの方に教えてあげましようと言は仰せられます。一番最悪な時にも要害となつて下さるお方を第二・第三にして此の世の生活とか快樂とか立身出世を第一にして空しい月日を重ねてきたものであります。老年になつてからしまつたと思つても人生はやり直しが出来ないものであります。

どうか神を第一位に私共の生涯においてはげみたいものであります。そういたしますと五羽の雀はニアサリオンで売つております。そんな雀の一片でも御前には忘れられてはならないといわれるのであります。虫にひとしい私共が何とかして生涯神を崇めたいと励んでおりますとき神さまは喜んで私共を慰んで下さるのであります。最善な生涯を

送るために人間には善と考えられる私共のさまざまなたよりにするものを取り除いて、よりよく生きるために永遠に導いて下さるのであります。イエス様も弟子達にもまた多くの人達にも理解されないうでまことに孤独な御生涯を全うされたのであります。只管父なる神に祈られてこられたのであります。聖書の人々はみな祈りの点に於ては同じでありました。

それどころかあなたがあなたの頭の毛さえもみな数えられています。恐れることはありません。私も四十年間時々恐れたりしましたが此のお方に祈つて一切をみたまされて今日に至りました。祈つて神と偕なる生活を送りたいものであります。

報 告

十月九日(第二日)礼拝後壮年会があります。何卒御協力下さい。
ストープ・納骨堂等一切の必要がみたまされます様にお祈り下さい。そして御協力下さい。

消 息

台風などで諸処に大変な被害がありました。御無事を御祈りしておりました。大分涼しくて之から寒さとの戦いです。御祈り下さい。

御病氣の方々御大切に。

末永弘海先生が足痛にて御静養中です。御全快を御祈り下さい。

私は突然吐血・血便のため弱きをおぼえております。特に御祈り下さい。

求めなさい

そうすれば喜びがみちます

一九六六年十月一六日

その日にはあなたがたは私に何もたずねません。まことにまことにあなたがたに告げます。あなたがたが父に求めることは何でも父はわたしの名によつてそれをあなたがたにお与えになります。

あなたがたは今まで私の名によつて求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ちみちたものとなるためです。(ヨハネ一六の二三、二四 口改)

中々日曜が休みにならないで禮拜に出られないとか、さまざま理由を並べて臨在に近付けない口実とし易いものです。聖書はむづかしいから読まれないとか、私はその時に祈りなさいよと申上げます。

あなたがたが父に求めることは何でも父は私の名によつてあなたがたにお与えになりますというすばらしい御約束の御言葉があるからです。誰だつて人間ですから長い人生にはいろいろな出来事に遭遇いたします。そうした都度中々祈ることの出来る様を私共の霊的狀態ではないのですが、そこを主に頼んで祈つていきますとき思いがけない方法によつて道が開かれ、また心にさとりが与えられてその人生の難関をのりきつてゆくことが出来るのであります。

私は最近心臓が悪いという病気のせいか急に淋しくなつて困るときがあります。そうした時につとめて祈る様になります。殊に夏の終り頃からは家におればクーラーがありますので涼しいのですが、思い切つて外気にふれて少し運動したいと思ひ大濠公園に行つて静かな処で二時間程祈ることが出来る様になりました。

求めなさい、そうすれば受けることが出来るのです。それはあなたがたの喜びがみちみちたものとなるためです、とあります聖言の如く私の心の中にいつのまにか言うことのない様な喜びがみちみちてきたのです。

折つて野に山に海にと過した山陰時代のことを思い出し、とても嬉しくてたまらないのでした。その大濠公園の祈りの場所を去るのがおしまれる様を事おしははでした。然し病的な身体を思い、また明日の日にと思つて帰つてくる毎日です。

やつぱり私共は祈らねばならないのです。祈りは人間の身体でいえば呼吸の様なものだということです。食事は一日に三度すれば事足りて生きてゆくことが出来ますが、呼吸は五分間やめたら死んでしまうのであります。たしかに聖書はベストセラーであります。聖書研究は盛んになつたと思われます。然し祈りが軽視される様になつて昨今クリスチャンは力を失ひ、どうしたらモー一度何者にも恐れなくて立ちむかつてゆくことが出来るかを研究しております。新興宗教の隆盛を見ては内容は大したことはないんだがといつゝ中々福音を大衆に滲透させる事の出来ないのが昨今の私共のなげきであります。こうした伝道の不振のためにも此の聖言に従つて祈らねばならないと心づきました。少し祈り出しますと主は待つていたといふ様に働き出して下さるのであります。

祈り深い毎日は私共のたましいに能力を与えて下さいます健康その他の事の見ゆる処の状態が問題にならなくなりました。

私は致命的な病氣だといふ気持ちに支配されておりましたが、祈つておる中にいつのまにかそうした気持はなくなつてしまい、健康体と同じ様に毎日を生活して今日にいたりました。

地上の生活は何時までかわかりませんが、生かしていただいておる間思ひきつて祈つて主の聖言に従いたいと願つております。

いろいろな意味に於て欠亡の多い毎日ですが主の前にありのまゝを申し上げてみたされて、本当に充実した主の聖前にある生涯を送りたいものであります。

消 息

私事 おかげさまで危機を脱しまして少しづつ果物等を食べられるようになりました。わりと元氣になりましたが、毎日二百〇〇の輸血をしなければならぬ状態です。

返血（血液銀行から買った血量だけ又返さなければなりませんので）に御協力下さいませ。又肝臓に悪影響のないように切に切に御祈り下さいませ。

人々が「平和だ。平和だ」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。しかし兄弟たち、あなたがたは暗やみの中にはいないのですから。その日が、盗人のようにあなたを襲うことはありません。

(テサロニケ一の五 口改)

私は、最近別にこれという症状があつたわけではありませんけれども、教会のこと、身辺のこと、一応早く整理しておかねばならないような思いに迫られました。着々準備しておりました。ところが突然十月一日夜吐血し、気絶して人事不省に陥りました。それでも自分は大患にかゝつてゐるとは知らずに二日の日曜朝洗面して礼拝の準備をしていましたところ、またまたトイレで倒れ、出血し、人事不省に陥り、子供達が一生懸命心配し、医師を呼び、診察してもらいました結果、胃かいようにて大出血して、輸血の必要を説かれましたが、私は極力イエス様に従うつもりでお断りしました。

しかし、出血多量の為血液欠乏にてどうしても輸血しなければ危いということで、遂に医師の指示に従い、子供達から血液をもらい輸血しました。そして危機を脱して絶対安静をつづけ、九州修養会にも出席することができず、一週間絶対安静をつづけておりました。

九日の日曜の御用もできないで藤掛さんをお願いしておりましたところ、その夕刻激烈な狭心症が三度つづけて起り、一時脈はくも止まり、医師からもだめだといわれましたが、その時皆さんの厚きお祈りに応えられて、ふしぎに脈がうちかえし、蘇生して危機を乗りこえることができました。爾来医師の命令に従い、食養生に務め、絶対安静をつづけ、だいぶん健康も回復してまいりました。今は果実、おかゆ、スープ、お魚等なんでもいただいてよろしいようになり、毎日お祈りもできるようになります、聖書も少し読めるようになりますから、どうぞ感謝して下さい。今度こそ最後の使命を全うして主の御前にたてるようにとのえられたいと聖霊のお助けを待ち望んでいます。

丁度家内を亡くして一周年の時かように決心しております。もう一度講壇で御用のできるようにお祈り下さい。

報 告

いよいよ寒くなつてストーブをとりますからお祈り下さい。教会のまわりの垣根も作りかえましたから、その方の御献金もお願ひいたします。

消 息

お祈りしていただいておりました、末永弘海先生、松本実枝子姉も退院御静養中です。ひきつゞきお元氣になられるようにお祈り下さい。

私も早く講壇に立ち、御用が致したく願つています。医師の許可が早急にお祈り下さい。御礼や感謝の手紙をさしあげたいのですが、筆がとれませんので、週報にて御礼申しあげます。

我が道を行く

一九六六年十月三〇日

「そこで兄弟たち。あなたがたのなから御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちが仕事に当らせることにします。そして私たちは、もつぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします」この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステバノ、およびピリポ、プロコニ、ニコル、テモン、バルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは折つて、手を彼らの上に置いた。こうして神のことばは、ますます広まつて行き、エルサレムで、弟子の数が

非常にふえていつた。そして多くの祭司たちが次々に信仰にはいつた。(使徒六の三―七)

私は終戦後「我が道をゆく」という映画を見まして非常に教えられました。私には私の道があるということを示され、生涯どういう境遇の中にあつても教えられた道に従つて歩もうと決心してきました。その道はもっぱら祈ることと、聖言に仕えることを私の使命として出発しました。ともすると様々な事に追われて祈ることをやめたり、聖言とあまり歩むことができませんでした。

しかし、むち打ちながらつとめて祈つてまいりました。大体高血圧の結果心臓を悪くしたので肉体の方がついてゆくことができないのです。

最近祈りに没頭すべく祈りにいつておりました処、それが身体に無理になつたのか突然病氣になり、遂に再起をあらやぶまれる様な状態になりました。約三週間病床に生れて初めて絶対安静という状態を命ぜられました。こうした時にも専ら祈ること、聖言に仕える事をつとめてまいりました。

何とかして毎日を聖言と偕にの生活をつとけたいと願つておりました通りにどうゆう中であつてもそれをつとけることができました。

病床におります時、諸先生方の訪問をうけ色々祈つていたときました。病氣は快方に向いましたが、私自身が中々伝道の方面に積極的な活動が出来ませんので、やつぱり祈り深い生涯を送つて生涯を全うしたいと願う様になりました。

中々わが道をゆくという事はむづかしいこととしみじみさとらされます。

・・・信仰も、もし行ないがなかつたならそれだけでは死んだものです。(ヤコブ二の一七 口改)

いやされたりと云う信仰を實行して起き上りました処、心配していた様な事も起らず立ちて歩むことが出来ました。格別聖言が神であるということを教えられておりましたから、何としてもそれを實行しなければ証しが立ちませんので、思い切つて聖言に従いましたら力が与えられて不思議に元氣が出ました。今後も祈つて主の御足跡に従つて行きたいと思つております。

この世が自分の知恵によつて神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆゑ、神はみこころによつて、
宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。(コリント一の二二―三二 口改)

消 息

このたび、私突然の病氣にて皆様には多大の御心配をかけ申しわけありませんでした。篤きお祈りにより危いところを守られまして再び起上る事が出来ました事を感謝致しております。その節はお見舞いを頂き篤く御礼申し上げます。亡き妻の記念会も無事にさせて頂き感謝致しております。引続きお祈り下さい。末永先生御退院御静養中です。お祈り下さい。末永奥様の為にも全く癒されます様お祈り下さい。

大いなる報をうる信仰を投げすてるな

一九六六年二月六日

ですからあなたがたの確信を投げ捨てゝはなりません。それは大きな報をもたらすものなのです。あなたが神のみこころを行つて約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。もししばらくすれば来るべき方が来られる。おそくなることはない、わたしの義人は信仰によつて生きる。もし恐れ退くならわたしの心は彼を喜ばない。私たちは恐れ退いて滅びる者ではなく信じて生命を保つものです。(ヘブル一〇、三五―三九 口改)

あなたがたは光に照らされて後苦難に会いながら激しい戦いに耐えた初めのころを思い起しなさい。

(ヘブル一〇、三三―一 口改)

今から四十年前位山陰で伝道していた時の迫害に耐えて来た事、二十年程前に妻を亡くし戦災に会い無一物になり、

七八の子供たちをかゝえてさ迷いつゝ苦勞した事共を想い起してきますと、今の苦しみなど物の数ではないのですが、年をとつて高血圧と心臓の悪いという状況にて何か非常に重い苦難に会つてゐる様な感して独り祈りつゝ戦つてまいりました。処が突然に思いがけない吐血と出血にて貧血を来し氣絶したりしたものですから、遂大いなる報をうくべき信仰を投げ捨ててしまひそうになりました。病床に必死となつて祈つてきました。どうか此の難関も信仰で乗り切りたいと思ひ祈つておりますのですが如何せん身体が自由になりませんで子供達や多くの人達の善意を受け入れて、お医者さんの指示に従ひ、最善の努力をしていたゞいて九死に一生を得まして起きることが出来る様になりました。この黙示はなお定まれる時をまちて終りを急ぐなり、偽ならず若しおそくあらば待つべし必ず臨むべしとゞこおりはせじ（ハバクク二の三）

三週間の絶対安静は喪た事のない私には長いものでした。然し遂に三週目の月曜の朝一人で立つてトイレにゆくことが出来ました。

それからおもゆからおかゆという風に御医者さんの御命令に従ひ食養生をし乍ら四週目の日曜日には講壇に立つて御用をいたすことが出来る様になりました。矢張り信じた通りにしていたゞいて感謝しております。この時病状を恐れて立上らなかつたらよき証しをすることが出来ません。そして私の魂も之を喜びとしません。私が途中九日（日）夜三度激烈な狭心症に襲われ脈もとまるという様な状態になりましたので非常に心配して私の信仰の動作が無茶をしている様に思われて中々聖言通りに歩むことが出来ませんでした。然し思い切つて一切を主に任せて立ちあがらせていたゞきました。その後日に日々快復してあゝした重症におちいつていたのはうその様になりました。

たしかに聖言の如く終りを急ぐなりと急にいやして立たしめて下さいました。

主に一切の栄光を帰し上げ何時主の御召しにあづかつても我こゝにありと今度こそは準備して待ちたいと思ひます。妻を亡くした一週年目に私の主の聖前に導いていたゞけると思つて危篤状態の中に主に祈つてお任せしていたのでしたが、まだ整理しなければならぬ事が残つてゐることで、それを片付けてゆくべく残して下さつたのだと思ひます。親しき友みな先だちゆきて小暗き此世に一人残りぬという歌の如く、あゝ主よ此宵も偕にいまして淋しき此の身

をはぐくみたまえと祈りつゝ一歩一歩主と偕なる生活をしてゆきたいと思つております。

報 告

十一月六日（第一日）青年会の定例集會が礼拝後あります。青年の方々お残り下さい。

消 息

格別なお祈りを有難う御座いました。おかげさまで日々元氣になりつゝあります。

もうしばらく日曜礼拝だけにして他の集會は休ませていただきます。週に一回だけですからどうか時間におくれな
い様に御出席を願います。つゞいて御加護下さい。

心を失うなかれ

一九六六年一月一三日

また子に告るが如く告給いし言を汝ら忘れたり、曰くわが子よ汝主のこらしめを軽んずるなかれ、そのいましめを
りくる時心を失うなかれ、そは主その愛する者をこらしめ又すべてりくる所の子をむちりてり。

（ヘブル二の五、六 元訳）

度重なる試練にてともしれば心を失い易い者であります。私はこの度の突然の病氣のために多くの方々に祈つてい
たとき御心配をかけて参りましたが、すつと祈り深い毎日と聖書を愛読してありました事によつて可なり重態なので
したが、心を失う事なく戦いぬく事が出来まして感謝いたしております。

状態によつて心を失う事なく聖言に堅く立つておりますならば、思つたよりも早く状態をかえてゆく事が出来るこ

とを体験いたしました。

なんぢらつゝしむべし恐らくはキリストにしたがわず人のつたえと世の小学にしたがい、空言なる理学をもつて汝らの心を奪わん (コロサイ二の八 元訳)

病中私の感じた事は私の病気が胃かいようという病氣にて吐血、出血という症状が度々つゞきましたので、身体中の血が沢山出て非常に危険の状態なのでしたが、この病状についても注意しなければならぬと子供達が心配しそくれたのですが、それは多くの人のいゝ伝えによるものであり、この世に属する幼稚なものでありまして、キリストの教に基くものではありませんでした。私は何処までも病をいやす力もキリストの中にこそ満ち満ちていると信じて只管主を待ち望んで参りました。此の度多くの方々が諸処で格別祈つて下さいました。たしかに聖言に堅く立つて心を失わないで進んでゆきますならば人生の百般の問題はその人に最善なる解決を与えて下さるという確信を与えられました時、今のニユースをきゝますと脳溢血、心臓病、がんが死亡の最高だというのであります。私はそうした病氣をもつておりますので一寸心を失い易いのでありますが、祈りと言によつてきよくなるべしとの聖言に従つて戦つております。

彼は望むべくもあらぬ時になお望みて多くの国民の父とならんことを信ず、そはなんぢの子孫かくの如くならんと言いたまいしによりてなり、彼信仰浅からざればよわい、おほよそ百才にして己が身の死ぬるが如きとサラの胎の死ぬるが如きさまをも願りみず不信をもつて神の約束をうたがわず、反つてその信仰を篤くして神を崇め、神は約束し給う所を必ずなしうべしと心にさだむ(ロマ 四の十八、二十二 元訳)

アブラハムも状態によつては心を失い易かつたのであります。とても老人になつたから駄目だとかいうことで弱つてしまわないで、神様の約束の御言を心に確信して必ずなし給うとたゞかい乍ら信じてつゞけて遂にイサクが与えられたのであります。

わが願ひは世を逝つてキリストと共に在らんことこれ最も美事なり(ピリピ一の二三)

さまざまな試練の中を通つてきましてこの聖言がさとられましたので、私はこの度主のみもとに召していたゞける

と思つて一切を委ねて待ち望んでおりましたが、主はもう一度蘇生させて下さいました。之も最善であることを信じて聖言に従つて進み度いと願つております。

空言な理字やらこの世の小学やら人のいゝ伝えなどによつて心を失わないで聖言に立つてゆくなら必ずその如くなることを証しすることが出来る様になりました。

一ヶ月間の重態が本当に元気を恢復して可なり長時間御用をしても疲れない様にしていただきました。どうぞ皆様元気を時に、恵の時に祈り深く聖言を心にたくわえて之をたしかにして周冊の事情や境遇に目を奪われ心を失わない様に心がけて、多難な人生を勝ち得て余りある生涯を送りたいものであります。

報 告

十月十三日(第一日)礼拝后壮年会があります。どうか壮年の方々御出席下さい。

藤村老先生が御昇天なさいました。

十一月十八日(第三金)午后一時半より定例婦人会があります。多数御出席下さい。

消 息

御祈り有難う御座います。秋も深くなつて参りました。私も漸く快復終日起きることが出来る様になりました。然しまだ食事がおかゆという様な状態で余り力がつきませんが気分は毎日さわやかであります。

少しづつ元気になつて最後の御奉仕をしたいと思ひます。つゞいてお祈り下さい。

思い出しなさい

救われた時を

一九六六年二月二〇日

ですから思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦人でした。すなわち、肉において人の手によるいわゆる割礼を持つ人々からは、無割礼の人々と呼ばれる者であつて、そのころのあなたがたは、キリストから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であり、この世にあつて望もなく神もない人たちでした。しかし以前は遠く離れていたあなたがたも今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によつて近い者とされたのであります。キリストこそ私たちの平和であり、二ツのものを一つにし、隔ての壁を打ちわし、御自分の肉に於て敵意を廃棄されたのです。(エペソ二の一一―一四 口改)

私は今から四十数年前迄は病気の時は薬などをたのみとしておりました。或時首の処にグリグリが出て病院にゆきました。するとリンパ腺が化のうしたのだから切開してうみを出さねばいけないと言われました。私は薬局に行つてこんなに沢山薬があるのだから何か薬で散らすことは出来ませんかとたづねました。薬局の人は之はみんな砂の様なものできませんよと言われました。それで仕方なく恐れながら切開してもらいました。それから二・三ヶ月病院に通いましたが中々きづ口がふさがりませんで痛い思いを何ヶ月か続けました。其頃或事情のために病院通いが出来なくなりました。仕方がないから決心した時不思議によくになりました。その後何年か経つた後非常にインフルエンザが流行しているとき、試験勉強してがんばつておりますと、十二月の或夕方俄然血が出ました。之はテツキリ肺病になつたと思ひとても心配しました。神田の本屋にいつて死ということを知りたと思ひました。有島さんの死という書物を買つてきて読みました。矢張り死にたくないという心がありませんかして何とかしてそうした中に生きるといふ望を与えてくれはしないかと思つて読みました。しかし駄目でした。身心共に救われたいと思つて迷ひ歩きました。遂に震災后植植先生によつてイエスさまのお救いをうけました。

その時生涯このイエスさまだけに信頼してゆけば大丈夫という信仰を与えられ一切を献げ従つてまいりました。

たしかに肺病はいやされ、心に平和を与えられ、聖書の聖言に従つて祈つて参りました。凡て願いに従つて与えらるべしとの聖言の如く一切がみたまされてまいりました。

私はイエス様によつて神の子とせられました。私がどんな場合にも私の側に神が共にいて下さるといふ信仰にて毎日を生きておりますので、此度の突然な病気の時にも余り動揺しないで平安である事が出来ました。

出血多量にて貧血して人事不省におちいりましたので、非常に脱水状態が甚しく苦しんだのださうでしたが、私自身はそれを少しも記憶しておらないのでした。恵の御手に目をおおわれという讚美歌がありますが、全く苦痛を感じない状態に神様がして下さつたのだらうと思ひます。

罪が赦されて神の子とされた事を今更ながら感謝しております。

神との関係がイエスによつて出来ました私共には何を恐れる必要はないことをこの度体験いたしました。

神さまとの関係のなかつた時は色々なものに迷いましたが、今は我が心定まれり一切を主に委ねて毎日安静して主がいやして下さることを待ち望んでおります。

聖言のたしかさを証しさせていたゞくためであることを体験させていたゞきました。

私のこの度の大患は大出血と狭心症のはげしいのが重つて起りましたので、医学的には絶望状態であつたという事をききました。たしかに多くの聖徒方の祈りに応えていやして下さつた事を憶えて主にお従ひたいと祈つております。

報 告

十一月二十日(日)日本キリスト教団ではこの日曜を感謝祭として礼拝を守ります。

一年を反省してさまざまな御恵を感謝したいと思ひます。

感謝献金を冬の暖房のためにさゞげたいと思ひます。御協力下さい。

消 息

もう立冬となりました。大分朝夕は冷えてまいりました。皆様お変わりございませんか。お伺ひ申し上げます。

御祈りいたゞいております私事も大分元気になり普通食もいたゞける様になりました。一々御礼のお便りしなければなりません。中々書けませんので御赦して下さい。

寒さに向いますので要心しながら生活してまいります。つゞいて御祈りお願い申し上げます。

切に神を知ることを求むべし

一九六六年十一月二七日

来れわれらエホバにかえるべし、エホバわれらをかきさきたまいたれどもまた医すことをなし、われらをうちたまたれどもまたその傷をつゝむことをなしたまふべければなり、エホバは二日ののちわれらを活きかえし、三日にわれらをたゞせたまわん、我らそのみまえにて生きん、この故にわれらエホバを知るべし、切にエホバを知ること求むべし、エホバはあしたの光の如く必ずあらわれいで雨の如くわれらに臨み、後の雨の如く地をうるおしたまふ、エルサレムよ、我なんぢに何をなさんや、ユダよ我なんぢに何をなさんや、なんぢの愛情はあしたの雲の如く、またたゞちけきゆる露のごとし、この故にわれ予言者らをもてかれらをうち、わが口の言をもてかれらを殺せり、わがさばきはあらわれいづる光明のごとし、われは愛情をよるこびて犠牲をよるこばず、神をしるを喜ぶこと燔祭にまされり

(ホゼア書六の一―六)

私はこの度の病氣を通して今迄神を本当に識つておらなかつた事を教えられました。度重なる試練のために時々状態に目をつけてどうしてこうした中を通されねばならぬだろうかと色々考えてわからなくなつてしまうことがあります。一寸どこかが悪くなつたら永遠にだめになつてしまふのではないかと悲観してしまひ易いのでありました。

然しこの庭大試練にあい神はかきさき給いたれどもまたいやして下さるといふことを深く敬えられました。うち給いました。がその傷をつゝみ給うことを体験いたしました。全く死の直前におつた様なものが二日にしていかし三日にして立たしめて下さつたのであります。

多くの方々が再起はむづかしかろうと思われていたのでありますが、三週間目には起き上がることが出来て日々強められております。

其の間不信仰な私はヒヤヒヤしながら祈つて行動しておりましたが、再発することもなく一ヶ月を過すことが出来ました。

此の間に二、三回は外出もいたしました。別に疲れることもなく帰つてくることが出来ました。この故にエホバを知るべしと仰せられますが、この事を通して神さまを深く知ることが出来ますなら、後の雨の如く私共の生涯をうるおしていただくことが出来るのであります。

然し私共は愚かなものでありまして、のどもとすぐればあつさ忘れるのとえの如く、すぐこの神の御恩を忘れておち迷い易いのであります。祈つて御言に従つて恵に感じて平穩無事な毎日を送ることが出来るなら大感謝をもつて神様に御従いしたいものであります。

われは愛情を喜びて犠牲を喜ばすと仰せられますのに少し位の事をして神を喜ばせ様とする愚かなものであります。然し神は愛情を喜んで犠牲は喜ばないと仰せられるのであります。

されどエホバよ汝は我らの父なり、われらはつちくれにしてなんぢは陶工なり (イザヤ六四の八)

どんな試練の時にもされど汝は我らの父なりと試練をうけておる時にその聖言によりすがること神は喜びたまひるのであります。

訓練と思つて耐え忍びなさい、神はあなたを子として取扱つてゐるのです。(ヘブル二の七 口改)と仰せられるのであります。

こうした父なる神を知ることが大切なのであります。

肉の父は短い期間自分の良いと思うまゝに私どもをこらしめるのですが、霊の父は私たちの益のために私たちを御自分のきよきにあずからせようとしてこらしめるのです。(ヘブル二の一〇 口改)

こうした神様の御旨をさとれますとき、神は愛なりと神さまを崇めて更に依頼んで驚くべき恵にあずかることが出来るのであります。

私はこの度深くこの事を教えられました。

祈つてこの神の御愛の中に自分自身を保ち、永遠の生命に至らせる主イエス・キリストのあわれみを待ち望みたいと思ひます。(ユダ書二一 口改)

報 告

消 息

玄関に黄色い袋があります。例年通り謝恩献金の袋が参りました。どうぞ御協力お願いいたします。

大分お寒くなつてまいりました。皆様お変わりありませんか。どうぞ御大切に。私事も毎日皆様の御祈りに支えられて割合に元気で過しておりますから御安心下さい。

医学的には身体全体が悪いのですが、信仰によつて神の能力に守られて毎日を平常通りに生活しております。

長くない余命かもわかりませんが、全力をつくして最後の御奉仕をいたしたいと祈つております。昨今また少しあたたくなりましたから祈つてゆきたいと思つています。

感謝のそなえものをささげよ

一九六六年二月四日

感謝のそなえものを神にささげよ、汝のちかいを至上者につくのえ

患難の日にわれを呼べ、我なんじをたすけん而して汝我を崇むべし……

感謝のそなえものを献ぐるものは我をあがむおのれの行為をつゝしむ者にはわれ神の救をあらわさん

(詩篇五の一四、一五、二五)

病氣にならないと健康の有難さはわかりません。健康の有難さがわかりませんならば、毎日の健康の感謝がありません。私が落合に献身してしばらくたつてから、熱があり食欲がなくなり、夜もよくねむれなくなりました。その時しばらく故郷に帰つて静養する様に言われました。然しその当時私は考えました。あれだけ反対した両親にそむいて一切をすてゝきたのに今更何のかんばせありて両親のもとに帰ることが出来ようかと考えました。死ぬべくば死ぬべしという決死的な心で献身して、血肉との関係の橋をよしとして出てきたのに、どうして帰れようかと一生懸命祈つてまいりました。その時しみじみ教えられたことは、健康とか食欲とか睡眠とかは神様が与えて下さつた賜であつて、もともと私にはなかつたのであると教えられ、とにかく栢植先生にお会いして御相談しようと思ひました。然しその当時は私共が直接に先生にお会いする事はむづかしかつたのですが、祈つておりましたら不思議にお会いすることが出来ました。開口一当先生はこの頃具合は如何ですかと聞かれました。その時私は健康・食欲・睡眠は神様の賜物であることがわかりましたと申しあげますと、それでいゝのです、それを教えたくて御試み下さつたのです。三食のものは一食にしてでも一緒に居りたいです。と祈つて下さいました。それで私は家にかえらないで落合にあつてもいい事になりました。すると俄然私の病氣はいやされ、感謝の生涯を今日までつゞける事が出来ました。

エホバは汝のすべての不義をゆるし、汝のすべての病をいやし、なんぢの生命をほろびより贖ひ出し、仁慈とあわれみとを汝にかふらせ、汝の口をよきものににしてあかしめ、かくて汝はわかやぎてわしの如く新になるなり。

(詩一〇三の三、四、五)

四十年以上この聖言の如き生活をさせていたゞいておりますので、もつと溢れる如き感謝の生涯を送らなければならぬのであります。然し最も困つた時祈つて神様に誓つた事を忘れてしまい、だんだん初めの決心をかえてほんの形式的なさゝげものをして遂ごまかしてしまい易いのが私共の現状であります。

感恩讚美の生活が天国の生涯であります。感謝がなくなりなるとき私共の生活は再び荒野砂漠の様なるおいのない毎を送り、不平と不満にみちて毎を送る様になるのであります。

患を教えよ一つづつ主イエスの患をかぞえなば恐るることなくほめりたわん。

健康で家族揃つて礼拝に出席出来る、おいしくいたゞくことが出来るとその一ツ一ツの御患をかぞえますなら感謝にあふれるのであります。私は試練のどん底にある時にヘレン・ケラーが来日され親しくそのあかるい表情をながめまして私のこれ位の苦難が何だ！四肢五体が健全である、その上にヘレン・ケラーと同じイエス様を信じておるのだ、そりだ元氣を出して感謝してゆかねばと教えられ祈つてあの苦難をつきぬけて参りました。

われはわが心をつくして汝に感謝しもうもの神の前に汝をほめ歌わん（詩一三八の一）

どうか心をつくして感謝して今おかれてゐる苦難をのりこえたいものであります。

どうか感謝の心を失なわないで心をつくして感謝してゆきたいものです。

報告 十二月四日（第一日）聖書礼拝との事です。又関に聖書協会の献金袋がきておりますので、御献金下さい。

感謝献金もお願い致します。

礼拝後青年会があります。お残り下さい。クリスマスの相報もありますから、ストープ献金もお願いいたします。

消息 たいへん寒くなつてまいりました。御祈りしていたゞいております私もつゞいて保たれて、つゞいて御用をいたしてあります。

信仰をもつて毎日起きております。余りあせらないで神様を待ち望みつゞ祈つております。皆様もどうぞ御大切に。クリスマスも近づいてまいりました。どうぞお祈り下さい。

主の言は必ず実現する

一九六六年二月二日

主によつて語られたことは必ず実現すると信じきつた人は何と幸いなことでしよう。マリヤは言つた。わがたましいは主を崇め、わが露は、わが教主なる神を喜びたくえます。

（ルカ一の四五〜四七 口改）

主の語られたことを信じきることが出来るということは、この聖言の如く本当に私共の人生に之より幸なことはないと思ひます。

もし主の聖言を信じきることが出来なかつたら、私はこの度の病気の場合絶望してしまふより外にない様を状態でした。然し危篤状態の時にも只管主の聖言に依頼んで病中に祈つて参りました。

みよ、わたしはシオンに選ばれた石、尊い礎石を置く。彼に信頼する者は決して失望せらるることがない。

（ペテロ一の二の六 口改）

この聖言を証しすることが出来ました。まことに危機に接しておりましたのですが、不思議にいやして立ち上らせて下さいました。

ですからみなさい。これらのことが起る日まであなたはおしになつてものが言えなくなりません。私の言を信じなかつたからです。私の言はその時がくれば実現します。（ルカ一の二〇 口改）

ゼカリヤは自分が年老い、妻も年老いて子供が与えられるということが出来ないと常識的に考へて神様の聖言を拒絶したのでありました。神様の御約束はその時がくれば実現するのであります。それを待望むことが出来ないで、私共は神様より恵をうけることが出来ないであります。

御覧なさい。あなたの親類のエリザベツもあの年になつて男の子を宿しています。産まずめと呼ばれていた人なのに今はもう六ヶ月です。神にとつて不可能の事は一つもありません。（ルカ一の二六、二七 口改）

矢張りマリヤが主の使の告知をうけいれることが出来る様になるためにゼカリヤに時を置いて年老いてからヨハネ

を与え給うたのであります。

私共にはこうした神の深い永遠の御経綸はとられないので、遂目先の事情にまどわされて不信仰になつて大いなる報をうくべき聖言を失つてしまふのであります。

この天の使の御告げをきいている間に聖霊はマリヤの心に臨みました。

マリヤは言つた。ほんとうに私は主のはしためです。どうぞあなたのおことばどおりになりますように。こうして御使いは彼女を去つていつた。(ルカ一〇三八 口改)

ゼカリヤの祈りが年老いてからきかれたこともマリヤにこうした信仰を起させるためであつたかも知れません。私共も様々な試練の中に、中々祈りがきかれぬ事も多くあります。然しそれは神様に深い御計画があるからです。どうかどの様な状態の中にあつても主の語つた御言は必ず成就すると信ずることが出来るのは本当に幸いです。それは決して努力したり人間の修養や鍛練で信ずることが出来るものではありません。

汝らの信ずる神の大いなる能力の働き(聖霊)によるなり(エペソの一九 元訳)
御聖霊による以外に私共は信ずることは出来ないであります。

其処で私共は真剣に御聖霊を求めねばなりません。それが一番大切なことです。私は何にも出来ません。然し単純に信ずることが出来る幸いなものとしていたゞきました。

あなたがたは恵のゆえに信仰によつて救われたのです。それは自分自身から出たものではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。(エペソ二の八、九 口改)

信仰の賜を与えられたといふことは何よりまさつた有難い賜物です。

報告 十二月十一日礼拝後壮年会があります。御協力下さい。クリスマス献金をお願い致します。十二月十三日(火)夕六時半から電気ホールで市民クリスマスがあります。十二月十六日(金)午後一時三十分婦人会が当教会であります。消息 大分寒くなりました。御祈りに支えられて毎日を過しておりますから御安心下さい。信仰によつて神の能力に守られて祈りつゝ過しております。つゞいて御祈り下さい。

信仰によつてアベルはカインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによつて彼が義人であることの証明をえました。神が彼のささげ物を良いささげものだとあかししてくださつたからです。彼は死にましたが、その信仰によつて今もなお語つております（ヘブル一の一の四、口改）

兄のカインは地からとれた産物、弟のアベルは群のうい子と肥えたもの、いづれも汗水流して労苦して得たものを神さまにささげました。然しアベルの供え物は神に喜ばれ、カインのそれは喜ばれなかつたのであります。

何が原因なのであつたかをクリスマスを前にして深く教えられたものであります。

私達は常日頃都合の良いこと、事々が順調にいるときは自分の巧に帰し、都合の悪いこと、悪い結果をもたらすこととは神様の責任にしがちなのであります。

また人の意見や行動を自分の判断や行為の規準としてその結果が面白くなかつたり、直前している問題が解決しないと、それでは神の言にきこうとか、聖書を読もうという態度をしばしばとるものであります。

こうした態度は神が自分の考えていることに合えば信じようとか、きこうとか云う態度と同じであります。このよきな私共の日常の態度こそ神を神としないカインの供物をささげる行為と一脈あい通ずるのであります。

カインの供えものは家族・先輩・友人などの処へもつていくものと同じ思いで、自分の得た地の産物を神の前に持参しました。このことは神に対する信頼が人に対してする信頼とたいして違くないということを意味してあるのであります。実に私共の信仰にかゝわる問題なのであります。

アベルの供物はたとえ家族・先輩・友人などに同じようなものであつても、特に群のうちより選んだうい子の肥えたものであります。あの人この人そしてこの神と違うのではなく、ほかならぬ神様に対してという特別な神様への思いのこめられたものであります。

アベルの名が意味してありますように、自分は息のようにはかない存在であります。神の前に無価値なものであり、

空虚なものにすぎないのにほかならぬ神様に供物をさしげることゝゆるされているよろこびをアベルは感じていたの
であります。

ほかならぬキリストのからだである教会で毎日曜日礼拝という費いわざに参与させていただいておるといふことを
深く想い起して、そのもつとも基本的なしかも具体的をあらわれが真摯な礼拝でなければならぬのであります。

私共はアベルのようになりたいと願いながら、カインでしかない自分の愚かな姿を見出すのであります。誤りをお
かし、疲労をおぼえ、不誠実で、しかも不信仰であることを認めなければならぬ現実であります。しかしカインの
ためにアベルは死んだのであります。

私共はすべての不真実のために、真実なカアが死んで下さつたのです。私たちの真実回復のためにすでに死んで下
さつたのであります。

その死によつて私共カインにほかならない者のわざが神に喜ばれるアベルの供え物としてさしげられる道が備えら
れると信じてよいのであります。

報 告

クリスマスが近付いてまいりました。クリスマス献金をお願いいたします。

消 息

御祈りに支えられて今日迄守つていたどいて参りました。有り難う御座います。

諸処に病気がありますので中々思ひよりになりません、少しづつ整理してすごしております。
良いクリスマスを祈ります。

信仰はきくことから始まる

一九六六年二月二五日

信仰は聞くことから始まり、聞くことはキリストについての聖言によるのです。(ローマ一〇の一六 新改)

異教の中に生れて育つてきました私共に信仰など考えた事がありません。たゞ父祖の習慣に従つて神社仏閣の前で形式的に頭をさげる位が精でした。そうした私がキリストの信仰に入りましたのは、たしかにロマ書の言通りであります。雨宿りに或教会にとび込みましたのが始まりでした。何にも求めておりませんでした私にその時の説教者の語られた聖書の言が私の心の中に残りました。それが幾年かたつた後に私を柘植先生の集会に導いてくれたのであります。聖書の聖言をまいてる間に単純に私をこの驚くべき救いに入れて下さり、一切をさへげて主に従うものとなして下さいました。

毎日聖書を読んで学んでおり祈つてその与えられた聖言を實踐している間に私の中に信仰が与えられてまことに単純に一ツ一ツの聖言を必ず成就していたとけると信じられる様になしていました。

信仰は望んでいる事柄を保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル一の一 新改)

病める時はいやしていたとく様にと望んで祈ります。必要なものがありますればそれを与えて下さいと祈ります。子供達のさまざまな事なども祈つて参りますと見ゆる処はむつかしい様に考えられて戦います時も不思議に心に確信を与えて下さいます。与えられた聖言を握りつとけ信じつとけて参りますと、その聖言通りに確信通りにしていたとくことが出来るのです。

昔の人々はこの信仰によつて称賛されました。(ヘブル一の一)

このヘブル書の信仰の義人達は聖言を信じて勝利を得た人達の伝記です。

信仰によつて私たちはこの世界が神の言でつくられたことを悟り、したがつて見えるものが目に見えるものから出きたのではないことをさとのです。(ヘブル一の一)

この聖言はその通りである事を私共の頭は理解出来るのですが、中々それを心で信ずることが出来ないで、見ゆる

処の狀態にふりまわされて思い煩つて毎日を過しておる様なものでした。然し最近はだんだん見ゆる処がどうゆう状態でありまして、そのいえる如くあれかしと結果を見ないで信じて立ちて歩むことが出来る様になりました。

イエスは彼に言われた。帰つて行きなさい。あなたの子はなおつています。その人はイエスの言われた言を信じて帰途についた。彼が下つて行く途中そのしもべたちが彼に出会つて彼の息子がなおつたことを告げた。そこで子どもがよくなつた時刻を彼らに尋ねると、きのう七時に熱がひきましたと言つた。それで父親はイエスがあなたの子はなおつていると言われた時刻と同じであることを知つた。そして彼自身と彼の家の者が皆信じた。

(ヨハネ四の五〇—五三)

私共も王の大臣の如くに中々信じられないものですが、主の聖言に従つて度々驚くべき結果を見せていたとき單純にどんな状態の時にも聖言を賜えわが僕はいえるなりという信仰に立つて毎日を送ることが出来るのであります。

毎日イエスの聖言を学びその聖言に従つて歩み私の中に信仰を与えていたといつておりたいものであります。

突然な出来事に会ひまして急に信仰を与えられてと思つても中々むづかしいのであります。ローマは一日にしてならず、山を移す様な生きた信仰は一朝一夕では養われません。毎日聖言を学び聖言に従う様に心がけ、何時如何なる時にも信仰が活動出来る様になつておりたいものであります。

報 告

十二月二十五日朝十時クリスマス礼拝 全 夜六時三十分クリスマス祝会
昭和四十二年一月一日礼拝 午前十時三十分礼拝後青年会がありますから、青年の方々御集り下さい。

消 息

遂に本年も最後の礼拝を守らせていただくことが出来ました。感謝です。

弱い私も先に角柄中四回位御用が出来ませんでした。他の礼拝は足りないながらつとめさせていたゞきました。厚く御礼申し上げます。今なお諸処が悪いので無理が出来ないので、生かしていただける間は何としても使命を全うさせていたゞきたいと願つておりますから、何卒つゞいて御加勢下さいませ。良い新年を御迎え下さい。

われ常にエホバをわが前におけり、エホバわが右にいませばわれ動かさるゝことなかるべし (詩十六の八)

この故にわが心はたのしみ、わが榮はよることぶ、わが身も平安におらん (詩十六の九)

エホバは善なる者にして患難の時の要塞なり、彼は己に依頼む者をよく知り給ふ (ナホム一の七)

神人と偕に住み人神の民となる

一九六七年一月一日

今日ダビデのために救主うまれたまえり、これ主たるキリストなり、なんぢら布にて包まれうまぶねに臥しおるを見ん、是そのしるしなり (ルカ一の一一)

視よ、神の幕屋人と偕にあり、神人と偕に住み人神の民となり、神自ら人と偕に在して、かれらの目の涙をことごとくぬぐい去り給わん、今よりのち死もなく悲観も号泣も苦痛もなかるべし、前のものすでに過ぎ去ればなり

(ヨハネ黙示録二一の三、四)

神が人間の生の中に入つてこられたこの驚くべき告知は御使たちによつて野宿していた羊かいたちにもたらされた、これが最初のクリスマスの光景であります。

イエスの誕生の出来事を福音たらしめたものは、わたしたちのためにイエスがお生れになつたということでありませぬ。しかも此の方こそ主なるキリストであるという信仰による解釈でありました。

ルカは御聖霊の助けにより羊かいに対する御使いの讃歌を通して主イエスの御誕生の讃歌をこの様に解釈しており

ます。さらにヨハネはそれ神はその生みたまえる独り子を賜ふ程に世の人を愛したまえり、こは彼を信する者に亡ぶることなくして永遠の生命を与えんためなり（ヨハネ三の一六）とまで福音の全内容をこの一節に要約することが出来たのであります。

神は私共を愛するあまりとうとき独り子なる主イエス・キリストをこの世につかわし、このキリストを立て、その血により贖をもつて信仰をもつて行くべき供物とされました。（ロマ三の二五）

ところが私共はこの神の愛を知らず、認めようとせず、むしろ神にそむき神ならざるものを神と崇め、これにつかえている状態となつておりました。（ローマの一八―二一）

私共がどんなに声を大きくして叫んでも此世は福音に耳を傾けようとしないのであります。

然し、私共がしなげなければならないことは神がイエスに於てこの世を愛されたように、私共も接する人々すべてを愛し、誰に対しても親切であつてよく教えよく忍び（テモテ后二の二四、二五）善意をもつて仕えていく以外にはないのであります。私共があつてこの村に住み、いろいろの人々の中に住んでいるのは愛の実践をなすためであります。

あの人は悪人だから、あの人のためにキリストは死にたまうたのではないというふうないかたをするのはキリスト御自身を否定することでありませぬ。キリストは罪人を救うために死にたまうたのであります。

私共の周囲の人々がどういふ階級の人であらうと問題ではないのであります。主イエス・キリストはこの人達のためにお生れになり、この人達のために死なれたのであると確信出来るならば私共の信仰生活のあり方が変らざるをえないのであります。

今日あなたのために救い主がお生れになつたと！この様な喜びの音信をきいた者はそれにふさわしく生きねばなりません。望をいだいて喜び（ロマ一二の二一）つゝ笑顏で周囲の人々に接するだけでも信仰の証しは立てられるのであります。

新年にあたり心を新にして常に喜べ、たえず祈れ、凡ての事感謝せよとの聖言を一年間実践したいものであります。

報 告

一月一日（元旦礼拝）后青年会があります。

青年の方々男女共是非出席して下さい。そして良い青年会の集いをもちたいと思います。

一月二日 午後二時 市内連合礼拝 市内中部教会にて

消 息

明けましてお目出度う御座います。旧年は殊に私事大病にて御心配をいたゞき御祈りや御見舞をいたゞき有難く御礼申上げます。

おかげさまで新年を迎えることが出来まして感謝いたします。仲々恢復がおそいのですが精々要心して生かしていただきたいと願っておりますから、何卒つゞいて御加禱願います。

皆様の上に良い一年であります様にお祈りいたします。

さて私たちのためにはもろもろの天を通られた偉大な大祭司である神の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではありませんか。私たちの大祭司は私たちの弱さに同情出来ない方ではありません。

罪を犯されませんでした。すべての点で私たちと同じように試みに会われたのです。ですから私たちはあわれみをうけ、また恵みをいたゞいて、おりにかなつた助けをうけるために大胆に恵の御座に近づこうではありませんか。

(ヘブル四の一四―一六)

私は年末頃夜中に少し呼吸の困難な時がありました。この聖言に従つて只管祈つて主のお助けをうけ一夜をあけました。私はクリスマスが無事に行き事が出来ませぬ様にと祈つてまいりました。而して新年を無事に迎える様に祈つて参りました。健康の方々にはあたりまえの様を事が病人では本当に祈らねば過す事が出来ない様な状態なのです。或日御医者さまが往診に来て下さつて心配され注射して下さいました。すぐ効力がなくなるので一日に二度来ていたゞきました。処が、副作用か何かで両足がはれてきました。手もはれてきました。私は心ひそかに私も終りが近づいているのではないかという様な気持ちになりました。

私の弱きを思いやつて下さる事の出来ない事のお方を知つておらなかつたらどうであつたらうと考えました。

私の重病の中で願つた事を一ツ一ツ成就して召されたいと願いました。こうした窮地におちこみますと、一昨年家内を亡くしたことは致命症でした。肉体が衰弱して食事が充分とれない昨今はこうした点にも試みられます。

こうした中を身をすくめて通らねばならない様な生涯はいよいよ祈り深くなくては通過出来ないことです。

じん臓が悪いのでは来てきたりすると此世的には方法がない様であります。したがつてご自分によつて神に近づく人々を完全に救うことが出来ます。キリストは何時も生きていて彼らのためにとりなしをなしておられるからです。(ヘブル七の二五新改)

この御約束の御言を信じて祈るより外には望むことの出来ない事態におちらつておるのです。

今迄もこの聖言に依りすがつて窮地をつきぬけてきました。今後もつきぬけられると信じて祈つております。

状態によつては動かされ易いのでありますが、信仰によつて神の能力に守られて今日までこられたのであります。

此世的には静かにして少しでも長く生きること心がけなさいと注意されております。

私は最後まで死を見つめて主の証人としての生涯を全うしたいと祈つております。

われらの神は我らを救う能力ありと信じて戦つたヘブルの三青年の如き信仰を最後まで全うしたいものと願つております。

以上述べたことの要点(肝要)はこうです。

すなわち大能者の御座の右に着座された方であり、人間が設けたのではなくて主が設けられた真実の幕屋である聖所で仕えておられる方です。(ヘブル八の一、二、ヘブル 〇改)

こうした方が私にありませんなら、気の弱い小心な私は人生に敗亡してしまふところでした。

此のお方が私の側におられるという信仰が私をして世にかたしめて下さつた勝利の秘密でありました。

この信仰に堅く立つて善き信仰の戦いをたくかい永生をとりたいたいものです。

報 告

一月八日礼拝後壮年会の才一回があります。

今年は壮年の方には是非協力して出席して教会のために御助け下さい。

消 息

御祈り有難う御座います。おかげさまで新しう年を迎えて才一回の御用も無事に出来ました。感謝いたします。

今年もどうぞよろしく御加禱下さい。あまり健康状態がよくありませんので、週報の原稿もなかなか書けません。つゞくかぎり書かしていただきます。

御祈り下さる。格別お祈り下さる。

私はいつも自分の前に主を見た

一九六七年一月一日

私はいつも自分の前に主を見ていた。主はわたしが動かされないうちに私の右におられるからである。それ故私の心は楽しみ、私の舌は大いに喜んだ。さらに私の肉体も望みの中に安らう。(徒一の一五、二六) □改

私は年末から少し呼吸が困難になつたので、どうか無事に年を越して新しい年を迎えることが出来るようにと祈つておりました。その頃丁度御医者さまが往診にきて下さつて強心剤の注射をして下さいました処が、呼吸は楽になつたのですが足がはれてきました。私は過去数十年來重症の人達のために祈りにいつて足がはれるといけないと言ふことをきいていたので、それを思い出して一寸心を動かしかけましたが、すぐこの聖言に思いを致して心を動かさない様に心がけまして新しい年を迎えることが出来ました。

年末クリスマス後はつとめて静かにやすむ事にいたしました。そして新しい年に私が生かされている間になさねばならないことを教えていただきたくと祈りにつとめました。

私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は寝えても内なる人は日々新にされています。

(コリントオ二の四の一六 新改)

弱り出したら其処此処が悪くなつて肉体的の元気がなくなりますと、あれこれと過去を後悔したりして弱りかけますが、主を前に見て勇気を失わずにさまざまな状態と毎日たゞかつております。

今の時の軽い患難は私たちの中に働いて測り知れない重い永遠の栄光をもたらすからです。(コリントオ二の一七) 外なる人が強いと遂この世的な事のみ求める事が盛んで、遂に見ゆる処のものに重点をおいて思い煩う日々が多いのであります。今の軽い患難はそうした物から目をはなして只管聖言に従ふことを専念する様にして下さいました。私たちは何一ツこの世に持つてこなかつたし、また何一ツもつて出ることも出来ません。衣食あらばそれで満足すべきです。(テモテオ一の六の七、八) この事ははつきりわかっているはずなのに、仲々この世的なわずかな事の

ために引きつられて、いさぎよく主の聖言に従うことの出来ないものでありました。然したび重なる試練によつて離れなければならぬものから離れて、最も貴い聖言に御従ひいたしますとき動かされる事はありません。

金持ちになりたがる人達は誘惑とわなと、また人を破滅に投げ入れて、愚かで有害な多くの怒とにおちいります。金銭を愛することがあらゆることの根だからです。ある人たちは金を追い求めたために信仰から迷い出て非常に苦痛をもつて自分を刺し通しました。

しかし神の人よ、あなたはこれらのことをさげ、正しさ・敬けん・信仰・愛・忍耐・柔和を熱心に求めなさい。

信仰の戦いを勇敢にたぐかい、永遠の生命をかくとくしなさい。あなたはこのために召され、また多くの人の前で立派に告白をしました。(テモテオ一の六の九―一二)

報 告

一月二十日(才三金) 午後一時半より今年才一回の婦人会をいたしますから多数御出席下さい。
当会堂にていたします。

消 息

新年になりましたら何か寒くなりました。皆様お変わりありませんか。御祈り申上げております。

私事も御祈りに支えられて免に角今日迄守つていたゞきました。

一日も早く元気になつてと祈つて待望んでおります。御病氣の方々のためにも御祈り申上げております。

聖靈は凡ての真理をさとらせる

一九六七年一月二日

わたしにはあなたの方に話すことがまだたくさんありますが、今あなたがたはそれに耐える力がありません。しかし、その方すなわち真理の御霊がくるとあなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく聞くまゝを話し、またやがて起るうとしておることをあなたの方に示すからです。

(ヨハネ一六の二二、二三 新改)

此の新しい年を迎えましてから私はずっと寝たきり静かに過さねばならない状態になりました。強心剤の注射をしていたときました結果足や手がむくんできまして一寸心配しました。それでいろいろ考えさせられました。或事に非常によくきく薬は他方に副作用を起したりして仲々コマール逆りの効果はあらわれないものがあります。そこで教えられました。

あなた方家を建てる者たちにすてられた石が礎の石となつたというのはこの方のことです。この方以外にはだれによつても救いはありません。世界中でこの聖名のほかに私たちが救わるべき名としてはどのような名も人間には与えられていないからです。(徒四の一、二二 新改)

人間も愈々という処に追いつめられますとこれさえあればというようにたよりにしていた事に真剣にたよつて見てもしみにあてにならないものである事を教えられて、この聖言に立ちかえらせていたとくのであります。

この礎となつた主イエスに依頼んでおります時、状態などに動揺され易い心の動きをととのえて心を失わないで、当面した事態に処してその困難の中を通過してゆくことが出来るのであります。

私も新しい年になりましたが非常に試みられました。心に死を決して只管祈つて礼拝だけの御用をいたして参りました。

兄弟達よ、私たちがアジアで会つた苦しみについてぜひ知つておいてください。私は非常にはげしい耐えられない

ほどの圧迫をうけついにいのちさえも危くなり、ほんとうに自分の心の中で死を覚悟しました。これはもはや自分身をたのみず、死者を甦らせて下さる神によりたのむためでした。ところが神はこれほどの大きな死の危険から私たちを救い出して下さいました。また将来も救い出して下さいます。なおも救い出してくださいと望みを私たちはこの神に置いてゐるのです。(コリントオ二の八―一〇 新改)

どうかこの聖言を御聖霊によつて教えられてどういふ場合にも堅く信頼してさまざまな事態をつきぬけてゆきたいと念願しております。

今、主治医の先生が私の病氣に対してどの治療が良いかを研究して下さいますので、主は適當な道を開いて下さると御祈りして毎日を過しております。

この他別に救いあることなしということは理解は出来るのでありますが、幾度もいろいろなことに依頼んで失敗して始めてさとらしていただけることが出来るのであります。

このために聖霊にみたされて、凡ての真相をさとつて知れり汝ら黙すべしとエリシヤの如く聖言にのみ従つて勝利を得たいのであります。

消 息

昨今は少しづつあたくしくなつておりますので大分気持ちよく過す事が出来ます。

何分正月になつてから身体の調子がよくないので心配していましたが一月も半ばをすぎました。御祈りを有難う御座いました。お正月元旦の礼拝には岡崎兄が四国から帰省されて、久しぶりにお目にかゝられて嬉しう御座いました。

私の健康状態がよくなかつたので充分お話も出来ずに残念でした。

山口さんの御主人も御経過がおよろしい様です。御全快をお祈り下さい。

私のために格別お祈り下さいませ。

なんぢら目を上げて高きを見よ、たれか此等のものを創造せしやと思え、主は教をしらべてその万象を引出しおのおの名を呼び給ふ主のいきおい大いなり、その力の強きが故に一つも欠くることなし、
 (イザヤ四〇の二六)

私は最近副作用の結果かどうかわからないのですが、両手両足が非常にむくんできまして、一寸心配してしまいました。じん臓からきたものかわかりませんが、少し憂慮すべき状態の様に思われておりました。ひよつとするとネフロゼ浮腫性からきたむくみかも知れないと言われました。それには良い薬はあるが、それをつかうと血圧が高くなるというのでした。色々素人として考えて非常に心配して、あれやこれやと一人思い患つて祈りつゝおりました時、イヤヤの言が私の心の中に浮びました。目を上げて高きを見よや、之等のものは誰が創造せしやと思ふやとの御声でした。何時のまにか自分の身体の状態に目をつけて神様を見上げることが出来なかつたのであります。私は思いきつてこの聖言に従つて上を見上げることが出来ました。

見ゆる処の状態におしまくられて仲々この中から不思議な能力をもつて助けて下さるという信仰をもつ事が出来ませんので、消極的な事のみ考える様になつてしまい、一生懸命に祈つてたゝかつて参りました。

汝知らざるかきかざるか、エホバはとこしえの神地のはての創造者にして倦み給ふことなくかつつかれ給うることなくそのさときとはかりがたし、つかれたる者には能力を与え勢力なきものには強きをまし加え給ふ。

(イザヤ四〇の二八)

この神を見上げる事が出来る様になりました。能力なき現在の私にたしかに能力を与えて今日も礼拝の御用が出来る様になりました。

主治医の先生も、今日も説教しますかときかれます。ハイ、いたしますと申し上げますと、無理ですわねえ、なるべく短くなさいませと言われて、今週もと遂に新年になつてから三回の御用をいたすことが出来ました。

毎回、背水の陣をひいて生命がけて辛うじて聖言を御取次しておる昨今で御座います。たしかに弱りたるものに能力を与え、いきおいなき者を強めては、この病魔にかたして御用をさせて下さいました。

私にこの度の大患を通して今という時の貴き年をしみじみとさとりして下さいました。此人如何をという考え方をすて、汝は我に従えとの聖言に従つて生きている間に、私がしなければならぬことを祈つて示され、着々実行して我此処にありと主を待望む者となりたいと念願しております。

最小限度の御用は召される日迄つゞけて、使命を全うしたいと思ひます。

我らの神は我らを救う能力ありという信仰を見ゆる処は如何でありましたも堅く保つて勝利をえたいと願つております。祈りと言によつて潔くなるということを実証するものとなりたいたと必死となつて病魔とたゞかつております。どんな時にも主を見上げて

われ山にむかいて目を上ぐ、わがたすけはいつくよりきたるや、わがたすけは天地をつくりたまえるエホバよりきたる、エホバはなんちの足の動かるゝをゆるしたまわず、汝をまもるものはまどろみたまふことなし

(詩百二十一の二、二、三)

消 息

寒さも少しゆるくなつてまいりました。大体なら一番寒い季節なのですが、少しあたたかい大寒にて幸しております。私事も相変らずですが、少し昨今はむくみもよくなり、気持ちよく過すことが出来る様になりました。週報の原稿も充分書けませんのですが、書けるだけ肉体にむち打つて書かしていただいております。どうか大患以前の状態にまで恢復していただきたいと願つております。

つゞいて御加禱願います。

御病人の方々のためにも小さいお祈りをさし上げております。主を見上げて戦つて下さい。

わたしたちは見えるものによらないで

信仰によつて歩いているのである。

一九六七年二月五日

わたしたちは見えるものによらないで、信仰によつて歩いているのである。それでわたしたちは心強い。そして、むしろ肉体から離れて主と共に住むことが、願わしいと思つてゐる。そういうわけだから、肉体を宿としているにしても、たと主は喜ばれる者となるのが、心からの願ひである。なぜなら、わたしたちは皆、キリストのさばきの座にあらわれ、善であれ、悪であれ、自分の行つたことに応じて、それぞれ報いを受けねばならないからである。このようにわたしたちは、主の恐るべきことをしつてゐるので人々に説き勧めらる。

さらに、あなたがたの良心にも明らかにするようにと望む。(コリントガ二 五の七―一一)

体の状態が悪くなると、もういつそこの肉体をとつていたどきたいような気がします。

私共は肉体に居るときは非常に心が弱いものです。でも死んでもよいと思ふときに強くなります。講壇に上るのも、実はお医者様は無謀だと言つておられます。しかし今というときをたいせつにして、勇躍して天国にゴールインするような生涯を終わりたいと思ひます。イエス様は十字架の上で没薬をませたぶどう酒をお受けになりました。私も最後まで信仰によつて戦つて行きたいと思ひます。

このように、子たちは血と肉と共にあずかつてゐるので、イエスもまた同様に、それらをそなえておられる。

それは死の力を持つ者、すなわち悪魔をご自分の死によつて滅ぼし、死の恐怖のために一生涯、奴隷となつていた者たちを、解き放つためである。(ヘブル 二の一四―一五)

イエス様が死を味わつて、権威をもつて死を亡して下さいました。いま私は、死は苦痛ではありません。

肉体を脱げば中には神の型がある。ですから脱ぎさえすればよいと思ひます。

しかし、私でなければできないことを充分に果して行きたいと思ひます。

ベトナムでは非常に悲惨な戦いが行われています。インドではたくさんの人が餓死しています。たゞ祈つていくばかりではありません。

祈りは確かに聞かれるのだということをもつて体験していきたい。その保証人になつて生涯を全うしたいと思ひます。

そういうふうにして下さるのは聖霊です。

そしてきつと折に合ひ助けを与えて下さるのです。

思い切つて神様に従つていけば悪いことばかり続かないのです。自分の状態ばかり見ていたのでは希望はありません。

お医者様はいろいろいつてくださいますが、思ひきつて御言葉に従ひ、注射もやめました。そうすると少しずつ体の調子がよくなつてきました。やつぱり思ひきつて信仰でいきたいと思ひます。あまり安静にはかりしていると体が動かなくなりません。ですから信仰を持つて少しずつ体を動かすようにしています。

私共は肉により頼むと弱くなり、不安になります。神に従つていけば安心です。

今の私は医学的にはそう生きられるとは思ひません。別に長生きしようとも思ひませんし、早く死にたいとも思ひません。

見ゆるところによらず、たゞイエス様にまかせて、残る生涯を生きて行きたいと思ひます。

報告 二月五日（才一日曜日）青年会があります。青年の方々はお残り下さい。

消息 皆様方のお祈りに支えられまして最近少しずつ快方に向つております。どうぞ続けてお祈り下さい。

たよりにならない富に望みをおかないように

一九六七年二月二日

私自身の体の調子はまだよくありません。

お医者様はいろいろおつしやいます。いろいろとお薬もすゝめられますが、お薬は副作用が多くて仲々使えません。夜眠れないままにいろいろ思っていますと、ヘブル書八章のことばを思い出しました。

そうだーと思い、信仰に立つて行くことを決心しました。

悩みを祈にかえ、「歩きますから助けてください」と祈り続けております。

講壇の御用も、常識的には、医学の上からでは考えられないことですが、信仰に立ち、祈りによつて力を与えられながら何とか続けさせていたゞいております。

この世の中は、いざ頼らなければならぬときに頼りになりません。頼りになるのはやはりイエス様以外にはないのです。

今私は塩を食べられません。お医者様は異物をすゝめられますが、口がとても甘く感じて仲々食べられません。

ある牧師先生が生野菜をすゝめられましたので人参を食べてみると、思いのほか口の中がさわやかで気分が良かったです。神様は自然の中に、時機に応じて、私共の体調に応じて、それぞれ折にあり助けとなる恵を用意してくださるのだと感謝いたしました。そういうことの中に、本当に私たちを楽しませてくださるお方があるのです。

私どもは病気になる、苦しみに会うと、そういう方のあることを忘れ、そういう方を頼みとしないで、まるでアクセサリーのように信仰をとり扱います。アクセサリー化された信仰の中に救いや、平安はないのです。

現在、世界の重病とも云えるベトナム戦争も、真に神により頼むことをしないで、人間の知恵と欲によつてばかりことをなそうとする結果の現われだと思えます。

日本の社会問題となつた交通戦争にしても、公害の問題にしても、人間が自分だけの知恵で自分だけのことばかり考えて事を行つて結果、自分で自分の首をしめるようなことが起つてゐるのです。政府をはじめ、いろいろの関係者が

その対策に頭を悩ましていますが、常に後手々々になつてゐるのです。

富むことを願ひ求める者は、誘惑と、わなとに陥り、また人を滅びと破壊とに沈ませる、無分別な恐ろしいさまさまの情欲に陥るのである。金銭を愛することは、すべての悪の根である。ある人々は欲ばつて金銭を求めたため、信仰から迷ひ出て、多くの苦痛をもつて自分自身を刺し通した。(テモテへのオ一の手紙六の八―十)

聖書に書いてある通り、目先の利益や、欲に従つて、人為的な手段ばかりを講ずる結果は、自分で自分を刺し通すようなことになつてしまふのです。

私はやつぱり神を頼みとし、信仰に立つていきたいと思ひます。神のなさることには副作用はありません。はれもひくし、食欲も出るし、力も出て参りました。

またよい行いをし、良いわざに富み、惜しみなく施し、人に分け与えることを喜び、こうして、真のいのちを得るために、未来に備えてよい土台を自分のために築きあげるように命じなさい。

(テモテへのオ一の手紙 六の十八―十九)

神様に頼らなければ人の益をはかるような生活はできません。

まことの生命を得るために、神様に希みを置き、毎日の生活の中で祈りの答を体験しながら幸いな毎日が続けていきたいと思ひます。

報 告

本日礼拝後壮年会をいたします。どうぞお残り下さい。

消 息

最近は体の調子が少しますがよくなりつつあります。どうぞ続けてお祈り下さい。病んで苦しんでいらつしやる兄弟・姉妹のためにも続けてお祈りください。

与えられた賜物

一九六七年一月一日

ベトナムの戦争は仲々解決のメドがつきそうにもありません。罪もないベトナム人が大変な苦しみを受け、日本のように、他の国がその為に特需などで利益を受けるといふ不合理が行われています。日本の国内でも、自分で火をつけて、ぎせいを払って自分で消さなければならぬような政治が行われています。

目先のこと、自分のことだけしか考えないから、大変に無謀にみちた世界ができてしまふのです。もう少し人の立場、人の気持を考えられるようになれば世界はもつとよくなると思います。その為に私共はその与えられた賜物に従つて働かねばならないと思います。

それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついにキリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。(エペソの十二―十三)

現在私は体の具合が悪くて、血の出るような思いで礼拝に出ています。苦しい毎日を戦つている私に、愛の労を取り、奉仕のわざをなしてくださる方がいてくださることは、私の慰めです。そのようにそれぞれの場や、賜物に従つて働き、奉仕しながら私共はキリストの高い徳に近づいていくのです。

総選挙の結果たぐさんの代議士が当選しました。然し、現在の為政者の中には、東大出で、お金持ちで、エリートで、下層の人々の悩みが分らない人たちが多いのではないかと思います。その結果が現代のような社会が出来上つていくのです。

彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病いを知つていた。また顔をおおつて涙みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を辱はなかつた。(イザヤ書五十三の三)

指導者というのは、悲しみの人で、悩みを知っている人でなければ本当の指導者にはなれません。

栢植先生が大変元氣でお盛んなとき、落合の集会で、「ここは病人のくる所ではない」とよく言つておられました。私は栢植先生のおことば通りに従い、ひどい病氣の苦しみの中でも集会に出てがんばつて参りました。

其の後も御言葉に従えば、人は食つて行くことができることを、自分の生涯を通して証ししたいと思ひ、困難の中も御言葉に従つて切り抜けて参りました。

キリスト教は新興宗教と違います。あがないという上に立つた道です。

神様はできるお方ということを証明したいと思ひます。

イエス様の病氣のいやしというのは完全です。私の状態は、お医者様から見たら重体です。現在御言葉を頼りに、信仰で立つております。イエス様は十字架の上で、酸を用いませんでした。人生の苦しみ、痛みを充分に味わつていられました。

私も苦しみから逃れずに良い方を選んで行きたいと思ひます。やはり、いざというときの助けは御言葉です。

御言葉以外に頼るものはありません。

私は無いものでなく、私の中に与えられたもので、なんとか残る生涯を御言葉により頼み、御言葉を証ししていきたいと思ひます。

どうぞお祈り下さい。

消 息

末永先生が手術をなさいました。どうか完全によくなられますようにお祈りください。

山口さんの御主人、快方に向かわれたようですが、引き続きお祈りください。

私のためにも引き続きお祈りください。

なんじの荷をエホバにゆだねよ

一九六七年二月二六日

私たちは、何とかイエス様が勝利をとつてくださることを信じて戦つております。

純福音はみことばが頼りです。みことばだけではいけないという気持が起ると、悪魔に所を得させることになりま
す。

みことばにのみ頼るべきで、それ以外は真の救いにならないだということを私の生涯を通してあかしして行きた
いと思ひます。

神上、ねがわくは耳をわが祈りにかたぶけたまえ、わが願いをさけて身をかくし給うなかれ。(詩篇 五十五の一)
しかし困難に直面しておるときは、なかなか道が開かれそなな気がいたしません。神様がまるで身をかくしてしま
われたような気がすることもあります。

この一週間は戦いの中になりました。夜目がさめてなかなか眠れない状態が続きました。

柘植先生に導かれた私共は本当に命がけて御言葉に従いました。聖書を都合よく抜き読みするような信仰、説教の
御言葉を自分に都合よいとところだけ受けいれていくような信仰は許されませんでした。若くもあつたし、潔癖な性格
の私はひたすら御言葉を受けいれ、御言葉にゆだねて今まで参りました。ですから適当に生きていくことができず、
それだけに悩みも人一倍激しいのです。

わが心我がうちに憂えいたみ死のもろもろの恐懼わがうえに落ちたり。おそれとおののきとわれにのぞみ甚しき恐
懼われをおおえり。

われい願わくは魂のごとく翼のあらんことを、さらば我とびさりて平安を得ん。(詩篇 五十五の四、五)
深い悩みの中にあるときは、ハトのように翼を得て飛んで行きたいような気がいたします。

あまりに悩みが厳しいときはそんな気になつてしまうこともあります。ダビデもあのユダヤ最大の王国を作り、生涯
を神に従い、神に捧げ通したダビデでも、非常に苦しいときがあつたのです。此の世と妥協せず生き抜く者の共通の

苦しみてしようか。

されど我はたゞ神を呼ばんエホバ我を救い給うべし。(詩篇 五十五の十六、十七)

ダビデはたゞ神を呼び続けました。そうして悩みの中で更に新しい、強い信仰を得ることができました。

エホバ我をせむる戦いよりわが靈魂をあがないだして平安を与えしめたまえり。そはわれを攻むる者多かりければなり。(詩篇 五十五の十八)

今までも多くの困難を体験し、神様によつて切り抜けて参りました。此の度も何とか、御言葉によつて戦い抜き、よい証しを立てたいと思ひます。

なんじの荷をエホバにゆだねよ。さらば汝をさゝえ給わん。たゞしき人のうごかさるゝことを常にゆるしたまうまじ。(詩篇 五十五の二十二)

今こそ二十二節で教えられました。

結局私が、私の力で何かしようとするのがまちがいののです。

私共人間にはどうせできはしないのです。

みことばに従つて生きていくよりほかに手はないのです。

ずいぶんと苦しみますが、いつさいをまかせて、神様が私をどうなさるか、神様におまかせしていきたいと思ひます。

消 息

私の戦いのために、どうぞ続けてお祈りください。

末永先生の御病氣のため、山口さんの御主人の御病氣のためにもお祈りください。

私は今から四十三年前イエス様の救いにあずかりまして、福音ということをさずかりました。長い信仰生活を通して思いますことは、人間の不幸というものが、イエス様を知らないことにあるということです。

人間がにらみあつているのも、イエス様を知らないからです。

ペトナムの写真を見ると、たくさんの子どもが、腕や足を失つて収容されています。

全く自分に關係のない出来事で、両親を失うばかりでなく、自分の手足すらもぎとられているのを見るとたまらな
い思いがいたします。

この不幸な状態から救われるためには、イエス様の福音にあずかるほかはないのです。

形だけの、うわべだけの教会生活でなく、真の福音にあずからなければ、人間の不幸はよくありません。

視よ、今われは心癒められて、エルサレムに行く。彼処にていかなることの我に及ぶかを知らず。たと聖靈いずれの町にても我に証して、なわめとなやみと我を待てりと告げたまう。されど我わが走るべき道程と主イエスより承けし職、すなわち神の恵の福音を証する事を果さん為にはもとより生命をも重んぜざるなり。

(使徒行伝 二十の二十二―二十四)

私もこのような気持で福音をのべ伝えてきました。長い間にずいぶんと試験を体験いたしました。試験のときには本当に苦しいものです。私はそのたびに信仰できりぬけて参りました。今また大きな試験に直面しておりますが、このたびも何とか信仰で行きたいと思っております。

お医者様は、私のことを心配して輸血をすゝめられます。しかし私は輸血などしたくありません。どうかして信仰だけで切り抜けて、神様が生きたお方であることを生涯証し続けていきたいからです。

汝らは恩恵に上り、信仰によりて救われたり (エペソ 二の八)

このお言葉のように、私はどこまでも信仰によつて救われたいと思えます。

お医者様をはじめ、いろいろの方が親切に言つてくださることをお断わりするのは大変苦しいことです。

そのように、私のまわりにいろいろな形のとゝかいがあります。信仰だけで行くことはそういう意味でも苦しいたゝかいです。どうかそのような事のためにも祈つていたゞきたいと思ひます。

純粹の福音というものは祈りなしに全うできるものではありません。私も今まで、夜も昼も皆様方のために祈つて参りましたが、どうか祈りに支えられて、正しい信仰を全うしていたゞきたいと思ひます。最近いろいろと大がかりなクルセードなどが行われます。

しかしそのようなもので、本当の信仰が与えられるとは思ひません。

祈り深い毎日の中に細い御声が聞えます。

それに聞き従うのが純福音の信仰だと思ひます。どうかしつかり祈つて豊かな福音の生活を全うできるようにいたしましう。

報 告

本日礼拝後青年会があります。

どうぞお残り下さい。

消 息

気候のよくなるにつれて一皮づゝはいで行くように体の具合もよくなりつゝあります。

どうか私のためにも御祈りください。

試練を経たる隅の首石

一九六七年三月一九日

先週は腎臓が悪くなり蛋白が出て体がはれてまいりました。お医者様がごらんになつて栄養が出てしまつたので、栄養をつけなければいけないように言われます。自宅ではうまくコントロールできないので入院しなさいとすすめられます。私は申しわけないと思ひながらも断りし続けております。いろいろと理由もありますが、才一の理由はイエス様により頼んでいきたいからです。

私は四十年の間医者にかからず、イエス様だけに頼つてまいりました。子供を育てるのも信仰だけでやつてまいりました。

いまさら入院などとは思ひません。それに入院すると講壇に立てなくなると思ひますし、私にとつて講壇に立てないということは死を意味します。

私たちは薬の広告を見て、いつのまにか本当のこのように信じこまされていますが、薬が効くとは思ひません。副作用が多く、かえつて体に悪い場合が多いと思ひます。

このゆえに神エホバかくいいたまう。視上われソオンに一つの石をすえてその基となせり、これは試をへたる石とるとき隅石かたくすえたる石なり。これにより頼むものはあつることなし。(イザヤ二十八の十六)

イエス様に頼つて失望したことはありません。この方法を用いたら百発百中だというお方がイエス様なのです。私も夜眠られぬときなど、いろいろと悩み信じられなくなることがあります。そういうときには単純につきぎのこ

ばを頼みにして祈つております。

なやみの日に我を呼べ我なんじを援けん而してなんじ我をあがむべし (詩 五十の十四)

なやみの日に我を呼べと書いてありますので、単純に呼び求めております。毎日、もう一度、もう一回講壇に立たせてくださいと呼び求めております。

今の私の体は、医学的、常識的には説教など思ひもありません。平常は、立つことも話すことすら困難な状態なの

ですが、ひたすら祈り、イエス様をより頼んで、日曜日になると不思議に力を与えられて参つております。

死を恐れてはいませんが、できるだけ講壇で御用をしたいと願つております。

主は我らのために生命をすてたまえり、之によりて愛ということを知りたり、我等もまた兄弟のために生命をすつべきなり (ヨハネオ一章三の十六)

イエス様は私のために生命を捨てて下さいました。私も友のために生命を捨てたいと思います。そのために一回でも多く講壇の御用に努めたいと思つておるのです。

そのような状態で祈り続けておりますが、確かにイエス様はすみのおや石です。この方に頼めば答えていたゞきます。

我はこの福音のために立てられて宣伝者、使徒、教師となれり。之がために我これらの苦難に遭う。されど之をばじとせず、我わがより頼むものを知り、且つわがゆだねたる者を、かの日に至るまで守り得給うことを確信すればなり。(テモテ後書一の十一―十二)

先週も信仰をもつておゆだねしましたら不思議なように体のはれも引き、元氣が出ました。この一週間も祈つてより頼んでいきましよう。

報 告

今週は壮年会を平岡さんのお宅でいたします。壮年の方はどうぞお残り下さい。

消 息

私事此の度身体の調子も一日毎に悪化して参りまして最早講壇にも立てぬ様な試練の中に置かれております。

お医者様より絶対安静と食事療法をきつく守る様にとの事です。仲々自宅では出来ませんので祈つて導かれるまゝ入院する事に致しました。繞いてもう一度講壇に立たして戴く事が出来ませぬ様に、格別弱き者のお祈り下さいますようお願ひ致します。

こゝにエホバ、アブラムに言いたまひけるは、汝の国を出で汝の親族に別れ汝の父の家を離れて我が汝に示さん、其地に至れ、我汝を大なる国民と成し汝を祝み汝の名を大いならしめん、汝は祉福の基となるべし、私は汝を祝する者を祝し、汝をのらぶ者をのろわん、天下のもろもろの家族汝によりて祉福を獲んと (創十二の一―三)

アブラハムの伝記はハランをออกมาしてからカナンに移り住む処で始まつております。(創十二) 神はアブラハムにあらわれ「我汝の苗裔に此地を与えんといふ給えり、彼処に彼己にあらわれたまいし、エホバに壇を築けり(創十二の七)」という約束を与えられました。或時は饑きんをさけてエジプトに行くのでありますが、やがてまたカナンに帰つてきますと神はこの地を永久に彼と子孫に与えんと約束されたのであります。(創十七の八) アブラハムが九十才の時に神は彼と後の子孫との神となるとの永遠の契を立てられました。そのしるしとして割礼をうけることを命ぜられたのであります。このことがイスラエル民族と神との関係の根本をなす出来事であります。選民の自覚はこゝに根ざすのであります。ユダヤ人はアブラハムの子孫であることを誇つておりました。この契約と同時に衆多の国民の父という意味のアブラハムという名を与えられたのであります。また妻サラに男の子が生れるであろうとの約束が与えられました。お約束通り生れた子をイサクと名付けました。その頃ソドムとゴモラの町の住民が罪深いので火を降らして焼きたげると神の使がアブラハムに語りました。その時アブラハムはその町に住んでいるロトをたすけようとして、焼きたげると神の使がアブラハムに祈りました。(創十八の二十二―三十三) アブラハムの生涯におけるもう一つの大きな出来事は切角老年になつて与えられイサクをばん祭としてさしげよとの御命令でありました。この時も彼は朝早くその命に従つてイサクをモリヤの山につれてゆき、いけにえとしてさしげ殺す寸前に神がアブラハムをとめました。結局信仰の試練として記されておるのであります。其処で私共にアブラハムの生涯について聖書が語つておりますことは彼の生活が徹頭徹尾一つ一つ神のみ言によつて動いておるということであります。

彼はハランからカナンに移りエジプトからカナンに帰りベテルにとどまり、またマムレに移つたのでありますが、それらの移動がすべて神のみ言によつて命ぜられ、それに従つてなされているのであります。かわいゝ目に入れても痛くないとしよりの子イサクをはん祭としてさげよとの忍びがたい苦痛さえ神の御命令に従つて断行したのであります。

神はみ言をもつて人類を創造したゞけではなくして聖言をもつて人間の生活を支配し導くことを彼の生涯があらわしてあるのであります。(西一の十五、十七)神は人間の生活を天から見ておられるだけでなく、また人間の求めと願いを聞いてそれに応えて下さるだけではなく、むしろ神の側に御計画がありまして要求なされ、人間の生活をそれに従わせておられるのであります。この点は後の時代になりますと律法が神の意志をあらわすものとして与えられ神より直接に人間に言をかけられることがなくなつたのであります。たと予言者と呼ばれる人々だけにみ言が直接に与えられ彼らを通して神とその民とのつながりが保たれてきたのであります。アブラハムの生涯は神がその民とともにあつてみ言をもつて命じ導びき約束することを明らかに示しておるのであります。

アブラハムの生涯はその神の御命令に対する全き服従と神の約束に対して全き信頼をもつて貫かれていたのであります。(ロマ四の十九、二十一、来十一の八、十九)

確かにアブラハムは神の民がどの様に生活すべきかを教える信仰の父でありました。今でも聖書を学びます時私共の信仰は如何なるものであるかを教えてくれるのであります。

聖言をもつて人間の生活を導き支配なさる神！従順と信頼をもつてそれに従つて生活する民！これが神とその民との本当の關係であります。その姿を具体的にあらわしてあるのがアブラハムの生涯であります。

報 告

本日礼拝後青年会をいたします。青年の方はお残りください。

折滝鶴治郎師の御昇天に憶う

一九六七年四月一六日

たとい我もろもろの国人の言を語るとも、愛なくば鳴る鐘やひびく、^聲殿の如し、たといわれ預言する能力あり、又すべての奥義と凡ての知識とに達し、また山を移すほどの大なる信仰ありとも、愛なくば数うるに足らず。

たとい我わが財産をことごとく施し、又わが体を焼かるる為にわたすとも、愛なくば我に益なし。愛は寛容にして慈悲あり。愛は極まず、愛は誇らず、^結結らず、非礼を行わず、己の利を求めず、憤らず、人の悪を念わず、不義を喜ばずして、真理の喜ぶところを喜び、凡事忍び、おおよそこと信じ、おおよそこと望み、おおよそ事耐うるなり。げに信仰と望みと愛と此の三つの者は限りなく存らん、而して其のうち最も大いなるは愛なり。

(コリント前書十三の一―七。十三)

折滝先生は信仰の人であり、祈りの人であり、聖霊に満たされた愛の人でした。

今このコリント前書十三章の御言葉をもう一度読み直してみましよう。折滝先生の御存命中の御姿が御言葉と共にそのまま浮んでまいるではありませんか。四十数年前、群馬県の山間地から青雲の志を抱いて上京した一青年をこれまでに変えしめ、すぐれた神の使徒として用い給うた十字架の御血を心からあがめたいと思います。

先生は明治三十三年三月二日、群馬県長野原町に生を受け、大正十二年、長野県飯田の集会で柘植先生からルカ伝の三本の十字架のお話を聞かれ、新生され、たゞちに献身なさつたことは私共度々先生の御説教の中でお聞きした通りであります。

大正十三年十二月から鳥取県堺港で伝道生活に入られ、激しい迫害の中で聖霊の著しい働きにより、山陰の製糸工場などにリバイバルが起り、熱心な信者がつきつきと生れました。

昭和三年三月、福岡の信者の求めに応じ、浜の町教会を開かれ、引き続き聖霊に満ちた力強い伝道が続けられました。

二十六年六月の空襲で戦災に会われましたが、二十二年福工新町で再び教会を開かれ、信者が増し加わると共に新しい会堂の必要を生じ、不思議な摂理で現在の会堂が与えられました。会堂建設時の先生の祈りと、信仰に答えられた神の御恩寵についても、度々御説教の中で証しされたところであります。

晩年には二度の大病を奇蹟の御業で乗り超えられ、御講壇を死守なさいました。常識で考えられないような病状を押し退ける先生の斗い、又それを守り助け給うた神の御愛に、私共一同心からの感謝を忘れてはならないと思います。昭和四十二年四月十日、午前五時五十五分、勝利のうちに天国に凱戦をさいました先生を憶うとき、私共の感情としてはまことに惜しい、残念の思いでいつばいでございますが、これも神の御摂理であり、むしろ輝くばかりの勝利の生涯を全うされた先生の御昇天を心から祝福すると共に、折滝先生を通して現われた神のかずかずの御業を懼れ、主の御名をあがめてまいりたいと思えます。

われ善き戦いをたたかい、走るべき道のりを果し、信仰を守れり。今より後義のかんわりわが為に備われり。かの日に至りて正しきさばき主なる主、これを我に賜わん。ただに我のみならず、凡てそのあらわれを慕う者にも賜うべし。(テモテ後審四の七―八)

エホバはわが牧者なり、われ乏しきことあらじ、エホバはわれをみどりの野辺にふさせいこいのみぎわにともないたもう、エホバはわが靈魂をいかし、御名の故をもて我をたゞしき路に導き給う。たといわれ死のかけの谷を歩むとも禍害をおそれじ、なんじ我とともにいませばなり。なんじのしもとなんじの杖われを慰む、なんじわが仇の前に、わがために筵をもうけわが首にあぶらをそゞぎたもう。わが杯はあふるるなり。わが世はあらんかぎりはかならず恩恵と憐憫をわれにそいきたらん。

われとこしえにエホバの宮にすまん。(詩二十三の一―六)

ユダヤには沢山羊がおりました。羊は動物の中では非常に弱いおとなしい性質なので。いつも群をつくつて迷わないうように飼つていたのであります。この群の世話をしている人が牧者(ひつじかい)であります。

羊飼いは羊の群を導いて緑の草のある処へつれていつたり、或時には水のある泉につれていつたりして羊を養います。草がなくなると、遠いところに行つて野宿いたします。

山路はけわしく危険なところなので、羊飼いたちは、ある時は小羊を抱き、むちを持つて羊を危険から守つておるのであります。

ユダヤにはこうした立派な羊飼いが昔から沢山おりました。

われは善き牧者にして、我がものを知り、我がものは我を知る。(ヨハネ伝十の十四)

主は我が牧者なりとの牧者はイエス様であります。羊は私共の事であります。私共がイエス様を信じて従いますとき、イエス様は丁度羊をよく導くように、私共をたいせつに導いてくださるのであります。私共が眠っている時も、覚えていた時も私共を守つていてくださいます。

視よイスラエル守りたもうものはまどろむむことも、ねぶることもなからん。

ひるは日なんじを打たず、夜は月なんじを打たじ。エホバは汝を守りてもろもろのわざわいをまぬがれしめ、またなんじの靈魂をまもり給わん。エホバは今よりとこしえにいたるまで汝のいずると入るとを守りたまわん。

(詩百二十一の四、六―八)

私共の心には目には見えぬが聖言の糧が与えられ、いつも新しく甦らせていただけるのであります。

とくにイエス様は勇ましい羊飼いであります。羊飼いが外敵から羊を守るように、私共を悪魔から守ってくださいなあります。イエス様は私共を脅かす死の針である罪から解放して勝利を得しめて下さるために生命を捨て、あがないの救を成就してくださいなしたのであります。

弱い私共でも此の世の旅路に、イエス様に従つて行く限り、どんなに迷つたり失敗をくり返しても、必ず神様のみもとまで導いてくださるのであります。

イエス様は又、御自分のことを世の光といつておられます。

かくてイエスマた人々に語りて言い給う。

「われは世の光なり、我に従う者は暗きうちを歩まず、生命の光を得べし」(ヨハネ八の十二)

神をさがして迷つてゐる人々に、イエス様は光に導かれて神の支配に到達させてくださるのであります。

然し、イエス様の光は神を求めない自己満足をしている人々には見えぬのであります。イエス様に従いますなら、答(試練)も杖(病苦)も私共を慰めてくださるのであります。

私共は、思いきつてイエス様に聞き従いますならば、イエス様の頼となり、何物もイエス様から奪うことは出来ないのであります。